

茨城県教育財団文化財調査報告第160集

葛城一体型特定土地区画整理事業  
地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

六十目遺跡

平成 12 年 3 月

都市基盤整備公団茨城地域支社  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第160集

# 葛城一体型特定土地区画整理事業 地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

ろくじゅうめ  
六十目遺跡

平成12年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社  
財団法人 茨城県教育財団



六十目遺跡全景



第9号住居跡出土遺物(壺)

## 序

茨城県は、世界的な科学研究の中心であるつくば市において、国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。平成11年度はその一つとして、海外との交流の場である国際会議場「エポカルつくば」を整備いたしました。また、新しい街づくりの一環として、平成17年に開通予定の常磐新線は、都心部とつくば市を結ぶ動脈としてだけでなく、地域の活性化を進める役割が期待されております。

都市基盤整備公団では、研究学園都市としてのつくば市の特性と地理的条件を勘案し、新たな交通網を備えた都市機能の充実と、良好な居住環境を持つ宅地の供給を目的として土地区画整理事業を進めております。

このたび、茨城県教育財団は、都市基盤整備公団から常磐新線沿線地域の土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査事業について委託を受け、平成10年4月から翌年3月まで発掘調査を実施いたしました。

本書は、平成10年度に調査を行った六十目遺跡の成果を取めたものであります。本書が、研究資料としてはもとより、郷土の歴史への理解を深めると共に、教育・文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり、委託者である都市基盤整備公団から賜りました多大なる御協力に対し、心から御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力を賜りましたことに衷心より感謝の意を表します。

平成12年3月

財団法人 茨城県教育財団

理事長 齋藤 佳郎

## 例 言

- 1 本書は、都市基盤整備公園の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成10年4月から平成11年3月まで発掘調査を実施した、茨城県つくば市大字苅間<sup>くわいま</sup>に所在する六十目遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。  
調査 平成10年4月1日～平成11年3月31日  
整理 平成11年4月1日～平成12年3月31日
- 3 当遺跡の発掘調査は、調査第2課長小泉光正の指揮のもと、調査第1班長横堀孝徳、主任調査員矢ノ倉正男、副主任調査員小澤重雄が担当した。
- 4 当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理課長川井正一、首席調査員萩野谷悟の指揮のもと、小澤重雄が担当した。
- 5 鉄器の保存処理業務は、財団法人岩手県文化振興事業団に委託して実施した。
- 6 土器の胎土分析は、第四紀地質研究所(株)の井上巖氏に依頼して実施し、成果は付章として取録した。
- 7 当遺跡の集落構造について、埼玉原埋蔵文化財調査事業団主任調査員の田中広明氏に御教示をいただいた。
- 8 石材の石質について、工業技術院地質調査所の佐藤谷生氏に御教示をいただいた。
- 9 当遺跡の墨書土器について、国立歴史民俗博物館教授の平川南氏に御教示をいただいた。
- 10 発掘調査及び整理に際して、御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

## 凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、X軸=+9,040m、Y軸=+24,000mの交点を基準点(A1a1)とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方に分割し、さらにこの大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C……、西から東へ1、2、3……とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa、b、c……j、西から東へ1、2、3……0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した。

- 2 遺構・遺物・土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡—SI 掘立柱建物跡—SB 溝跡—SD 土坑—SK 不明遺構—SX  
遺物 土器・陶器—P 土製品—DP 石器・石製品—Q 金属製品・古銭—M 拓本記録土器—TP  
土層 複乱—K

- 3 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。



- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の作成方法及び掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は縮尺600分の1、住居跡や土坑、不明遺構は60分の1に縮小することを原則として掲載した。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もある。

- 6 遺構の主軸方向は、住居跡の場合は炉または竈と入り口を結んだ軸線、その他の遺構は長径方向とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E, N-10°-W)。なお、[ ] を付したものは推定である。

- 7 遺物観察表の記載方法は次のとおりである。

(1) 土器の計測値は、A—口径 B—器高 C—底径 D—高台径 E—高台高 とし、単位はcmである。

なお、現存値は( )で、推定値は[ ]を付して示した。

(2) 備考の欄は、土器の残存率、実測番号(Pなど)、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

## 抄 録

ふりがな	かつらぎのついでたていとちくかくせいりじぎょうちないまいぞうぶんかざいちようぎほうこくしょ							
書名	葛城・体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書							
副書名	六十日道路							
巻次	Ⅲ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第160集							
著者名	小澤 竜雄							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2009年(平成12年)3月21日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地							
ろくじょうめいせき		08220	36度	140度	23m	19980401		葛城一体型特定土地区画整理事業に伴う事前調査
六十日道路	茨城県つくば市入道 葛城ついでたていとちくかくせいりじぎょうちないまいぞうぶんかざいちようぎほうこくしょ 岡岡子家浦1638-1	1 86	4分 49秒	6分 1秒	～ 21m	～ 19980331	19.424㎡	
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
	集落跡	古墳時代 領平段岬	堅穴住居跡 12軒	土師器(壺・甕・高 坏・器台),土製品(球 状土師・算盤下状土師)	古墳時代から平安時代の集落跡と、中世 から近世の墓塚が中心の複合遺跡である。 第9号住居跡から、南関東系の装束 塚と土台式土器が伴って出土している。			
			堅穴住居跡 41軒 掘立柱建物跡 6棟	土師器(坏・高台 付皿・甕・器台上部), 須恵器(坏・高台 付坏・壺・甕・ 円筒碗, 墨書土器), 灰釉陶器(碗),土 製品(紡錘車),鉄 製品(刀子・鎌), 石器(砥石)				
	竈跡	古墳時代 中・近世	方形周濠状遺構 2基	土師器				
			地下式竈 4基 土 坑 53基 火葬施設 2基	石器(錠石)				
	その他	古墳時代 領平段岬	土 塚 1基	土師器				
			堅穴状遺構 2基	土師器・須恵器				
		中・近世	溝 跡 5条	陶器				
	時期不明	粘土採掘坑 2基 井 戸 跡 1基 溝 跡 24条 土 坑 90基						

# 目 次

序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
挿図目次、表目次、付図、写真図版目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序の検討	9
第3節 遺構と遺物	10
1 古墳時代の遺構と遺物	10
(1) 竪穴住居跡	10
(2) 方形周溝状遺構	59
(3) 土坑	61
2 奈良・平安時代の遺構と遺物	62
(1) 竪穴住居跡	62
(2) 掘立柱建物跡	175
(3) 竪穴状遺構	184
3 その他の時代の遺構と遺物	187
(1) 溝跡	187
(2) 火葬施設	194
(3) 粘土採掘坑	195
(4) 地下式塚	197
(5) 井戸跡	201
(6) 土坑	202
4 遺構外出土遺物	221
第4章 まとめ	225
付 章	229
写真図版	

## 插图目次

第1图	周边遗址位置图	4	第36图	第72号住居跡実測図	56
第2图	基本土層図	10	第37图	第72号住居跡出土遺物実測図	57
第3图	第1号住居跡実測図	11	第38图	第1号方形周溝状遺構実測図	59
第4图	第1号住居跡出土遺物実測図(1)	12	第39图	第2号方形周溝状遺構・出土遺物実測図	60
第5图	第1号住居跡出土遺物実測図(2)	13	第40图	第52号土坑・出土遺物実測図	62
第6图	第3号住居跡実測図	15	第41图	第2号住居跡実測図	63
第7图	第3号住居跡炉実測図	16	第42图	第2号住居跡出土遺物実測図	64
第8图	第3号住居跡出土遺物実測図(1)	17	第43图	第10号住居跡実測図	66
第9图	第3号住居跡出土遺物実測図(2)	18	第44图	第10号住居跡出土遺物実測図(1)	67
第10图	第4号住居跡実測図	20	第45图	第10号住居跡出土遺物実測図(2)	68
第11图	第4号住居跡出土遺物実測図	21	第46图	第12号住居跡実測図	70
第12图	第5号住居跡実測図	23	第47图	第12号住居跡出土遺物実測図	71
第13图	第5号住居跡山土遺物実測図	24	第48图	第13号住居跡実測図	73
第14图	第6号住居跡実測図	26	第49图	第13号住居跡出土遺物実測図	74
第15图	第6号住居跡出土遺物実測図(1)	27	第50图	第14号住居跡実測図	75
第16图	第6号住居跡出土遺物実測図(2)	28	第51图	第14号住居跡出土遺物実測図	76
第17图	第7号住居跡実測図	30	第52图	第15号住居跡・出土遺物実測図	77
第18图	第7号住居跡出土遺物実測図	31	第53图	第16号住居跡実測図	79
第19图	第8号住居跡実測図	34	第54图	第16号住居跡出土遺物実測図	80
第20图	第8号住居跡出土遺物実測図(1)	35	第55图	第17号住居跡・出土遺物実測図	82
第21图	第8号住居跡出土遺物実測図(2)	36	第56图	第18号住居跡実測図	84
第22图	第9号住居跡実測図	38	第57图	第18号住居跡出土遺物実測図(1)	85
第23图	第9号住居跡炉実測図	39	第58图	第18号住居跡出土遺物実測図(2)	86
第24图	第9号住居跡出土遺物実測図(1)	40	第59图	第19号住居跡実測図	88
第25图	第9号住居跡出土遺物実測図(2)	41	第60图	第19号住居跡出土遺物実測図	89
第26图	第9号住居跡出土遺物実測図(3)	42	第61图	第21号住居跡実測図	91
第27图	第65号住居跡実測図	44	第62图	第21号住居跡竈実測図	92
第28图	第67号住居跡実測図(1)	46	第63图	第21号住居跡出土遺物実測図(1)	93
第29图	第67号住居跡実測図(2)	47	第64图	第21号住居跡出土遺物実測図(2)	94
第30图	第67号住居跡出土遺物実測図(1)	48	第65图	第22号住居跡実測図	97
第31图	第67号住居跡出土遺物実測図(2)	49	第66图	第22号住居跡出土遺物実測図(1)	98
第32图	第67号住居跡出土遺物実測図(3)	50	第67图	第22号住居跡出土遺物実測図(2)	99
第33图	第67号住居跡出土遺物実測図(4)	51	第68图	第23号住居跡実測図	102
第34图	第71号住居跡実測図	53	第69图	第23号住居跡出土遺物実測図	103
第35图	第71号住居跡出土遺物実測図	55	第70图	第27号住居跡実測図	106

第71图	第27号住居跡出土遺物実測図	107	第109图	第53号住居跡実測図	161
第72图	第28号住居跡実測図	108	第110图	第54号住居跡実測図	162
第73图	第28号住居跡出土遺物実測図	109	第111图	第54号住居跡出土遺物実測図	163
第74图	第29号住居跡実測図	111	第112图	第56号住居跡実測図	164
第75图	第29号住居跡出土遺物実測図	112	第113图	第56号住居跡出土遺物実測図	165
第76图	第31号住居跡実測図	114	第114图	第58号住居跡実測図	166
第77图	第31号住居跡出土遺物実測図(1)	115	第115图	第58号住居跡出土遺物実測図	167
第78图	第31号住居跡出土遺物実測図(2)	116	第116图	第59号住居跡実測図	168
第79图	第32号住居跡実測図	118	第117图	第59号住居跡出土遺物実測図	169
第80图	第32号住居跡出土遺物実測図(1)	119	第118图	第60号住居跡実測図	170
第81图	第32号住居跡出土遺物実測図(2)	120	第119图	第61号住居跡実測図	171
第82图	第34号住居跡実測図	121	第120图	第61号住居跡出土遺物実測図	172
第83图	第35号住居跡実測図	122	第121图	第64号住居跡実測図	173
第84图	第35号住居跡出土遺物実測図	123	第122图	第64号住居跡出土遺物実測図	173
第85图	第37号住居跡実測図	125	第123图	第1号掘立柱建物跡実測図	176
第86图	第37号住居跡出土遺物実測図	126	第124图	第2号掘立柱建物跡実測図	177
第87图	第38A・B号住居跡実測図	129	第125图	第3号掘立柱建物跡実測図	179
第88图	第38A号住居跡出土遺物実測図	130	第126图	第4号掘立柱建物跡実測図	180
第89图	第38B号住居跡出土遺物実測図	132	第127图	第4号掘立柱建物跡出土遺物実測図	181
第90图	第40A号住居跡・出土遺物実測図	134	第128图	第5号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	182
第91图	第40B号住居跡・出土遺物実測図	136	第129图	第6号掘立柱建物跡実測図	183
第92图	第43号住居跡実測図	137	第130图	第1号竪穴状遺構・出土遺物実測図	185
第93图	第45号住居跡実測図	138	第131图	第2号竪穴状遺構・出土遺物実測図	186
第94图	第45号住居跡竪穴実測図	139	第132图	第1号溝跡土層断面図	187
第95图	第45号住居跡出土遺物実測図	140	第133图	第2・5・7・10・11・13・14・16・17号 溝跡土層断面図	189
第96图	第46号住居跡実測図	142	第134图	第18・20・21・23・24・26~28・32~35・38・39号 溝跡土層断面図	190
第97图	第46号住居跡出土遺物実測図	143	第135图	第14・18・19・23・27・28号溝跡 出土遺物実測図	192
第98图	第47号住居跡実測図	146	第136图	第1・2号火葬施設実測図	194
第99图	第47号住居跡竪穴実測図	147	第137图	第1・2号粘土採掘坑・出土遺物実測図	196
第100图	第47号住居跡出土遺物実測図	148	第138图	第1号地下式城実測図	197
第101图	第48号住居跡実測図	150	第139图	第2号地下式城・出土遺物実測図	198
第102图	第50号住居跡実測図	151	第140图	第3号地下式城実測図	199
第103图	第50号住居跡出土遺物実測図	152	第141图	第4号地下式城・出土遺物実測図	200
第104图	第51・52号住居跡実測図	155	第142图	第1号井戸跡実測図	202
第105图	第51号住居跡出土遺物実測図(1)	156			
第106图	第51号住居跡出土遺物実測図(2)	157			
第107图	第52号住居跡竪穴実測図	159			
第108图	第52号住居跡出土遺物実測図	160			

第143図	第92～98号土坑実測図	204	第150図	その他の土坑実測図(6)	212
第144図	第121・126～128号土坑実測図	205	第151図	その他の土坑実測図(7)	213
第145図	その他の土坑実測図(1)	207	第152図	その他の土坑実測図(8)	214
第146図	その他の土坑実測図(2)	208	第153図	第16・78号土坑出土遺物実測図	218
第147図	その他の土坑実測図(3)	209	第154図	遺構外出土遺物実測図(1)	222
第148図	その他の土坑実測図(4)	210	第155図	遺構外出土遺物実測図(2)	223
第149図	その他の土坑実測図(5)	211	付 図	六十日遺跡全体図	

## 表 目 次

表1	六十日遺跡周辺遺跡一覧表	5
表2	六十日遺跡住居跡(古墳時代)一覧表	59
表3	六十日遺跡方形周溝状遺構一覧表	61
表4	六十日遺跡住居跡(奈良・平安時代)一覧表	174
表5	六十日遺跡掘立柱建物跡一覧表	184
表6	六十日遺跡壁穴状遺構一覧表	187
表7	六十日遺跡溝跡一覧表	193
表8	六十日遺跡火葬施設一覧表	195
表9	六十日遺跡粘土採掘坑一覧表	196
表10	六十日遺跡地下式竈一覧表	201
表11	六十日遺跡井戸跡一覧表	202
表12	六十日遺跡土坑一覧表	218

## 写真図版目次

表紙	六十日遺跡全景		第16号住居跡完掘状況
P L 1	調査前(北側から) 遺構確認状況	P L 14	第16号住居跡竈遺物出土状況 第17号住居跡完掘状況
P L 2	第1号住居跡完掘状況 第1号住居跡遺物出土状況 第3号住居跡完掘状況	P L 15	第18号住居跡完掘状況 第18号住居跡遺物出土状況 第18号住居跡竈遺物出土状況
P L 3	第3号住居跡遺物出土状況(如付近) 第4号住居跡完掘状況 第4号住居跡遺物出土状況	P L 16	第19号住居跡完掘状況 第19号住居跡遺物出土状況 第19号住居跡竈遺物出土状況
P L 4	第4号住居跡遺物出土状況 第5号住居跡完掘状況 第5号住居跡遺物出土状況	P L 17	第21号住居跡完掘状況 第21号住居跡竈1遺物出土状況 第21号住居跡竈2石塊出土状況
P L 5	第6号住居跡遺物出土状況 第7号住居跡遺物出土状況	P L 18	第22号住居跡完掘状況 第22号住居跡遺物出土状況 第22号住居跡竈遺物出土状況
P L 6	第7号住居跡遺物出土状況 第8号住居跡完掘状況 第8号住居跡遺物出土状況	P L 19	第23号住居跡完掘状況 第23号住居跡遺物門面側出土状況 第23号住居跡竈遺物出土状況
P L 7	第9号住居跡遺物出土状況 第65号住居跡完掘状況	P L 20	第27号住居跡完掘状況 第28号住居跡遺物出土状況 第31号住居跡遺物出土状況
P L 8	第67号住居跡完掘状況 第67号住居跡遺物出土状況 第71号住居跡遺物出土状況	P L 21	第31号住居跡竈遺物出土状況 第31号住居跡竈土層断面 第32号住居跡遺物出土状況
P L 9	第71号住居跡遺物出土状況 第72号住居跡遺物出土状況 第1号方形周溝状遺構完掘状況	P L 22	第32号住居跡遺物出土状況 第32号住居跡竈遺物出土状況 第34号住居跡完掘状況
P L 10	第2号方形周溝状遺構完掘状況 第2号住居跡完掘状況 第10号住居跡遺物出土状況	P L 23	第35号住居跡完掘状況 第37号住居跡完掘状況 第37号住居跡竈遺物出土状況
P L 11	第10号住居跡竈完掘状況 第12号住居跡遺物出土状況 第12号住居跡竈遺物出土状況	P L 24	第38A・B号住居跡完掘状況 第38A号住居跡遺物出土状況 第38A号住居跡竈遺物出土状況
P L 12	第13号住居跡完掘状況 第14号住居跡遺物出土状況 第14号住居跡竈遺物出土状況		第38B号住居跡竈遺物出土状況 第40A号住居跡完掘状況 第40B号住居跡遺物出土状況
P L 13	第15号住居跡遺物出土状況		

- P.L. 25 第45号住居跡完掘状況  
第45号住居跡竈遺物出土状況  
第46号住居跡完掘状況
- P.L. 26 第47号住居跡遺物出土状況  
第47号住居跡竈1完掘状況  
第47号住居跡竈2完掘状況
- P.L. 27 第50号住居跡完掘状況  
第50号住居跡遺物出土状況  
第50号住居跡竈完掘状況
- P.L. 28 第51・52号住居跡完掘状況  
第51号住居跡竈遺物出土状況  
第52号住居跡竈遺物出土状況
- P.L. 29 第53号住居跡完掘状況  
第54号住居跡完掘状況  
第56号住居跡完掘状況
- P.L. 30 第58号住居跡完掘状況  
第59号住居跡完掘状況  
第60号住居跡完掘状況
- P.L. 31 第61号住居跡完掘状況  
第64号住居跡完掘状況  
第64号住居跡遺物出土状況
- P.L. 32 第1号掘立柱建物跡確認状況  
第2号掘立柱建物跡確認状況  
第3号掘立柱建物跡確認状況
- P.L. 33 第4号掘立柱建物跡確認状況  
第5号掘立柱建物跡完掘状況  
第6号掘立柱建物跡確認状況
- P.L. 34 第1号竅穴状遺構遺物出土状況  
土坑群完掘状況  
第27・28号溝跡完掘状況
- P.L. 35 第52号土坑遺物出土状況  
第1・2号粘土探掘坑完掘状況  
第2号地下式竈完掘状況
- P.L. 36 第3号地下式竈完掘状況  
第4号地下式竈完掘状況  
第94・95・96号土坑完掘状況
- P.L. 37 第1・3号住居跡出土遺物
- P.L. 38 第3・4号住居跡出土遺物
- P.L. 39 第5・6号住居跡出土遺物
- P.L. 40 第6・7号住居跡出土遺物
- P.L. 41 第7・8・9号住居跡出土遺物
- P.L. 42 第9・67号住居跡出土遺物
- P.L. 43 第67号住居跡出土遺物
- P.L. 44 第67・71号住居跡、第52号土坑出土遺物
- P.L. 45 第10・12・14・72号住居跡出土遺物
- P.L. 46 第14・16～19号住居跡出土遺物
- P.L. 47 第21・22号住居跡出土遺物
- P.L. 48 第23・27・28号住居跡出土遺物
- P.L. 49 第28・31・32・35・37・38A・40B号  
住居跡出土遺物
- P.L. 50 第38A・40A・40B・45～47号  
住居跡出土遺物
- P.L. 51 第47・50・51・59号住居跡出土遺物
- P.L. 52 第51・52・54・61・64号住居跡、  
第4号掘立柱建物跡、遺構外出土遺物
- P.L. 53 出上土製品・石製品
- P.L. 54 出土石製品・鉄製品・ガラス製品

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

茨城県は、世界的な科学研究の中心であるつくば市において、国際都市にふさわしい街づくりを推進している。平成17年開通予定の常磐新線の建設とそれに伴う沿線の開発は、その一環を構成するものである。葛城地区においては、住宅・都市整備公団茨城地域支社（平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に名称を変更）を事業主体として、土地区画整理事業が行われている。

平成6年8月18日、茨城県知事は、茨城県教育委員会に対して、常磐新線沿線地域の開発を行うため、つくば市葛城地区の土地区画整理事業地内の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて照会を行った。茨城県教育委員会は、平成7年5月15日から6月8日にかけて現地踏査を、平成9年1月16～27日、同年6月12～25日にかけて試掘調査を行った。

その結果、開発予定地内において六十日遺跡の存在を確認し、平成9年9月2日、茨城県教育委員会は、茨城県知事にその旨を回答した。平成10年2月12日、茨城県知事から茨城県教育委員会に対し、六十日遺跡の取り扱いについて協議があった。茨城県教育委員会は六十日遺跡の重要性に鑑み、また文化財保護の立場から慎重に検討を重ねた。そして同年3月13日、茨城県教育委員会は茨城県知事あてに、六十日遺跡を記録保存とする旨を回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。平成10年4月、茨城県知事から茨城県教育委員会あてに、住宅・都市整備公団茨城地域支社に取り扱いが変更になる旨連絡があった。

そこで、住宅・都市整備公団茨城地域支社から財団法人茨城県教育財団に六十日遺跡の発掘調査の依頼があり、茨城県教育財団は発掘調査の委託契約を結び、平成10年4月1日から発掘調査を実施することとなった。平成10年7月29日、住宅・都市整備公団茨城地域支社から茨城県教育委員会に対し、当初予定していた六十日遺跡（17,557㎡）の調査面積に関わる変更協議があった。同年8月17日、茨城県教育委員会は住宅・都市整備公団茨城地域支社に対して、先に出された発掘調査面積の変更協議について、事業の円滑な推進を考慮し、財団法人茨城県教育財団と十分打ち合わせるように回答するとともに、財団法人茨城県教育財団に対して調査計画の変更を通知した。これにより、当初予定されていた六十日遺跡の調査面積（17,557㎡）に、1,867㎡を新たに追加し、合計19,424㎡の発掘調査を実施することとした。

## 第2節 調査経過

六十日遺跡の発掘調査を、平成10年4月1日から平成11年3月31日までの1年間にわたって実施した。以下、調査経過について、その概要を記載する。

4月 7日に発掘予定地の現地踏査を行った。調査器材を搬入し、23日より調査補助員を投入して現地作業を開始した。

5月 試掘を開始し、23日から人力による表土除去と遺構確認作業を行った。堅穴住居跡6軒、溝跡5条を確認した。

- 6月 12日から重機による第一期の表土除去を開始し、引き続き遺構確認作業を行った。
- 7月 17日に方眼杭打ち測量を実施した。23日までに表土除去と遺構確認作業を終え、堅穴住居跡50軒、掘立柱建物跡6棟、溝跡24条、土坑102基、地下式墳3基を確認した。
- 8月 3日より遺構調査を開始した。月末までに堅穴住居跡2軒、土坑17基の調査を終了した。
- 9月 遺構調査と並行して、21日から重機を投入して第二期の表土除去及び遺構確認作業を行った。数回台風が襲来し、調査区域が水没して調査に支障をきたした。
- 10月 5日に表土除去及び遺構確認作業を終了した。最終的な遺構数は、堅穴住居跡53軒、掘立柱建物跡6棟、溝跡29条、方形周溝状遺構2基、土坑144基、地下式墳4基、粘土採掘坑2基、火葬施設2基、堅穴状遺構2基、井戸跡1基となった。湧水があるため、比較的地盤が乾燥した区域の遺構を進めた。堅穴住居跡9軒、溝跡6条、方形周溝状遺構2基の調査を終了した。
- 11月 天候が安定し、調査区域内の汚水も取まった。堅穴住居跡10軒、土坑10基の調査を終了した。
- 12月 引き続き遺構調査を行い、堅穴住居跡13軒、土坑8基の調査を終了した。
- 1月 季節風で土埃が舞い、補助員の健康管理と遺構の安全対策に苦慮することが多かった。堅穴住居跡13軒、掘立柱建物跡1棟、土坑12基、粘土採掘坑2基の調査を終了した。
- 2月 3日、委託者に対し、業務報告会を行った。一般に対しては13日に現地説明会を開催し、これまでの調査の成果を公開した。
- 3月 4日、遺跡の航空写真を撮影した。12日までにはほぼ調査を終え、その後補足調査を行い、24日をもってすべての現地調査を終了した。

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

六十目遺跡は、茨城県つくば市大字町間字東浦1638番地1ほかに所在し、常磐自動車道桜土浦インターチェンジの西北西約6.3kmの地点に位置する。

遺跡の所在するつくば市は茨城県の南西部に位置し、北は真壁郡真壁町、同郡明野町、新治郡八郷町に、東は上浦市、新治郡新治村に、南は牛久市、稲敷郡笠崎町、筑波郡伊奈町、同郡谷和原村に、西は水海道市、下妻市、結城郡石下町、同郡千代川村に接している。

つくば市は、昭和62年11月に筑波郡谷田部町、同郡豊里町、同郡大穂町、新治郡桜村の3町1村の合併により誕生した。翌昭和63年1月には筑波郡筑波町を併合して市域を拡大している。古くから自然に恵まれたため、近年に至るまで農業が主要な産業としての地位を占めていた。昭和38年「筑波研究学園都市」の指定を受けてから各種研究機関や企業の進出が相次ぎ、今日では国際的な研究機関の中心として発展を遂げた。現在も常磐新線や周辺地域の開発と整備が進められ、首都圏との結びつきが強まると共に、地域の中核都市としての役割も大きくなっている。

地勢は、市域の北部を筑波山塊が占め、その他の大部分は標高約23m前後の筑波・稲敷台地と呼ばれる平坦な台地となっている。この台地は、西を小貝川、東を桜川と南流する河川によって区切られており、その流域には沖積地が発達している。両河川の間にも東から花室川、蓮沼川、小野川、東谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れ、台地を短冊状に開析し、その支流は樹枝状の谷津を形成する。筑波・稲敷台地は茨城県南部から千葉県北部に広がる常総台地の一部であり、地質的には新生代第四紀更新世に作られた地層が見られる。下層は竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層があり、その上に板橋層または常総粘土層と呼ばれる白色粘土層・関東ローム層が順次堆積し、最上部は腐植土層となっている。

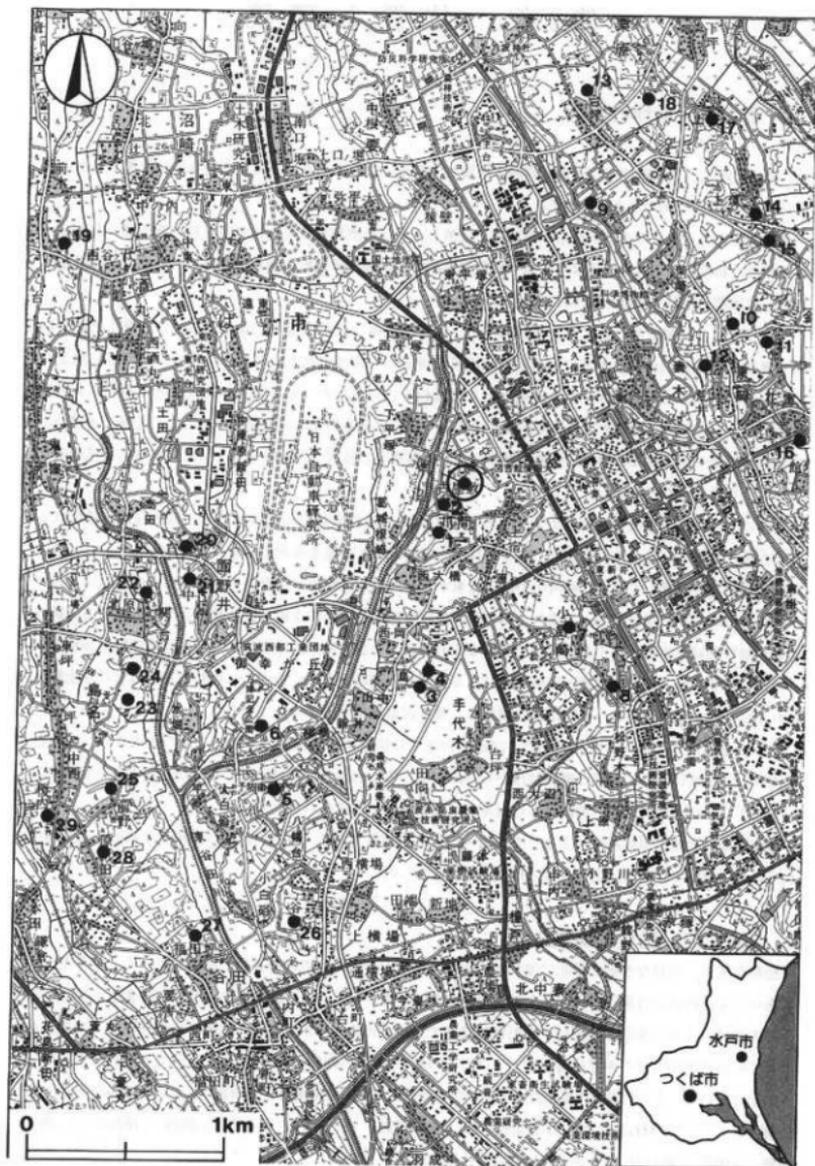
六十目遺跡は、蓮沼川左岸の標高23～24mの台地上に位置する。台地は、6～7mの比高をもって蓮沼川の流れる沖積地に臨み、北側と南側は西から谷津が延びる。台地上はほぼ平坦であるが、南東から北西に向かってわずかながら傾斜する。遺跡はこの台地のほぼ中央部に形成されている。

遺跡周辺の土地利用状況は、主として宅地・畑地・平地林であり、蓮沼川流域の沖積地は水田として利用されている。遺跡の現況は、芝・麦作の畑地と果林であった。

### 第2節 歴史的環境

穏和な気候、平坦な台地と南北に流れる河川は、人々が生活を送るのに適した環境を形づくってきた。古代にあってもその状況は現在の状況と大きな変化がないと考えられ、つくば市周辺には多くの遺跡が存在する。

この地域の人々の生活の足跡は、旧石器時代までさかのぼることができる。平成9年以降継続して調査が行われている花室川左岸の中原遺跡<12>では石器の集中地点が合計6ヶ所確認され、ナイフ形石器・石刃などが出土している。その他表面採集または表土中からではあるが、大塚遺跡（尖頭器・ナイフ形石器など）、柴崎遺跡<9>（ナイフ形石器など）、中台遺跡（同）、神田遺跡<1>（ナイフ形石器・尖頭器・搔器など）、西栗山遺跡（尖頭器・細石刃）などから旧石器時代の遺物が出土している。



第1図 周辺遺跡位置図

1:50000地形図「土浦」国土地理院

表1 六十日遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代					番号	遺跡名	県遺跡番号	時代				
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安				中近世	旧石器	縄文	弥生	古墳
◎	六十日遺跡	5842			○	○	○	15	旭台貝塚	2084		○			
1	神田遺跡	5841	○	○	○	○	○	16	花室城跡	2893					○
2	苜間城跡	—					○	17	上野天神塚古墳	2088				○	
3	苜間古墳	2922			○			18	愛宕塚古墳	2086				○	
4	苜間遺跡	2917			○			19	高野遺跡	2944		○			
5	柳橋遺跡	5839			○			20	面の井古墳群	2113				○	
6	水堀遺跡	5838			○			21	雨野井城跡	—					○
7	小野崎館跡	2913					○	22	関の台古墳群	2112				○	
8	小野崎遺跡	2918		○		○		23	熊の山遺跡	214				○	○
9	柴崎遺跡	2897	○	○		○	○	24	烏名熊の山古墳群	2120				○	
10	九重庵寺東岡遺跡	2890					○	25	前野遺跡	2100		○			
11	西坪遺跡	2085		○	○	○	○	26	台町古墳群	2118				○	
12	中原遺跡	222	○	○			○	27	福田遺跡	2099		○			
13	台坪才十郎遺跡	2876		○				28	一町田遺跡	2915		○			
14	瀧の台古墳群	2090				○		29	榎内遺跡	2106		○		○	

縄文時代になると遺跡数が増加し、各河川の流域で遺跡が確認されている。桜川流域には台坪才十郎遺跡<13>(中期)、旭台貝塚<15>(後期)がみられる。花室川流域では、上流に柴崎遺跡、中流に下広岡遺跡が存在している。東谷田川流域では福田遺跡<27>、一町田遺跡<28>などが、また西谷田川流域では覆内遺跡<29>、大境遺跡などが知られているが、調査が行われたものは少ない。

関東地方に弥生文化が及ぶのは中期以降のことであるが、つくば市周辺では中期の遺跡は今のところ確認されていない。後期の遺跡がいくつか見つかったているが、その数も縄文時代の遺跡数と比べるとかなり少なくなっている。桜川中流域には、神都条Ⅲ遺跡、山本遺跡、中台遺跡など比較的遺跡が集中して確認されている。中台遺跡では10軒の竪穴住居跡が調査され、後期後半とされる上稲吉式の土器を伴っていた。西谷田川下流の境松遺跡でも後期末にあたる6軒の竪穴住居跡が調査され、輪積み裏をもつ台付罫や棒状浮文と円形浮文をもつ甕をはじめとして、東京湾沿岸を出自とする土器が出土した。この点、中台遺跡が在地の土器を持つとは対照的である。六十日遺跡周辺では、高山遺跡から甕、西坪遺跡<11>から壺が出土したことが知られている。どちらも調査によるものではなく、遺構の状況は明らかではない。高山遺跡の土器は破片が残るのみであるが、西坪遺跡出土の甕は装飾は持たないものの、境松遺跡の土器と共通する特徴を持つものである。

古墳時代になると、再び遺跡数は増加の傾向を見せる。蓮沼川流域では上流から六十日遺跡、神田遺跡、柳橋遺跡<5>、水堀遺跡<6>と集落跡が点在する。このうち神田遺跡では、前～中期の竪穴住居跡9軒、同じく後期のものが10軒確認され、竪穴住居跡の数は少ないものの古墳時代を通して集落が営まれていたことがうかがえる。東谷田川流域の熊の山遺跡<23>でも前期の住居跡が見られ、神田遺跡と相前後して集落の形成が始まっている。一方、花室川流域の柴崎遺跡ではこれより少し遅れ、後期から本格的に集落が営まれたようである。調査された遺跡では、後期の遺構は比較的確認されているが、前期・中期のものは少ない。現状では小野川を下った牛久市東橋六町・中根町周辺に、中久喜遺跡、東山遺跡、馬場遺跡など、中期の集落が確認されており、今後の調査によるが、居住域が時代によって移動あるいは拡大した可能性が考えられる。

古墳は、桜川右岸の台地上と東谷田川中流域に多く見られる。桜川流域では愛宕塚古墳<18>、上野大神塚古墳<17>、滝の台古墳群<14>などが沖積地に臨む台地縁辺部に築かれた。東谷田川中流の両岸には面の井古墳群<20>、関の台古墳群<22>、鳥名熊の山古墳群<24>が分布する。いずれも小規模な円墳を主として構成されており、埋葬施設は箱式石棺が多い。さらに下流には台町古墳群<26>があり、この中の大日塚古墳は一辺が23mの方墳の可能性が指摘されている。西谷田川流域には高山古墳群が、小野川流域には3体の人物埴輪を出土したとされる下橋古墳群が存在する。蓮沼川流域にはすでに消滅してしまっていたが、刈岡古墳<3>が存在した。

律令制度が固まり、全国に国郡が設置されると、葛城地区は河内郡省田郷に所属するようになり、のち12世紀にかけて大井庄、続いて山中庄と呼ばれることになる。先にあげた神田、柴崎、熊の山の各遺跡は前代より引き続いて集落が営まれるが、住居数は一様に増加してこの時代のものが中心となる。熊の山遺跡は、平成10年度までの調査で、奈良・平安時代を主として竪穴住居跡1300軒以上、掘立柱建物跡100棟以上が確認された大規模な集落であり、古代河内郡島名郷との関連が注目される。花室川に面した中原遺跡は、同じく平成10年度までの調査で、8世紀以降の竪穴住居跡210軒、掘立柱建物跡59棟が確認され、銅鏡・腰帯具・緑釉陶器・灰胎陶器などが出土した。近隣の西坪遺跡は河内郡街跡、九東虎寺(東岡遺跡)<10>は河内郡の都寺跡と推定されており、中原遺跡は、これらと関係が深い遺跡と考えられる。

鎌倉幕府の成立後は、小田城に本拠を構えた小田氏が勢力を振るい、近隣一帯を支配下に置いた。武士の活動が活発になるにつれ、各地に城館が築かれた。六十日遺跡の周辺では平井出氏の面野井城跡<21>、大津氏

の花室城跡<16>、荒井氏の小野崎館跡<7>などが確認されている。当遺跡に隣接した位置には野中瀧氏の町間城跡<2>がある。野中瀧氏は小田氏の家臣であったが、天承2年(1574)小田氏と共に滅亡した。町間城はその後に廃城となったが、今でも堀と思われる跡が残っている。神田遺跡の平成7年度の調査において、城に関連していると思われる掘立柱建物跡と堀が確認された。

#### 参考文献

- ・ 大山年次、蜂須紀夫 『茨城県 地学のガイド』 コロナ社 1977年8月
- ・ 蜂須紀夫、大森昌衛 『茨城の地質をめぐって』 築地書館 1979年9月
- ・ 茨城県教育庁文化課 『茨城県遺跡地図』第2版 茨城県教育委員会 1990年3月
- ・ 谷田部の歴史編さん委員会 『谷田部の歴史』 谷田部町教育委員会 1975年9月
- ・ 大野 悟 『葛城の郷土史』 常総史談会 1977年3月
- ・ 桜村史編さん委員会 『桜村史 上巻』 桜村教育委員会 1982年3月
- ・ 筑波町史編纂委員会 『筑波町史 上巻』 筑波町教育委員会 1989年9月
- ・ 中山信名 『新編常陸国誌』 海書房版 1978年12月
- ・ 茨城県立歴史館 『茨城県史料 考古資料編 弥生時代』 茨城県 1991年3月
- ・ 茨城県史編さん原始古代史部会 『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』 茨城県 1974年2月
- ・ 茨城県立歴史館 『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』 茨城県 1995年3月
- ・ 茨城県教育財団 「科学博関連道路谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書  
ツバタ遺跡・高山古墳群」 『茨城県教育財団文化財調査報告第22集』 1983年3月
- ・ 茨城県教育財団 「研究学園都市計画予子生上菜圃地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書 大境遺跡」  
『茨城県教育財団文化財調査報告第34集』 1986年3月
- ・ 茨城県教育財団 「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 埃松道跡」  
『茨城県教育財団文化財調査報告第41集』 1987年3月
- ・ 茨城県教育財団 「研究学園都市計画桜柴崎上地区西整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ)  
柴崎Ⅰ・Ⅱ-Ⅰ区」 『茨城県教育財団文化財調査報告第54集』 1989年9月
- ・ 茨城県教育財団 「研究学園都市計画桜柴崎上地区西整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ)  
柴崎Ⅱ区・中塚遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告第54集』 1991年3月
- ・ 茨城県教育財団 「研究学園都市計画桜柴崎上地区西整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)  
柴崎道跡Ⅲ区」 『茨城県教育財団文化財調査報告第72集』 1992年3月
- ・ 茨城県教育財団 「研究学園都市計画桜柴崎上地区西整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ)  
柴崎道跡Ⅱ区・Ⅲ区」 『茨城県教育財団文化財調査報告第93集』 1994年9月
- ・ 茨城県教育財団 「(仮称)北条住宅用地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台遺跡」  
『茨城県教育財団文化財調査報告第104集』 1995年12月
- ・ 茨城県教育財団 「(仮称)葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 神田遺跡」  
『茨城県教育財団文化財調査報告第121集』 1997年3月

- ・茨城県教育財団 〔(仮称) 葛城地区上地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 神田遺跡〕  
『茨城県教育財団文化財調査報告第134集』 1998年3月
- ・茨城県教育財団 〔(仮称) 烏名・福田坪地区上地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ  
熊の山遺跡〕 『茨城県教育財団文化財調査報告第120集』 1997年3月
- ・茨城県教育財団 〔(仮称) 烏名・福田坪地区上地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ  
熊の山遺跡〕 『茨城県教育財団文化財調査報告第133集』 1998年3月
- ・茨城県教育財団 〔(仮称) 烏名・福田坪地区上地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書  
熊の山遺跡〕 『茨城県教育財団文化財調査報告第149集』 1999年3月
- ・茨城県教育財団 〔(仮称) 中根・金田台地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ  
中谷津遺跡1〕 『茨城県教育財団文化財調査報告第139集』 1998年9月
- ・茨城県教育財団 〔(仮称) 中根・金田台地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ  
中原遺跡1〕 『茨城県教育財団文化財調査報告第155集』 1999年9月
- ・茨城県教育財団 〔牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告(Ⅰ) ヤツノ上遺跡〕  
『茨城県教育財団文化財調査報告第81集』 1993年3月
- ・茨城県教育財団 〔牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告(Ⅱ) 中久喜遺跡〕  
『茨城県教育財団文化財調査報告第86集』 1993年9月
- ・茨城県教育財団 〔牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告(Ⅲ) 東山遺跡〕  
『茨城県教育財団文化財調査報告第101集』 1995年9月
- ・茨城県教育財団 〔牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告(Ⅳ)  
馬場遺跡・行人田遺跡〕 『茨城県教育財団文化財調査報告書第106集』 1996年3月
- ・茨城県教育財団 『年報18』 1999年6月
- ・九重庵寺遺跡調査団 『東岡遺跡-九重庵寺跡調査報告-』 桜村教育委員会 1984年3月

## 第3章 調査の成果

### 第1節 遺跡の概要

六十目遺跡は、つくば市のほぼ中央部に位置し、蓮沼川左岸の標高23.0~24.5mの台地上に立地している。調査区は南北約230m、東西約285m、面積19,424m<sup>2</sup>である。現況は畑地であり、主として芝畑及び麦畑として利用されていた。当遺跡から南西に300m離れた同一台地の縁辺部に市間城跡が、また、谷津をはさんで南側の台地上に神田遺跡がある。

今回の調査によって、竪穴住居跡53軒、掘立柱建物跡6棟、地下式竈4基、方形周溝状遺構2基、溝跡29条、土坑144基、粘土採掘坑2基、火葬施設跡2基、井戸跡2基を確認した。古墳時代の遺構は、主に調査区北部で確認された。前期から中期の竪穴住居跡12軒と方形周溝状遺構2基、土坑1基である。当遺跡の中心となる時代は、奈良・平安時代で、竪穴住居跡41軒、掘立柱建物跡6棟が確認された。この時代の遺構分布は、調査区南部で密度が濃く、北に向かうにつれて薄くなる。中・近世の遺構としては、地下式竈4基、火葬施設跡2基を確認した。土坑は、遺物も少なく、年代・性格とも明らかでないものが多い。その中で、調査区東部で確認された一群は、墓塚であった可能性がある。29条確認された溝跡も、一部は市間城跡と関連があると思われる。

遺物は、遺物収納箱(60×40×20cm)に76箱出土している。遺物の大部分は古墳時代から奈良・平安時代にかけての土師器・須恵器で、住居跡と竈の覆土及び床面から出土している。古墳時代前期の竪穴住居跡から、南関東系の装飾壺と土玉台式の破片が伴って出土している。また、奈良・平安時代の住居跡からは、円面甕、墨書土器、鉄鎌が出土している。

### 第2節 基本層序の検討

調査区北部(B4e4区)にテストピットを設定して基本土層の観察を行い、第2図に示すような土層堆積状況を確認した。

1層は、暗褐色の表土層で、ローム粒子を少量、赤色粒子を少量含んでいる。粘性は弱く、しまりもあまりない。層厚は10cm以下である。芝畑であったところは、耕作によって削平されたため確認できず、腐植土層も見られない。

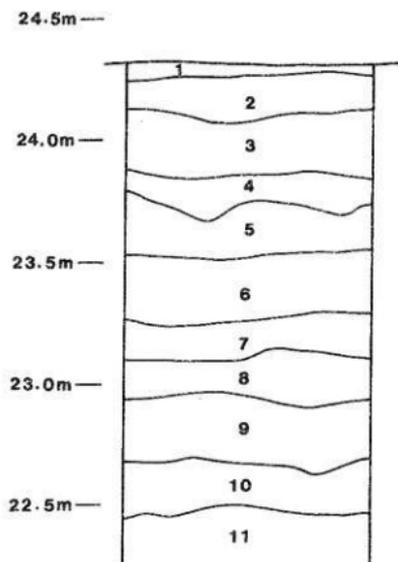
2層は、褐色のソフトローム層で、炭化粒子を極少量含んでいる。層厚は10cm以下である。

3層は、にぶい褐色をしているハードローム層で、白色粒子を少量、炭化粒子を極少量含んで、しまっている。層厚は4~20cmである。

4層は、暗褐色のハードローム層で、炭化粒子を少量、白色粒子、赤色スコリア粒子を極少量含んでいる。ハードローム層と思われる地層の下部に堆積した暗褐色土層であることから、第二黒色帯(第2ブラックバンド、BBII)と考えられる。層厚は20~34cmである。

5層は、明褐色をしたハードローム層で、白色粒子を少量、赤色スコリア粒子を極少量含んでいる。層厚は18~36cmである。以上が立川ローム、以下が武蔵野ロームに対比されるものと考えられる。

6層は、にぶい褐色をしたローム層で、炭化粒子を極少量含んでいる。層厚は22~34cmである。



第2図 基本土層図

7層は、褐色をしたローム層で炭化粒子を少量含んでいる。強い粘性があり、しまっている。層厚は10~18cmである。

8層は、にぶい黄褐色をしたローム層である。炭化粒子、灰白色粘土粒子を少量含む。粘性は強く、しまっている。層厚は12~30cmである。

9層は、にぶい褐色をしたローム層である。灰白色粘土粒子と砂粒を中量含んでいる。層厚は20~34cmである。

10層は、黄褐色ローム層で、灰白色粘土の小ブロックと砂粒を多く含む。層厚は16~24cmである。

11層は、黄灰色をした粘土層である。これ以下が、下末古ロームに対比される常総粘土層と思われる。

住居跡などの遺構は、2層または3層の上面で確認されている。

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査では、竪穴住居跡12軒、方形周溝状遺構2基、土坑1基が確認された。以下、確認された遺構の特徴や遺物について記載する。

##### (1) 竪穴住居跡

###### 第1号住居跡 (第3図)

位置 調査区域の北部、A511区。

重複関係 第1号溝跡が、本跡の北東壁と床面を掘り込んでいることから、本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸5.61m、短軸(3.50)mである。本跡の東部が破壊されているが、平面形は方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-43°-E

壁 壁高は6~10cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北西壁から南西壁にかけて巡る。断面はU字形で、上幅15~19cm、下幅6~12cm、深さは10~17cmである。

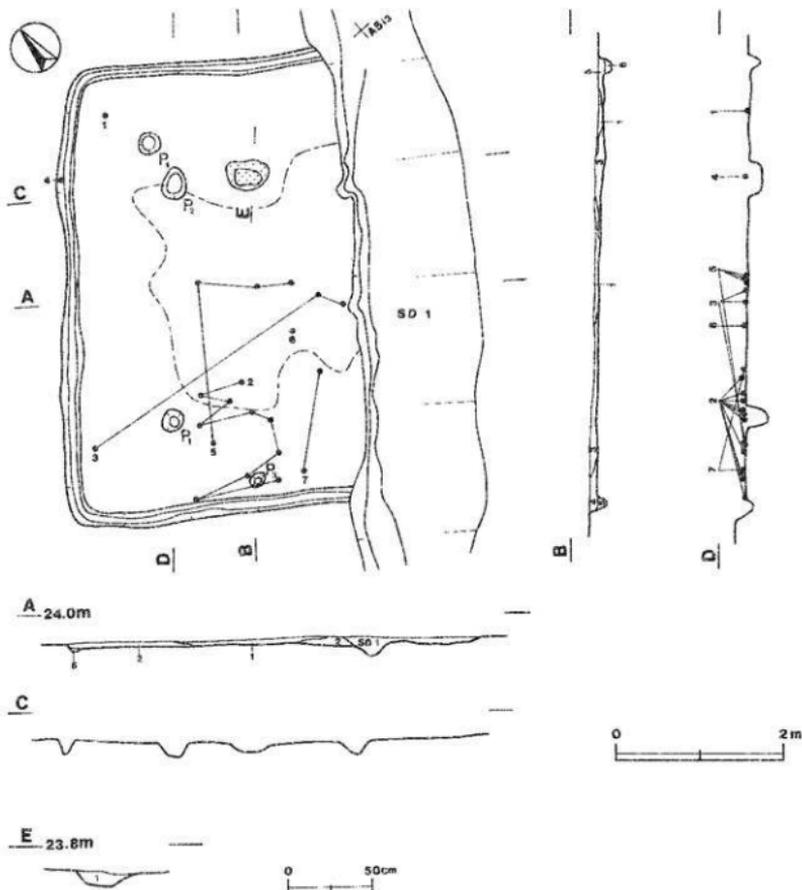
床 全面がローム質で、平坦で、しまっている。中央部は踏み固められている。

炉 炉は北東壁寄りに位置する。長軸51cm、短軸36cmの楕円形で、深さ10cmの地床跡である。炉の長軸は、住居跡の軸にほぼ直交する。炉床は全体に火を受けて赤変しており、南西側の壁が硬化している。

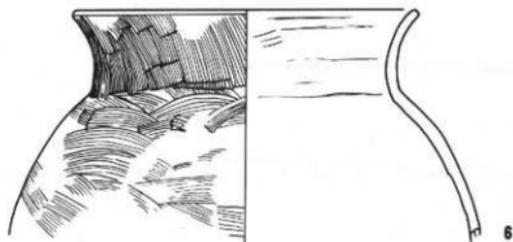
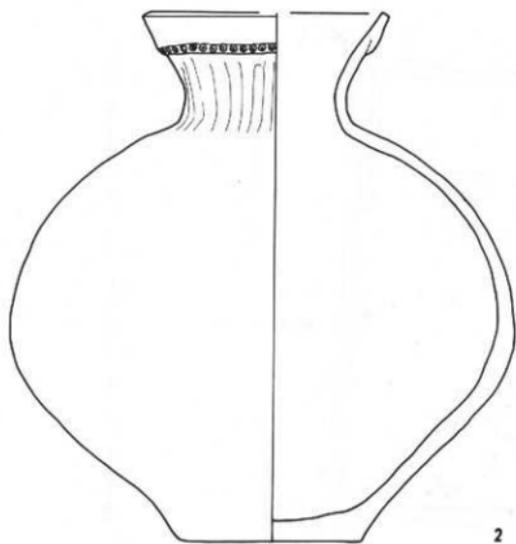
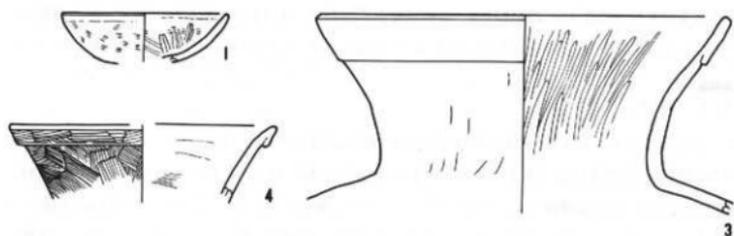
伊土屋解説

1 西 西 焼土粒子・炭化粒子少量

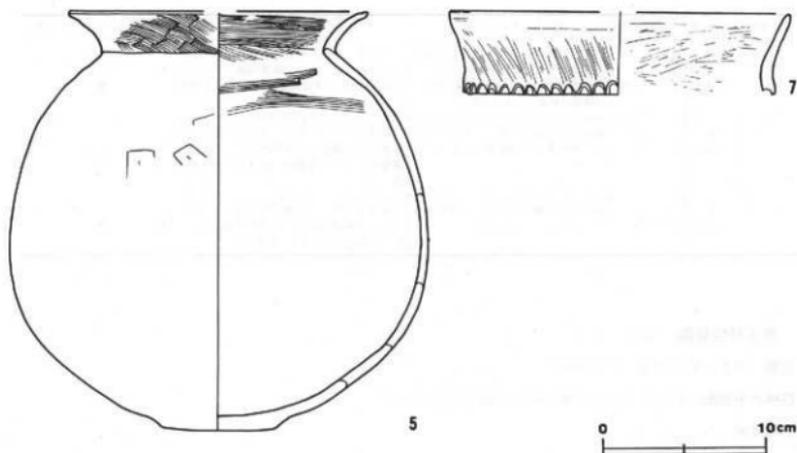
ピット 4か所 (P1～P4)。P1は長径30cm、短径25cmの楕円形で、深さ26cm、P2は長径35cm、短径30cmの楕円形で、深さは16cmである。コーナーに片寄った位置にあり、支柱穴と思われる。これに対応する南東側の柱穴は、第1号溝跡によって切られているため、確認できなかった。P3は径18cmの円形で、深さは10cmであり、出入り口施設に伴うものである。P4は径25cmの円形で、深さは10cmである。性格は不明である。



第3図 第1号住居跡実測図



第4图 第1号住居跡出土遺物実測図(1)



第5図 第1号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積し、自然堆積と思われる。第6層は壁溝の覆土である。

土層解説

- |       |                 |       |                 |
|-------|-----------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量  | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、粘性・しまり弱 |
| 2 褐色  | ローム粒子中量         | 5 暗褐色 | ローム粒子中量         |
| 3 褐色  | ローム中ブロック・阿粒粒子中量 | 6 褐色  | ローム粒子中量         |

遺物 土師器片366点、陶器片1点が出土している。第4図1は、底部を穿孔された柄で、精選された胎土を持つ。北コーナー付近の床面から、逆位の状態で出土している。2・3はともに折返し口縁を持つ壺である。2は床面上1～5cmの高さで、出入り口付近の比較的広い範囲から破片となって出土している。口縁部下端に竹管による円形の刺突文を施し、胴部に赤彩された痕跡を残す。3は、口縁部を下に向けた状態で、北西壁際の床面上から出土している。

所見 本跡の時期は、出土した土器から4世紀前半と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第4図 1	土師器	A 10.0	底部欠損。体部から口縁部にかけて内押して立ち上がる。	口縁部横ナデ、体部外面ハケ目調整後、丁寧なナデ。体部内面横ナデ後、磨き。	粉粒・微小白色粒子 明褐色 普通	P1 80% P.L37 床面
		B (3.0)				
2	壺 土師器	A [14.9]	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は球形で、最大径を中位に持つ。口縁部は折り返し口縁で、外傾して立ち上がる。	口縁部横ナデ。口縁折返し部下端に竹管による円形刺突文。胴部外面ヘラナデ。体部外面ナデ。肩部に赤彩痕有り。胴部～底部内面調整が激しく調整不明。	粉粒・石英・スコリア 7・微小白色粒子 にぶい橙色 普通	P2 70% P.L37 床面
		B 32.3				
		C 11.0				
3	壺 土師器	A 24.4	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、胴部から口縁部にかけて緩やかに外反して立ち上がる。	口縁部横ナデ～口縁部外面ナデ。口縁部下端～胴部外面ヘラナデ。ナデ。口縁部内面磨き。体部内面調整が激しく調整不明。	粉粒・スコリア 橙色 普通	P3 35% P.L37 床面
		B (11.9)				
4	壺 土師器	A [16.0]	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外傾して立ち上がる。	口縁部横ナデ。口縁部外面ハケ目調整。口縁部内面ナデ。一部にハケ目調整を残す。	粉粒・スコリア にぶい橙色 普通	P4 20% 床面
		B (4.7)				

図面番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・構成	編 号
第5図 5	壺 上脚器	A [17.9]	口縁部・体部 部分損。平底。作部はほぼ球形で、最大径を中位に持つ。胴部は強く無直し、縮れみ痕を残す。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外側ハケ目調整。体部外面へケ削り後、ナゲ。体部内面ナゲの後、一部にハケ目調整。	砂粒。スクリアに多い。藍色。普通	P5 20% P L37 覆土下層
		B 25.2				
		C 6.8				
第4図 6	壺 上脚器	A 20.4	胴部から口縁部の破片。頸部は縦やかに傾面する。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部ナゲ。口縁部・体部上半部外面ハケ目調整。口縁部内面ハケ目調整後、ナゲ。胴部内・体部上半内面ナゲ。	砂粒。スクリアに多い。白色。粗	P6 32% P L37 覆土下層
		B (14.2)				
第5図 7	壺 土脚器	A [20.5] B (4.9)	胴部から口縁部の破片。口縁部は縦やかに外反して立ち上がる。	口縁部調整ナゲ。口縁部外面強いハケ目。口縁部内面ハケ目調整。頸部外側に縮れみ痕を残し、滑動片痕。	砂粒。スクリアに多い。藍色。粗	P7 10% 覆土中層

### 第3号住居跡 (第6・7図)

位置 調査区域の北部、B4 f6f区。

規模と平面形 長軸6.71m、短軸6.65mの隅丸方形である。

主軸方向 N-53°-W

壁 壁高は14~30cmで、北東壁・南東壁は垂直に、北西壁・南西壁は外傾して立ち上がる。

壁溝 壁際を全周し、断面はU字形である。上幅12~20cm、下幅4~10cmで、深さは10~12cmである。

床 東側コーナー付近が一部掘乱により破壊されている。全面がローム質であり、平坦で、良くしまっている。中央部は踏み固められている。

炉 重複して2基確認され、P1とP4のほぼ中間に位置する。炉1の南東側が炉2によって破壊されていることから、両者の新旧関係は炉1→炉2の順と判断した。炉1は、長径(67)cm、短径50cmの楕円形で、深さ7cmの地床炉である。炉2は、長径65cm、短径52cmの楕円形で、深さ8cmの地床炉である。それぞれの炉の長軸は、住居跡の主軸とほぼ平行する。2基とも焼土が堆積し、底面は熱を受けて硬化している。

#### 炉土層解説

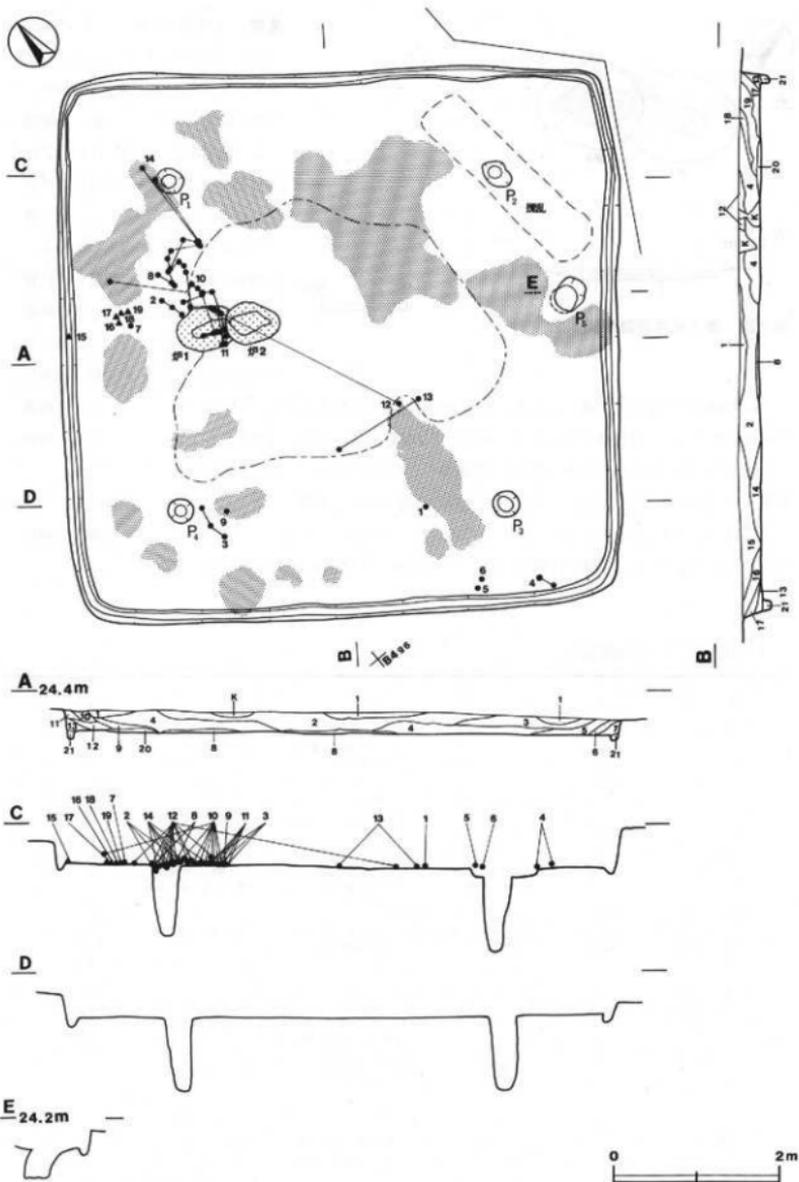
- |   |        |                          |   |      |                   |
|---|--------|--------------------------|---|------|-------------------|
| 1 | に多い赤褐色 | 焼土小ブロック多量、ローム中ブロック少量、粘性弱 | 3 | 暗赤灰色 | 焼土小ブロック少量、粘性・しまり弱 |
| 2 | 澄色     | 焼土大ブロック多量、粘性弱            | 4 | 褐色   | 焼土大ブロック多量、粘性・しまり弱 |

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、各コーナーに偏った位置にあり、柱穴と思われる。平面形は、P2が長径36cm、短径28cmの楕円形、その他は径30~32cmの円形である。柱穴の深さは、86~106cmである。P5は、長径40cm、短径34cmの楕円形で、深さは32cmである。断面は長方形で、住居跡の外側に向かって傾斜して掘り込まれていることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 21層からなる。ロームブロックを含む層が多く、屋外から内部に向かって土砂を投げ込んだような不自然な堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。また床面直上には、焼土層(第20層)が広く薄く堆積している。

#### 土層解説

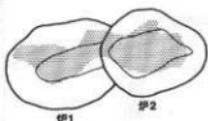
- |    |     |                                  |    |     |                               |
|----|-----|----------------------------------|----|-----|-------------------------------|
| 1  | 暗褐色 | ローム中ブロック多量                       | 12 | 褐色  | ローム粒子多量、ローム大ブロック・塊小ブロック少量、粘性弱 |
| 2  | 褐色  | ローム粒子多量、ローム中ブロック少量               | 13 | 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、粘性弱            |
| 3  | 褐色  | ローム粒子多量、ローム中ブロック少量               | 14 | 褐色  | ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、藍色粒子少量     |
| 4  | 褐色  | ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、しまり強          | 15 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒少量、焼土粒子少量            |
| 5  | 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、しまり強     | 16 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒少量、ローム中ブロック多量      |
| 6  | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒少量、焼土中ブロック多量、粘性弱 | 17 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒中量、炭化粒少量             |
| 7  | 暗褐色 | 炭化粒少量、焼土粒子少量                     | 18 | 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒多量                 |
| 8  | 暗褐色 | 炭化粒中量                            | 19 | 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック中量            |
| 9  | 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒少量               | 20 | 褐色  | 焼土大ブロック・炭化粒多量                 |
| 10 | 暗褐色 | 焼土大ブロック中量、しまり強                   | 21 | 褐色  | ローム粒子少量                       |
| 11 | 暗褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒少量、粘性・しまり弱             |    |     |                               |



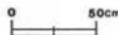
第6图 第3号住居跡実測图



A



A 24.0m



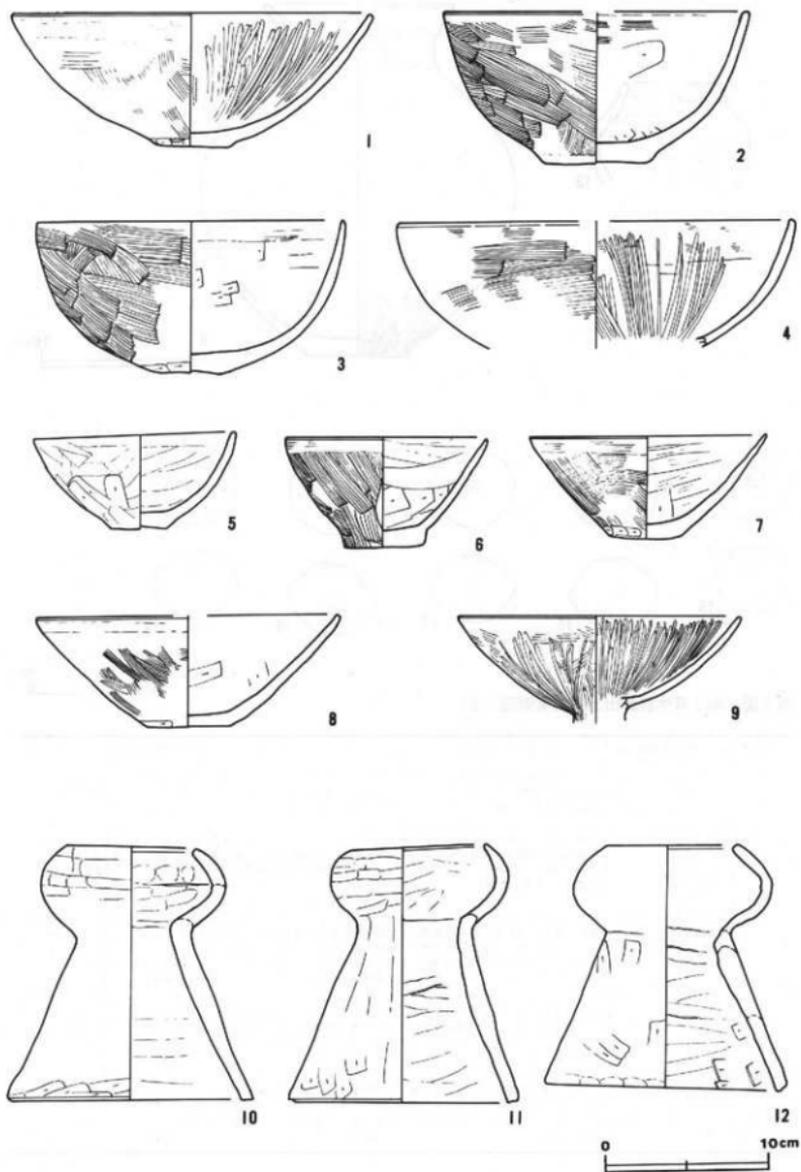
第7図 第3号住居跡炉実測図

る。12の脚部のみ離れた位置にあるもの、炉の付近より3個南北に並んだ状態で出土している。3個体とも外面に熱を受けた痕跡が認められる。第9図15は球状土鉢、16~19は算盤玉状土鉢である。15は北西壁際から出土し、16~19は、7の鉢に隣接した位置から、孔を上に向けて4個並んで出土している。

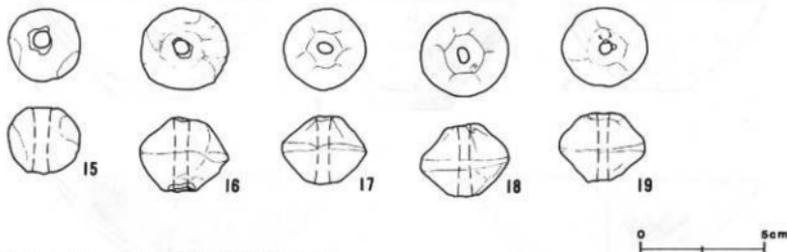
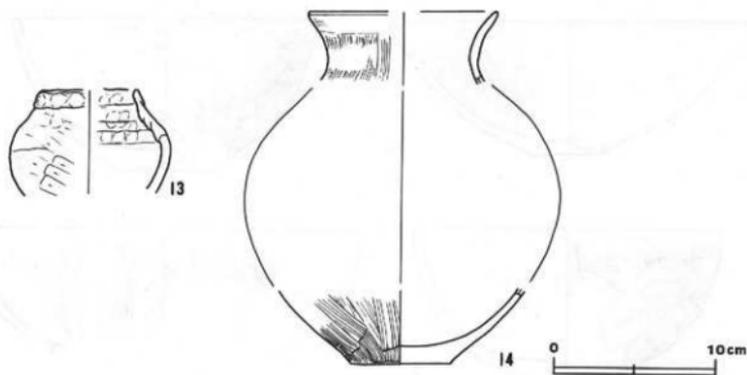
所見 炭化材はほとんど認められなかったもの、焼土が広く堆積しており、焼失家屋と思われる。出土した土器は、碗と鉢を主としている。10~12の器台は、炉の周辺から出土しており、その出土状況は使用法と関係があると思われる。本跡の時期は、出土した土器から3世紀末から4世紀初めと考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 1	土師器 碗	A 21.7	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて緩やかに内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。口縁部外面へう割り後、ナデ。体部外面ハケ目調整後、ナデ。体部下端手持ちへう割り。体部内面磨き。	砂粒・スコリア・黒 小白色子 普通	P10 80% P L 37 床面
		B 8.0				
		C 4.5				
2	土師器 碗	A 18.4	体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて緩やかに内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。体部外面ハケ目調整。体部内面へう割り後、ナデ。底部内面へう割り。	砂粒・スコリア・黒 小白色子 明褐色 普通	P 8 60% P L 37 床面
		B 9.1				
		C 6.6				
3	土師器 碗	A 18.5	体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて緩やかに内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。体部外面ハケ目調整。体部下端手持ちへう割り。体部内面へう割り後、ナデ。	砂粒・スコリア 暗灰黄色 普通	P 9 60% P L 38 床面
		B 9.2				
		C 4.0				
4	土師器 碗	A [23.6]	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ハケ目調整。体部内面磨き。	砂粒・スコリア・白 色粒子 褐色 良	P15 30% P L 37 床面
		B (7.6)				
5	土師器 小形碗	A 12.1	体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。口縁部・体部外面へう割りの後、体部外面下半に一部へう割り。口縁部・体部内面へう割りの後、ナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	P13 80% P L 37 床面
		B 5.8				
		C 3.3				
6	土師器 鉢	A 12.1	定形。平底。体部から口縁部にかけて外彎して立ち上がる。	口縁部外面横ナデ。体部外面ハケ目。体部内面へう割り後、へう割りの後、ナデ。	砂粒・スコリア・黒 にぶい赤褐色 普通	P11 100% P L 37 床面
		B 6.6				
		C 4.8				
7	土師器 鉢	A 14.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目。体部下端手持ちへう割り。体部内面へう割り後、上半部をへう割りの後、ナデ。	砂粒・スコリア・黒 赤褐色 普通	P12 90% P L 38 床面
		B 6.2				
		C 4.5				



第8图 第3号住居跡出土遺物実測図(1)



第9図 第3号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 8	鉢 土師器	A [18.2]	胴部一部欠損。平底。胴部から口縁部にかけて外縁して立ち上がり、口縁端部に面取りを施す。	口縁部内・外面横ナデ。胴部外面ハケ目後、ナデ。胴部下縁子持ちへう割り。胴部内面へう割り後、ナデ。	赤灰・スコリア・白色粒子 に濃い赤褐色の 良	P14 40% 覆土中層
		B 6.7				
		C 4.8				
9	高杯 土師器	A 17.1	胴部欠損。杯部は、胴部から口縁部にかけて緩やかに内傾して立ち上がり、口縁端部に面取りを施す。	口縁端部横ナデ。杯部外面へう割り後、ナデ。その後磨き。杯部内面磨き。	赤灰・スコリア・黒 白色粒子 黒褐色 普通 良	P16 45% P L38 床面
		B (6.3)				
10	異形器台 土師器	A 7.8	受部・脚部一部欠損。脚部は直線的にハの字状に開く。受部は胴の張った球形で、口縁端部に面取りを施す。	受部外面へうナデ。脚部外面ナデの後、脚部下縁に一部へう割り。受部上半部内面指掘圧痕。下半部ナデ。脚部内面へうナデ。	赤灰・スコリア・黒 白色 灰白色 普通 二次焼成有	P17 95% P L38 床面
		B 15.5				
		D 13.3				
11	異形器台 土師器	A 8.0	受部・脚部一部欠損。脚部は直線的にハの字状に開く。受部は胴の張った球形を呈しており、口縁端部に面取りを施す。	口縁部内・外面ナデ。受部外面へうナデ。脚部外面へう割り後、ナデ。脚部下縁に一部へう割り。受部内面ナデ。脚部内面へうナデ。	赤灰・スコリア に濃い褐色 普通 二次焼成有	P18 90% P L38 床面
		B 15.7				
		D 12.7				
12	異形器台 土師器	A 7.6	口縁部・脚部一部欠損。脚部は直線的にハの字状に開く。受部は胴の張った球形を呈しており、口縁端部に面取りを施す。	受部外面ナデ。脚部外面ナデの後、一部にへう割り・磨き。脚部下縁は指掘圧痕。受部内面ナデ。脚部内面へう割り後、ナデ。	赤灰・スコリア に濃い褐色 普通 二次焼成有	P19 80% P L38 床面
		B 15.0				
		D 13.4				

図版番号	器 種	計測値(cm)	形 状 の 特 徴	工 法 の 特 徴	出土・他器・焼成	備 考
第9図 13	小形無蓋土 土 師 器	A   5.8  B   6.3	口縁部から底部の破片。底部から口縁部にかけて内壁して立ち上がる。	口縁部内・外面滑沢不質。口縁部外面に輪筋みぞを残す。底部外面へつ削り。底部内面土半は輪筋みぞを残し、頸部圧痕。下下部ナマ。	伊波・スコリア・雲母 にふいぬ色 良	P21 30% 床面
14	土 師 器	A   11.4  B   22.1  C   6.1	口縁部から頸部、底部の破片。平底。底部は球形を呈するとと思われる。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は緩やかに外反しながら立ち上がる。	口縁部内・外面滑沢ナマ。頸部・底部土半ハケ目調整。内面は刮漉が直しく調整不明。	伊波・スコリア・雲母 にふいぬ色 良	P20 30% 覆土下層

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 場 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第9図15	球状土師	2.9	2.7	0.7	18.9	北西壁際床面	D P 1 P L 33
16	腎盂土師	3.6	3.0	0.6	25.9	伊北西側床面	D P 2 P L 33
17	真鍮玉状土師	3.3	2.8	0.6	19.8	伊北西側床面	D P 3 P L 33
18	腎盂玉状土師	3.5	3.0	0.6	25.1	伊北西側床面	D P 4 P L 33
19	真鍮玉状土師	3.5	2.8	0.5	21.6	伊北西側床面	D P 5 P L 33

#### 第4号住居跡 (第10図)

位置 調査区域の北部，B3区画。

規模と平面形 長軸6.33m，短軸5.45mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-31°-W

壁 壁高は38~44cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁際を全周し，断面はU字形である。上幅16~26cm，下幅6~13cm，深さは5~10cmである。

床 全面ローム質で，平坦である。P5から炉1にかけて踏み固められている。

炉 2基確認されている。炉1は，北西壁寄り，P1とP4の中間に位置する。長径85cm，短径51cmの楕円形で，深さは13cmの地床炉である。炉の長軸は，住居跡の主軸とほぼ一致する。炉床は，火を受けて硬化している。

##### 炉1土層解説

- 1 珪 濁 色 焼土粒子・炭化粒子中量
- 2 にふいぬ色 焼土小ブロック・同粒子多量，炭化粒子中量，粘性・しまり弱

炉2は，P2に隣接して構築されている。長軸70cm，短軸57cmの隅丸長方形で，深さは12cmの地床炉である。炉の長軸は，住居跡の主軸とほぼ一致する。炉床は，火を受けて硬化している。

##### 炉2土層解説

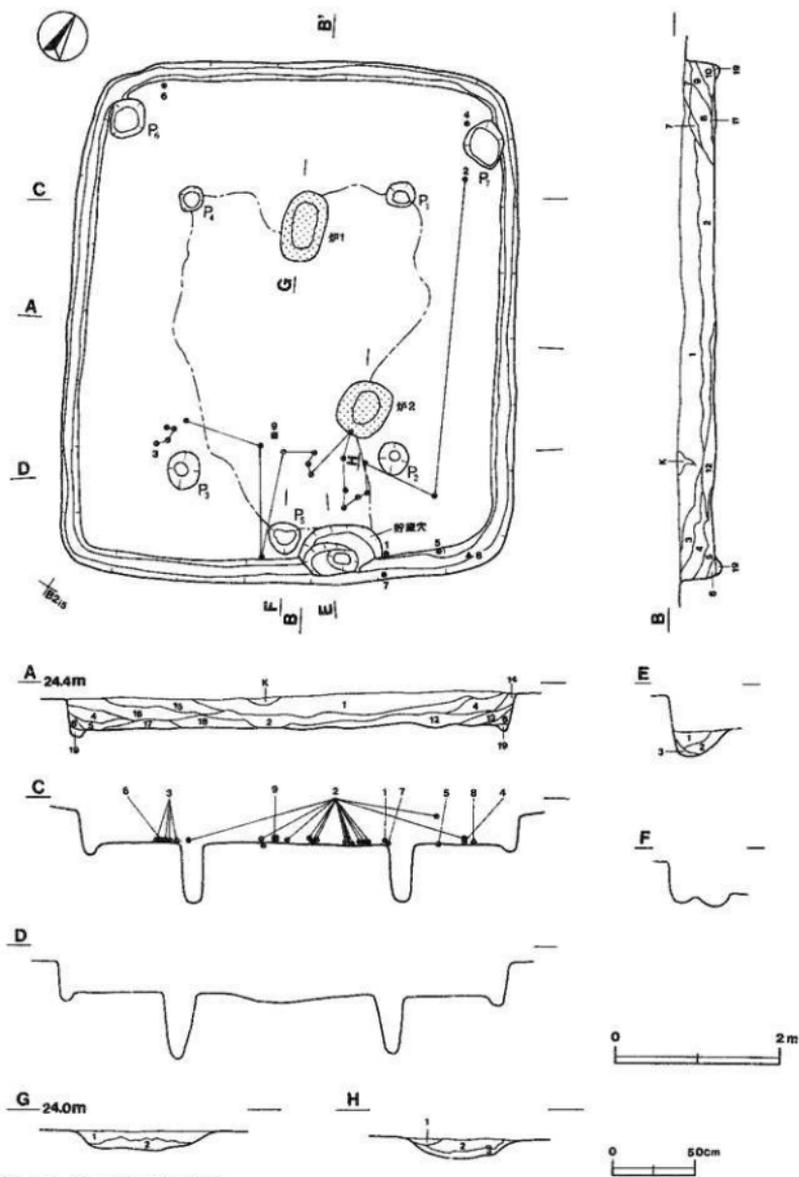
- 1 珪 濁 色 焼土粒子少許，炭化物微量
- 2 濁 色 焼土中ブロック・同粒子多量，粘性弱
- 3 にふいぬ色 焼土粒子多量

貯蔵穴 南東壁に接し，P5の東側に位置する。長径98cm，短径58cmの楕円形で，深さは36cmである。

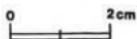
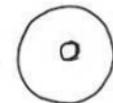
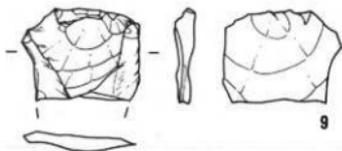
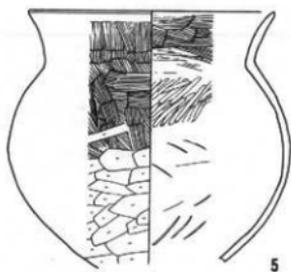
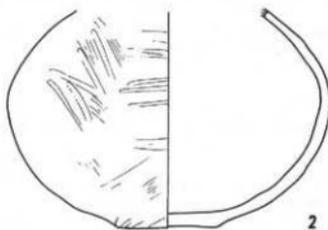
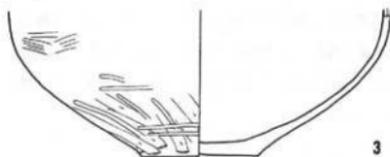
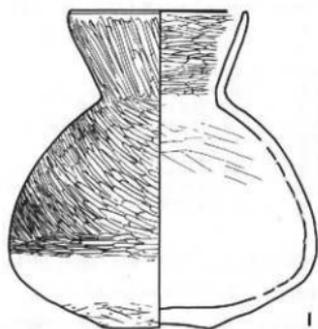
##### 貯蔵穴土層解説

- 1 珪 濁 色 ローム粒子中量
- 2 珪 濁 色 ローム粒子濃厚
- 3 濁 色 ローム粒子中量

ピット 7か所 (P1~P7)。P1~P4は，各コーナーに偏った位置にあることから柱穴と思われる。P1・P4は長径30~35cm，短径25~30cmの楕円形，P2・P3は長径40~45cm，短径35~37cmの同じく楕円形である。深さは，74~84cmである。P5は，直径36cmの円形で，深さは15cmである。出入り口施設にともなうピットである。P6・P7は，それぞれ北西壁のコーナー付近に位置し，長径52~58cm，短径42~47cmの楕円形で，深さは13~16cmである。P1~P4よりも浅く，性格は不明である。



第10图 第4号住居跡実測图



第11图 第4号住居跡出土遺物実測図

覆土 18層からなる。レンズ状に堆積しているため、自然堆積と思われる。床面上から覆土中層にかけて炭化材が出土している。また一部の床面上には、焼土が堆積している。

土層解説

1	灰褐色	ローム粒子・赤色粒子少量	11	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2	黒褐色	ローム粒子少量	12	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子中量、赤色粒子少量	13	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量	14	黒褐色	焼土小ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量
5	黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量	15	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
6	黒褐色	ローム粒子多量	16	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
7	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、活性炭少量	17	暗褐色	ローム粒子中量、活性炭
8	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量	18	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック少量
9	暗褐色	ローム粒子多量、活性炭	19	暗褐色	ローム粒子中量、活性炭
10	暗褐色	ローム粒子多量			

遺物 土師器片360点、土製品1点（土鏝）、弥生土器片2点、銅片1点が出土している。銅片は混入したものである。第11図1～4は壺である。1は、貯蔵穴に接する床面上から正立した状態で出土している。最大径は胴部下平にあり、梨形を呈している。2は、如2付近の床面直上から覆土中層にかけて破片の状態で出土している。3はP3付近の床面上から、4は北コーナー付近の床面上約4cmの位置から、それぞれ正位の状態で出土している。5は、東コーナー付近の床面上から、口縁部を壁側に向けて横位の状態で出土している。6は台付壺の脚部で、西コーナー付近の床面上約2cmの位置から、横位の状態で出土している。5とは接合せず、別個体と思われる。7は、土甕式と思われる弥生土器の破片で、南壁際の覆土下層から出土している。所見 炭化材が内部に向かって倒れかけた状況が認められ、床面に焼土が堆積することから、焼土住居と思われる。本跡の時期は、出土した土器から4世紀前半と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	出土・位置・状況	備考
第11図 1	土師器 壺	A 10.5	定形。平底。体部は梨形で、下に大径を持つ。頸部はくの字状に膨らみする。口縁部は外傾し、口縁部が何処ではけ糸状に立ち上がる。	口縁部ナデ。口縁部内面磨き。口縁部・体部外面上半磨き。体部外面下半ナデ。体部口縁部ナデ。体部内面ナデ。	灰褐色	P23 100% P138 北面
		B 19.3				
		C 6.5				
2	土師器 壺	B (17.3)	口縁部・頸部欠損。平底。体部はやや梨形を呈し、中に最大径を持つ。	体部外面ナデの後、一部磨き。体部内面磨きが激しく黒色不明。	赤褐色・スコリア に多い褐色	P24 20% 床面～覆土下層
		C 8.6				
3	土師器 壺	B (12.0)	体部下半から焼害の破片。平底。体部はやや扁平な梨形と思われる。	体部外面へ磨り出し、ナデ。その下に磨きを施す。体部内面磨きが激しく黒色不明。	赤褐色・スコリア に多い褐色	P25 45% 良・外周部地有
		C 9.3				
4	土師器 壺	B (7.9)	体部下半から底部の破片。平底。体部は梨形と思われる。	体部外面ナデ。体部内面ナデ。体部内面磨きが激しく黒色不明。	赤褐色・スコリア に多い褐色	P26 35% 覆土下層
		C 8.1				
5	土師器 壺	A 19.8	欠損欠部。体部は梨形で、中に最大径を持つ。頸部は腕やかに膨らみする。口縁部は若干外反して立ち上がる。	口縁部ナデ。口縁部・体部外面上半ハク目調整。体部外面下半磨り。口縁部内面ハク目調整。体部内面上半磨き。体部内面下半磨りなし。ナデ。	赤褐色・赤褐色 褐色	P30 90% P138 北面
		B (30.6)				
6	土師器 台付壺	D (6.9)	脚部の破片。脚部は腕やかに外反しながら広がる。	脚部外面ナデ。底部内面ナデ。脚部内面へ磨り。	赤褐色・スコリア に多い褐色	P31 20% 覆土下層
		D 10.4				
		R 3.0				
7	土師器 壺	B (6.3)	体部の破片。外傾して立ち上がる。	赤褐色・黒褐色 種(増加1条)の調子を認められ、	赤褐色・白色粒子 に多い褐色	P2 2 覆土下層

図版番号	器種	計測値				出土状況	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第11図8	埴輪土師	3.9	3.2	0.7	36.1	東コーナー奥	P36

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(m)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第12図9	測片	1.9	2.1	0.1	1.22	層位P	Q1 ナット P L54

### 第5号住居跡 (第12図)

位置 調査区域の北西部, B 2g8区。

重複関係 第24号溝が住居跡の壁を破壊していることから, 本跡の方が古い。

規模と平面形 遺構の大半が調査区域外にあり, 全形は明らかではないが, 南壁及び調査された東西の壁が直線的であり, コーナーがやや丸みを帯びることから隅丸方形または隅丸長方形と推定される。規模は, 調査された範囲で東西4.26m, 南北(1.73)mである。

主軸方向 N-20°-W

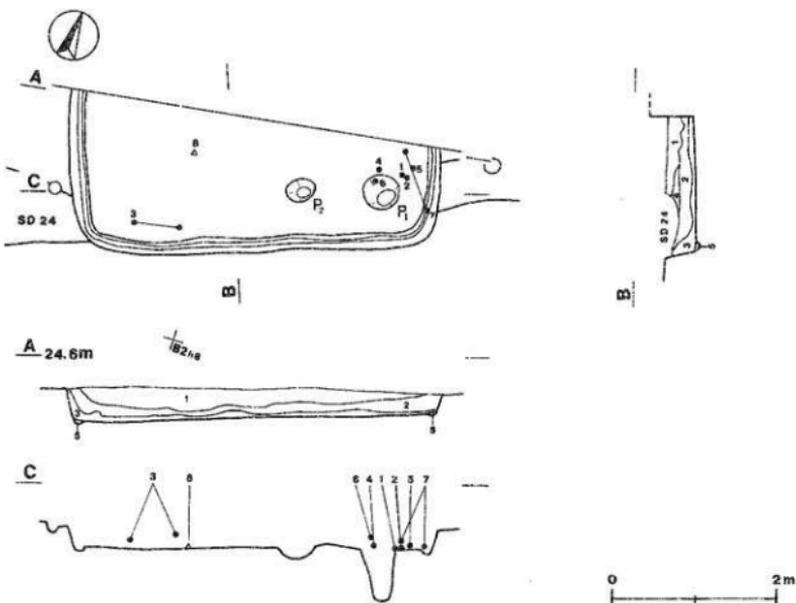
壁 壁高は26~39cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 断面はU字形で, 上幅14~20cm, 下幅4~6cm, 深さは4~8cmである。

床 ローム質で, 平坦である。やや軟弱である。

ピット 2か所(P1・P2)。P1は径45cmの円形で, 深さは63cmである。南東コーナー寄りに位置し, 土柱穴と思われるが, これに対応する西側のピットは確認されなかった。P2は長径39cm, 短径30cmの楕円形で, 深さは17cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積するため, 自然堆積と考えられる。

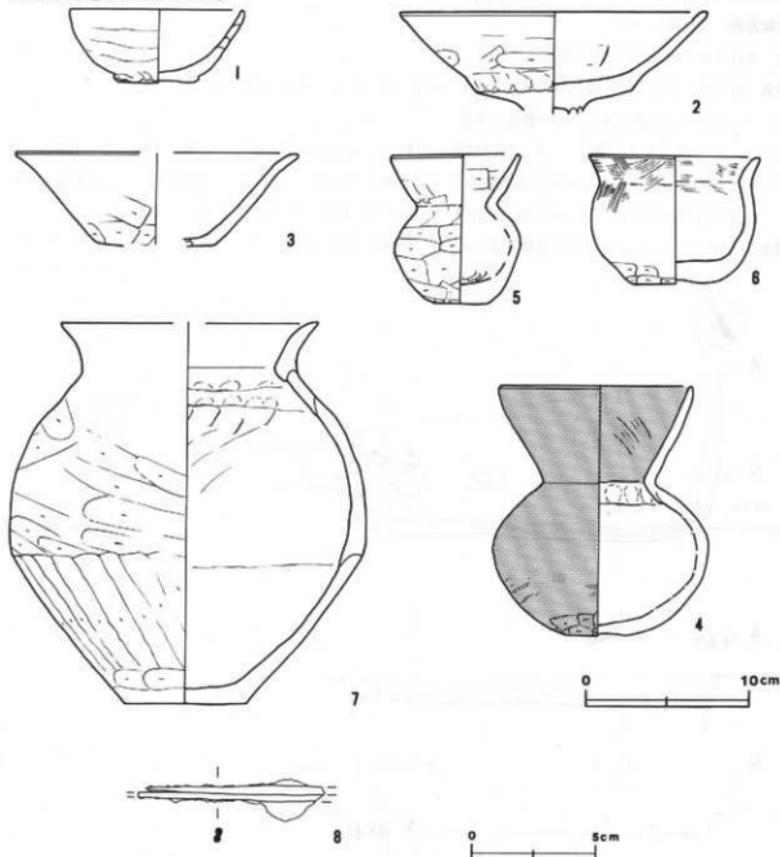


第12図 第5号住居跡実測図

土層解説

- |       |                               |       |                            |
|-------|-------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量      | 4 灰褐色 | ローム大ブロック中量・ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 褐色  | ローム粒子中量                    |
| 3 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量      |       |                            |

遺物 土師器片84点、鉄製品1点、須恵器片11点、灰軸陶器片2点が出土している。須恵器片、灰軸陶器片は、混入と思われる。第13図1・2・4・6は、P1北側の上端部に沿って出土している。1・2は、2を下に、正位に重なった状態で出土している。1・2は、意図的に重ねられたと思われる。1は土師器の碗、2・3は土師器高坏の坏部である。2は脚部との接合面が摩耗しており、高坏本来の目的とは別の用途に使用された可能性がある。3は、南西コーナー近くの覆土中層からの出土である。4・5は土師器罎である。4は床面上15cmの位置から正位の状態で、5は床面上4cmの位置から横位の状態で出土している。6は土師器小形甕で、床面上15cmの位置から逆位の状態で出土している。7は土師器甕で、南東コーナー付近の覆土下層から横位の状態で出土している。



第13図 第5号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、出土した土器の特徴から5世紀前半と考えられる。

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種類	寸法値(cm)	形状の特徴	手法の行痕	粘土・色調・完成	備考
第14回 1	埴輪器 土師器	A 10.2	定形、平底、体部から口縁部にかけて内傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ナデ、輪積み痕を残す。体部内面ナデ。底部付着部等の凹凸不明。	赤・赤・赤系 に白い黄褐色 点	P32 100% P L.29 内面炭化物付着 痕土下層
		B 4.4				
		C 4.6				
2	高坏 土師器	A 18.4 (6.2)	陶土欠損。坏部外周ト端に稜を持つ。口縁部は若干内傾して立ち上がる。	口縁部造輪ナデ。口縁部外面へウ割り後、ナデ。坏部下縁・脚部との接合部付近ナデ。坏部内面へウ割り後、ナデ。	赤・赤・赤系 に赤・赤・赤系 点	P33 50% P L.30 灰面
		A [16.8] B 3.6	脚部欠損。坏部外面下縁に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がり、口縁端部付近で若干外反する。	口縁部内・外面ナデ。坏部外面下縁以下へウ割り。坏部内面底部付近は滑着が鋭しく両壁不明。	赤・赤・赤系 赤褐色 普通	P34 40% 焼土中層
4	埴 土師器	A 17.3	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球形で、中央に最大径を持つ。底部はくの字状に窪みする。口縁部は外傾し、口縁端部付近では外反する。	口縁部～体部外面下縁ナデ。体部下縁手持ちへウ割り。口縁部～頸部内面へウ割り後、ナデ。頸部内周ト端に輪積み痕を残し、折面止裏。体部内面割面が鋭しく両壁不明。口縁部内・外面・体部外面赤點。	赤・赤・赤系 に白い褐色 点	P35 90% P L.30 焼土中層
		B 15.3				
		C 3.6				
5	埴 土師器	A 7.6	定形。平底。体部は片蓋茶碗を思っている。頸部はくの字状に窪みする。口縁部は外傾して立ち上がり、口縁端部に面取りを残す。	口縁部造輪ナデ。口縁部～体部外面へウ割り。口縁部内面へウ割り後、ナデ。体部内面ナデ。底部内面へウ割り。	赤・赤・赤系 ア・灰石 に白い褐色 普通	P36 100% P L.30 焼土中層
		B 9.1				
		C 3.7				
6	小形 土師器	A 10.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内傾して立ち上がる。頸部は緩やかに起曲する。口縁部は若干外反して鋭く立ち上がる。	口縁部内・外面造輪ナデ。体部外面ナデ。体部下縁手持ちへウ割り。体部内面一部滑着。へウ割り。	赤・赤・赤系 良	P38 90% P L.30 焼土中層
		B 7.9				
		C 5.0				
7	埴 土師器	A [15.4] B 23.1 C [7.2]	口縁～頸部一部欠損。平底。体部は瓶長の片蓋茶碗を思っている。底部内面は稜を持つ。頸部は緩やかに窪みする。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面造輪ナデ。体部外面へウ割り。頸部内面ト端に輪積み痕を残し折面止裏。体部内面ト平へウ割り後、ナデ。体部内面下縁ナデ。	赤・赤・赤系 に白い褐色 良	P39 50% P L.30 体部外面炭化物 付着 痕土下層

図版番号	種類	寸 法 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第14回B	不明器	11.2	0.83	0.45	22.6	中央付近敷土下層	M1

## 第6号住居跡 (第14回)

位置 調査区域の北部、B3j3区。第4号住居跡の南側に位置する。

規模と平面形 長軸4.60m、短軸4.15mの長方形である。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は19～30cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁溝はそれぞれの壁を巡るが、西コーナー及び南コーナー付近で途切れる。断面はJ字形で、上幅14～26cm、下幅4～13cm、深さは11～14cmである。

床 ローム質で、平州である。如からP5にかけての中央部が踏み固められている。

炉 北西横寄り、P1とP4の中間に位置する。長径82cm、短径51cmの楕円形で、深さは17cmの地床加である。炉の長軸は、住居跡の主軸とほぼ一致する。加床は、熱を受け硬化している。

## 伊土層解説

- 1 赤 色 焼土中ブロック多量、粘性・しまり弱
- 2 暗 褐色 焼土粒少量
- 3 暗 色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

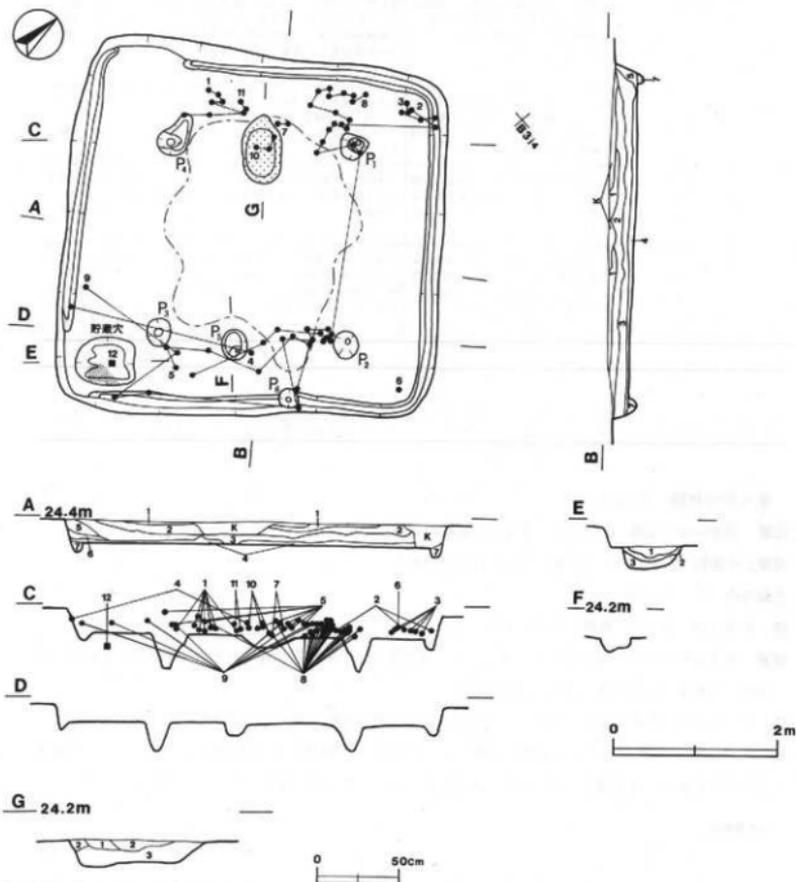
**貯蔵穴** 南コーナー部に位置する。長軸70cm、短軸61cmのやや丸みを帯びた長方形で、深さは26cmである。底面は平坦で、断面は長方形である。

**貯蔵穴土層解説**

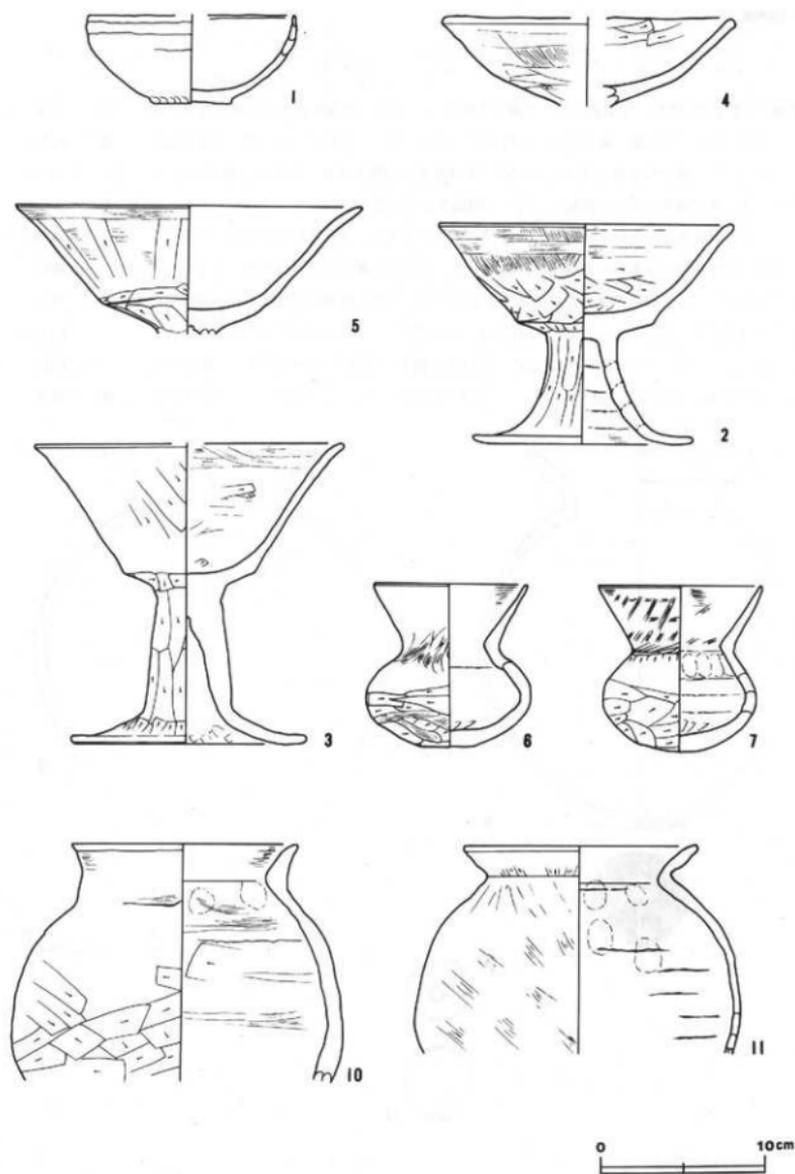
- |          |                                |
|----------|--------------------------------|
| 1 灰褐色    | ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量 |
| 2 橙褐色    | 焼土大ブロック多量、炭化物少量、粘性・しまり弱        |
| 3 におい赤褐色 | ローム小ブロック多量、ローム大ブロック・焼土中ブロック少量  |

**ビット** 6か所 (P1～P6)。P1～P4は各コーナー寄りに位置し、主柱穴である。平面形はP4が不整形円形、その他は長径26～30cmの楕円形で、深さは34～40cmである。P5はP2、P3のほぼ中間に位置し、長径38cm、短径30cmの楕円形で、深さは16cmである。出入口施設に伴うビットと思われる。P6は、南東壁に接する。直径23cmの円形のビットで、深さは16cmである。補助的な柱穴と思われる。

**覆土** 7層からなる。レンズ状に堆積し、自然堆積と考えられる。



第14図 第6号住居跡実測図

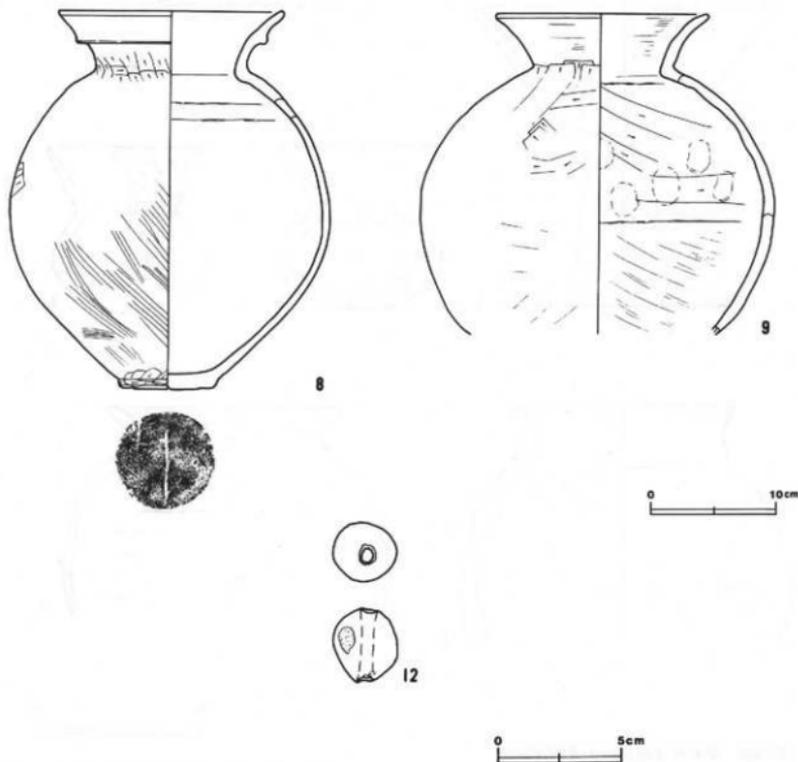


第15图 第6号住居跡出土遺物実測図(1)

土層解説

- |       |   |         |                               |
|-------|---|---------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・堆土小ブロック少量                           | 4 にぶい褐色 | ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・炭化物少量     |
| 2 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・堆土小ブロック・炭化粒子少量          | 5 灰褐色   | ローム中ブロック・ローム小ブロック・堆土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・堆土小ブロック・炭化粒子少量 | 6 暗灰色   | ローム大ブロック・ローム中ブロック・堆土粒子少量      |
|       | ローム・炭化物少量                                 | 7 褐色    | ローム粒子多量                       |

遺物 土師器片379点、土製品1点(土錘)が出土している。北西壁および南東壁寄り、覆土の中から下層にかけて多く出土している。第15図2～5は高坏である。2・3は北コーナー部の床面付近から、脚部を向かい合わせにして、横位の状態で出土している。4は南寄りの覆土中から出土し、脚部を欠いている。2～4は、器形・胎土及び調整の手法が類似し、セット関係をなすと思われる。6・7は埴である。6は、東コーナー付近から横位の状態で、7は炉の付近からはほぼ正立した状態で、それぞれ覆土下層から出土している。第16図8の壺は、口縁部及び底部が北西壁寄りの床面上4～5cmの位置から逆位の状態で出土しているものの、破片は広く分布している。破片の垂直及び平面分布をみると、住居の廃絶後に投棄され、第3層の流れ込みに伴って破片が分散した可能性がある。第15・16図9～11は寛で、いずれも胴部下半以下を欠いている。ほぼ同じ器形であるが、口縁の立ち上がりが異なる。9は南東壁際の床面上10cmの位置から横位の状態で、第15図10・11は炉の北側の床面上から逆位の状態で、それぞれ出土している。第16図12の球状土錘は、貯蔵穴の覆土中



第16図 第6号住居跡出土遺物実測図(2)

からの出土である。

所見 本跡の時期は、出土した土器の特徴などから、5世紀前半と考えられる。

第6号住居跡出土遺物観察表

調査番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・産地	備考	
							計
第15号 1	土師器 A	[12.4]	口縁部一處部一欠損。平底。体部から口縁部にかけて内湾しながらかまらぬ。	口縁部 体部外面ナナ。口縁部裏面に輪状溝を刻す。体部外面下に横状土目による瓦敷。口縁部・底面内面ナナ。	胎土・スコリア・灰 赤・黄土 赤い褐色 赤褐色	P40 40% 覆土下・中層	
		B	5.4				
		C	4.8				
2	土師器 A	[18.0]	杯部一處欠損。陶土はハの半に反反して広がる。口縁部内下縁に捺を持つ。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部外面ハケ甘漬煎後、捺ナナ。杯部・腹面外面ヘリ削り。輪状溝内・外周コナナ。外周溝ナナ。杯部内面ト半削り。底面ヘリ削り。杯部内面は輪状溝を刻す。本瓦型。	胎土・白色粘土 赤い黄色 赤褐色 赤褐色	P41 65% P.L.30 中層	
		B	13.5				
		D	13.4				
3	土師器 A	18.4	杯部・腹面一處欠損。腹面は紐状を呈し、背腹面を強く外湾させる。杯部下縁に捺を持つ。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外周溝ナナ。杯部・腹面ヘリ削り。腹面内・外周コナナ。腹面内面ト半ナナ。下半ヘリ削り流すナナ。	胎土・スコリア 赤い黄色 赤褐色 赤褐色	P42 60% P.L.30 床面 料泥炭層有	
		B	16.4				
		D	14.2				
4	土師器 A	[17.8]	杯部の破片。口縁部は着て内湾して立ち上がる。	口縁部輪状溝ナナ。杯部外面ハケ甘漬煎後、捺ナナ。杯部内面ヘリ削り後、捺ナナ。	胎土・スコリア・灰 赤い褐色 赤褐色	P43 55% 覆土中層	
		B	5.4				
5	土師器 A	11.0	杯部の破片。杯部外面下縁に輪状溝を刻し、捺を持つ。口縁部は外反して立ち上がり。腹面内面は若干外反する。	口縁部内・外周溝ナナ。杯部外面ナナの他、腹面内面に腹面ヘリ削り。杯部内面ト半ナナ。内面は輪状溝を刻す。本瓦型不明。	胎土・赤・スコリア 赤い黄色 赤褐色 赤褐色	P44 45% P.L.40 覆土下・中層	
		B	(7.8)				
6	土師器 A	9.1	碗形。体部は腹面の腹面で、中央に最大径を持つ。腹面は縦やかに屈曲する。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面。腹面内面ナナ。杯部外面ヘリ削り後、一器ナナ。杯部内面ナナ。腹面内面ヘリ削り。	胎土・赤・スコリア 赤い黄色 赤褐色 赤褐色	P45 100% P.L.10 覆土下層	
		B	9.8				
		C	8.0				
7	土師器 A	10.9	口縁部一處欠損。丸底。体部は腹面の腹面で、中央に最大径を持つ。腹面は縦やかに屈曲する。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外周溝ナナ。杯部外面ト半ナナ。杯部内面ト半ヘリ削り。腹面内面下縁に捺を刻す。杯部内面ナナ。杯部内面ヘリ削り。	胎土・スコリア・赤 赤い黄色 赤褐色 赤褐色	P46 85% P.L.40 覆土下層	
		B	10.1				
第16号 8	土師器 A	18.0	杯部一處欠損。平底。体部は腹面の腹面で、中央に最大径を持つ。腹面は縦やかに屈曲する。口縁部は外反して立ち上がり。腹面内面は輪状溝を刻す。本瓦型である。	口縁部内・外周溝ナナ。杯部外面ヘリ削り。腹面内面ト半ナナ。杯部内面ト半ヘリ削り。杯部内面は輪状溝を刻す。本瓦型不明。	胎土・白色粘土・赤 赤い黄色 赤褐色 赤褐色	P47 90% P.L.40 外面炭化付着 床面・覆土中層	
		B	30.3				
		C	7.8				
9	土師器 A	16.6	底部欠損。体部は碗形で、中央に最大径を持つ。腹面は縦やかに屈曲する。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外周溝ナナ。杯部外面ヘリ削り後、捺ナナ。杯部内面ト半ヘリ削り後、捺ナナ。その後一部背腹面を削り、杯部内面ト半ナナ。	胎土・赤・スコリア 赤い黄色 赤褐色 赤褐色	P48 70% P.L.40 外面炭化付着 覆土中層	
		B	(25.9)				
第15号 10	土師器 A	13.6	杯部ト半以下欠損。体部は腹面の腹面で、中央に最大径を持つ。腹面は縦やかに屈曲し、内面に捺をもつ。口縁部は若干外反して立ち上がる。	口縁部内・外周溝ナナ。腹面内面ト半削り。腹面内面ト半ナナ。杯部内面ト半ヘリ削り。杯部内面ト半削り。杯部内面ト半削り。杯部内面ト半削り。	胎土・赤・スコリア 赤い黄色 赤褐色 赤褐色	P49 30% P.L.40 床面	
		B	(14.5)				
11	土師器 A	13.7	杯部ト半以下欠損。体部は腹面の腹面で、中央に最大径を持つ。腹面は縦やかに屈曲する。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外周溝ナナ。杯部外面ヘリ削り後、捺ナナ。杯部内面ト半ナナ。杯部内面ト半ナナ。	胎土・スコリア 赤褐色 赤褐色 赤褐色	P50 45% 床面	
		B	(12.7)				

調査番号	種別	計				出土地点	備考
		径(cm)	高さ(cm)	口径(cm)	重量(g)		
第16号12	3次土師	2.6	3.0	0.6	13.3	石室穴瓦土中	DP7

### 第7号住居跡 (第17図)

位置 調査区域の北西部, C 2 a7区。

規模と平面形 南西壁側が調査区域外にかかる。長軸3.72m, 短軸 (3.17) mで, 平面形は方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は37~48cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 壁際を巡り, 断面はU字形である。上幅21~31cm, 下幅8~13cm, 深さは5~12cmである。

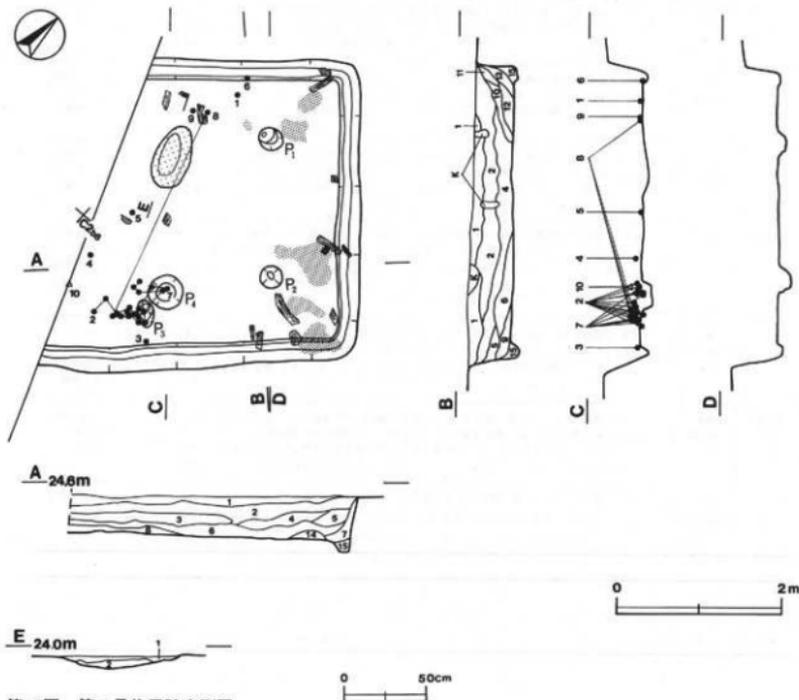
床 ローム質で, 若干起伏がある。P 4 から炉にかけて踏み固められている。

炉 北西壁寄りに位置する。長径74cm, 短径39cmの楕円形で, 深さは8cmの地床炉である。炉の長軸は, 住居跡の主軸より若干東側をさす。炉は, 床面を浅く皿状に掘り込んで構築されており, 炉床に焼土が堆積する。炉床面は, 熱を受けて硬化している。

#### 炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 に白い褐色 焼土粒子多量, 粘性・しまり弱

ピット 4か所 (P 1~P 4)。P 1は長径32cm, 短径26cmの楕円形で, 深さ14cm, P 2は直径28cmの円形で, 深さは16cmである。掘り込みが浅いが, コーナーに寄った位置にあるため主柱穴と考えられる。P 3・P 4は, それぞれ南東壁寄りに位置する。P 3は長径34cm, 短径20cmの楕円形で, 深さは28cmである。壁側が



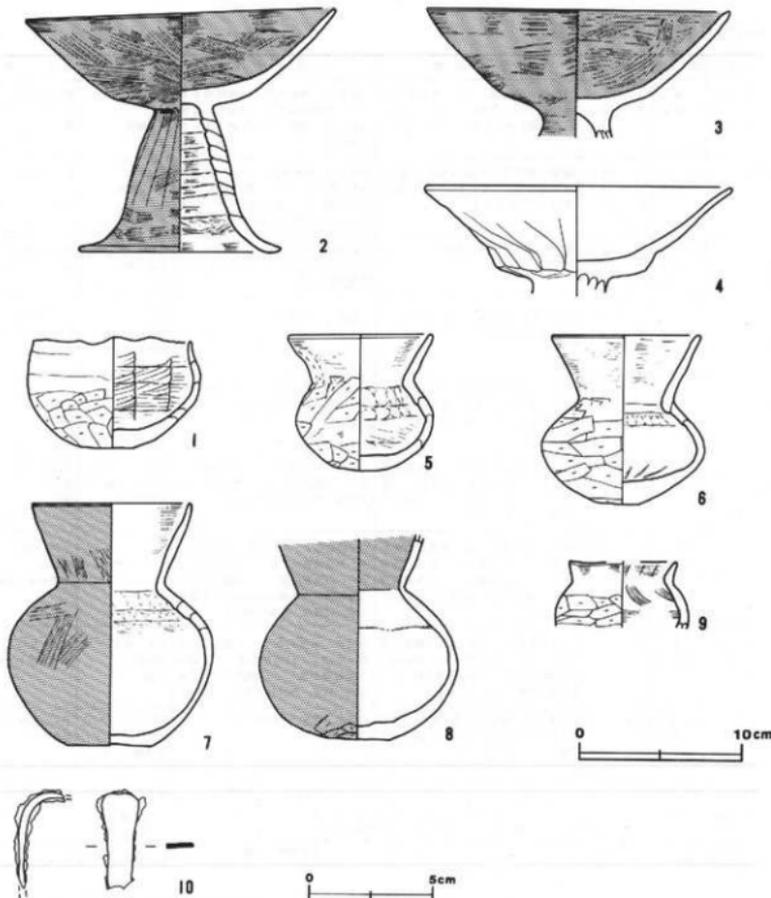
第17図 第7号住居跡実測図

緩やかに外傾して立ち上がるため、出入り口施設に伴うピットと思われる。P 4 は径41cmの円形で、深さ20cmである。性格は不明である。

**覆土** 15層からなる。覆土下層から中層にかけて、炭化物が出土している。レンズ状に堆積するため、自然堆積と思われる。

**土層解説**

- |       |                    |          |                          |
|-------|--------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・同粒子少量     | 9 褐色     | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・同粒子少量     | 10 暗褐色   | ローム粒子多量、焼土粒子微量           |
| 3 黒色  | ローム粒子少量            | 11 褐色    | ローム粒子中量、炭化物微量            |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、粘性・しまり弱    | 12 褐色    | ローム粒子多量、炭化物少量、焼土粒子微量、粘性強 |
| 5 褐色  | ローム粒子中量、砂粒少量、粘性弱   | 13 褐色    | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 6 褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子微量     | 14 にぶい褐色 | 焼土粒子多量                   |
| 7 褐色  | ローム粒子中量            | 15 褐色    | ローム粒子多量                  |
| 8 褐色  | ローム粒子多量、焼土粒子微量、粘性強 |          |                          |



第18図 第7号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片170点が出土している。第18図1・9はそれぞれ輪及び広口壺で、北西壁寄りの床面上から正位の状態でも出土している。2～4は高坏である。2は、7・8とともにP3・P4西側の床面上から出土している。8の口縁部が正位の状態でも出土しているが、3個体の破片は一体となって出土しているため、投棄された可能性がある。3はP3と壁の間の床面上から、4は調査区域際の床面上約6cmの位置から、それぞれ正位の状態でも出土している。2・3は類似した器形を持ち、坏部の両面が赤彩されている。5～8は埴である。5は炉の両側、6は北西壁際の、それぞれ床面上から正位の状態でも出土している。5・6は小形で、ともに胴部は算盤玉状を呈している。7・8は平底で、口縁部内面・外面は赤彩されている。

所見 本跡は、床面直上に焼土が堆積し、炭化材が住居跡の内側に向かって倒れていることから、焼土住居と思われる。時期は、出土した土器から5世紀前半と考えられる。

第7号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 1	輪 土師器	A 9.6	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内厚して立ち上がり、口縁部をほぼ垂直にそのまま上げる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上下ナデ。各部外周下平へナゲ削り。体部内面ハケ目調整。体部外周上半に赤彩あり。	赤彩・スコリア・土	P60 90% P L46 床面
		B 6.8				
		C 3.1				
2	高坏 土師器	A 18.8	胴部一部欠損。胴部は柱状を呈し、胴部底は外反して立ち上がる。口縁部は外縁して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。外底・胴部外周へナゲ削り。ナデ。胴部底ナデ。上部内面ナデ。胴部内面ナデ。坏部内・外面。胴部外面赤彩。	赤彩	P57 90% P L49 床面
		B 11.9				
		D 12.2				
3	高坏 土師器	A 18.4	胴部欠損。口縁部は外縁して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。坏部内・外面へナゲ削り。ナデ。坏部内・外面。胴部外面赤彩。	長石 に灰・褐色 土	P62 10% 床面
		B (7.7)				
4	高坏 土師器	A 18.3	胴部欠損。坏部外周下縁に横を持つ。口縁部は若干外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へナゲ削り。坏部内面ナデ。	緑石・スコリア 明赤褐色 普通 外面黒塗有	P53 50% P L50 遺土下層
		B (6.7)				
5	埴 土師器	A 8.6	笠形。丸底。体部は扁平な球形で、中位に最大径を持つ。胴部はくの字状に屈曲する。口縁部は外縁して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へナゲ削り。体部内面上半部削直。体部内面下平ナデ。	石灰・炭石・長石 に灰・褐色 土	P56 100% P L41 床面
		B 8.2				
6	埴 土師器	A 8.8	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球形で、中位に最大径を持つ。胴部はくの字状に屈曲する。口縁部は外縁して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へナゲ削り。胴部内面下位に黒塗有。体部内面下平ナデ。底部内面へナゲ削り。	赤彩・スコリア長石 明赤褐色 普通 外底黒塗有	P57 95% P L41 床面
		B 10.2				
		C 2.5				
7	埴 土師器	A 9.4	体部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し、中位に最大径を持つ。胴部はくの字状に屈曲する。口縁部は外縁し、胴部直径ではほぼ垂直とする。	口縁部一部ナデ。口縁部一部外面上下ハケ目調整後、ナデ。体部外周下平ナデ。口縁部内面ナデ。胴部内面下位に黒塗有。体部内面削直のため調整不明。口縁部・体部外面赤彩。	長石 に灰・褐色 土	P58 80% P L41 床面・覆土下層
		B 14.7				
		C 5.0				
8	埴 土師器	B (12.3)	口縁部一部欠損。平底。体部は破片の状態で、中位に最大径を持つ。胴部はくの字状に屈曲し、内面に横を持つ。口縁部は外縁して立ち上がる。	口縁部・体部外面ナデ。体部外面下平へナゲ削り。口縁部内面ナデ。体部内面黒塗が著しく、調整不明。口縁部内・外面。体部外面赤彩。	赤彩・炭石 明赤褐色 普通	P59 80% 床面・覆土下層
		C 3.8				
9	広口壺 土師器	A (6.6)	口縁部から体部上半部の破片。胴部は薄くかみ加減する。口縁部は短く外反して立ち上がる。	口縁部。体部内・外面ナデ。	赤彩・スコリア・土 色長石 灰褐色 土	P61 35% 床面
		B (1.0)				

図録番号	類別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第18図内	刀状片	(1.1)	(1.1)	(0.2)	(6.5)	南側壁下層	M2 堀口金具?

## 第8号住居跡 (第19図)

位置 調査区域の北部、C4b区。

規模と平面形 北東コーナー及び東壁の一部が混乱によって破壊されている。長軸5.41m、短軸5.08mの隅丸方形である。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は17~26cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁際を巡り、断面はU字形である。上幅12~24cm、下幅4~10cm、深さは4~8cmである。

床 ローム質で、平坦である。中央部は踏み固められている。

炉 北壁寄りに位置する。長径130cm、短径75cmの不整楕円形で、深さ10cmの地床炉である。炉の長軸は、住居跡の主軸と直交する。炉は床面を浅く掘り込んで構築され、炉床面は若干の起伏がある。炉床は火を受けて硬化している。

### 炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子微量

貯蔵穴 南壁際東寄りに位置する。長径50cm、短径39cmの楕円形で、深さは30cmである。

### 貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4は各コーナーに偏って位置するため、主柱穴と考えられる。長径23~36cm、短径19~25cmの楕円形で、深さは16~37cmである。P5は中央部南壁寄りに位置し、直径32cmの円形で、深さは18cmである。出入り口施設に伴うピットである。P6は、P3と西壁の中間に位置し、長径20cm、短径16cmの楕円形で、深さは7cmである。補助的な柱穴と思われる。

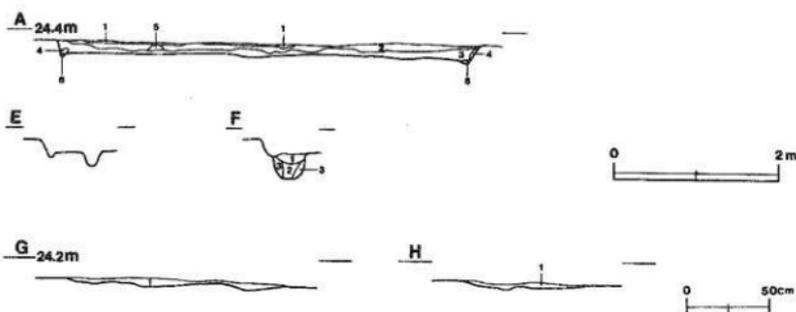
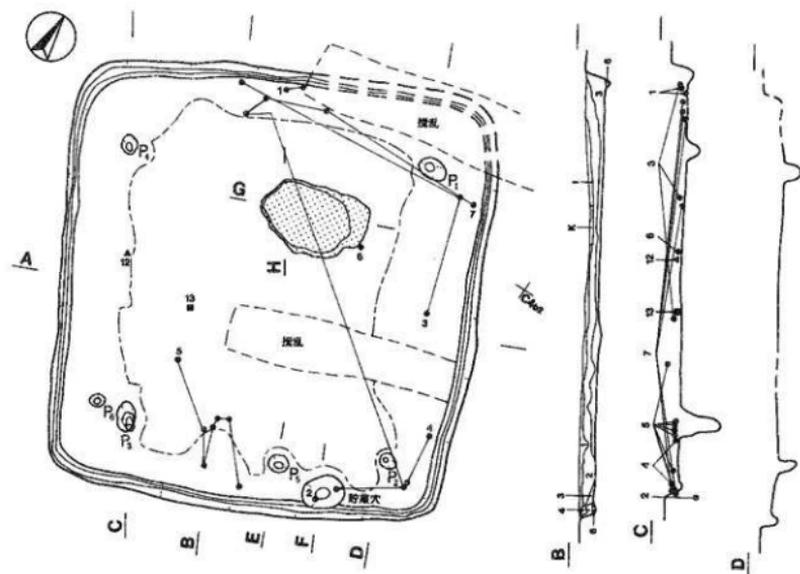
覆土 6層からなる。ロームブロックを含む層が多岐みられ、人為堆積と考えられる。

### 土層解説

- |       |                           |       |                                 |
|-------|---------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量     | 4 明褐色 | ローム粒子多量                         |
| 2 褐色  | ローム小ブロック中粒、ローム大ブロック・炭化物少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物少量   | 6 褐色  | ローム小ブロック多量                      |

遺物 土師器片440点、弥生土器片9点、土製品1点(土錘)、剥片2点が出土している。第20図1は碗の口縁部で、北西壁際の床面上から出土している。2の蓋は、貯蔵穴中から破片の状態で出土している。縁やかに外反する単口縁と、平底の底部を有する。精選された胎土が使われ、外面には精緻な調整が施される。3・4・5も壺である。4は、南東コーナー付近の床面上5cmの位置から、正位の状態で出土している。6は小型の甕である。4の上面より出土している。外面には火を受けた痕跡が認められる。7は、上玉台式土器の甕である。覆土下層から床面上にかけて出土し、第9号住居跡の炉2から出土した破片と接合する。出土した上玉台式土器は、第9号住居跡も含め竈の上半部の破片が多い。これらは、土師器とほぼ同じ土層から出土していることから、供伴していると考えられる。

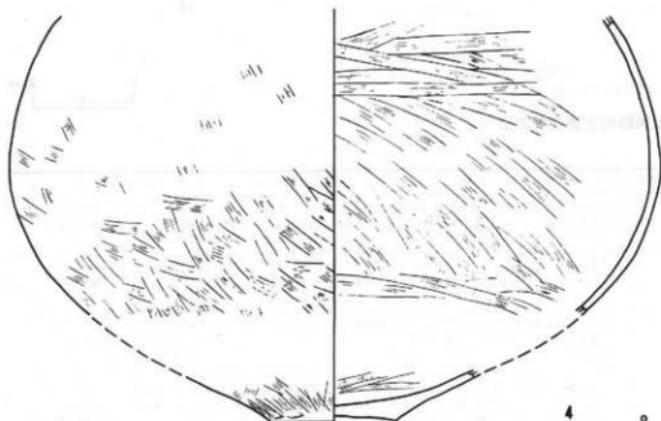
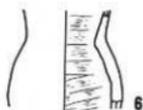
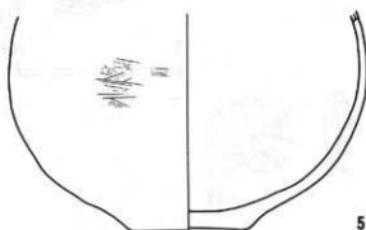
所見 本跡の時期は、出土した土器から3世紀末から4世紀初めと考えられる。



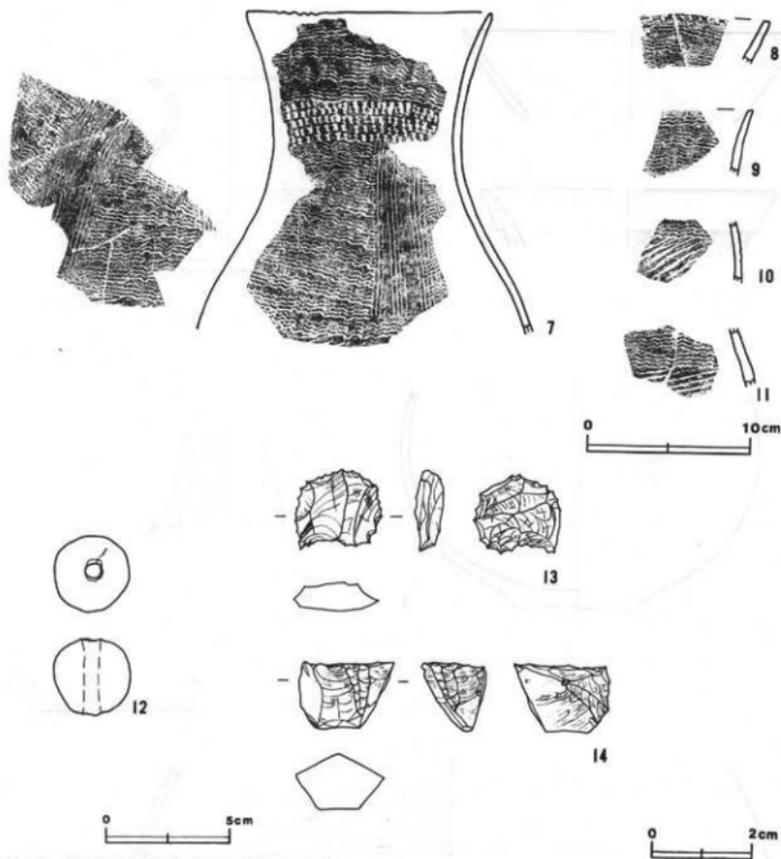
第19図 第8号住居跡実測図

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	品類	計測値(cm)	形状の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第20回 1	輪 土師器	A (30.2) R (4.5)	口縁部の破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外両丁寧なナデ。	砂粘・スコリア にふい煙色 黄褐色	P65 25% 灰面
2	竈 土師器	A 9.1 B 11.8 C 5.3	体部一部欠損。平底。体部は積長の矩形で、中位に最大径を持つ。胎部は緩やかに起曲する。口縁部は外傾して立ち上がり、胎部付近で若干外反する。	口縁部内・外面無ナデ。胎部～体部外面上下ハケ目調整後、丁寧なナデ。体部外面トナヘリ削り後、丁寧なナデ。その後一部磨き。胎部内用ナデ。体部内面調整のため調整不明。	長石 にふい煙色 黄	P63 70% P.L41 貯蔵穴埋土中
3	壺 土師器	A (17.4) B (3.7)	口縁部の破片。口縁部は張り強して、外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面無ナデ。折り返し口縁の下位はハケ目調整。	砂粘・スコリア にふい煙色 黄褐色	P64 15% 埋土中層



第20图 第8号住居跡出土遺物実測図(1)



第21図 第8号住居跡出土遺物実測図(2)

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 4	壺 土師器	B [33.5] C 9.8	体部から底部の破片。平底。体部は扁平な球形で、中位に最大径を持つ。	体部外面上半ナデ。体部外面下半ハケ目後。ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・白色粒子 藍色 良	P68 40% 覆土下層
5	壺 土師器	B (13.2) C 7.0	体部から底部の破片。平底。体部は球形と思われ、中位に最大径を持つ。	体部外面ハケ目調整後。ナデ。体部内面刺刺が激しく調整不明。	砂粒・白色粒子 にふい黄褐色 良	P69 40% 覆土中層
6	小形壺 土師器	B (5.9)	口縁部・底部欠損。体部は球形を呈す。頸部は緩やかに歪曲し、内面に線を 持つ。	体部外面ナデ。体部内面ナデ。	砂粒 にふい黄褐色 普通	P67 40% 炉上面
第21図 7	壺 特殊土師	A [14.7] B (19.5)	口縁部から頸部の破片。頸部は緩やかに歪曲する。口縁部は緩やかに外反して立ち上がり、肩部にヘラ状工具によるキザミ目を施す。	口縁部4本一単位の縞縞波状文。口縁部と頸部の境界に刺突文。頸部は4本一単位の平行波状文で区画し、更に4本一単位の縞縞波状文を完成する。内面ナデ。	砂粒・雲母 にふい黄褐色 良	P71 15% P.L41 床面～覆土下層 第9号住居跡炉 覆土中

図版番号	種別	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・胎色・焼成	備考
第21回 8	壺 赤土上器	B (3.1)	口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、肩部にへら状工具によるキズ2目を施す。	口縁部外面に4本 単位の縄縞状文・内面ナデ。	赤粘・白色粒子に多い黄褐色頁	T P 3 覆土中
9	壺 赤土上器	B (3.6)	口縁部の破片。口縁部は若干外反して立ち上がり、肩部にへら状工具によるキズ1目を施す。	口縁部外面に4本 単位の縄縞状文・内面ナデ。	赤粘・白色粒子に多い黄褐色頁	T P 4 覆土7層
10	壺 赤土上器	B (3.6)	体部の破片。内壁して立ち上がる。	上位に縄縞状文、下位に附加糸一縷(附加1本)の縄文を施す。	赤粘 黄褐色 青黒	T P 5 覆土7層
11	壺 赤土上器	B (3.7)	体部の破片。若干内傾して立ち上がる。	上位に3本～単位の縄縞状文、下位に附加糸一縷(附加1本)の縄文を施す。	赤粘・白色粒子に多い黄褐色普通	T P 6 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第21回12	球状土師	3.1	3.1	0.7	25.4	西内壙寄り覆土下層	D P 8

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第21回13	両片	1.6	1.7	0.5	1.74	覆土中	Q 2 厚燧石
14	両片	1.4	1.9	1.3	2.86	覆土中	Q 3 燧石

### 第9号住居跡(第22・23回)

位置 調査区域の北部、C 3 d7区。

重複関係 第19号溝が本跡の覆土を掘り込んでいることから、本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸6.60m、短軸5.69mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-39°-W

壁 壁高は17~45cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁際を走り、断面はU字形である。上幅14~37cm、下幅5~13cm、深さは9~14cmである。

床 ローム質で、平坦である。中央部は踏み固められている。

炉 重複して2基確認されている。北西壙寄り、P 1とP 4の中間に位置する。新旧関係は、炉2が炉1の壁を壊して構築されていることから、炉1→炉2の順である。

炉1は、直径38cmの円形と推定され、深さ9cmの地床炉である。炉床は火を受けた跡がある。炉2は、長径57cm、短径38cmの楕円形で、深さ9cmの地床炉である。炉の長軸は、住居跡の主軸とほぼ平行している。

炉2から、2点の土台式土器片が長軸方向に約25cmの間隔をおき、向かい合わせに立てられた状態で見上している。焼土は、この土器の周りに多く堆積している。炉床面は、火を受けて硬化している。層位は第1層が炉1、第2~4層が炉2の覆土である。

#### 炉土層観察

- |       |        |       |           |
|-------|--------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | 焼土中フロック少量 |
| 2 明褐色 | 焼土粒子少量 | 4 褐色  | 焼土粒子少量    |

貯蔵穴 南東隅中央やや東側に位置し、壁面に接して構築されている。長軸80cm、短軸70cmの隅丸長方形で、深さは25cmである。

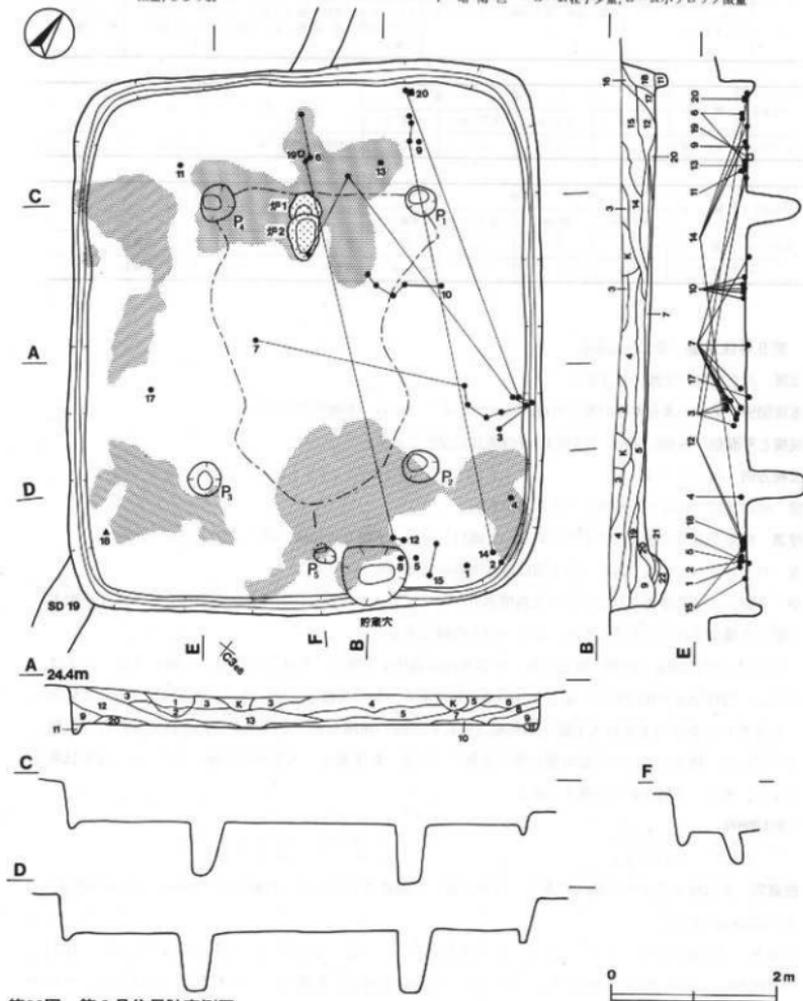
ピット 5か所(P 1~P 5)。P 1~P 4は各コーナーに寄って位置し、主柱穴と考えられる。径34~48cmの円形で、深さは62~73cmである。P 5は、貯蔵穴西側の南東壙寄りに位置する。長径26cm、短径18cm

の隅丸長方形で、深さは39cmである。壁側に外傾して掘り込まれているので、出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 22層からなる。第1～2層は第19号溝跡の覆土、第21～22層は貯蔵穴の覆土である。床面直上に焼土が堆積している。ロームブロックを含む層が多いことから、人為堆積と考えられる。

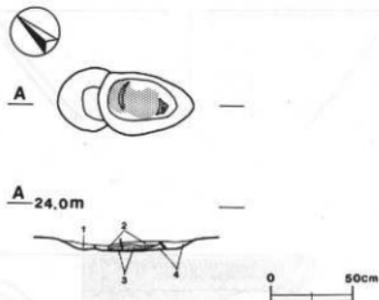
**土層解説**

- |       |                                |       |                        |
|-------|--------------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、しまり弱        | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・同粒子中量         |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、しまり弱                   | 5 褐色  | ローム中ブロック・同粒子中量、焼土粒子微量  |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック・同中ブロック微量、しまり弱 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、赤色粒子微量、粘性・しまり弱 |
|       |                                | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量     |



第22図 第9号住居跡実測図

8	褐色	ローム粒子中量,ローム中ブロック微量
9	暗褐色	ローム粒子中量,ローム小ブロック少量,粘性・しまり強
10	褐色	ローム粒子多量,粘性・しまり強
11	暗褐色	ローム粒子少量
12	暗褐色	砂粒少量,ローム粒子微量,しまり弱
13	褐色	ローム中ブロック・同粒子中量,ローム小ブロック微量
14	にぶい褐色	ローム粒子中量,ローム小ブロック・砂粒少量
15	褐色	ローム小ブロック・同粒子中量
16	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
17	暗褐色	ローム粒子・河中小ブロック少量
18	暗褐色	ローム粒子中量,焼土中ブロック・炭化粒子微量
19	にぶい褐色	ローム粒子中量
20	褐色	焼土小ブロック・同粒子多量
21	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
22	褐色	ローム粒子少量



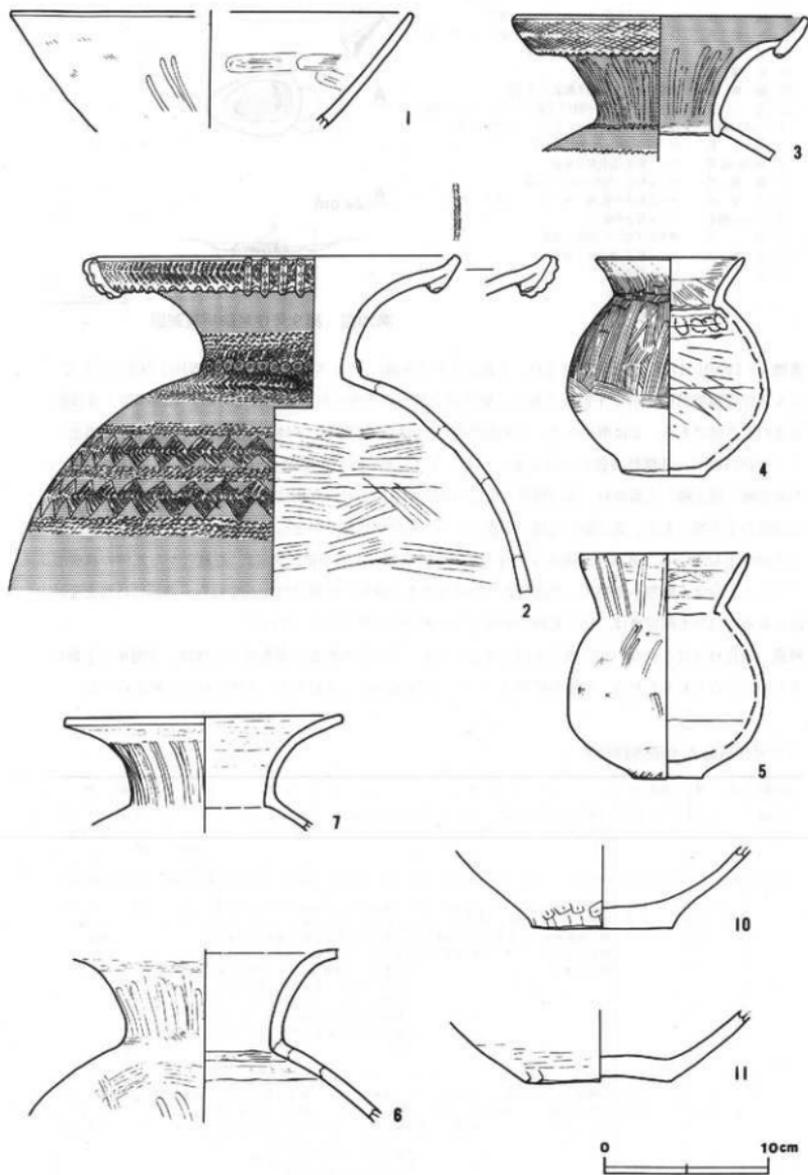
第23図 第9号住居跡炉実測図

遺物 土師器片517点, 弥生土器片4点, 土製品1点(土鍾), ガラス小玉1点, 須恵器片1点が出土している。第8号住居跡第21図7の十王台式土器は, 破片の一部が炉2内からも出土している。第24図2・3は弥生土器壺の上半部である。2は南コーナーの床面直上から正位の状態, 3は北東壁寄りの覆土中から出土している。複合口縁で, 装飾性の強い土器である。4・5は, 単口縁の土師器小形壺である。4は東コーナー付近の第20層(焼土層)上面から, 5は貯蔵穴付近の床面から, それぞれ横位の状態で出土している。6・7は土師器壺の上半部である。共に炉の北側の床面上から, 正位の状態で出土している。6内の底面からは, ガラス小玉が出土している。第24・25図8~10は土師器壺の底部である。第25図8は, 貯蔵穴から正位の状態で出土している。13は土師器小型甕で, 北西壁寄りの床面上から横位の状態で出土している。外面には熱を受けた痕跡がある。14の土師器壺は, 13の北側の床面上から逆位の状態で出土している。

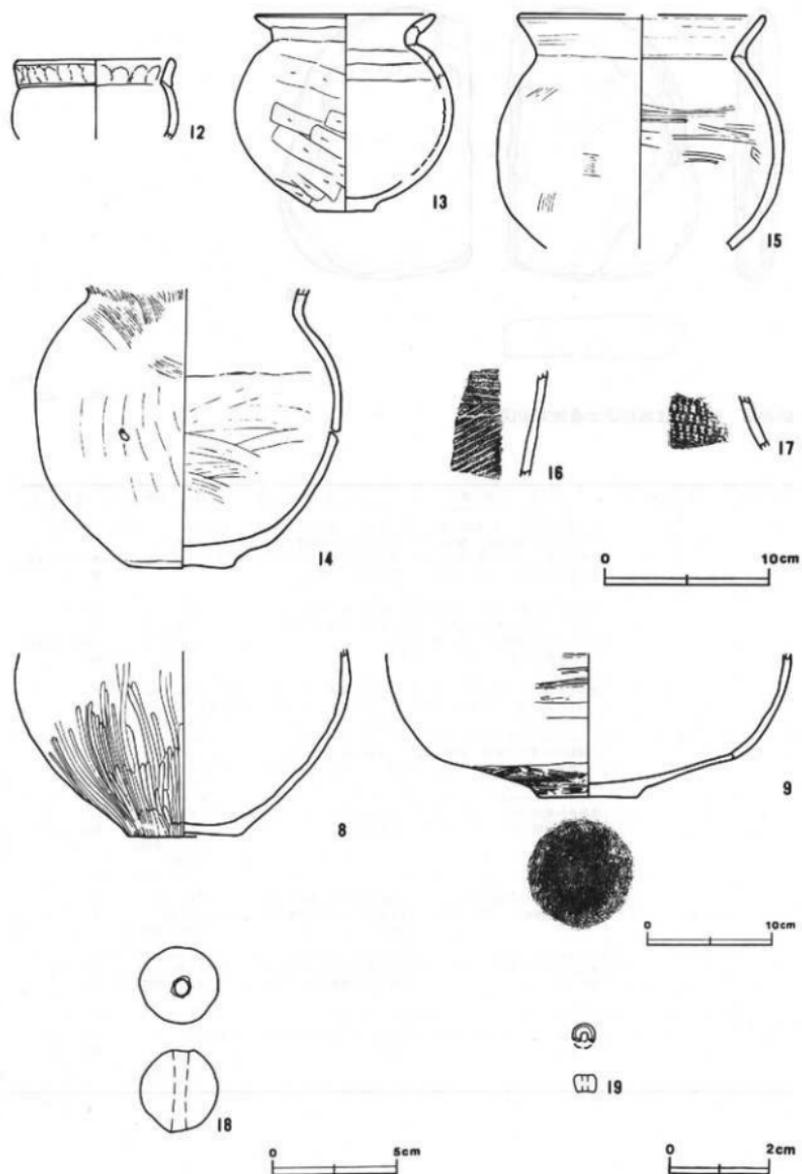
所見 炭化材は見られないが, 焼失住居と考えられる。2・3の外面の調整及び文様は, 南関東の土器の影響を受けているとおもわれる。本跡の時期は, 出土した土器から3世紀末から4世紀初めと考えられる。

#### 第9号住居跡出土遺物観察表

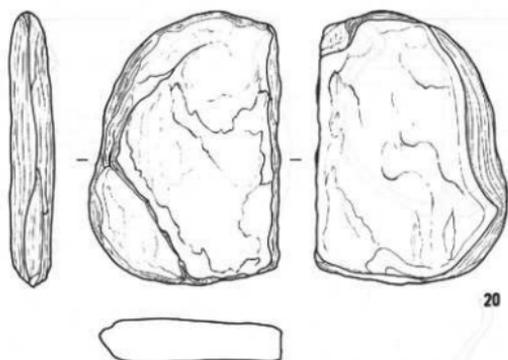
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第24図 1	土師器	A [24.1] B (7.0)	口縁部から底部の破片。底部から口縁部にかけて, 若干内彎して立ち上がる。	口縁部縦チナテ。底部内側丁字チナテ。一部巻き。内面チナテ。	砂粒・重石・白色粒 面に褐色・外面赤褐色 赤色 負	P72 25% 覆土下層
2	壺 弥生土器	A 21.5 B (19.6)	底部下半以下欠損。底部は球形で, 中位に最大径を持つ。腹部はくの字状に屈曲する。口縁部は複合口縁で, 外反して立ち上がる。口縁部に所取りを施す。	口縁部裏返しに単筋斜縄文。口縁部外面に羽状縄文を施し, 4本一単位の棒状浮文を4か所に翻付。口縁下部に棒状工具による圧痕。腹部は羽状縄文を2段施し, 上下をS字状結節文で区画した後, 円形浮文を貼付。底部外面上半に羽状縄文を完結した連続山形文を2段施し, 上下及び中間をS字状結節文で区画する。外面赤彩。	スコリア・長石 にぶい褐色 負	P73 60% P.L.42 床面
3	壺 弥生土器	A 17.4 B (8.2)	口縁部から底部の破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は複合口縁で, 外反して立ち上がる。口縁部に所取りを施す。	口縁部チナテ。口縁部外面に縦目状熱赤文を施す。口縁部下部に布を使用したキズ目状圧痕。口縁部内・外面巻き。底部内・外面チナテ。腹部・肩部にS字状結節文を施す。口縁部内面・外部外面赤彩。	スコリア・長石 にぶい褐色 負	P74 30% P.L.42 床面・覆土中層



第24图 第9号住居跡出土遺物実測図(1)



第25图 第9号住居跡出土遺物実測図(2)



20



第26図 第9号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第24図 4	壺 土師器	A 8.9 B 23.3 C 5.0	口縁部一部欠損。平底。体部は卵形で、若干下位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し、内面に稜を持つ。口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。頸部～体部外面上半ハケ目調整。体部下半ナデ。頸部内面ナデ。頸部下位に指張圧痕。体部内面ヘラ削り。	スコリア・長石 褐色 良	P75 95% P L42 外面炭化物付着 覆土下層
5	壺 土師器	A 10.1 B 13.5 C 4.1	口縁部一部欠損。平底。体部は縦長の球形で、中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し、内面に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部～体部外面丁寧なナデ後、一部磨き。口縁部内面横ナデ。体部内面ナデ。	砂粒 内面に赤褐色 外明赤褐色 普通	P76 95% P L42 内面炭化物付着 床面
6	壺 土師器	B (10.5)	頸部から体部上半部の破片。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口縁部上端横ナデ。口縁部～体部内面ナデの後、一部に磨き。内面割離が激しく、調整不明。	砂粒・雲母 に赤い赤褐色 良	P77 35% P L41 床面
7	壺 土師器	A 16.7 B (6.7)	口縁部から頸部の破片。頸部は緩やかに屈曲し、内面に稜を持つ。口縁部は強く外反して立ち上がる。	口縁部上部横ナデ。口縁部外面ナデ後、磨き。口縁部内面割離が激しく調整不明。	砂粒 に赤い褐色 普通	P78 25% 床面
第25図 8	壺 土師器	B (14.9) C 8.9	体部から底部の破片。体部は球形で、中位に最大径を持つと考えられる。	体部外面磨き。体部内面割離が激しく調整不明。	砂粒・スコリア・ 長石 に赤い赤褐色 普通	P79 45% 貯蔵穴土中
9	壺 土師器	B (11.5) C 8.0	口縁部～体部上半欠損。体部は卵形で、下位に最大径を持つと考えられる。	体部外面ハケ目調整。底部にもハケ目を施す。体部内面割離が激しく調整不明。	砂粒・石英・スコリア・ 長石 に赤い褐色 良	P80 35% 床面
第24図 10	壺 土師器	B (5.0) C 8.6	体部から底部の破片。平底。体部は球形と考えられる。	体部外面ナデ。体部下端へラ削り。体部内面割離が激しく調整不明。	砂粒・スコリア に赤い褐色 良	P81 20% 床面
11	壺 土師器	B (4.1) C 9.1	底部の破片。平底。体部は球形と考えられる。	外面ナデ。内面割離が激しく調整不明。	砂粒・石英・スコリア に赤い褐色 良	P82 25% 覆土下層

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第25図	出口窓土師器	A [ 9.3] B [ 4.7]	口縁部から底部1/3部の破片。底部は楕円の球形と考えられる。頸部に輪襷み痕を残し、頸部内面に襷を持つ。口縁部は折り返し口縁状に作り、尻く外側に立ち上がる。	口縁部外面に滑部所面付。ナデ。外部内面ナデ。口縁部内面ナデ。内部内面ナデ。	砂粒・スコリア・長石 褐色 良	P83 35% 床面
13	土師器	A 10.7 B 11.8 C 3.3	口縁部一部欠損。底部は球形で、中に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は、輪襷み痕を残し、外反しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。外部内面ナデ。内部内面ナデ。	砂粒 にぶい褐色 良	P84 95% P L41 灰化物付着 床面
14	土師器	B [16.8] C 6.5	口縁部欠損。底部は楕円の球形で、中に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲する。	外部外面上平ヘラナデ。外部外面下平ヘラ削り。ナデ。内部内面ナデ。外部内面ヘラナデ後、一部ヘラ削り。	スコリア・長石 にぶい褐色 普通	P85 85% P L41 床面
15	土師器	A [14.8] B [14.2]	口縁部欠損。底部は球形で、中に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲し、内面に輪襷を持つ。口縁部は外側に立ち上がる。	口縁部～外部外部ナデ。口縁部内面ナデ。内部内面ナデ後、一部ヘラ削り。	砂粒・スコリア にぶい赤褐色 普通	P86 10% 床面
16	赤土上器	B [ 6.5]	底部の破片。著下外側に立ち上がる。	附加土一俵（附加土1俵）の陶文を明らかに施す。内面ナデ。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	T P 7 床面
17	赤土上器	B [ 3.5]	頸部の破片。内側に立ち上がる。	上反に棒状工具による刺突文。下に輪襷状文を施す。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	T P 8 床面

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第25図18	球状土師	3.1	3.3	0.6	27.4	南コーナ-付造集庫	D P 9
19	テラコッタ	0.45	0.35	0.15	0.06	床面	P L51

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第26図20	石 片	21.8	15.7	3.4	1880	北東塚前遺跡	Q 4 ホルンフェルス

### 第65号住居跡（第27図）

位置 調査区域の北西部，B 1h9区。

重複関係 第27号溝が本跡の西壁と覆土を掘り込んでいることから，本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸（3.42）m，短軸3.20mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-21°-W

壁 壁高は43～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

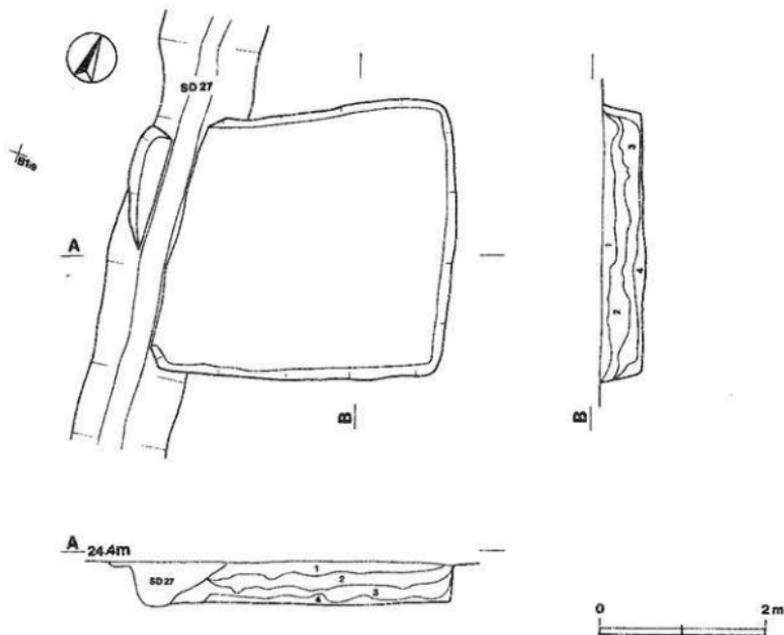
床 ローム質で，平坦である。踏み固められた痕跡はなく，軟弱である。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含み，均質な堆積状況を示していることから，人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- |       |                                   |       |                              |
|-------|-----------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量          | 3 褐色  | ローム大ブロック少量・ローム中ブロック・同小ブロック少量 |
| 2 灰褐色 | ローム小ブロック中量・ローム大ブロック・同中ブロック少量・しまり砂 | 4 黒褐色 | ローム大ブロック・同中ブロック少量            |

所見 炉，柱穴等を確認できず，床面も軟弱であることから，長期間は使用されなかったと思われる。本跡の時期を求めるのは困難だが，主軸方向が隣接する第67号住居跡と一致することから，これに近い時期であろう。



第27図 第65号住居跡実測図

#### 第67号住居跡 (第28・29区)

位置 調査区域の北西部、B1j0区。

重複関係 第27号溝と第28号溝が本跡の覆土を掘込んで構築されていることから、本跡が古い。

規模と平面形 北東及び南西コーナーを溝によって破壊されているが、長軸6.84m、短軸6.36mの隅丸方形である。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は38~43cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 根際を巡り、断面はU字形である。上幅14~32cm、下幅4~12cm、深さは8~12cmである。

床 ローム質で、ほぼ平坦である。中央部は踏み固められている。

炉 P1とP4の中間、P8の西側に位置する。長径71cm、短径51cmの楕円形で、深さ12cmの地床かである。

炉の長軸は、住居跡の主軸とほぼ並行している。炉の底部は、火を受けて硬化している。

#### 炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量
- 2 明褐色 焼土粒子・炭化粒子多量、粘性・しまり強

ピット 9か所 (P1~P9)。P1・P3・P4は各コーナーに寄って位置し、土柱穴と思われる。直径32~62cmの円形で、深さは40~64cmである。南東側の土柱穴は、第28号溝跡に破壊されたと思われる。P2・

P5・P7は長径34～40cm、短径24～30cmの楕円形で、深さは62～70cmである。規模は小さいが、掘り込みがしっかりしており、補助的な柱穴と考えられる。P8・P9は、それぞれ南北に対になる形で、壁寄りに位置する。長径38～43cm、短径30～35cmの楕円形で、深さは8～12cmである。掘り込みは浅いが、ほぼ支柱穴を結ぶ線上に位置するため、補助的な柱穴と推定される。P6は南壁際、住居跡の中心より西側に位置する。直径31cm、深さ30cmの円形のピットで、出入り口施設に伴うものである。

覆土 17層からなる。レンズ状に堆積するため、自然堆積と思われる。

#### 土層解説

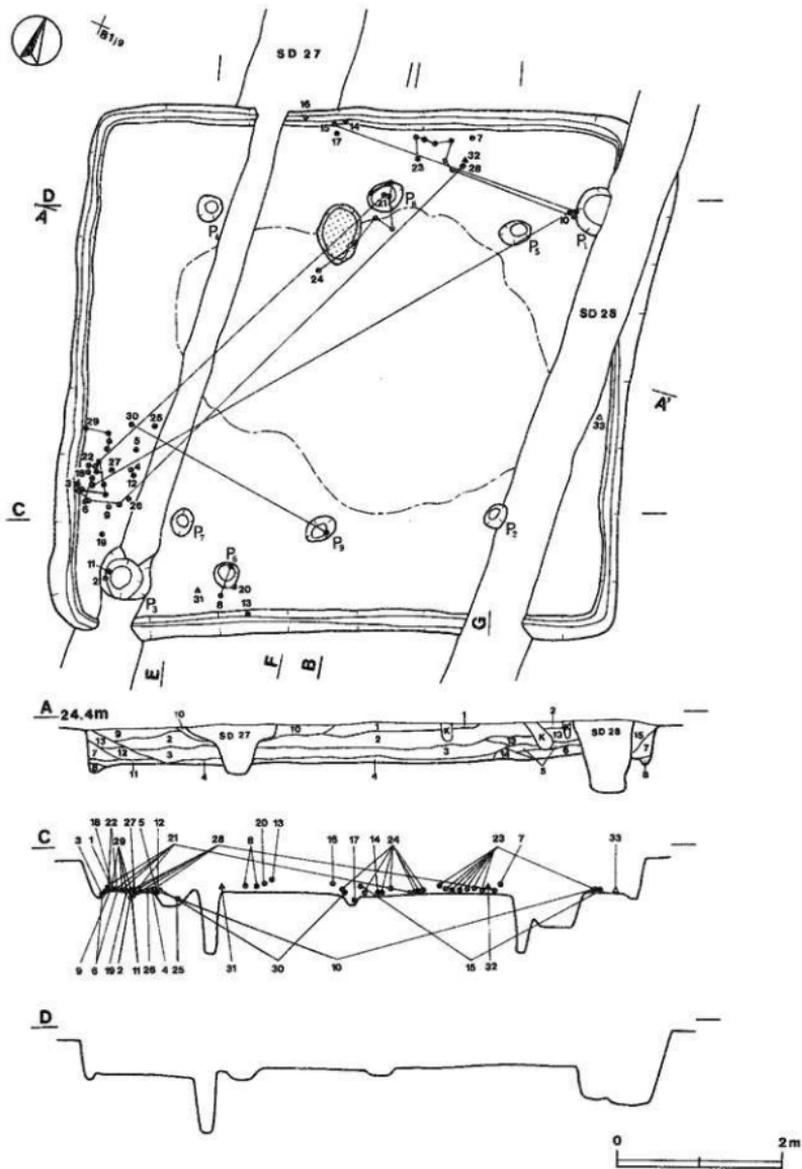
1 黒褐色	ローム粒子・赤色粒子少量	10 鮮褐色	ローム粒子中量、しまり腐
2 暗褐色	ローム粒子少量、白色粒子微量	11 褐色	ローム粒子・塊土小ブロック・塊土粒少量、炭粒強
3 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック散在	12 黒褐色	塊土粒少量
4 暗褐色	ローム粒子・塊土粒少量、炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子中量
5 黒褐色	ローム粒子・白色粒子少量	14 黒色	ローム大ブロック多量、炭化粒子少量、炭粒強
6 暗褐色	ローム粒子中量、赤色粒子微量、粘性・しまり強	15 褐色	赤色粒少量
7 褐色	ローム粒子多量、赤色粒子微量	16 暗褐色	ローム粒子中量
8 褐色	ローム粒子多量	17 褐色	赤色粒微量
9 暗褐色	ローム粒子・炭化物少量、しまり腐		

遺物 土師器片965点、土製品2点（土鎮）、鉄片1点、須恵器片12点、陶器片1点が出土している。第30～33回1・3～6・9・10・12・18・19・21・22・25～30は、南コーナー付近の床面上から覆土下層にかけて集中して出土している。1～4は、土師器碗である。1・3・4は、床面上から正位の状態でも出土している。2は、P3の覆土中から横位の状態でも出土している。14～16は、土師器器台である。北西壁際の床面上2～12cmの位置から、14・15は横位の状態でも、17は正位の状態でも出土している。脚部の特徴から、同じ器形と考えられる。17～22は、土師器増である。17は、14の南側、同じ層位から横位の状態でも出土している。口縁部は、折返し口縁を模した作りとなっている。20は、P6付近から横位の状態でも出土している。底部に「×」の線刻が焼成前に施されている。23～25は、土師器の壺である。23・24は、破片の状態でも、南と北西壁の間の床面上から出土している。3個体とも折返し口縁である。

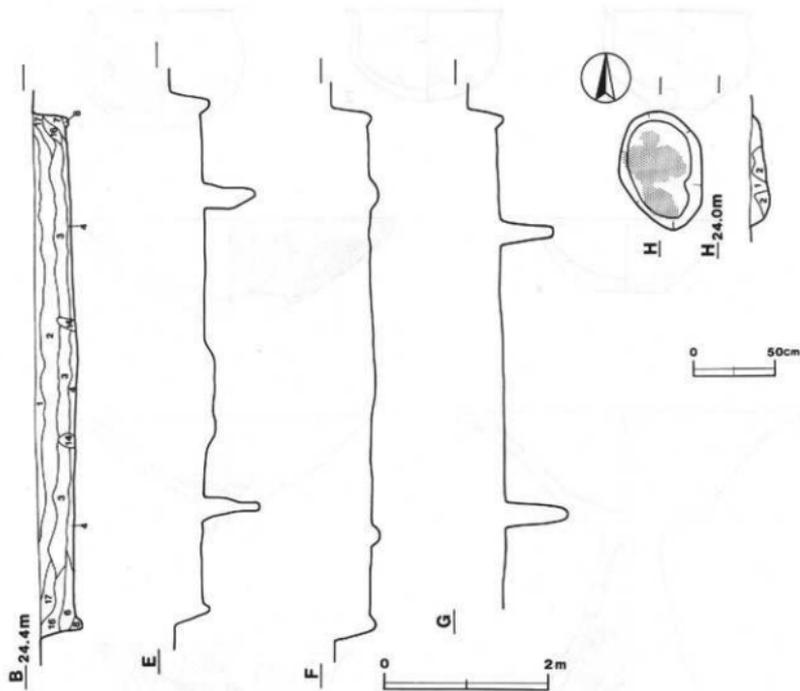
所見 遺物は2か所に集中的にみられ、特に南コーナー付近では壺、高坏、増などを一括して投棄したような出土状況である。時期は、出土した土器から5世紀前半と考えられる。

第67号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第30回 1	土師器 碗	A 9.0	口縁部一部欠損。平底。体部は楕円の球形で、中位に最大径を持つ。口縁部は外反して斜に立ち上がる。	口縁部内・外面無ナゲ。体部外面上下ナゲ。体部外面下半へナゲ張り。体部内面へナゲ張り。	砂粒・白色粒子 に多い黄褐色	P87 95% 床面
		B 6.0				
		C 3.0				
2	土師器 碗	A 9.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は楕円の球形である。口縁部は外反して斜に立ち上がる。口縁部は最大径を持つ。	口縁部内・外面ナゲ。体部外面上半ナゲ。体部外面下半へナゲ張り。体部内面へナゲ張り後、ナゲ。	砂粒 褐色	P88 95% P.L42
		B 5.6			普通 外側無張り	
3	土師器 碗	A (8.7)	口縁部一部欠損。丸底。体部は内凹して立ち上がり、中位に最大径を持つ。口縁部は斜に立ち直する。	口縁部内・外面無ナゲ。体部外面へナゲ張り。体部内面へナゲ張り後、中位内面付近ナゲ。	砂粒・白色粒子 に多い黄褐色	P89 80% P.L42 床面
		B 7.2				
4	土師器 碗	A 11.1	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部へ緩やかに内凹して立ち上がる。	口縁部無ナゲ。体部外面へナゲ張り後、口縁部内面へナゲ張り後、ナゲ。	砂粒・黒・赤・灰 に多い黄褐色	P90 80% P.L42 床面
		B 6.3				
		C 4.0				
5	高坏 土師器	A 20.8	坏部一部欠損。口縁部は外反して立ち上がり、遠部付近で緩やかに外反する。脚部はハの字状に外反して広がる。	口縁部内面無ナゲ。坏部外面へナゲ張り後、脚部。脚部外側へナゲ張り。脚部遠部無ナゲ。坏部内面は否問が判別不能。脚部内面口縁部無張り後、ハの字状に広がる。	砂粒・スゴリア・石 灰・赤 に多い黄褐色	P91 75% P.L42 床面
		B 15.8				
		D 11.5				

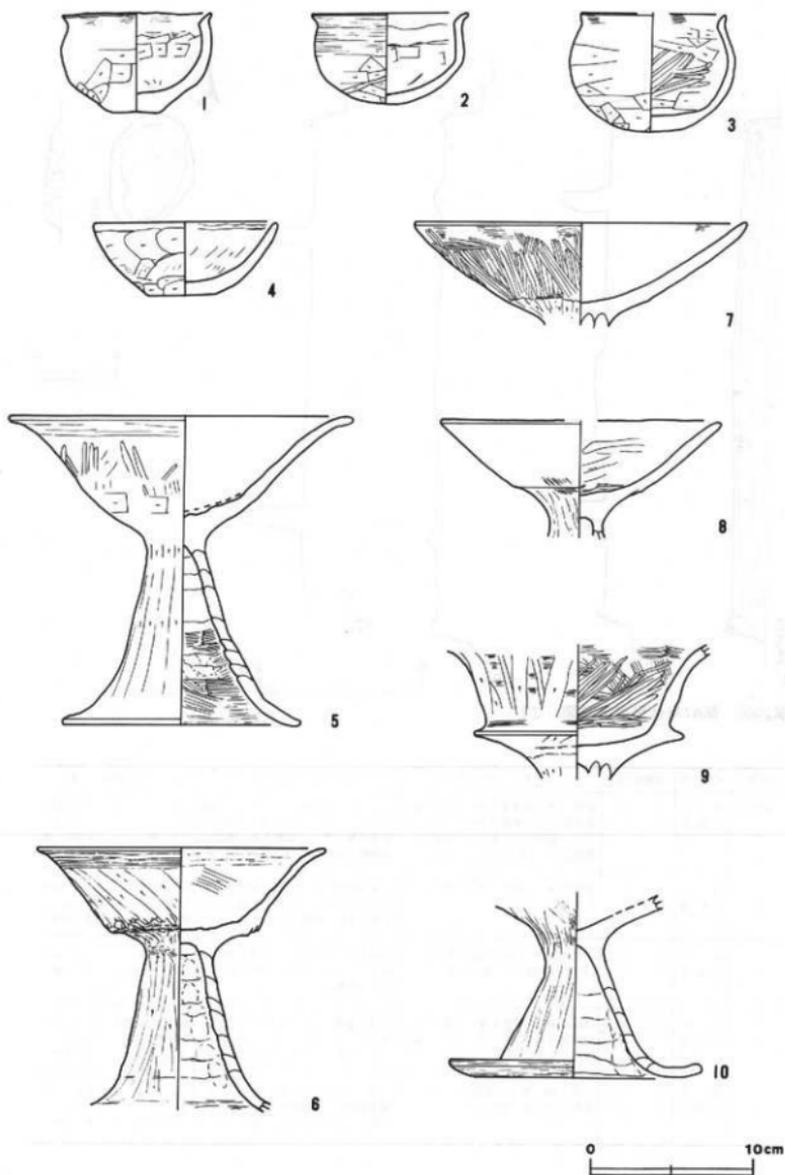


第28图 第67号住居跡実測图(1)

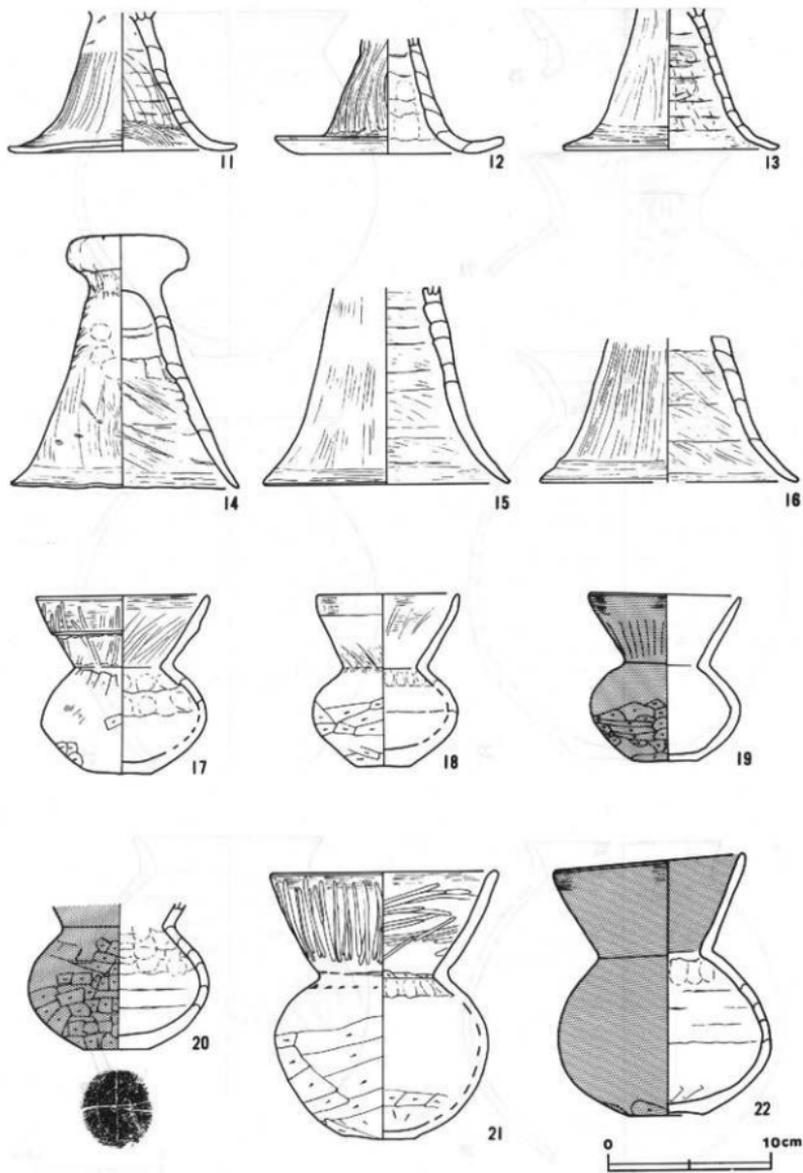


第29図 第67号住居跡実測図(2)

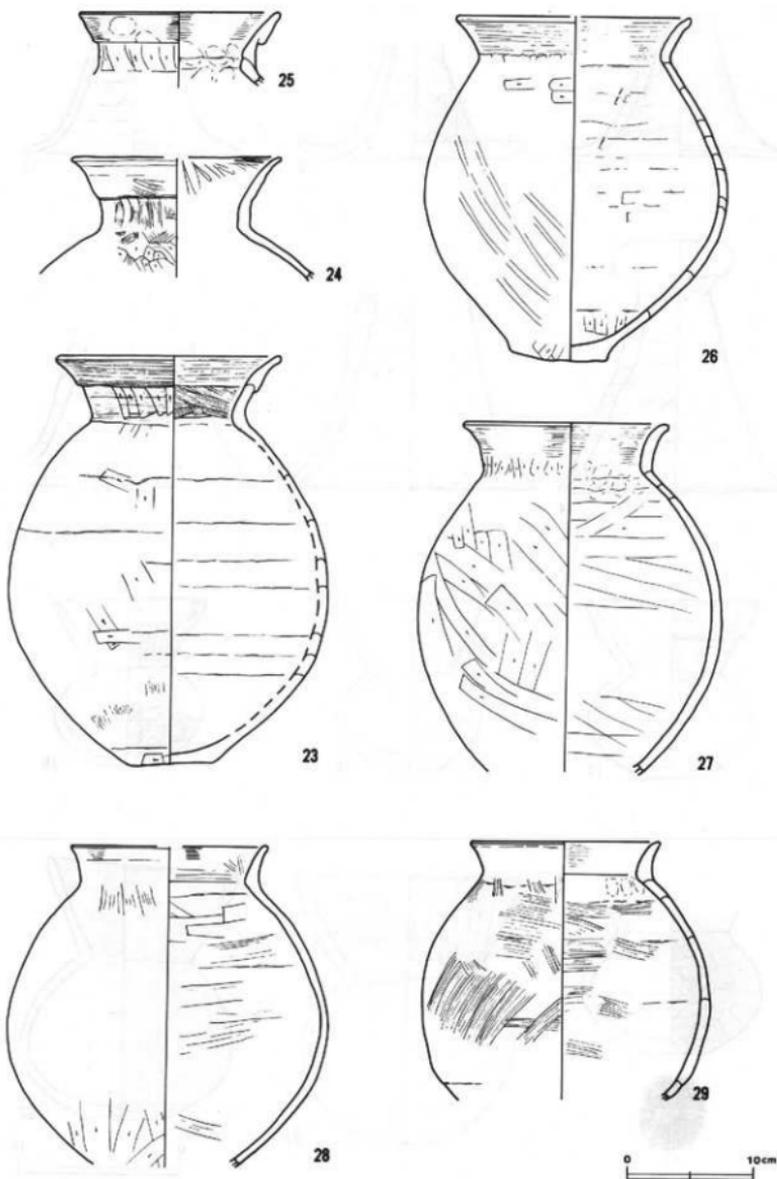
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第30図 6	高土師器 坏	A 17.5	坏部一部・脚端部欠損。坏部下端に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がり、肩部付近で緩やかに外反する。脚部はハの字状に外反して広がる。	口縁部内・外面横ナデ。坏部・脚部外面ヘラナデ。坏部内面ヘラ削り。底面削磨が最も調整不明。脚部内面輪縁み痕を残し、指痕任意。	砂粒・スコリア・赤褐色 にぶい褐色	P92 62% P.L42 床面上へ覆土下層
		B (16.0)				
7	高土師器 坏	A 20.2	脚部欠損。口縁部は若干内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。坏部外面磨き。脚部との接合部ヘラ削り。坏部内面は器面が荒れ、調整不明。	砂粒・スコリア・白色粒子 褐色 良	P83 50% P.L43 覆土中層
		B (6.2)				
8	高土師器 坏	A [17.1]	坏部の破片。坏部下端に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。坏部外面ヘラ削り後、ナデ。脚部との接合部ナデ。坏部内面磨き。	砂粒・長石にぶい黄褐色 普通	P84 40% 覆土中層
		B (7.1)				
9	高土師器 坏	B (8.2)	坏部の破片。坏部下端に突帯を持つ。口縁部は外傾して立ち上がり、端部付近で外反して広がる。	坏部外面横ナデ後、縦位のヘラ削り。脚部との接合部ヘラ削り。坏部内面ハゲ目調整後、磨き。底部内面ナデ。	砂粒・白色粒子 明赤褐色 良	P95 45% P.L43 覆土下層
		D [15.5]				
10	高土師器 坏	B (11.1) D [15.5]	坏部欠損。脚部は直線的に広がり、肩部付近で強く外反する。	坏部底面磨き。脚部外面ヘラナデ。脚部横ナデ。脚部内面に輪縁み痕を残し、指痕任意後、一經ヘラ削り。	砂粒・スコリア・赤褐色 にぶい褐色 良	P96 55% P.L43 覆土下層



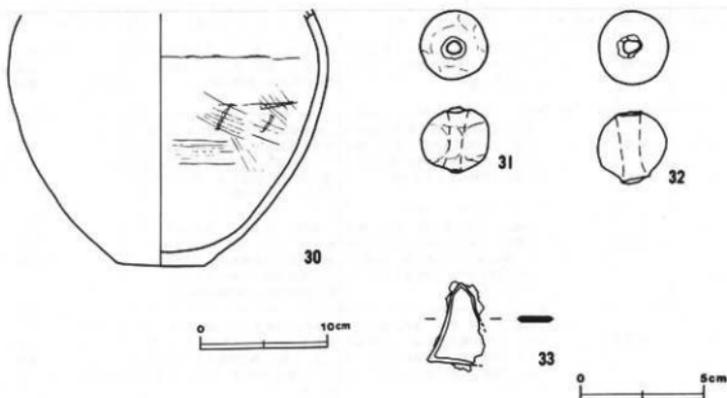
第30图 第67号住居跡出土遺物実測図(1)



第31图 第67号住居跡出土遺物実測図(2)



第32图 第67号住居跡出土遺物実測図(3)



第33図 第67号住居跡出土遺物実測図(4)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 11	高 土師器	B (8.5) D 13.9	坏部欠損。脚部はハの字状に外反しながら広がる。	脚部内・外面ヘラナデ。脚端部横ナデ。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P97 50% 覆土中層
12	高 土師器	B (7.1) D 13.9	坏部欠損。脚部は直線的に広がり、脚端部付近で強く外反する。	脚部外面ヘラナデ。脚端部横ナデ。脚部内面輪縁み痕を残し、指痕圧痕。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい褐色 良	P98 45% 床面
13	高 土師器	B (8.6) D 12.8	坏部欠損。脚部はハの字状に外反して広がる。	脚部外面ヘラナデ。脚端部横ナデ。脚部内面指痕圧痕。	砂粒・スコリア 褐色 良	P99 40% P L43 覆土中層
14	器 土師器	A 7.4 B 15.6 D 13.8	定形。受部は開口せず、上面が平坦な単状を呈す。脚部はハの字状に若干外反しながら広がる。	受部は指痕圧痕及びヘラナデ。脚部との境合部指痕圧痕。脚部内・外面ヘラナデ。脚端部横ナデ。	砂粒・石英・雲母・ 白色粒子 にぶい褐色 良	P100 100% P L43 覆土下層
15	器 土師器	B (12.0) D 14.3	脚部の破片。脚部はハの字状に若干外反して広がる。	脚外面ヘラナデ。脚端部横ナデ。脚内面ヘラナデ。	砂粒・スコリア にぶい褐色 良	P101 45% 覆土下層
16	器 土師器	B (8.8) D [15.4]	脚部の破片。脚部はハの字状に若干外反しながら広がる。	脚外面ヘラナデ。脚端部横ナデ。脚内面ヘラナデ。	砂粒・スコリア にぶい褐色 良	P102 40% 覆土中層
17	埴 土師器	A 10.5 B 10.8 C 3.7	定形。平底。体部は算盤玉状で、中央に最大径を持つ。頸部はくの字状に強く屈曲する。口縁部は折り返し口縁で、外短して立ち上がる。	口縁部部面横ナデ。口縁部外面ナデ後、磨き。体部外面ヘラナデ後、ナデ。口縁部内面磨き。体部内面上半指痕圧痕。体部内面下半ヘラナデ後、ナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 良	P103 100% P L43 覆土下層
18	埴 土師器	A 8.5 B 10.4 C 3.3	定形。平底。体部は楕長の球形で、中央に最大径を持つ。頸部はくの字状に強く屈曲し、内面に稜を持つ。口縁部は外短し、端部付近で若干内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面。体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラナデ。頸部内面下位に指痕圧痕。体部内面ヘラナデ後、ナデ。	砂粒・スコリア・白 色粒子 褐色 良	P104 100% P L43 覆土下層
19	埴 土師器	A 9.3 B 10.9 C 4.0	口縁部一部欠損。平底。体部は楕長の球形で、中央に最大径を持つ。頸部はくの字状に強く屈曲し、内面に稜を持つ。口縁部は外短して立ち上がる。	口縁部内・外面。体部外面上半・体部内面ナデ。体部外面下半ヘラナデ。外面赤彩。	砂粒・石英・長石 赤褐色 普通	P105 95% P L43 覆土中層

図記番号	種別	寸法(mm)	形状の概要	手法の概要	顔色・色調・模様	備考
第31回 20	埋土 土師器	B (8.8) C 4.2	口縁部欠損。平底。体部は縦長の球形で、中に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。	体部外面上半部ナテ。体部外面下半部ナテ。頸部内面下半部ナテ。体部内面ナテ。外周面ナテ。	赤・スゴリア・赤 明赤褐色 良	P106 45% 体部・頸部 覆土下層
21	埋土 土師器	A 13.9 B 16.2 C 6.0	体部一部欠損。平底。体部は縦長の球形で、上位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し、内面に径を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部端部ナテ。口縁部外面ナテ。体部外面上半部ナテ。体部外面下半部ナテ。頸部内面ナテ。体部内面下半部ナテ。下半部ナテ。	赤・スゴリア・赤 赤褐色 良	P107 70% P143 体部・覆土下層
22	埋土 土師器	A 11.7 B 16.9 C 4.3	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は縦長の球形で、中に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し、内面に径を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ナテ。体部外面ヘラ削り良。ナテ。体部下半部ヘラ削りナテ。頸部内面下半部ナテ。体部内面ナテ。体部内面ヘラ削り良。口縁部外傾・口縁部内面赤。	赤・スゴリア・赤 赤褐色 良	P108 65% P143 体部
第32回 23	埋土 土師器	A 18.5 B 32.7 C 6.7	体部一部欠損。平底。体部は縦長の球形で、中に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ナテ。体部外面ヘラ削り良。ナテ。体部外面上半部ナテ。一部ヘラ削り。体部外面下半部ナテ。頸部内面下半部ナテ。体部内面ナテ。	赤・赤褐色 赤褐色 良 外周面赤褐色	P109 16% P144 体部
24	埋土 土師器	A (16.8) B (9.7)	口縁部から底径の薄片。頸部は縁やかたに屈曲する。口縁部は折り返し口縁で、縁やかに外反して立ち上がる。	口縁部ナテ。口縁部折り返し口縁部ナテ。頸部外面以下ヘラ削り良。一部ヘラ削り。口縁部内面ナテ。頸部内面ナテ。	赤・赤褐色 赤褐色 良	P110 20% 体部
25	埋土 土師器	A 15.1 B (5.8)	口縁部欠損。頸部は縁やかたに屈曲する。口縁部は折り返し口縁で、外反して立ち上がる。	口縁部ナテ。口縁部折り返し口縁部ナテ。頸部内面ナテ。頸部内面折り返し口縁部ナテ。	赤・スゴリア・赤 赤褐色 良	P111 80% 体部
26	埋土 土師器	A 18.6 B 27.5 C 7.5	口縁部一部欠損。平底。体部は縦長の球形で、中に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は折り返し口縁で、外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ナテ。体部外面ナテ。一部ヘラ削り。体部外面下半部ナテ。体部内面ヘラ削り良。ナテ。	赤・赤褐色 赤褐色 良	P112 80% P144 体部
27	埋土 土師器	A 15.7 B (28.1)	口縁部欠損。体部は縦長の球形で、中に最大径を持つ。頸部は縁やかたに屈曲する。口縁部は縁やかたに外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ナテ。頸部外面下半部ナテ。体部外面ヘラ削り良。体部内面折り返し口縁部ナテ。体部内面ヘラ削り良。	赤・スゴリア・赤 赤褐色 良	P113 75% P144 体部
28	埋土 土師器	A (13.8) B (25.8)	口縁部一部・底径欠損。体部は縦長の球形で、中に最大径を持つ。頸部は縁やかたに屈曲し、内面に径を持つ。口縁部は折り返し口縁で、外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ナテ。体部外面上半部ナテ。一部ヘラ削り。体部外面下半部ナテ。頸部内面下半部ナテ。体部内面ヘラ削り良。一部ヘラ削り良。	赤・スゴリア・赤 赤褐色 良	P114 60% P144 体部・覆土下層
29	埋土 土師器	A 15.2 B (20.7)	口縁部欠損。体部は縦長の球形で、体部外面に最大径を持つ。頸部は縁やかたに屈曲する。口縁部は折り返し口縁で、外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ナテ。体部外面ヘラ削り良。頸部内面下半部折り返し口縁部ナテ。体部内面ナテ。	赤・スゴリア・赤 赤褐色 良	P115 60% P144 体部
第33回 30	埋土 土師器	B (20.6) C 7.2	口縁部・頸部欠損。平底。体部は縦長の球形で、中に最大径を持つと推定される。	体部外面ヘラ削り良。ナテ。体部内面ヘラ削り良。ヘラ削り良。	赤・スゴリア・赤 赤褐色 良 外周面良	P116 60% 体部・覆土下層

図記番号	種別	寸 法				出土状況	備考
		径(mm)	長さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)		
第33回31	球状土師	2.7	2.6	1.0	15.1	市原寄9覆土下層	D P10
32	球状土師	3.0	3.0	1.1	27.5	北米寄9覆土下層	D P11

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第33図33	不明鉄器	3.5	2.3	0.22	2.7	表層赤覆土下層	M3 鉄器? P.L54

### 第71号住居跡 (第34図)

位置 調査区域の北西部, C 2 d3区。

規模と平面形 南部が調査区域の外になる。規模は, 長軸 (5.23 m), 短軸 (3.54 m) で, 方形または長方形と推定される。

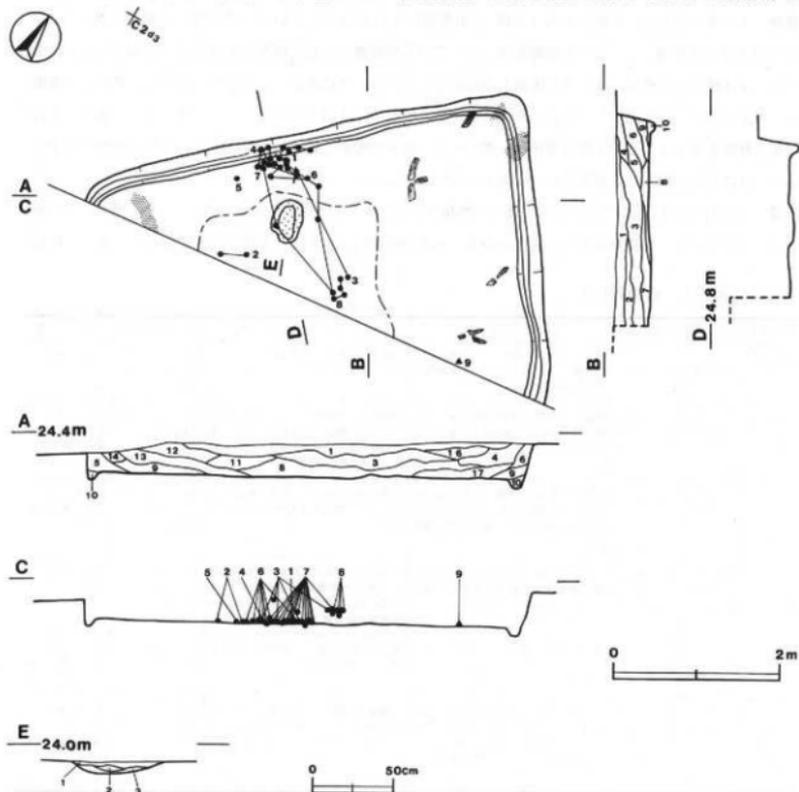
主軸方向 N-41°-W

壁 壁高は24~43cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 壁際を巡り, 断面はU字形である。上幅16~30cm, 下幅5~9cm, 深さ8~14cmである。

床 ローム質で, 平坦である。炉から南側は踏み固められている。

炉 北西壁寄りに位置する。長径52cm, 短径33cmの不整形円形で, 深さ7cmの地床炉である。炉床部は, 火



第34図 第71号住居跡実測図

を受けて硬化している。

炉土層解説

- 1 暗褐色 炭化物中量、焼土粒少量
- 2 褐色 焼土粒中量、粘性弱
- 3 褐色 焼土粒少量

ピット 床面を精査したが、確認されなかった。

覆土 17層からなる。第1～3・16層は、レンズ状に堆積するため自然堆積と思われる。第4層以下はロームブロック、炭化物を含む畑が多く、人為堆積と考えられる。炭化材が住居の内壁に向かって倒れ込んだ様子が確認できる。

土層解説

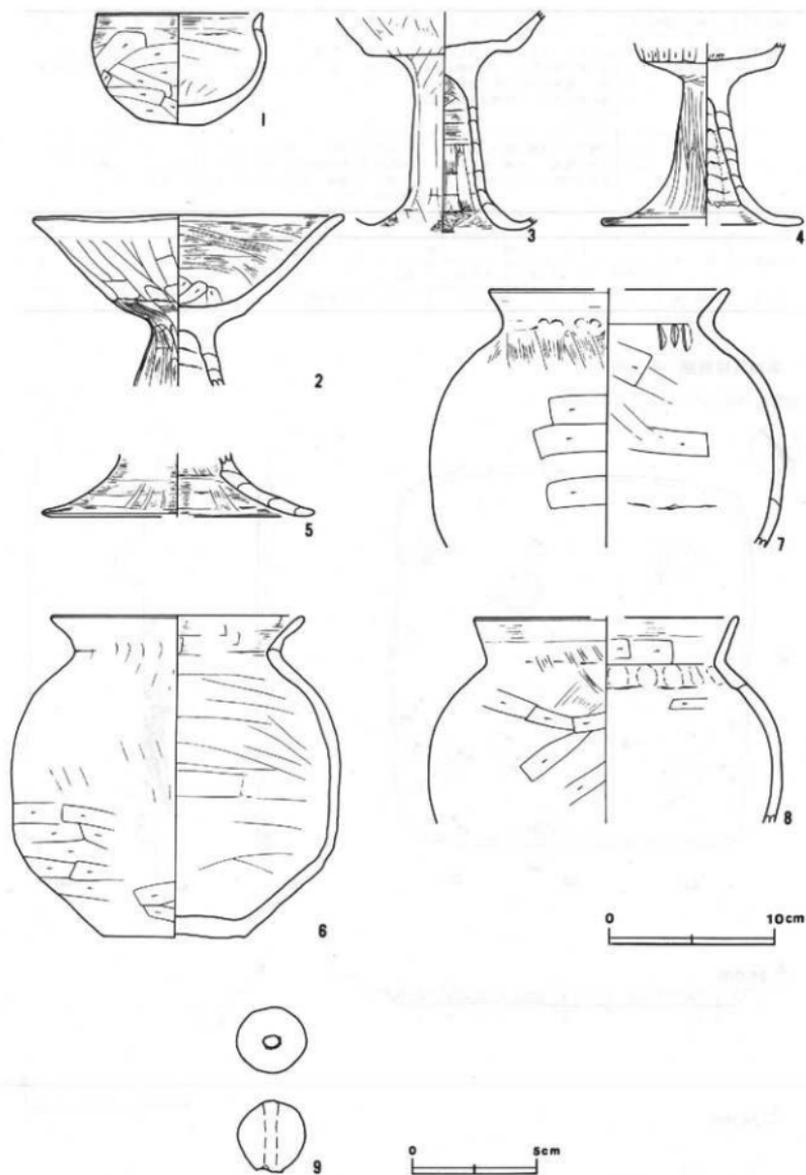
- |       |                        |        |                              |
|-------|------------------------|--------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒少量                 | 10 褐色  | ローム小ブロック-同粒少量、粘性強            |
| 2 黒褐色 | ローム粒少量                 | 11 黒色  | 炭化物中量、ローム小ブロック微量             |
| 3 黒色  | ローム粒少量、ローム小ブロック微量      | 12 暗褐色 | ローム粒少量、ローム小ブロック-炭化粒少量        |
| 4 暗褐色 | ローム粒中量、ローム小ブロック少量、砂粒微量 | 13 褐色  | ローム小ブロック-同粒少量、粘性強            |
| 5 暗褐色 | ローム粒中量                 | 14 暗褐色 | ローム粒少量、炭化粒微量、粘性、しまり弱         |
| 6 褐色  | ローム粒少量、ローム小ブロック中量      | 15 暗褐色 | ローム大ブロック-同粒中量、炭化物微量          |
| 7 暗褐色 | ローム粒少量、ローム大ブロック-炭化粒少量  | 16 黒褐色 | ローム粒少量、ローム小ブロック微量            |
| 8 暗褐色 | ローム粒少量                 | 17 褐色  | ローム粒少量、ローム小ブロック中量、ローム小ブロック微量 |
| 9 褐色  | ローム粒少量、ローム小ブロック中量      |        |                              |

遺物 土師器片211点、土製品1点（土錘）、須恵器片1点が出土している。須恵器片は混入と考えられる。第35図1の土師器碗、3～5の上師器高坏、6・7の上師器甕は、北西壁際中央付近から出土している。1は正位、4は横位の状態で、それぞれ床面上から出土している。3は逆位、5は正位の状態で、それぞれ床面上から覆土層にかけて出土している。6・7は、それぞれ1・4の上から出土している。共に、体部下半に不明瞭な稜線を有する。2の上師器高坏は、西コーナー寄りの床面上約4cmの位置から、正位の状態で出土している。9は球状土錘で、北東壁寄りの床面上から出土している。

所見 炭化材の倒れ込んだ状況から、焼上の堆積は少ないもの焼失住居と思われる。北西壁中央部の上器群は、1を除いて一括投棄された可能性がある。本跡の時期は、出土した上器から5世紀前半と考えられる。

第71号住居跡出土遺物観察表

採取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	土色・色調・硬質	備考
第35図 1	土師器 碗	A 9.9	定形、平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がり、口縁部付差で若干外反する。	口縁部内・外側・体部内面ナダ。体部外側へラ削り。	暗褐色 切欠部欠 赤褐色	P117 58% P.L44 床面
		B 6.5				
		C 3.5				
2	土師器 高坏	A 16.9	脚部下半穴部。坏部外面下縁に不明瞭な稜線を持つ。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面・脚部内・外面ヘラナダ。脚部との接合部付差へラ削り。脚部内ヘラナダ。脚部内面削浪状。坏部底面へラ削り。	暗赤・赤褐色・黒褐色 赤褐色	P118 33% P.L44 覆土下層
		B (10.4)				
3	土師器 高坏	B (12.2)	口縁部・脚部部欠損。坏部下縁に稜線を持つ。口縁部は外反して立ち上がる。脚部は柱状に作り、脚部は強く外反する。	坏部外面へラ削り。坏部一層部外側ヘラナダ。脚部内面輪縁のみを削り、ナダ。	暗赤・スロリア に濃い褐色 赤褐色	P119 20% 深部～覆土中層
		B (12.3)				
4	土師器 高坏	B (11.2)	坏部、脚部部欠損。坏部外面下縁に稜線を持つ。脚部は柱状で、脚部に向かって緩やかに外反する。	坏部外面へラ削り。脚部との接合部ナダ。脚部外面削り。脚部部外側ナダ。坏部外面へラ削り後、ナダ。脚部内面輪縁のみを削り、作面直取。	暗赤・赤褐色 に濃い褐色 赤褐色	P120 50% 床面
		D (12.3)				
5	土師器 高坏	B (7.8)	脚部欠損片。脚部はハの半状に外反して欠ける。	脚部外面ナダ後、一層削り。脚部部外側ナダ。脚部内面ナダ。	暗赤・スロリア 褐色 貝	P121 25% 床面～覆土下層
		D 16.4				
6	土師器 高坏	A 14.8	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は球状で、中位に最大径を持つ。体部下位に鋭い稜線を持つ。脚部は柱状の半状に脚曲する。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部外面削りナダ。体部外面下半へラ削り。口縁部内面へラ削り後、ナダ。体部内面へラナダ。	暗赤・スロリア 切欠部褐色 赤褐色	P122 50% P.L44 覆土下層
		B 19.6				
		C 8.4				



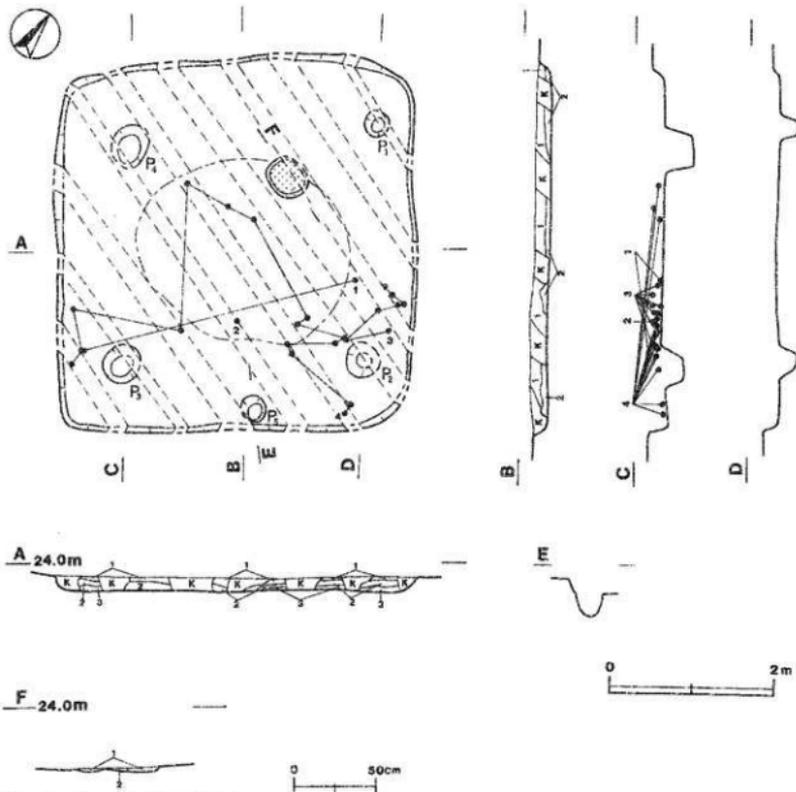
第35图 第71号住居跡出土遺物実測図

図録番号	品 類	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	出土・自測・調査	備 考
第336 T	黒 土 胎 部	A [11.4] B (15.7)	高体丸胴。体部に縦長の線刻で、中央に幾人侍を伴ち、下段に雲い様を持つ。胴部はくの字状に屈曲し、内面に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面磨ナデ。胴部内・外面ナデ後。一部へツ張り。	奈良・石浜・スコリアー・豊後新井陶器。長	F123 65% 塚岡・東上ノ塚
R	黒 土 胎 部	A [16.0] B (12.5)	口縁部から胴部の成片。胴部はくの字状に屈曲し、内面に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面磨ナデ。胴部外面ナデ。胴部内面と口縁部内面。体部外面へツ張り。口縁部・体部内面ナデ。胴部付近へツ張り。	奈良・スコリアー・石浜に多い高体色。長	F124 35% 東上ノ塚

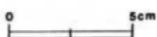
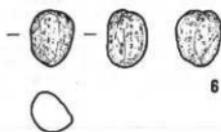
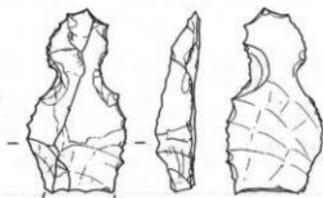
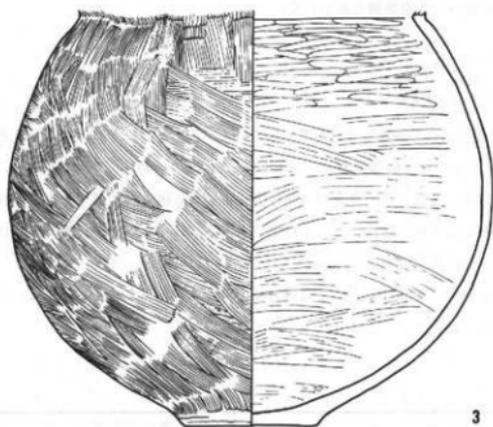
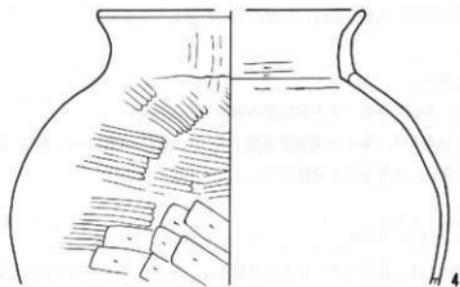
図録番号	器 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第359	球状土師	2.7	2.9	0.5	16.1	北東院寺り塚岡	D P12

### 第72号住居跡 (第36図)

位置 調査区域の北部，C5all区。



第36図 第72号住居跡実測図



第37图 第72号住居跡出土遺物実測図

規模と平面形 耕作による擾乱を受けているが、長軸4.45m、短軸4.33mの隅丸方形である。

主軸方向 N-21°-W

壁 壁高は11~16cmで、外傾して立ち上がる。

床 遺存状態はよくないが、ローム質で、平坦である。中央部は踏み固められている。

炉 P1とP4との中間、やや東寄りに位置する。炉の北東側を破壊されているが、長径49cm、短径[42]cmの楕円形、深さ4cmの地床炉である。炉床は、火を受けて硬化している。

炉土層解説

- 1 焼 附 色 炭化粒子多量、炭土粒子少量、粘性・L・まり弱
- 2 焼 色 焼土大ブロック・同中ブロック中量、粘性・L・まり弱

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、各コーナー付近に位置し、主柱穴と考えられる。長径28~50cm、短径24~41cmの楕円形と推定され、深さは22~40cmである。P5は南壁際の中央部に位置し、長径37cm、短径[28]cmの楕円形で、深さは26cmである。出入り口施設に伴うものと考えられる。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含み、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 灰 附 色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・同小ブロック少量
- 2 焼 色 ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 3 焼 色 ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量

遺物 土師器片172点、軽石1点、須恵器片2点、陶器片2点が出土している。須恵器片・陶器片は、掘乱土層からの出土である。図示した土器は、いずれも土師器である。第37区1・2は、別個体の小形高坏である。1は南西壁際の覆土下層から中層にかけて、2はP2・P3の中間の覆土中層から横位の状態で、それぞれ出土している。両者とも外面にハケ目調整が施されている。3・4は甕である。3は東コーナー付近の、4は住居跡中央の、いずれも覆土中層から破片の状態で出土している。

所見 耕作による擾乱を受けているが、図示した遺物についてはほぼ原位置からの出土である。時期は、小形高坏の特徴などから4世紀前半頃と考えられる。

第72号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	下 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第37区 1	小形高坏 土 師 器	A [12.7] B (5.0)	外型一様・胴部欠損。坏縁は大きく突き、体部から口縁部にかけて横やかに内傾して立ち上がる。	口縁部縁ナデ、体部外面ハケ目調整。坏部内面ナメナデ。	赤粒・黄粒に多い赤褐色	P125 40% P.L45 覆土下~中層
	小形高坏 土 師 器	B (5.7) D 10.2	坏部欠損。胴部はハの半状に点線的に広がる。	胴部内・外面ハケ目調整、胴部底縁ナデ。	赤粒に多い棕色	P126 45% P.L45 覆土中層
3	甕 土 師 器	B (25.3) C 8.9	口縁部欠損。平底。体部は球形で、中位に最大径を持つ。	体部外面ハケ目調整。胴部口位傾斜し其によるナデ。体部内面ヘラナデ。	石灰・白色粒子・長石・軽石	P127 60% P.L45 覆土下~中層
	甕 土 師 器	A [16.0] B [16.8]	口縁部から胴部の破片。胴部は縦やかに屈曲し、内面に稜を持つ。口縁部は縦やかに外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ、体部外面上半ハケ目調整、体部外面中位へラ削り。胴部内面上位へラ削り。体部内面へラ削り後、ナデ。	赤粒・スフィア・雲母に多い褐色	P128 40% P.L45 覆土中層

図版番号	種 別	土 器 質				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第37区5	瓦 片	3.7	2.0	0.8	4.92	覆土中	Q5 チャート P.L24
6	軽 石	2.3	1.7	1.7	4.02	覆土中	Q6 軽石

表2 六十日遺跡住居跡（古墳時代）一覧表

住居跡 番号	方位	平面形状	規模(m) (長軸×短軸)	築高 (cm)	内部施設				遺物	出土遺物	備考 (新田昭昭古・新)		
					礎石	土間	土	礎石					
1	A31 N-42°-E	[方 形]	5.51×3.76	6~11	平礎	有	2	1	1	礎石	自然	土加器片569	本跡-S D-1
3	B416 N-53°-W	隅丸方形	6.71×5.65	14~39	平礎	有	4	1	1	礎石	一人舟	土加器片289, 土製品5	
4	B355 N-31°-W	隅丸長方形	6.33×5.65	28~41	平礎	有	4	1	2	礎石	自然	土加器片360, 弥生土器片1, 土製品1	
5	B525 N-20°-W	[隅丸方形]	4.26×4.75	26~29	平礎	有	1	1	1	礎石	自然	土加器片84, 鉄製品1	本跡-S D-24
6	B31 N-15°-W	[長方形]	4.60×4.45	19~30	平礎	有	4	1	1	礎石	自然	土加器片979, 土製品1点	
7	C257 N-40°-W	[長方形]	2.72×3.17	37~48	平礎	有	3	1	1	礎石	自然	土加器片170	南西側(域外)
8	C41 N-25°-W	隅丸方形	5.41×5.08	17~26	平礎	有	4	1	1	礎石	一人舟	土加器片445, 弥生土器片9, 土製品1	
9	C307 N-39°-W	隅丸長方形	6.69×5.09	17~45	平礎	有	4	1	1	礎石	一人舟	土加器片42, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100	本跡-S D-19
65	B195 N-21°-E	隅丸方形	3.43×2.29	45~50	平礎	無	—	—	—	—	一人舟		本跡-S D-27
67	B110 N-20°-W	隅丸方形	6.84×6.36	38~43	平礎	有	4	1	4	礎石	自然	土加器片955, 鉄製品1, 土製品2	本跡-S D-27, 28
71	C21 N-41°-W	[方 形]	5.23×3.94	24~43	平礎	有	—	—	—	礎石	一人舟	土加器片211, 土製品1	
72	C391 N-21°-E	隅丸方形	4.45×4.33	11~18	平礎	無	4	1	1	礎石	一人舟	土加器片172, 碇石1	

(2) 方形周溝状遺構

第1号方形周溝状遺構 (第38図)

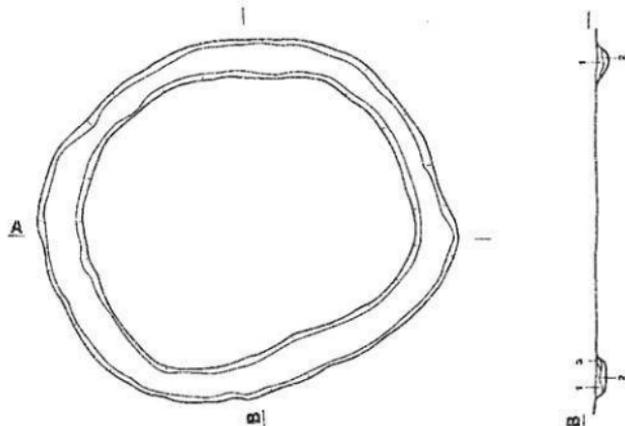
位置 調査区域の北部, C3e4区。第9号住居跡西側に位置している。

規模と平面形 隅丸方形に溝が巡る。規模は、外縁で長軸4.8m、短軸4.4m、内縁で長軸3.9m、短軸3.4mである。壁土は認められなかった。

方位 N-27°-W



C3e4



C3e4

A 4.8m

2

0 2m

第38図 第1号方形周溝状遺構実測図

**周溝** 周溝の幅は、上端で35～55cm、底面で19～39cm、深さは9～19cmである。断面形は、北側の一部がU字形である以外は逆台形である。

**覆土** 3層からなり、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |   |    |                        |
|---|----|------------------------|
| 1 | 黒色 | ローム粒子少量                |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量                |
| 3 | 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、粘性弱 |

**所見** 平面形が若干不整であるが、溝が方形にめぐることから方形周溝状遺構とした。本跡の外縁と、第2号方形周溝状遺構の内縁は、ほぼ同じ長さとなっている。また本跡の時期は、方位が古墳時代の住居跡とほぼ同じ方向を向くことから、古墳時代と推定される。

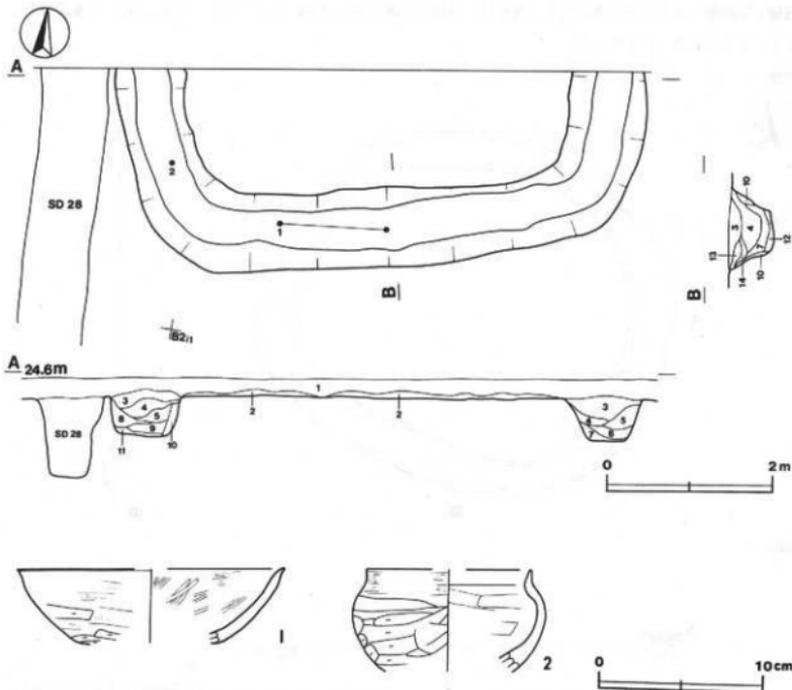
**第2号方形周溝状遺構 (第39図)**

**位置** 調査区域の北西部、B 2 h1区。第65・67号住居跡の北東に位置する。

**規模と平面形** 遺構の大半が調査区域外に位置している。調査しえた範囲では、外縁で東西6.25m、南北(2.5)m、内縁で東西4.6m、南北(1.5)mで、方形と推定される。

**方位** N-12°-W

**周溝** 周溝の幅は、上端で80～105cm、底面で35～55cm、深さは46～50cmである。断面形は、逆台形である。



第39図 第2号方形周溝状遺構・出土遺物実測図

覆土 13層からなる。7層から上位の層位は自然堆積と思われる。7層は粘性・しまりが強く、溝を掘ってまもなく人為的に埋めた可能性がある。12層は、溝構築時に溝底にたまった土砂であろう。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ローム粒中量
2 褐色	ローム粒子中量	9 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子微量	10 暗褐色	ローム小ブロック中量
4 暗褐色	ローム粒了・赤褐色粒子少量	11 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
5 褐色	ローム粒子中量・しまり強	12 暗褐色	ローム粒子中量
6 暗褐色	ローム粒了中量、ローム小ブロック少量、粘性・しまり強	13 暗褐色	ローム粒了中量、赤褐色粒子微量
7 褐色	ローム粒子微量、粘性・しまり強		

遺物 土師器片4点が周溝覆土中から出土している。復元したのは第39図1・2の2点で、いずれも碗である。西側のコーナー付近の覆土上層から出土している。

所見 遺構の一部を調査したのみであるが、小形の方形周溝墓となる可能性がある。時期については、出土した土器が方台部からの流れ込みと考えるなら、4世紀中頃と思われる。

第2号方形周溝状遺構出土土器観察表

図録番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	土 沈 の 特 徴	粘土・色調・焼色	備 考
第39図 1	碗 土師器	A   16.1	口縁部から体部の破片、体部から口縁部にかけて若干内傾して立ち上がり、口縁縁部は軽くつまみ上げられて外反する。	口縁部外面・体部外面ナデ。体部下端へリ削り。体部内面ナデ後、一筋に深い褐色着き。	母粒・白色粒子・スクリア・赤母に深い褐色着き	P-301 30% 覆土上層
		B   4.5				
2	碗 土師器	A   9.9	口縁部から体部の破片、体部から口縁部にかけて内湾し、縁部にはほぼ垂直する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へリ削り、体部内面ナデ。	粘土に深い褐色着き	P-301 35% 覆土上層
		B   6.2				

表3 六十日遺跡 方形周溝状遺構一覧

遺構番号	方位	平面形・規模(m)	周溝幅・規模(cm)			土質	主な遺物	備考 新田遺跡(古一跡) その他	
			平面形	幅	深さ				土質
1	C34   N-27° W	隅丸方形 4.8×4.4	4.8×4.4	3.9×3.4	溝内形 25-55	19-29	9-19	自然	
2	B24   [N-12° W]	(方形) 6.3×2.5	(4.6×1.5)		溝内形 30-105	35-55	65-70	自然	土師器4

(3) 土坑

第52号土坑 (第40図)

位置 調査区域の北部、B2j7区。第5号住居跡の南側に位置する。

方向 N-3°E

規模と形状 上縁部で長軸2.14m、短軸1.87m、底面で長軸1.83m、短軸1.62mの隅丸長方形で、深さは82cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

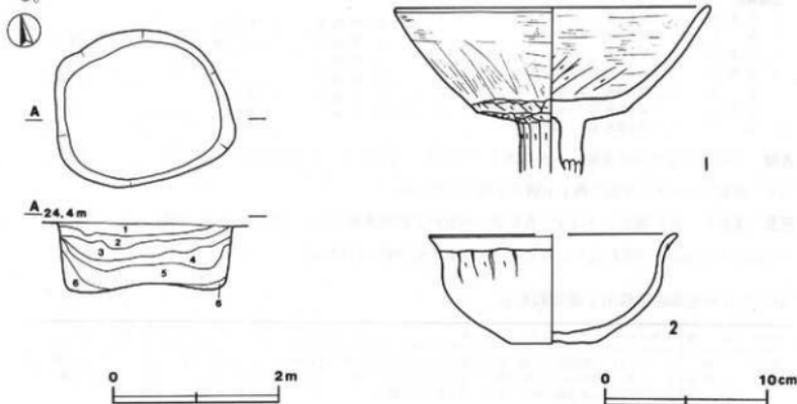
覆土 6層からなる。比較的多量のローム粒子を含む層が多く、人為堆積の可能性がある。

土層解説

1 暗褐色	赤褐色粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子少量	4 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量	5 に近い褐色	ローム粒了多量、ローム小ブロック少量、粘性強
3 褐色	ローム粒了中量、ローム小ブロック少量	6 に近い褐色	ローム粒子多量、粘性強

遺物 土師器片20点が出土している。第40図1の高坏は王位の状態、また2の碗は破片の状態です。それぞれ出土している。1は、一部の口縁部片が第5号住居跡の覆土中層から出土している。

所見 1は出土状況から、流れ込みである可能性は低いと考えられる。性格は明らかではないが、隣接している第5号住居跡と関連が深い遺構と思われる。本跡の時期は、出土した遺物から5世紀前半頃と推定される。



第40図 第52号土坑・出土遺物実測図

第52号土坑出土遺物観察表

図版番号	部 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第40図 1	高 杯 土 師 器	A 18.7 B (10.3)	杯部の破片。杯部下端に梗を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。脚部は柱状を呈している。	口縁部内・外面横ナデ。杯部外面下手～脚部外面へナゲ削り。杯部内面へナゲ削り。	砂粒・雲母にふい黄色色普通 外面黒灰有	P397 45% P L44 覆土上層
2	碗 土 師 器	A [14.8] B 6.6 C 5.0	口縁部から体部の破片。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がり、口縁端部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部上半へナゲ削り。下半部ナデ。体部内面割線が激しく調整不明。	砂粒・スコリア 明赤褐色 普通	P399 40% 覆土上層

## 2 奈良・平安時代の遺構と遺物

今回の調査では、竪穴住居跡41軒、掘立柱建物跡6棟、竪穴伏遺構2基が確認された。以下、確認された遺構の特徴や遺物について記載する。

### (1) 竪穴住居跡

#### 第2号住居跡（第41図）

位置 調査区域の北部，C5a5区。

規模と平面形 長軸3.0m，短軸2.9mの方形である。

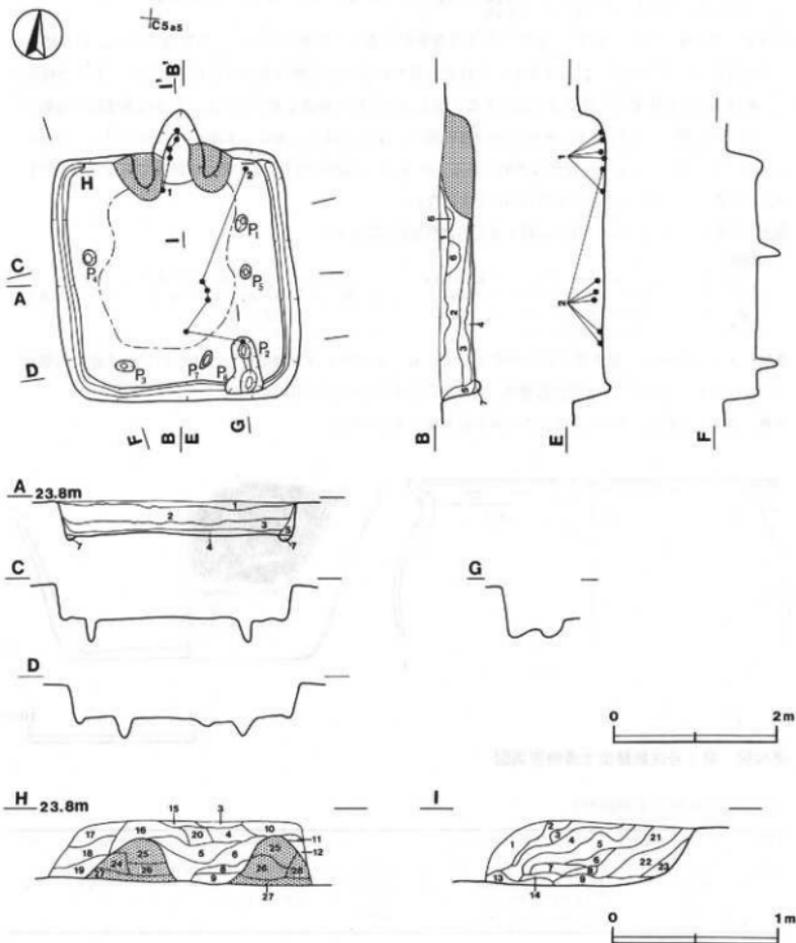
主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は37～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

**壁溝** 竈の袖部付近で途切れる。断面はU字形で、上幅16~24cm、下幅5~10cm、床面からの深さは4~8cmである。

**床** 全体にローム質で、平坦である。中央部がよく踏み固められている。

**竈** 北壁中央部に構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部上端から焚き口部まで87cm、両袖部幅140cmである。煙道部は壁外へ51cm掘り込んでおり、煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。24~28層は袖部の土層で、ロームを主として構築されている。4~7層は粘土粒子が混じり、竈の天井部の崩落土層と推定される。火床部の掘り込みは極めて浅く、ほぼ床面と同じ高さである。火床部には焼土(9層)が堆積し、火床面は火熱を受けて赤変している。



第41図 第2号住居跡実測図

#### 甕土層解説

1 暗赤褐色	ローム大ブロック・同中ブロック・同粒子少量	16 暗赤褐色	ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
2 灰赤色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	17 暗褐色	ローム大ブロック・同中ブロック少量
3 暗赤褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量	18 灰赤色	ローム中ブロック中量・焼土小ブロック・粘土粒子少量
4 暗赤褐色	ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	19 暗褐色	ローム大ブロック・同小ブロック少量
5 灰赤色	ローム中ブロック中量・焼土粒子・粘土粒子少量	20 灰赤色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6 赤褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量	21 灰褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
7 暗赤褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・糠粒少量	22 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
8 灰赤色	焼土小ブロック少量・しまり腐	23 暗褐色	ローム小ブロック中量・焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量
9 じいね粘	焼土小ブロック中量・粘性普通・しまり腐	24 明褐色	ローム粒子多量・ローム中ブロック中量
10 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量	25 褐色	ローム粒子多量・ローム中ブロック中量・粘土粒子少量
11 褐色	ローム中ブロック・同粒子中量	26 褐色	ローム小ブロック・同粒子中量
12 暗褐色	ローム大ブロック・同粒子少量	27 暗褐色	ローム粒子中量・炭化粒子少量
13 灰赤色	焼土粒子・砂粒・粘土粒子少量・粘性弱	28 褐色	ローム粒子・炭化粒子中量
14 灰赤色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量		
15 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量		

ピット 7か所 (P1～P7)。P1～P4は各壁に片寄って位置している。長径18～22cm, 短径12～15cmの楕円形で、深さは21～27cmである。支柱穴と思われるが、東西の並びは対称ではない。P7は長径24cm, 短径14cmの楕円形で、深さは7cmである。出入りに伴う施設と考えられる。P6は南壁側の南東コーナー近くに位置し、長径28cm, 短径20cmの楕円形で、深さは24cmである。床面から12cm下がった平坦面を介してP2と連結している。性格は不明である。P5は、径24cmの円形で、深さは29cmである。P1とP2の間に位置しているが、やはり性格は明らかではない。

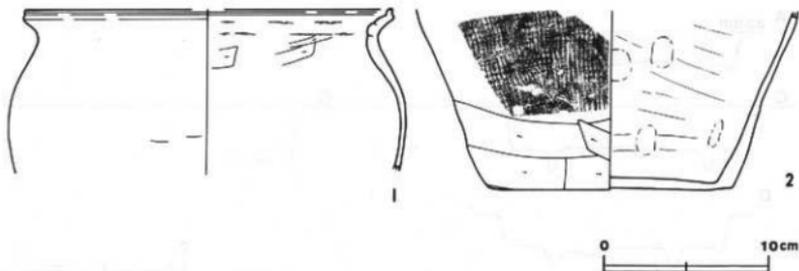
覆土 7層からなり、レンズ状に堆積するため自然堆積と思われる。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量	5 暗褐色	ローム中ブロック・炭化粒子少量
2 褐色	ローム大ブロック中量・ローム小ブロック少量	6 褐色	ローム中ブロック中量・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 褐色	ローム中ブロック中量・ローム大ブロック少量	7 褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ローム大ブロック・同粒子少量		

遺物 土師器片38点, 須恵器片23点が出土している。第42図1は土師器甕で、破片の状態での甕の内部及び周辺から出土している。2は須恵器甕で、甕東側の床面上から正位の状態でも出土している。

所見 本跡の時期は、出土した土器から9世紀中頃と考えられる。



第42図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	甕 土師器	A [30.2] B (13.1)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。胴部は緩やかに屈曲し、口縁部は短く外側に立ち上がる。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面。体部外面上平ナデ。体部中位以下へタ削り後ナデ。胴部内面へタ削り。体部内面器面荒れ、調整不明。	砂粒・雲母・白色 炭子 良	P129 30% 電気函

調査番号	種 別	寸法(cm)	採取の状況	手法の記載	粘土・色調・焼成	備 考
第44回 2	要 取 遺 物	B (14.6) C 19.7	体部から産出の破片。半焼。体部は外傾して立ち上がる。	体部が前縁位の平目印あり。体部下部へ方網り。内面ミヤ、一部に確固した縦を刻す。	赤粘・台黄・紫黒 灰黄加白 青黄	P10 30% 摩研

### 第10号住居跡 (第43回)

位置 調査区域の中部，D3c3区。

重複関係 本跡の覆土と床面が第14号溝に掘り込まれているので，本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸3.77m，短軸3.69mの方形である。

主軸方向 N・11°・E

壁 北東コーナー付近及び西壁が第14号溝によって破壊されている。壁高は38～44cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 壁跡を全周する。断面はU字形で，上幅19～30cm，下幅4～16cm，深さは5～11cmである。

床 ローム質で平坦である。出入り口部と窓の間が硬く踏みしめられている。

竈 北壁中央部に構築され，天井部の一部と袖部が残存している。竈の規模は，煙道土溜から焚き口部土溜まで100cm，幅は西袖部外側の基部で116cm，壁外への掘り込みは約40cm，床面を3cmほど掘り込んでいる。2・5・6層が天井部の土層で，粘土泥じりのロームを主とした土層からなる。15～24層は袖部の土層で，灰褐色粘土を芯材として構築されている。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。火床部は浅くはみ，若下の焼土が堆積している。火床面は火熱を受けて硬化している。

#### 竈土層解説

1 紅 褐色	白色粒子少量	11 灰 褐色	灰土粒中量，焼土粒中量，炭化粒子少量
2 暗 褐色	粘土粒少量	12 明 褐色	ローム大ブロック少量，ローム小ブロック少量
3 暗 褐色	白色粒子少量，粘土粒少量	13 濃い褐色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量，焼土粒中量，炭化粒子少量
4 褐色	焼土粒・粘土粒少量	14 濃い褐色	ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子少量
5 褐色	ローム粒子・粘土粒少量	15 灰 褐色	粘土中ブロック・粘土粒中量，焼土粒・焼土粒少量
6 褐色	ローム粒中量・粘土粒少量，しまり強	16 褐色	ローム粒子・炭化粒子中量
7 黒 褐色	ローム粒子・粘土粒少量	17 褐色	ローム粒中量，粘土粒
8 褐色	ローム粒少量		
9 褐色	ローム粒子・白色粒子少量		
10 灰 褐色	粘土粒中量，焼土粒少量		

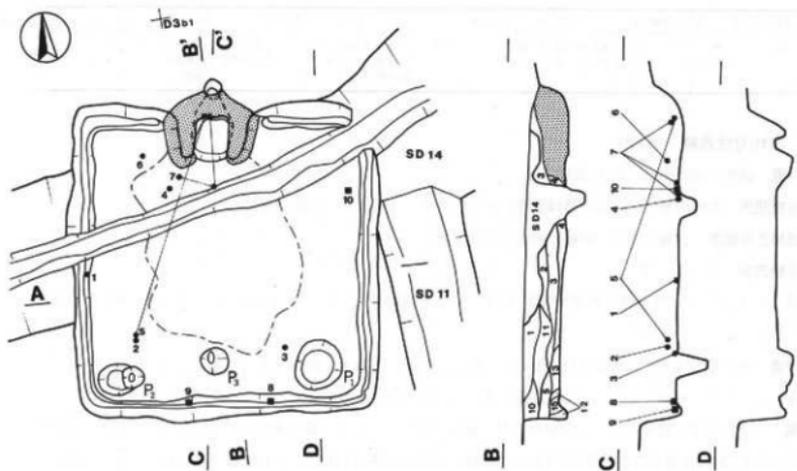
ピット 3か所 (P1～P3)。P1・P2は各コーナーに位置し，支柱穴と思われる。これに対応する北側の支柱は確認できなかった。規模と形状は，P1が径約60cmの円形で，深さは20cm，P2が径55cm，径37cmの楕円形で，深さは21cmである。P2は2段に掘り込まれている。P3はP1とP2の間，南壁寄りに位置し，径32cmの円形で，深さは35cmである。出入り口施設に伴うピットである。

覆土 15層からなる。1～14層は，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。15層は粘土粒子を多量に含み，出入り口付近に堆積していることから，人為堆積と思われる。

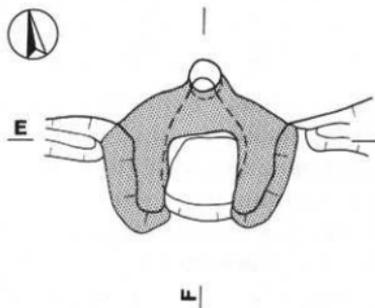
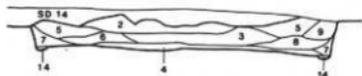
#### 土層解説

1 暗 褐色	形粒中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量	9 褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，粘土・しまり強
2 暗 褐色	ローム粒中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック	10 褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
	白色粒少量	11 褐色	ローム粒中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
3 暗 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量	12 灰 褐色	粘土粒中量
4 黒 褐色	ローム粒子少量，粘土粒	13 暗 褐色	炭化粒子・粘土粒少量
5 暗 褐色	ローム粒中量・赤色粒少量	14 褐色	ローム粒中量，粘土粒
6 褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量，粘土粒	15 灰 褐色	粘土粒中量，粘土粒
7 褐色	ローム粒中量		
8 褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量，しまり強		

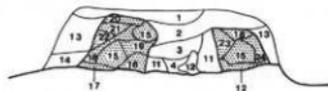
遺物 土師器片98点，須恵器片103点，陶器片18点，石器片(砥石)等3点が出土している。陶器片は混入と考えられる。遺物は，竈周辺から比較的多く出土している。第44回1・2は，土師器環である。1は，西壁際の床面上から出土している。2は，南西コーナー寄りの覆土下層から出土している。4は須恵器環で，竈前



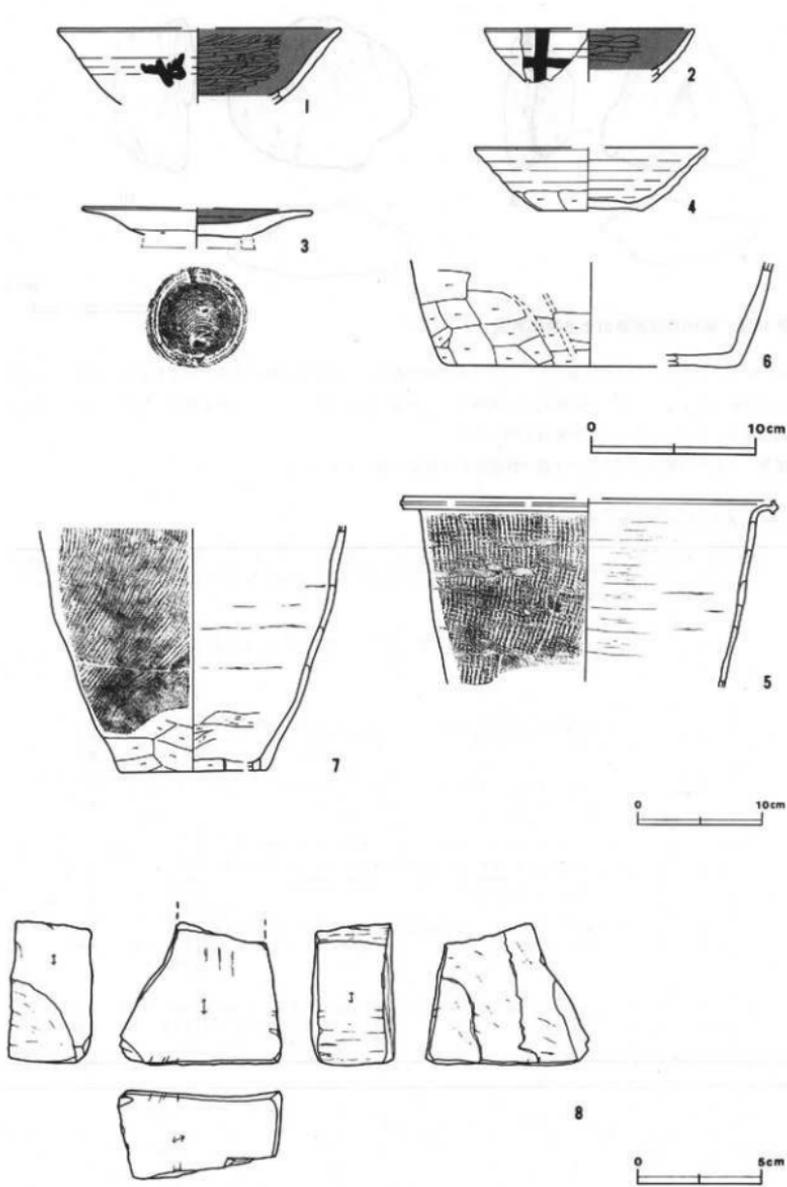
A 24.4m



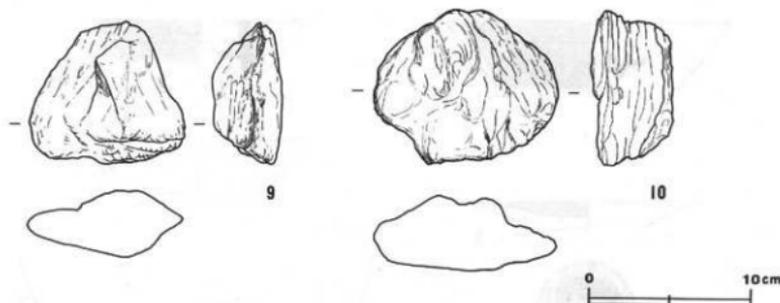
E 24.2m



第43图 第10号住居跡実測图



第44图 第10号住居跡出土遺物実測図(1)



第45図 第10号住居跡出土遺物実測図(2)

面の床面上から正位の状態出土している。6は須恵器甕, 7は須恵器甕である。いずれも甕の内外部から破片の状態出土している。8は砥石で、南壁近くの床面上から出土している。第45図9-10は石片で、それぞれ床面上から出土している。性格は不明である。

所見 本跡の時期は、出土した土器の特徴から9世紀中頃と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44図 1	坏土器	A [17.2]	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	外面ロクロナデ。内面巻き、黒色処理。	砂粒・スコリア・白色粒子にふい焼色。良	P131 30% 照書「長」 床面
		B (4.6)				
2	坏土器	A [12.8]	口縁部の破片。口縁部は若干内彎して立ち上がる。	外面ロクロナデ。内面巻き、黒色処理。	砂粒・石英・スコリア・灰石にふい焼色。良	P133 15% 照書「十カ」 覆土下層
		B (3.3)				
3	高台付土器	A [14.0]	高台部欠損。体部から口縁部にかけて外反しながら大きく開く。	内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面黒色処理。底部回転赤切り。高台部粘付。	砂粒・スコリア 明赤褐色。良	P135 60% P.L45 床面
		B (1.7)				
4	坏須恵器	A [14.1]	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ヘラ削り。底部一方の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・スコリア・灰石にふい焼色。良	P134 50% 床面
		B 3.9				
		C 6.4				
5	甕須恵器	A [30.5]	口縁部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は強く屈曲し、口縁部を上下に突出する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。体部内面ナデ。	砂粒 純灰色。良	P137 25% P.L45 覆土下層
		B (13.5)				
6	甕須恵器	B (6.3)	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端ヘラ削り。体部内面両側が強く調整不明。	砂粒・スコリア・赤母・白色粒子 黒褐色。良	P136 25% 床面
		C [18.0]				
7	甕須恵器	B [20.0]	体部から底部の破片。平底。孔数不明。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部外面下端ヘラ削り。体部内面ナデ。底部は焼成前にヘラ状工具により穿孔。	砂粒・石英・赤母 明赤褐色。良	P138 25% 覆土下層
		C [12.0]				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第44図8	砥石	(5.8)	(6.6)	3.5	(173)	床面	Q7 凝灰岩 P.L53
第45図9	石片	9.7	9.3	4.2	331	床面	Q8 ホルンフェルス
10	石片	9.5	11.0	5.0	629	床面	Q9 ホルンフェルス

## 第12号住居跡 (第46図)

位置 調査区域の中部、D3d2区。

重複関係 第14号土坑及び第12号溝が本跡の覆土を掘り込んで構築されているため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.05m、短軸2.95mの方形である。

主軸方向 N-22°-E

礎 礎高は18~39cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 礎の北西側の礎の下から南東壁の下まで巡る。断面はU字形で、幅は礎の西側で広く上幅40cm、下幅22cmである。その他は上幅17~30cm、下幅7~14cm、深さは6~8cmである。

床 ローム質で、平坦である。礎の前面は若干踏み固められているが、全体的に軟弱である。

竈 北壁に構築され、両袖部だけが残存している。規模は、煙道部上端から焚き口部まで116cm、両袖部幅は117cmである。煙道部は壁外へ約45cm掘り込んでおり、煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。火床部の掘り込みは浅く、3cm程度である。3・8・9層は天井部の崩落土と思われる、ロームを主体とした粘土混じりの土である。15・18~24層は袖部の土層である。西側の袖は粘土を芯とし、その上に17層を積み上げて形成している。火床面は、床面と同じ高さで続き、竈中央部では3cmほど浅く円形に掘りくぼめている。火床部から煙道部にかけて、火熱を受け硬化している。

### 竈土層解説

1 黒褐色	赤色粘土少量、ローム粒子少量	14 褐色	泥上粘土・炭化粘土少量
2 暗褐色	ローム粒子微量	15 濃い赤褐色	ローム粘土・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒・粘土・粘土少量
3 褐色	ローム粘土・粘土粒子微量	16 黒褐色	焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粘土・粘土粒子少量、しまり強
4 暗褐色	ローム小ブロック・同粘土微量	17 暗赤褐色	焼土中ブロック少量、焼土大ブロック・焼土粘土少量、軟性炭
5 黒褐色	ローム粘土・粘土粒子微量	18 黒褐色	炭化粘土・粘土粒子少量、しまり強
6 暗褐色	粘土粒子少量、ローム粘土微量	19 灰褐色	粘土粒子少量、焼土粘土・炭化粘土少量
7 暗褐色	焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・炭化粘土少量	20 濃い赤褐色	焼土大ブロック・粘土粒子中量、粘性・しまり強
8 暗褐色	焼土大ブロック多量、粘性弱	21 濃い赤褐色	ローム中ブロック・同粘土中量
9 暗褐色	焼土大ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粘土少量、粘性・しまり弱	22 灰褐色	ローム中ブロック、焼土粒子少量
10 赤褐色	焼土中ブロック中量、焼土大ブロック・焼土小ブロック少量	23 暗赤褐色	焼土中ブロック中量、ローム中ブロック・焼土大ブロック・焼土小ブロック・炭化粘土少量
11 赤褐色	焼土大ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粘土少量、粘性・しまり弱	24 褐色	ローム中ブロック中量、粘土粒子少量、しまり強
12 灰赤色	焼土中ブロック中量、焼土大ブロック・焼土小ブロック少量		
13 褐色	焼土小ブロック微量		

ピット 1か所。南壁寄りの中央に位置する。長径21cm、短径15cmの楕円形で、深さは22cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。支柱穴に当たるピットは、床面を精査したものの確認できなかった。

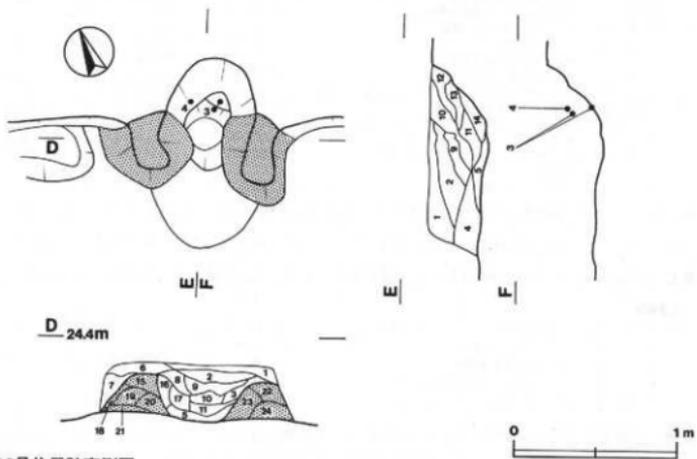
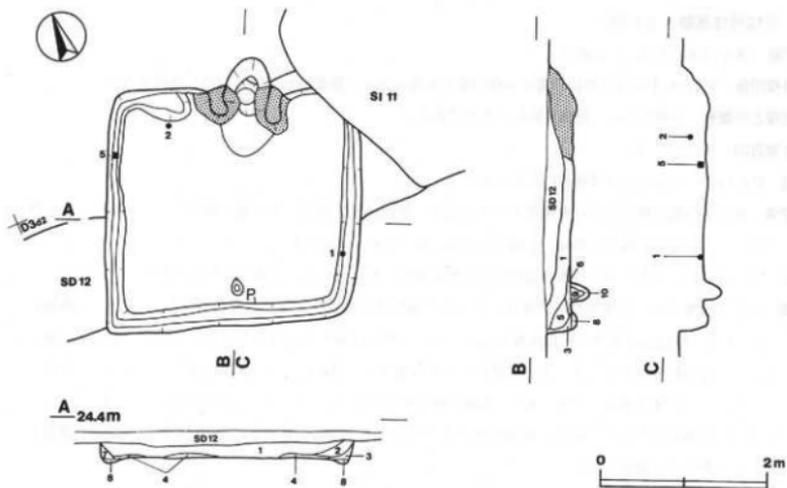
覆土 10層からなり、9~10層はP1の土層である。レンズ状に堆積しているため、自然堆積と思われる。

### 土層解説

1 暗褐色	ローム粘土中量、ローム小ブロック微量	6 暗褐色	ローム粘土中量
2 褐色	ローム小ブロック微量	7 褐色	ローム小ブロック・同粘土微量
3 褐色	ローム粘土少量、粘性強	8 褐色	ローム粘土中量
4 褐色	ローム小ブロック中量、粘性強	9 暗褐色	ローム粘土中量
5 黒褐色	ローム粘土中量	10 褐色	ローム粘土中量、粘性強

遺物 土師器片97点、須石器片37点、石製品1点(砥石)が出土している。第47図1・2は、土師器杯である。1は車壁の南東コーナー寄りの壁溝内から正位の状態で、2は北西コーナー付近の覆土土層から破片の状態で、それぞれ出土している。3は土師器小形甕で、壁溝部の底面上から逆位の状態で出土している。支脚として転用されたと考えられる。5の砥石は、西隣北西コーナー寄りの覆土中層から出土している。

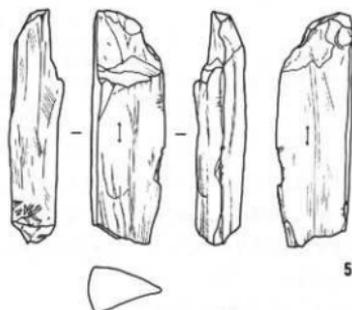
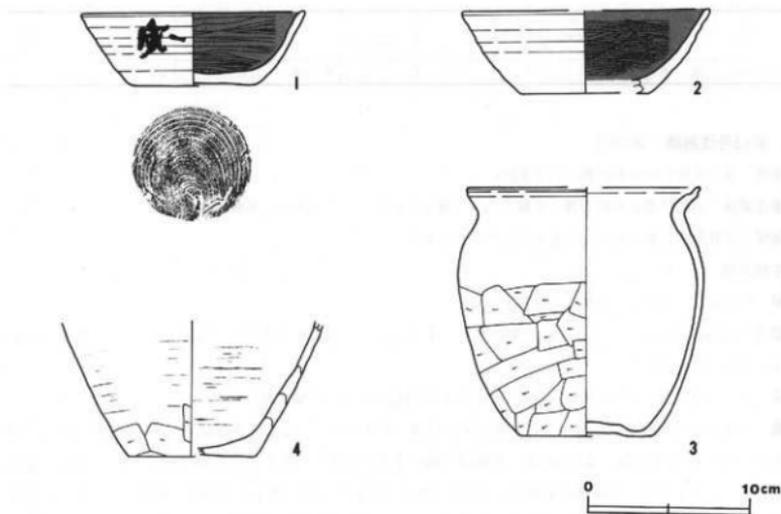
所見 本跡の時期は、出土した土器から9世紀後半と考えられる。



第46図 第12号住居跡実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第47図 1	坏 土師器	A 13.6	完形。平底。体部から口縁部にかけて斜傾して立ち上がる。	口縁薄部ナシ。体部外面口クロナテ。体部内面磨き、黒色処理。底部回転糸切り。	粉粒・石英・雲母・辰石 にふく褐色 貝	P139 100% P.L.45 磨善「成」 摩面
		B 4.5				
		C 7.5				



第47図 第12号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・地成	備考
第47図 2	坏 土 钵 器	A [14.8]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	口縁部横ナゲ。体部外面ロクロナデ。体部内面磨き、黒色処理。底部未切り。	砂粒・雲母に多い褐色 普通	P140 35% 覆土上層
		B 5.1				
		C [7.8]				
3	小形 土 钵 器	A [14.2]	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は緩やかに屈曲して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面、体部外面上キナデ。体部外面下半ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・スコリア・雲母・白色粒子に多い黄褐色 普通	P141 65% P.L.45 産層清部
		B 15.1				
		C 8.9				
4	壺 土 钵 器	B [8.2]	体部から底部の破片。平底。体部は外彎して立ち上がる。	体部外面ナデ。体部下縁ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・スコリアに多い褐色 良	P142 35% 産層土中層
		C [7.5]				

図録番号	種別	計 画 図				所在地	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	遺厚(μ)		
第48図	瓦石	(9.5)	3.8	1.9	(670)	廣土中層	Q10 瓦研

### 第13号住居跡 (第48図)

**位置** 調査区域の中央部西側、D 2 d0区。

**重複関係** 第12号溝が本跡の覆土を掘り込んで構築されていることから、本跡が古い。

**規模と平面形** 長軸3.40m、短軸3.37mの方形である。

**主軸方向** N-44°-E

**壁** 壁高は6~22cmで、外傾して立ち上がる。

**築溝** 東西側から南コーナーを結ぶ東コーナーまで流る。断面はU字形で、上幅16~38cm、下幅4~16cm、深さは11~14cmである。

**床** ローム質で、若干の起伏がみられる。P5から竈前面にかけて硬く踏みしめられている。

**竈** 北東壁中央に構築されている。上部は第12号溝に削平されているが、袖部は残存する。竈の規模は、煙道部上縁から焚き口部上端が103cm、両袖部外側の基部で104cmである。煙道部は壁外へ約35cm掘り込み、緩やかに立ち上がる。火床部は床面より5cmほど掘り込まれており、焼土を含む層が堆積している。袖部は、地山を削りだして基部を作り、先端部はロームを主とする褐色土を用いて構築されている。火床面から煙道部にかけて、火熱を受けて硬化している。

#### 覆土層解説

1 赤褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭	6 濃い赤褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭
2 濃い暗褐色	焼土大ブロック中量・焼土小ブロック・炭化物少量・焼土しまり物	7 赤褐色	焼土小ブロック少量・焼土中ブロック少量・炭化物
3 赤褐色	焼土大ブロック多量	8 濃い赤褐色	焼土小ブロック中量・焼土中ブロック少量
4 濃い暗褐色	焼土大ブロック・炭化物少量・しまり物	9 褐色	ローム小ブロック少量
5 暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭	10 褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
	炭化物少量・しまり物	11 褐色	ローム小ブロック多量・炭化物

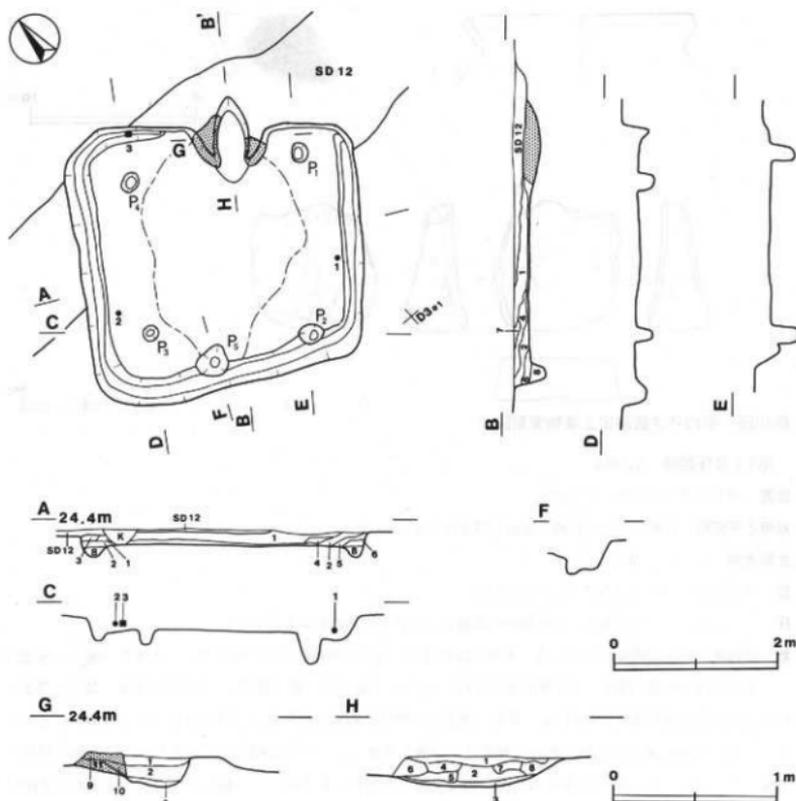
**ピット** 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、各コーナーに片寄って位置するため、主柱穴と思われる。P3は径20cmの円形、その他は長径25~31cm、短径20~24cmの楕円形で、深さは21~29cmである。P5は南壁寄りに位置し、壁溝内側の上端部を破壊して構築されている。一辺約35cmの角の丸い三角形で、深さは21cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。

**覆土** 8層からなる。レンズ状に堆積しており、自然堆積と思われる。

#### 土層解説

1 黄褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック	5 褐色	ローム大ブロック中量・ローム中ブロック少量
	炭化物少量	6 褐色	ローム大ブロック中量
2 暗褐色	ローム大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量	7 暗褐色	ローム中ブロック・炭化物少量
3 褐色	ローム小ブロック中量・ローム小ブロック少量	8 褐色	ローム中ブロック・炭化物少量
4 暗褐色	ローム中ブロック少量		

**遺物** 土師器片163点、須臾器片17点、石器1点(砥石)が出土している。いずれも小片であり、接合できた遺物はほとんどない。第49図1は土師器片で、南東壁寄りの覆土下層から破片の状態出土している。2は土師器片で、北西壁寄りの覆土中層から出土している。3の砥石片は、北東壁際の覆土中層から出土している。  
**所見** 本跡の時期は、出土した土器から9世紀後半と推定される。

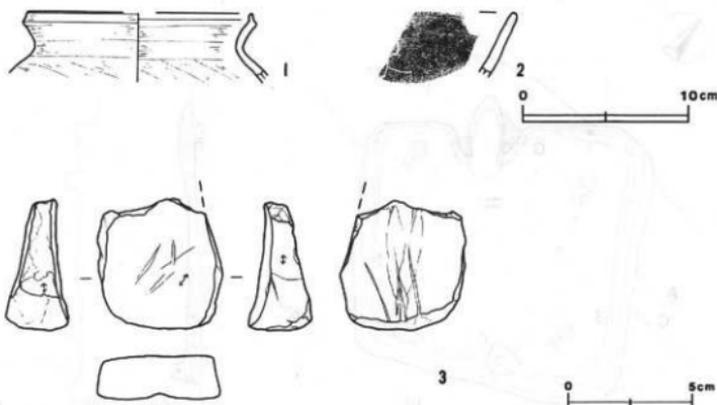


第48図 第13号住居跡実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 1	壺 土師器	A [13.4]	口縁部の破片。口縁部は緩やかに屈曲して立ち上がり、口縁端部は若干内傾し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア・雲母にふい褐色 良	P143 10% 覆土下層
		B 4.5				
2	坏 土師器	B 4.6	口縁部の破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面ロクロナデ。口縁部内面磨き、黒色処理。	砂粒・スコリアにふい褐色 良	T P14 10% 割書「○人々」 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第49図3	紙石	(5.2)	5.2	2.5	(67)	覆土中層	Q11 凝灰岩



第49図 第13号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡 (第50図)

位置 調査区域の中央部, C 3g2区。

規模と平面形 長軸2.70m, 短軸2.36mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-60°-W

壁 壁高は28~30cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ローム質で, 平坦である。中央部から竈前面にかけて踏み固められている。

竈 北西壁の中央に構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部だけが残存する。火床部の掘り込みは浅く, 吹き口部と床面の境は, 床の硬化面が消えるラインと判断した。竈の規模は, 煙道部上端から吹き口部まで67cm, 両袖部外側の基部で幅115cmである。煙道部は壁外に約30cm掘り込み, 煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。14~19層は袖部の土層である。袖部は, 14層を芯材とし, その周囲にローム混じりの土を貼り付けて構築されている。8・9・12層は天井部の崩落土層と思われ, 粘土混じりの褐色土である。火床部は2cmほど, 皿状に掘り込まれている。中央部付近は, 火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

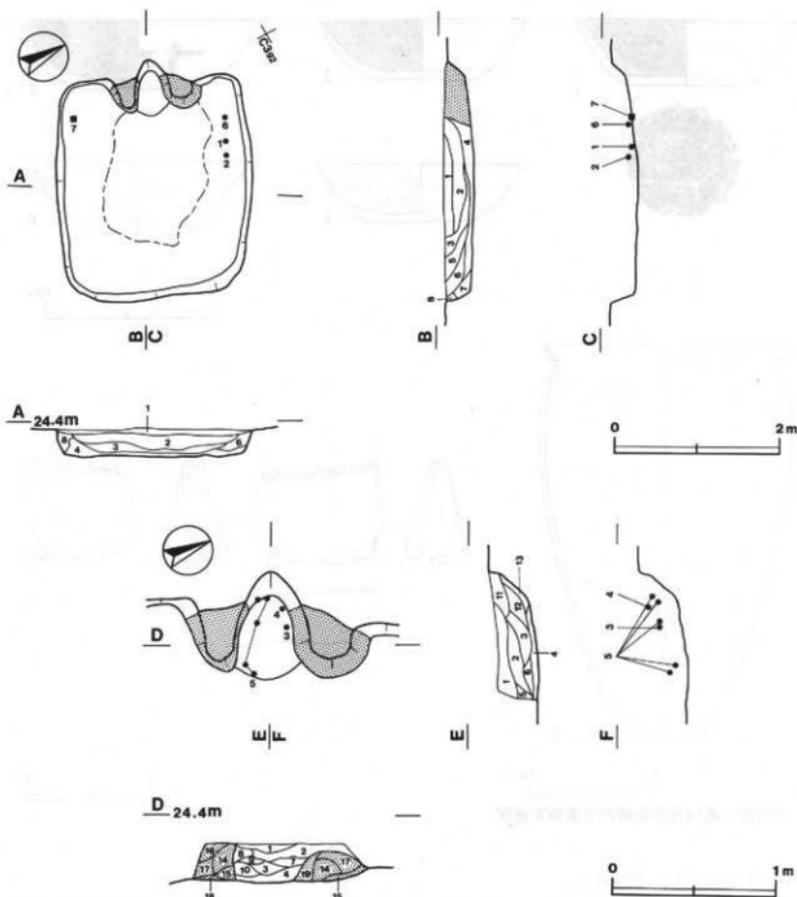
1 褐色	赤色粒子中量	11 濃い褐色	焼土小ブロック・同粒子微量
2 褐色	焼土粒子少量, ローム粒子微量	12 褐色	焼土小ブロック・粘土粒子少量
3 灰褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	13 褐色	粘土粒子微量
4 暗褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量	14 灰褐色	粘土粒子少量, 焼土粒子微量
5 褐色	赤色粒子少量, 炭化粒子微量	15 暗褐色	白色粒子微量
6 褐色	焼土粒子・炭化粒子中量	16 褐色	ローム小ブロック・白色粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	17 褐色	ローム粒子中量, 白色粒子少量
8 褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	18 濃い褐色	ローム粒子多量, 粘性強
9 褐色	粘土粒子微量	19 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
10 褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量		

ピット 床面を精査したが, ピットは確認できなかった。

覆土 8層からなる。ロームブロックを含む層が多く, 人為堆積と思われる。

土層解説

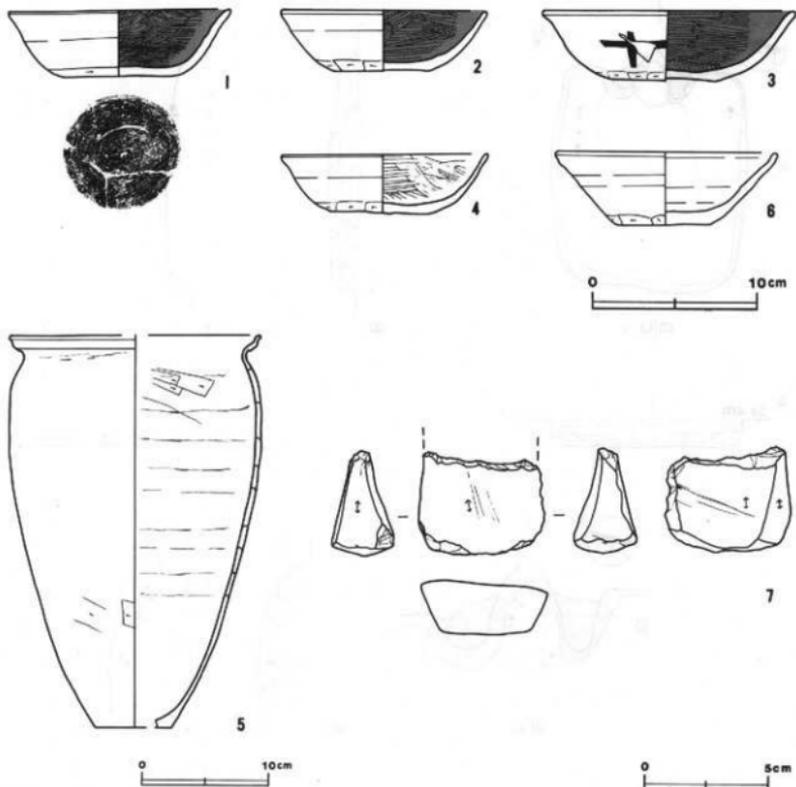
1 黒褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量	5 暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
2 濃い褐色	ローム大ブロック多量, ローム中ブロック少量	6 濃い褐色	ローム大ブロック中量, ローム中ブロック少量
3 暗褐色	ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量	7 黒褐色	ローム小ブロック・同粒子少量
4 濃い褐色	ローム中ブロック多量, ローム小ブロック少量	8 明褐色	ローム粒子多量



第50図 第14号住居跡実測図

遺物 土師器片78点，須恵器片6点，石製品1点（砥石）が出土している。第51図1～4は土師器坏である。1は逆位の，2は正位の状態，それぞれ北西コーナーの床面上から覆土下層にかけて出土している。3は正位の状態，4は逆位の状態，それぞれ竈内から出土している。5は土師器甕で，竈内から横位の状態出土している。底部を欠いており，甕として転用された可能性がある。6は須恵器坏で，北西コーナーの覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土した土器の特徴から，9世紀中頃と考えられる。



第51図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第51図 1	坏 土師器	A 13.6	成形。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がり、肩部は若干外反する。	体部外面ロクロナゲ。体部下端回転ヘナフリ。体部内面磨き、黒色処理。底部回転ヘナフリ。	砂粒・白色砂子 暗褐色 良	P144 100% P L46 床面
		B 4.0				
		C 6.9				
2	坏 土師器	A 12.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナゲ。体部下端手持ちヘナフリ。体部内面磨き、黒色処理。底部一方向の手持ちヘナフリ。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P145 85% P L45 覆土下層
		B 2.8				
		C 5.7				
3	坏 土師器	A 15.5	口縁から底部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がり、肩部は若干外反する。	体部外面ロクロナゲ。体部下端手持ちヘナフリ。体部内面磨き、黒色処理。底部一方向のヘナフリ。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	P146 50% P L45 番書「十ヶ」 壺内
		B 4.5				
		C 5.4				
4	坏 土師器	A 12.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部外面強いロクロナゲ。体部下端手持ちヘナフリ。体部内面磨き。底部回転ヘナフリ切り痕を残す。一方向の手持ちヘナフリ。	砂粒 普通	P147 50% P L45 壺内
		B 2.6				
		C 5.9				

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第51図 5	薬 土 埴 器	A [20.3] B 32.4 C [ 6.2]	口縁部から底部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は緩やかに外反して立ち上がり、肩部は外反してつまみ上げられている。底部は検成後穿孔。	口縁部内・外面積ナデ。体部内・外面ナデ、一部ヘウ割り。	砂粒・雲母に多い褐色良	P150 50% P L46 外面炭化物付着 畿内
6	坏 埴 器	A 13.5 B 4.6 C 5.5	定形。平底。体部から口縁部にかけて外彎して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部下部手持ちヘウ割り。底部二方向の手持ちヘウ割り。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P148 100% P L46 覆土下層

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第51図7	紙 石	(5.2)	4.2	2.6	(53)	北コーナー床面	Q12 漏灰岩

### 第15号住居跡 (第52図)

位置 調査区域の中央部，D 3 c区。

規模と平面形 南北3.11m，東西(1.00)mで，方形または長方形と推定される。住居跡の大半は，調査区域外に位置する。

主軸方向 N-18°-E

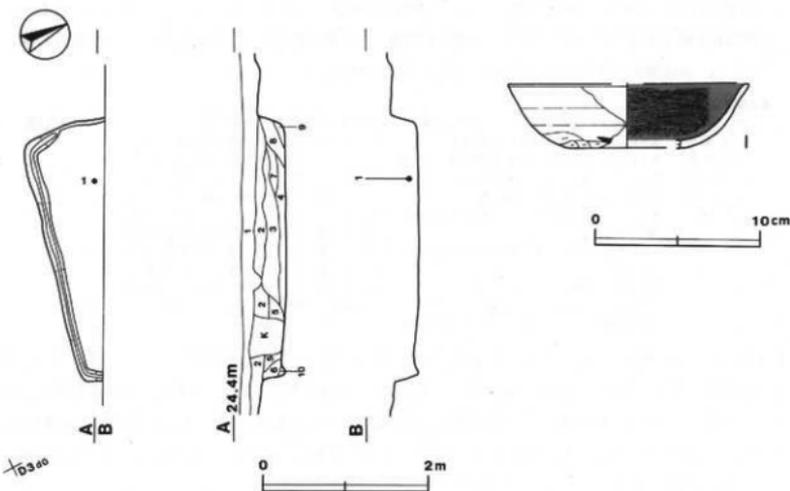
壁 壁高は22~30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北西コーナーから南西コーナーの壁際を巡っている。上幅12~17cm，下幅4~7cm，深さは6~9cmである。

床 ローム質で，平坦である。あまり踏み固められた形跡は認められない。

ピット 床面を精査したが，確認できなかった。

覆土 10層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と考えられる。1層は表土で，2層以下が住居跡の覆土である。



第52図 第15号住居跡・出土遺物実測図

## 土層解説

1 暗 褐色	ローム粒了・赤色粒子少量、粘性・しまり弱	6 褐 色	ローム粒中量、ローム中ブロック少量、粘性強
2 暗 褐色	ローム粒子少量	7 褐 色	ローム粒少量、粘土粒子微量
3 褐 色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	8 暗 褐色	ローム粒了・赤色粒子微量
4 褐 色	ローム粒子・赤色粒子微量、粘性強	9 褐 色	粘土粒子少量
5 褐 色	ローム小ブロック・河粒少量	10 褐 色	ローム粒中量、ローム小ブロック少量

遺物 土師器片 2点、須恵器片 2点が出土している。第52図1は土師器坏で、北部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は出土した遺物から、9世紀中頃と推定される。

## 第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	取上・包蔵・埋蔵	備 考
第52図 1	灰 土 師 器	A [14.4] B 2.9 C [7.1]	口縁部から体部の破片。平底。体部 から口縁部にかけて外傾して立ち上 がる。	体部外用ロコナゲ。体部と胴子 からヘタ取り。体部内面磨き、黒色色焼。 底部手持ちヘタ取り。	緑灰・スコリア・ 雲母 に包蔵・埋蔵	P11 30% 断面有り 覆土下層

## 第16号住居跡（第53図）

位置 調査区域の中央部西側、D 3 h2区。

規模と平面形 長軸3.22m、短軸3.14mの方形である。

主軸方向 N-22°-E

壁 壁高は32~41cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁際を全周する。断面はU字形で、上幅23~46cm、下幅7~18cm、深さは8~12cmである。

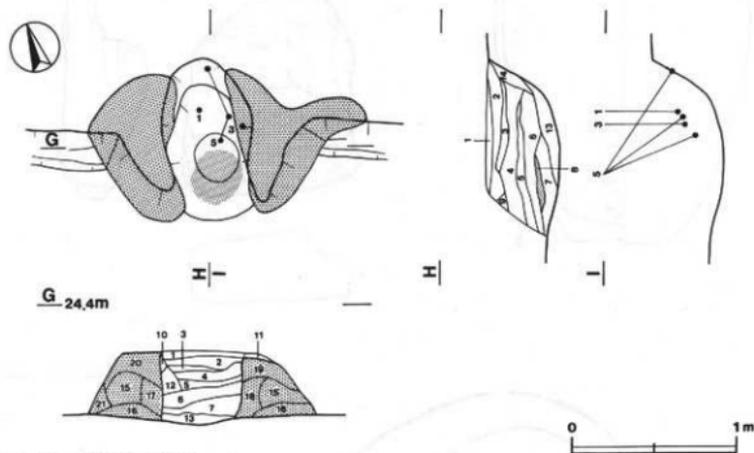
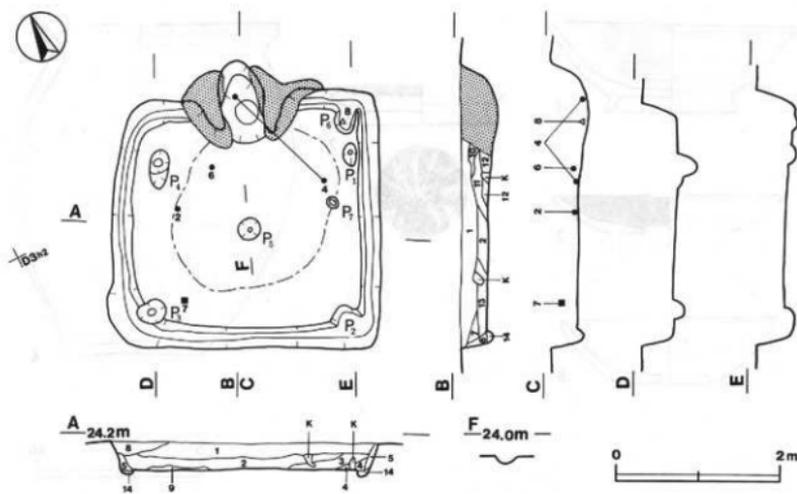
床 ローム質で、平坦である。中央部が踏み固められている。

竈 西壁中央に構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部の上端から焚き口部まで191cm、両袖部幅は140cmである。煙道部は壁外に約44cm掘り込み、煙道は外傾して立ち上がる。15~21層は袖部の土層で、15層を芯材としてその周囲に砂粒混じりのロームを貼り付けて構築している。2~4層は粘土粒子を含んでいることから、天井部が崩落した土層と思われる。火床部は約7cmほど皿状に掘り下げている。火床面から煙道部にかけては、火熱を受けて硬化している。

## 土層解説

1 赤 黒 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量	11 暗 赤 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
2 暗 赤 褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	12 灰 赤 色	焼土粒子・砂粒中量、粘土粒子少量
3 暗 赤 褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、しまり強	13 褐 色	焼土小ブロック・炭化粒子少量
4 灰 赤 色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	14 褐 色	ローム粒了・焼土粒中量
5 赤 灰 色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	15 灰 褐色	粘土粒子少量、ローム粒子中量、粘性・しまり弱
6 にいり赤褐色	焼土中ブロック中量、焼土大ブロック・粘土粒子・砂粒少量、 粘性・しまり弱	16 褐 色	ローム小ブロック・河粒中量
7 にいり赤褐色	焼土中ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、粘性・ しまり弱	17 灰 褐色	粘土粒子中量、白色粒子少量
8 赤 褐色	焼土中ブロック多量、粘性・しまり弱	18 灰 褐色	ローム粒中量、粘土粒子少量
9 灰 赤 色	ローム中ブロック・焼土小ブロック少量	19 暗 褐色	ローム粒了・粘土粒少量
10 赤 灰 色	砂粒多量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	20 暗 褐色	粘土粒子少量、ローム粒少量
		21 褐 色	ローム小ブロック中量

ピット 7か所（P1~P7）。P1~P4はコーナー側に片寄って位置し、主柱穴と考えられる。P1~P4は長径27~36cm、短径18~26cmの楕円形で、深さは10~26cmである。P5は住居の中央部に位置し、径30cmの円形で、深さは10cmである。性格は明らかではない。P6は北西コーナー付近に位置し、長径26cm、短径24cmで、楕円形と推定され、深さは9cmである。P7は東壁寄りに位置し、長径17cm、短径14cmの楕円形で、深さは5cmである。P6・P7は補助的な柱穴の可能性がある。

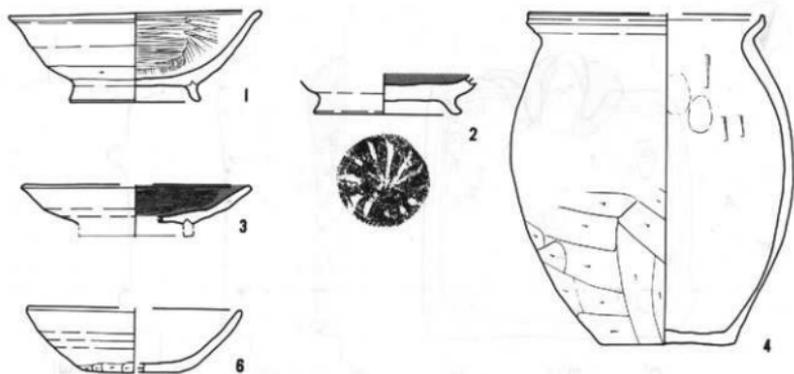


第53図 第16号住居跡実測図

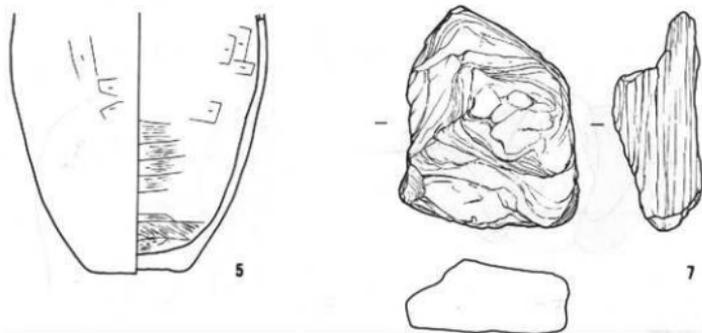
覆土 14層からなる。レンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

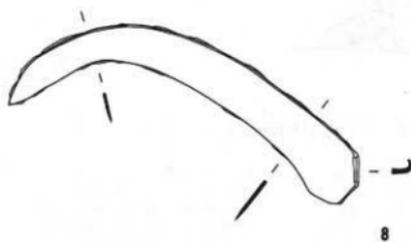
- |        |                     |        |                         |
|--------|---------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色  | 白色粒子多量、ローム粒子・赤色粒子中量 | 8 黒褐色  | ローム粒子中量                 |
| 2 暗褐色  | ローム粒子中量             | 9 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、しまり強 |
| 3 黒褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック微量  | 10 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量             |
| 4 極暗褐色 | ローム小ブロック微量、しまり強     | 11 黒褐色 | 粘土粒子中量、焼土小ブロック少量        |
| 5 褐色   | ローム粒子多量、粘性・しまり強     | 12 黒褐色 | 焼土粒子少量                  |
| 6 暗褐色  | ローム粒子多量             | 13 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量     |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量      | 14 暗褐色 | ローム粒子微量                 |



0 10cm



0 10cm



0 10cm

第54图 第16号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片441点、須恵器片109点、石片1点、鉄製品1点(鎌)が出土している。遺物は、竈内部から多く出土している。第54図1は土師器高台付環、4は土師器小形甕である。4を逆位とし、底部の上に1を伏せた状態で煙道部底面から出土している。二次的な焼成を受けており、支脚として転用された可能性がある。2は土師器高台付環、6は須恵器環で、西壁寄りの覆土下層から出土している。3は土師器高台付皿、5は土師器甕である。それぞれ竈煙道部の底面から逆位の状態でも出土している。7の石片は南西コーナー寄りの覆土下層中から、8の鎌は竈東側の床面上から、それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土した土器から9世紀後半と考えられる。

### 第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	寸法(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第54図 1	高台付環 土師器	A 15.1 B 3.6 D 7.9 E 1.1	口縁部・両面一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がり、口縁部は若干外反する。高台部はハの字状に開く。	体部外面口クロナテ。体部下縁凹陥ヘタ削り。高台部内・外面ナテ。体部内面磨き。底面凹陥ヘタ削り後、ナテ。	砂粒・褐色・普通	P154 75% P.L45 竈煙道部
	高台付環 土師器	B (2.5) D 0.8	成部の破片。高台部はハの字状に開く。	高台部内・外面ナテ。成部内面磨き。胎土処理。底面凹陥ヘタ削り。	砂粒・石灰・長石に多い赤褐色 普通	P153 35% 竈土下層
	高台付皿 土師器	A [13.5] B (2.3)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外面口クロナテ。体部内面磨き。胎土処理。底面凹陥ヘタ削り。	砂粒・白色粒子に多い褐色 普通	P156 40% 竈煙道部
	小形甕 土師器	A [14.5] B 20.1 C 9.1	口縁部から底部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外彎して立ち上がり、体部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面磨きナテ。体部外面上半へタ削り後、ナテ。体部外面下半へタ削り。体部内面上半へタ削り後、ナテ。一部磨損互換を残す。下半磨損強く面不切。	砂粒・石灰・赤褐色に多い褐色 普通	P157 55% 竈煙道部
5	甕 土師器	B (21.2) C 8.0	体部から底部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面上半へタ削り。体部下半不明。体部内面下半ナテ。	砂粒・スロリア・白色粒子 褐色 普通	P158 40% 竈煙道部
	須恵器	A [13.0] B 3.9 C [5.6]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部内・外面口クロナテ。体部下縁手持ちヘタ削り。底面ヘタ削り。	砂粒・黒土・黄褐色 普通	P153 35% 覆土下層

図版番号	種 別	寸 法				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第54図7	石 片	17.9	10.1	2.2	1780	覆土下層	Q13 ホルソフェニス

図版番号	種 別	寸 法				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第54図8	鎌	20.0	3.8	0.2	67.0	竈東側床面	M4 P.L54

### 第17号住居跡(第55図)

位置 調査区域の中央部、D3g1区。

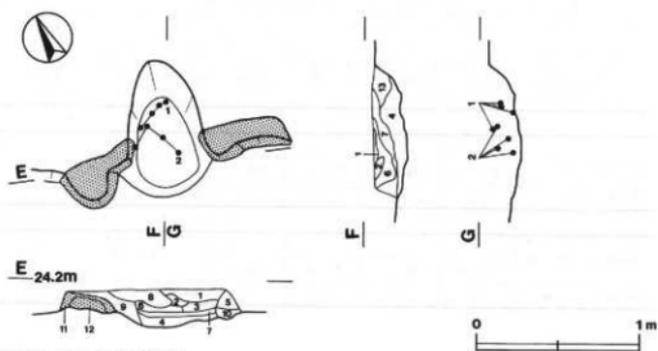
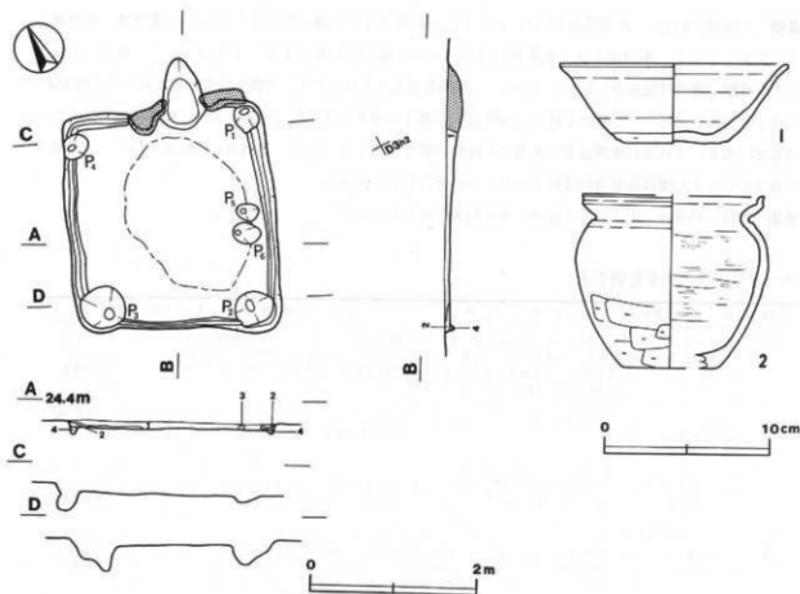
規模と平面形 長軸2.73m、短軸2.5mの方形である。

主軸方向 N-30°-E

壁 壁高は7~13cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁際を全周する。断面はU字形で、上幅8~21cm、下幅3~21cm、深さは6~10cmである。

床 ローム質で、平担である。中央部が踏み固められている。



第55図 第17号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央やや西側に位置する。天井部は削平されている。規模は、煙道部上端から焚き口部まで85cm、両袖部幅109cmである。煙道部は壁外へ約45cm掘り込んで構築され、煙道は緩やかに立ち上がる。10～12層は袖部の土層である。袖部は、灰褐色粘土を芯材として砂質粘土を外側に貼り付けている。また、基部は壁外へ20cm掘り込んで構築されている。火床部は約8cm掘り込まれ、平坦である。火床部は、火を受けて硬化している。

**覆土層解説**

1 灰 褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量	8 深 褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化種子・粘土 粒子・砂粒少量
2 にいり赤褐色	ローム粒子中量、焼土小ブロック少量	9 にいり赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化種子・粘土 粒子・砂粒少量
3 暗 赤 褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量	10 暗 木 褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
4 にいり赤褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブ ロック少量、しまり強	11 灰 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
5 灰 褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量	12 灰 褐色	ローム粒子・粘土粒子中量
6 暗 赤 褐色	焼土大ブロック・同粒子少量、しまり強	13 褐 色	焼土粒子少量
7 灰 褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量		

**ピット** 6か所（P1～P6）。P1～P4は、各コーナーに位置しており、主柱穴と考えられる。径30～48cmの円形で、深さは8～30cmである。P5・P6は、P1とP2の中間に位置し、長径28～34cm、短径22～25cmの楕円形で、深さは20～24cmである。外側の壁の立ち上がりが緩やかなので、出入り口施設に伴うピットと推定される。

**覆土** 2層からなる。レンズ状に堆積しており、自然堆積と思われる。

**土層解説**

1 灰 褐色	ローム中ブロック・炭化物少量	3 明 褐色	ローム粒子中量
2 明 褐色	ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量	4 明 褐色	ローム中ブロック中量

**遺物** 土師器片86点が出土している。第55図1は土師器杯、2は土師器小形甕である。1は破片の状態で、2は横位の状態で、それぞれ竈の覆土下層から上層にかけて出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土した土器の特徴から9世紀中頃と考えられる。

**第17号住居跡出土遺物観察表**

図版番号	器 種	寸法値(cm)	器 形 の 特 徴	平 広 の 特 徴	粘土・色調・産地	備 考
第55図 1	杯 土師器	A 112.7	口縁部から底部の破片。平底。外部 から口縁部にかけて外傾して立ち上 がり、口縁部近く器下外反をせる。	体部内・外面ロウリナデ。体部上縁 区転へく傾り。底部目転へく傾り。	スクリヤ・若石・ 若石 褐色 具	P161 40% P L16 縦置上下・上層
		B 4.8				
		C 6.1				
2	小形甕 土師器	A 111.0	口縁部から底部片。平底。体部は内 傾して立ち上がる。口縁部は強く外 反して立ち上がり、肩部はつまみ上 げられている。	口縁部内・外面外ナゲ。体部外周上 平ナゲ。体部外が平下へく傾り。各 部内面ナデ。	砂粒・白色粘土 に多い赤褐色 赤褐色	P163 40% P L16 縦置上下・上層
		B 10.5				
		C 15.81				

**第18号住居跡（第56図）**

**位置** 調査区域の中央部、D313区。

**重複関係** 第10号溝が本跡の覆土を掘り込んでいるので、本跡の方が古い。

**規模と平面形** 長軸2.74m、短軸2.40mの長方形である。

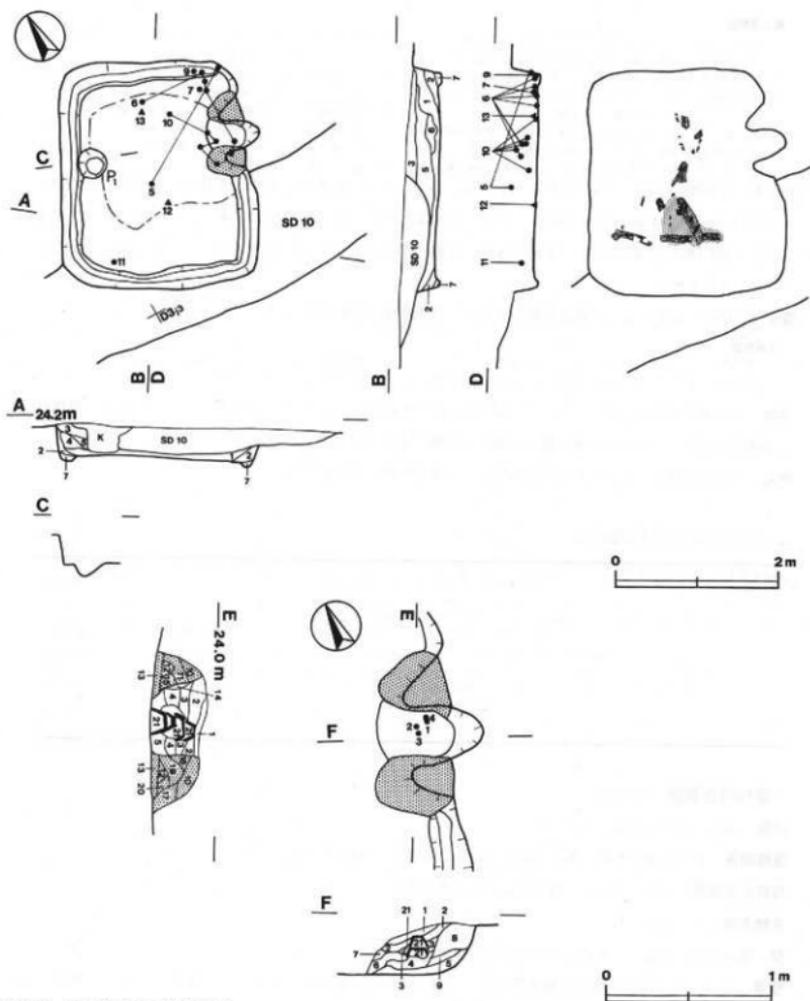
**主軸方向** N-116°-E

**壁** 壁高は30～41cmで、外傾して立ち上がる。

**煙溝** 東コーナー部から竈の北袖部際を除いて通っている。断面はU字形で、上幅17～33cm、下幅6～16cm、深さは6～10cmである。

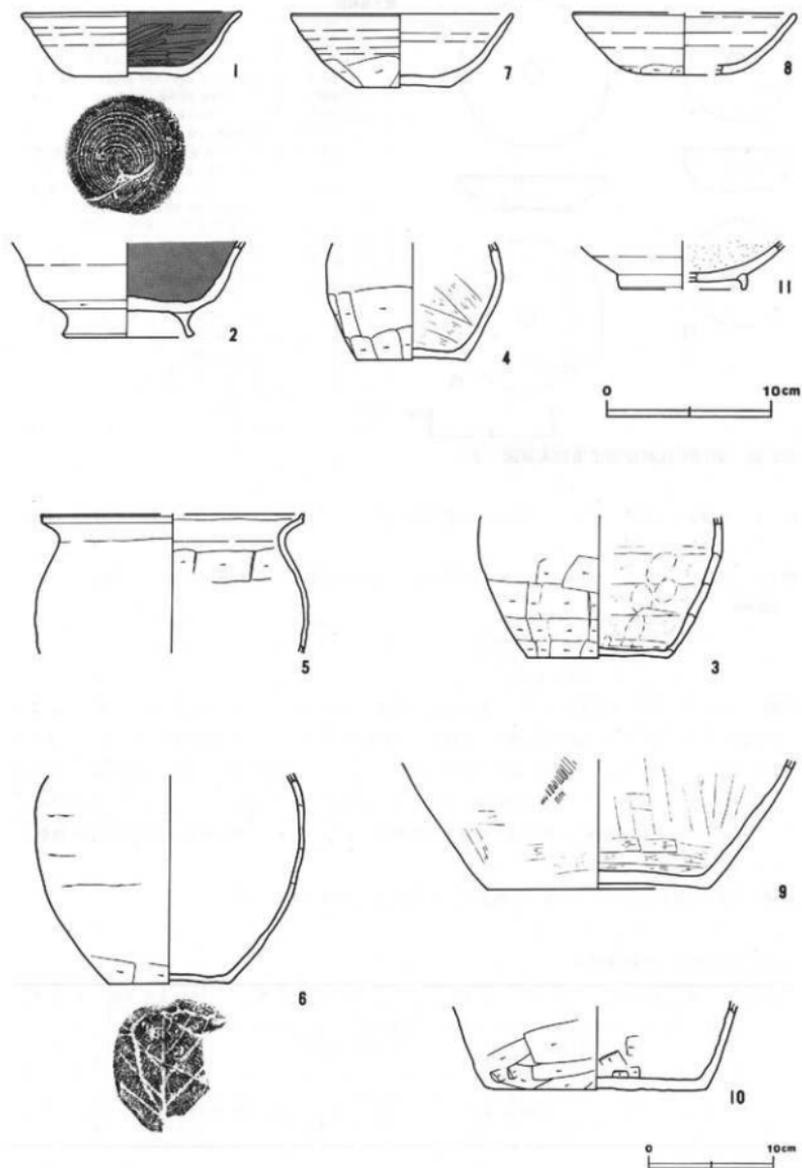
**床** ローム質で、若干の起伏がある。P1から直前にかけて踏み固められている。中央部から南壁寄りの床面から覆土下層にかけて、炭化物が出土している。

**竈** 南東壁の中央部から東コーナー寄りに位置する。天井部は崩落し両袖部が残っている。規模は、煙道部上端から焚き口部まで68cm、両袖部幅99cmである。煙道部は、壁外へ約24cm掘り込んで構築され、煙道は外傾して立ち上がる。10・13・15・18～20層は袖部の土層である。灰褐色粘土を芯材に、砂粒混じりの粘土を貼り付けて構築されている。4・7・8層は砂粒を含み、天井部を構成していた層と考えられる。火床部の掘

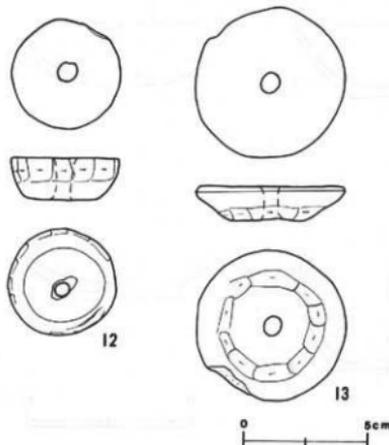


第56図 第18号住居跡実測図

り込みは極めて浅く、床面とほぼ同じレベルで続いている。火床面には焼土が堆積しており、煙道部にかけては火熱を受けて硬化している。両袖部の中間には、底面から第57図3・2・1・4の順で、それぞれ逆位に積み重ね、周囲を粘土で補強して支脚としている。



第57图 第18号住居跡出土遺物実測図(1)



第58図 第18号住居跡出土遺物実測図(2)

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、しまり筋
- 3 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物少量、しまり筋
- 4 にぶい赤褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒少量、しまり筋
- 5 にぶい赤褐色 焼土中ブロック多量、砂粒中量、しまり筋
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・砂粒少量、しまり筋
- 7 赤灰色 砂粒多量、焼土少量、しまり筋
- 8 にぶい赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・粘土大ブロック・砂粒少量、しまり筋
- 9 にぶい赤褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土大ブロック・焼土小ブロック・粘土大ブロック・砂粒少量、粘性・しまり筋
- 10 灰褐色 粘土粒子少量、焼土小ブロック・粘土大ブロック少量
- 11 灰褐色 粘土粒子中量
- 12 灰褐色 粘土粒子多量、粘性・しまり筋
- 13 暗褐色 ローム中ブロック中量、粘性強
- 14 褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、粘性弱
- 15 灰褐色 粘土大ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子少量、粘性強
- 16 褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック少量
- 17 黒褐色 炭化粒子・粘土粒子少量
- 18 暗褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量、粘性強
- 19 暗灰色 粘土粒子中量、ローム粒子少量、粘性強
- 20 褐色 ローム粒子中量
- 21 灰褐色 粘土粒子多量、粘土中ブロック中量、焼土粒子少量、粘性・しまり筋

ピット 1か所。北西壁の中央やや北寄りに位置する。径34cmの円形で、深さは18cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層からなる。ロームブロック・焼土粒子を含んでいる層が多く、人為堆積の可能性がある。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量、ローム小ブロック少量、しまり筋
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物少量、しまり筋
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・焼土中ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物少量、しまり筋
- 5 にぶい褐色 ローム中ブロック中量、焼土粒子少量
- 6 にぶい褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片156点、須恵器片31点、土製品2点(紡錘車)が出土している。第57図1の土師器杯、2の土師器高台付杯、3・4の土師器小形甕は、支脚として使用されており、二次的な焼成を受けている。5・6は土師器甕で、それぞれ甕の周辺から破片の状態で出土している。7は須恵器杯で、甕の北側袖部付近から正位の状態で出土している。9・10は須恵器甕である。9は北東コーナーの床面上から、10は甕の周辺から出土している。11は灰軸陶器碗で、南壁寄りの覆土下層中から出土している。第58図12・13は須恵質紡錘車で、共に床面上から出土している。

所見 本跡の時期は、出土した土器の特徴から、9世紀後半から末と考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第57図 1	杯 土師器	A 13.4	完形。平底。腰部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	外部外面クロコナデ。内部内面磨き・黒色処理。底部回転糸切り。	砂粒・貫母・長石 にぶい褐色	P 164 100% P L 46 甕内
		B 3.9				
		C 6.5				
2	高台付杯 土師器	B (5.8)	口縁部欠損。腰部は外傾して立ち上がる。高台部断面は胴身で高く、若干反してハの字状に開く。	外部外面クロコナデ。高台部内・外面横ナデ。内部内面ナデ。黒色処理。底部回転糸切り後、ナデ。	砂粒・スコリア・貫母・長石 褐色・黄褐色	P 168 60% P L 16 甕内
		D 8.0				
		E 1.6				

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・装成	備 考
第59図 3	小形深土師器	B ( 8.5) C 8.6	体部から底部の破片。平底、体部は内脣して立ち上がる。	体部外面中位ナテ。体部外面下半へウ張り。体部内面ナテの残。一部漆喰に灰。	粉紅・白黄・スワミア・赤黒 外側に深い赤褐色 内面赤褐色 且	P172 30% 露中
4	小形浅土師器	B ( 7.2) C 6.4	体部から底部の破片。平底。体部は内脣して立ち上がる。	体部外面中位ナテ。体部外面下半へウ張り。体部内面ヘウナテ。	粉赤・白黄・赤付 深い褐色 黄	P173 40% P.L.46 露内
5	罎 土師器	A [21.6] B [11.4]	口縁部の破片。体部は内脣して立ち上がる。口縁部は外脣して立ち上がり、胎部は上方につまみ上げれる。	口縁部内・外面ナテ。体部外面調整不齊。胎部内面ヘウ張り。体部内面ナテ。	粉紅・白黄・赤付 深い褐色 赤濁	P170 25% 露上中層
6	罎 土師器	B [17.1] C [10.0]	体部から底部の破片。平底。体部は内脣して立ち上がる。	体部外面ナテ。体部下半ヘウ張り。体部内面調整のため調整不齊。胎部木炭灰。	粉紅・白黄色子 赤褐色 普通	P171 35% 露上ド・中層
7	杯 須恵器	A 13.4 B 4.5 C 5.8	完整。平底。体部から口縁部にかけて急凸出脣して立ち上がる。	体部内・外面ウクロナテ。体部下半手持ちヘウ張り。胎部一方向の手持ちヘウ張り。	粉赤・赤付・白色 赤付 深い赤褐色 普通	P166 100% P.L.46 露上層
8	杯 須恵器	A [13.6] B 3.8 C ( 8.6)	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて着平内脣して立ち上がる。	体部内・外面ウクロナテ。体部下半手持ちヘウ張り。胎部手持ちヘウ張り。	粉紅・石赤・赤付・赤石 灰黄褐色 普通	P167 35% 露土中
9	罎 須恵器	B [16.6] C 18.2	体部から底部の破片。平底。体部は外脣して立ち上がる。	体部外面調整の平内脣。体部内面ナテ。体部内面ナテ。	粉紅・赤・赤石 赤褐色 普通	P174 35% P.L.46 体面
10	浅 花土師器	B ( 7.3) C 17.9	体部から底部の破片。平底。体部は外脣して立ち上がる。	体部外面ヘウ張り。体部内面ナテ。胎部内面ヘウ張り。	粉紅・石黄・スワミア・赤石 灰黄褐色 普通	P175 50% 露上中層
11	罎 須恵器	B ( 2.0) D [ 7.8] E 0.9	体部から底部の破片。体部は内脣して立ち上がる。胎部は「日月状を呈している。	体部内・外面、胎部内面・外面ウクロナテ。胎部内面ヘウ張り。	粉紅 赤褐色・赤黒 灰黄褐色 普通	P168 30% 胎部の定式 露上層

図版番号	規 則	計 測 値				材 質	出土 地 点	備 考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第58図12	刺 性 瓦	4.4	1.8	0.8	33.1	須 恵 瓦	中央部露出	D P13 P.L.33
13	積 性 瓦	6.0	1.4	3.7	49.0	須 恵 瓦	遺跡部露出	D P14 P.L.33

### 第19号住居跡 (第59図)

位置 調査区域の中央部、C 4 J4区。

規模と平面形 長軸3.5m, 短軸3.3mの方形である。

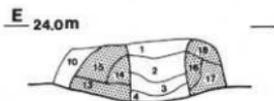
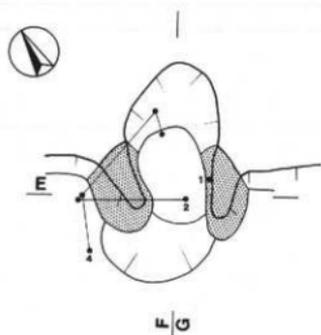
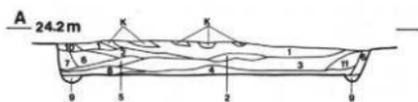
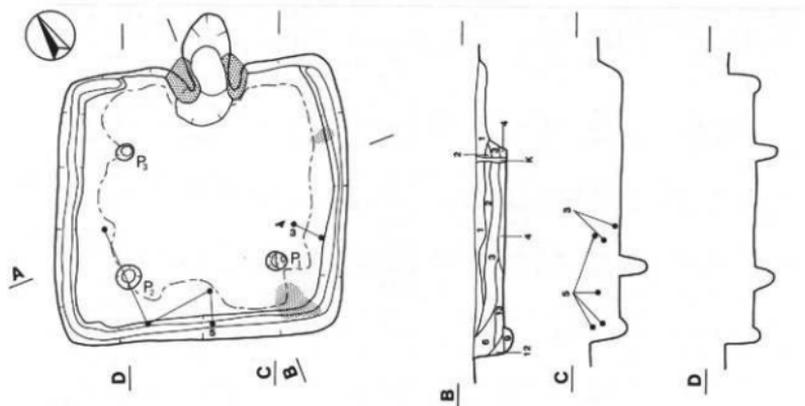
主軸方向 N-35°-E

壁 壁高は28~36cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 東コーナー部から南壁下を経て北コーナー部まで巡る。断面はU字形で、上幅17~35cm, 下幅5~12cm, 深さは7~10cmである。

床 ローム質で、平坦である。中央部が踏み固められている。

竈 北東壁中央に構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。竈の規模は、標道部の上端から焚き口部まで134cm, 両袖部幅99cmである。標道部は、壁外へ約73cm張り込み、構造は緩やかに立ち上がる。13~18層は前部の土層で、ローム混じりの上で袖部を構築している。天井部の土層は明確ではなく、流出している可能性がある。火床部は皿状に5cmほど掘り込まれている。焼上の堆積は少ないが、火床面は火熱を受



第59图 第19号住居跡实测图

け硬化している。

**覆土層解説**

1 暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック微量, 粘性強	10 暗褐色	焼土粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量	11 褐色	焼土粒子微量, しまり強
3 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	12 褐色	焼土粒子微量
4 暗褐色	焼土粒子少量	13 暗褐色	焼土小ブロック・炭化物少量
5 褐色	ローム粒子中量, 粘性強	14 褐色	焼土粒子中量
6 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・赤色粒子少量	15 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子微量
7 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量	16 暗褐色	ローム粒子微量
8 褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量	17 褐色	ローム粒子多量, 粘性強
9 暗褐色	焼土粒子少量, ローム粒子微量, 粘性強	18 褐色	ローム粒子微量

**ピット** 3か所 (P1~P3)。P1~P3は、径21~30cmの円形で、深さは23~36cmである。それぞれコーナーに片寄った位置にあり、主柱穴と考えられる。東コーナー付近の柱穴は、床面を精査したが確認できなかった。

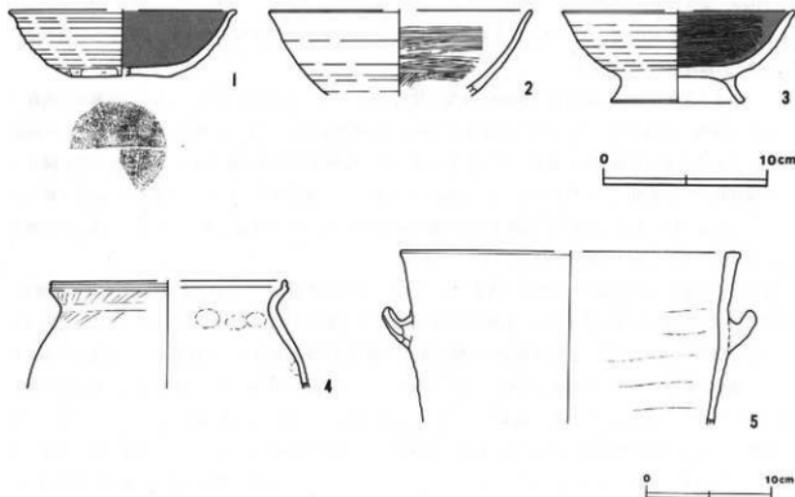
**覆土** 13層からなる。レンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。また、南コーナー付近の床面上には、厚さ約30cmほどの焼土が堆積している。

**土層解説**

1 黒褐色	赤色粒子少量, ローム粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子・赤色粒子少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・赤色粒子少量	9 暗褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ローム大ブロック・同粒子中量, 粘土粒子微量	10 褐色	ローム粒子中量
4 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子・炭化物・焼土粒子少量
5 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子微量	12 極暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 褐色	ローム小ブロック・赤色粒子微量, しまり強	13 暗褐色	ローム中ブロック・同粒子微量
7 褐色	ローム大ブロック・赤色粒子微量, しまり強		

**遺物** 土師器片184点, 須恵器片2点, 陶器片2点が出土している。陶器片は、本跡が埋没する過程で流れ込んだものである。第60図1の土師器坏は竈内から逆位の状態で、2の土師器坏、4の土師器甕は竈の内部及びその周辺から破片の状態で出土している。3の土師器高台付坏は、北西壁寄りの覆土下層から出土している。5の須恵器甌は、西コーナー寄りの覆土中層から上層にかけて出土しており、流れ込んだものと考えられる。

**所見** 本跡の時期は、出土した土器から10世紀前半と考えられる。



第60図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表

図号	部	時間(分)	観察の特徴	手法の特徴	出土・処理・状況	備考
第63図 1	土層部	A [13.6]	口縁部から底部の破片。平直。体部から口縁部にかけて若干内湾して立ち上がる。	体部外面口コナテ、体部外面下縁手打ちへり斬り。体部内面口コナテ、黒色処理。底面破片、底部内面未切り。	緑灰・黄砂 灰黄色 白	P176 45% P145 産土中層
		B 4.9				
		C [6.07]				
2	土層部	A [15.8]	口縁部の破片。体部から口縁部にかけて内湾して立ち上がる。	体部外面口コナテ。体部内面磨き。	緑灰・黄砂 にぶい灰色 黄砂	P177 30% 産土・覆土層
		B (5.2)				
3	高台内面 土層部	A [14.2]	口縁部・裾欠損。体部から口縁部にかけて内湾して立ち上がる。高台は若干外反してハの半状に開く。	体部外面口コナテ、体部内面磨き、黒色処理。高台内面・外面ナテ。底部ナテ。	緑灰・黄砂・白色 砂子 にぶい黄灰色 黄砂	P178 55% P146 覆土層
		B 5.6				
		D 8.2				
		E 1.5				
4	土層部	A [19.2]	口縁部から底部の破片。口縁部は処理して立ち上がり。増加はつまみ上げられている。	口縁部内・外面磨きナテ。体部内・外面土平ナテ。高台内面黒色処理。	黄砂・スコリア・黄砂 白 黄灰色 良	P179 25% 産土・覆土層
		B (8.8)				
5	土層部	A [27.0]	口縁部から底部の破片。体部から口縁部にかけては内湾して立ち上がり。口縁部は曲取りを傷す。体部に把手を持つ。	口縁部部。体部内・外面ナテ。把手はヘア状工具による圧痕。	黄砂・黄砂・灰台 黄灰色 黄砂	P180 20% 産土中～上層
		B (14.1)				

## 第21号住居跡 (第61・62図)

位置 調査区域の中央部、D4c2区。

規模と平面形 長軸4.15m、短軸4.0mの方形である。北西壁の一部が、調査区域外にかかっている。

主軸方向 N-32°-E

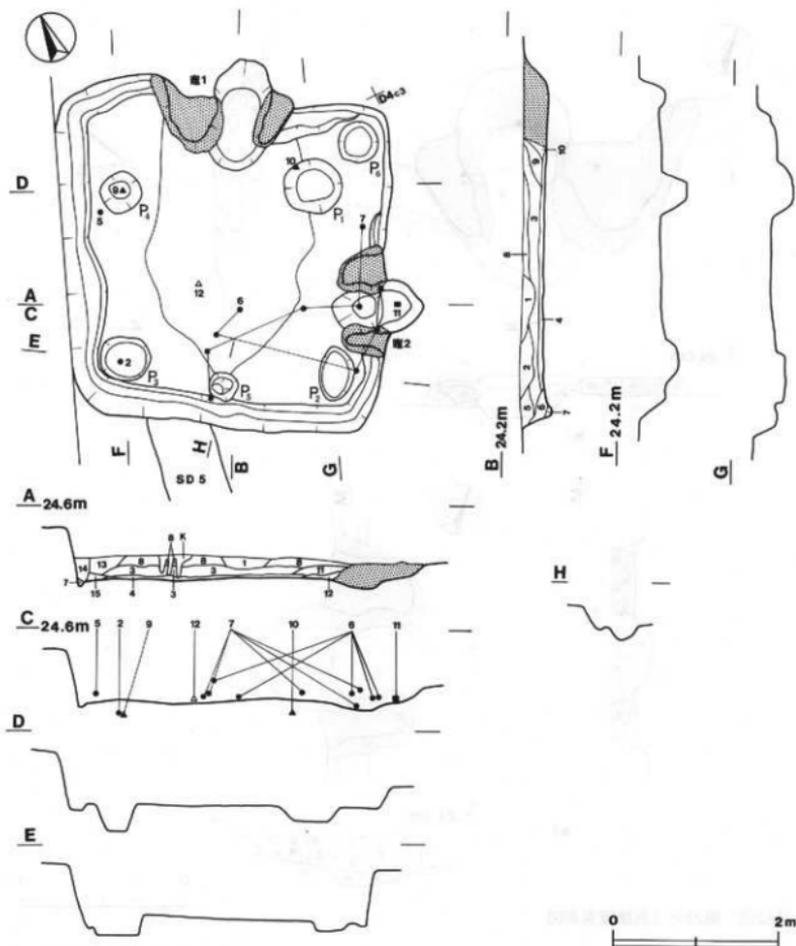
壁 壁高は18~32cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北コーナーから、西コーナーを経て東縁付近まで通っている。断面はU字形で、上幅20~44cm、下幅6~16cm、深さは4~10cmである。

床 ローム質で、おおむね平坦である。北壁の東側に、高さ6cm程度の段を残している。P5から北壁の前面にかけて、踏み固められている。

竈 2基確認されている。竈1は、北東壁中央部に構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部上端から焚き口部まで135cm、両袖部幅173cmである。煙道部は、壁外へ約50cm掘り込んでおり、煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。15~22層は袖部の土層である。袖部は、第63図3・8を補強材として使用し、灰褐色粘土(16・21層)を芯材にして構築されている。火床部は5cmほど掘り込まれ、底面は平坦である。底面上には焼土を含む産土が堆積しており、火床面と考えられる。火床面から煙道部にかけて、火熱を受けて硬化している。

竈2は、南東壁の中央部やや南寄りに構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、煙道部上端から焚き口部まで110cm、両袖部幅135cmである。煙道部は、地山を深さ18cm、壁外へ約50cm掘り込んで構築している。14~20層は袖部の土層である。第63図6を補強材として使用し、灰褐色粘土を芯材として構築されている。3・8層は焼土粒子を含む層で、この下部が火床面と考えられ、4~6層は掘り方の覆土と思われる。火床部は10cm掘り込まれており、平坦である。火床面から煙道部にかけては、火熱をうけて硬化している。煙道部中央の底面には、柱状の石材が立てられた状態で出上っている。表面は熱の影響で赤変している。竈1の方が大形で作りもしっかりしており、こちらが主たる竈と考えられる。竈2の煙道部には柱状の石材が立てられていたが、位置から判断して支脚とみるには検討の余地があると思われる。

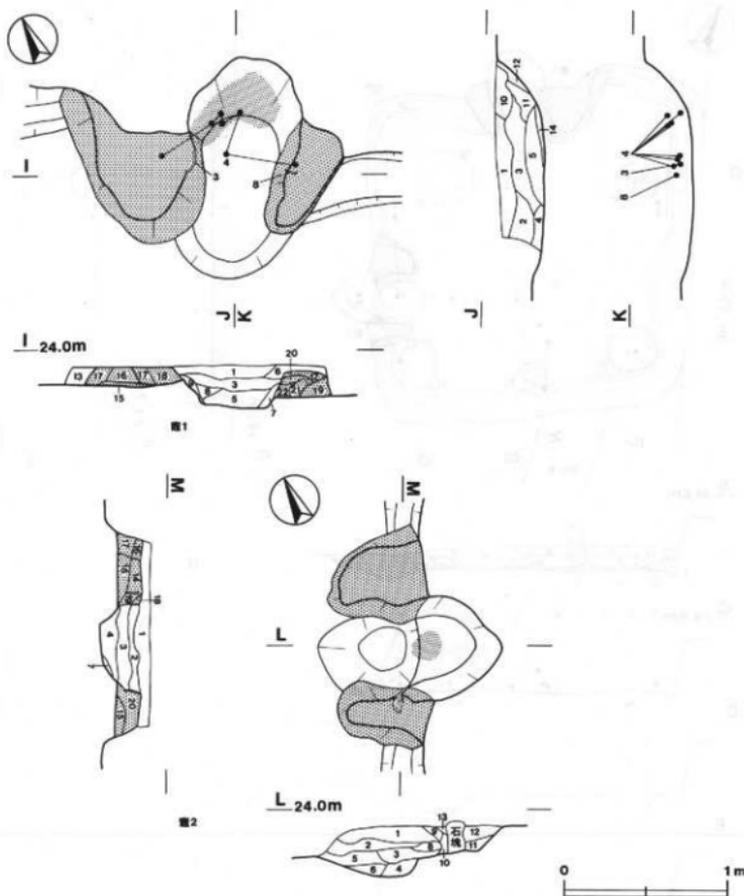


第61図 第21号住居跡実測図

■ 1 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック中量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量
- 3 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック微量
- 6 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量
- 7 褐色 焼土粒子微量
- 8 暗褐色 焼土粒子微量
- 9 褐色 焼土小ブロック微量
- 10 褐色 焼土粒子少量
- 11 明褐色 焼土中ブロック・同粒子中量

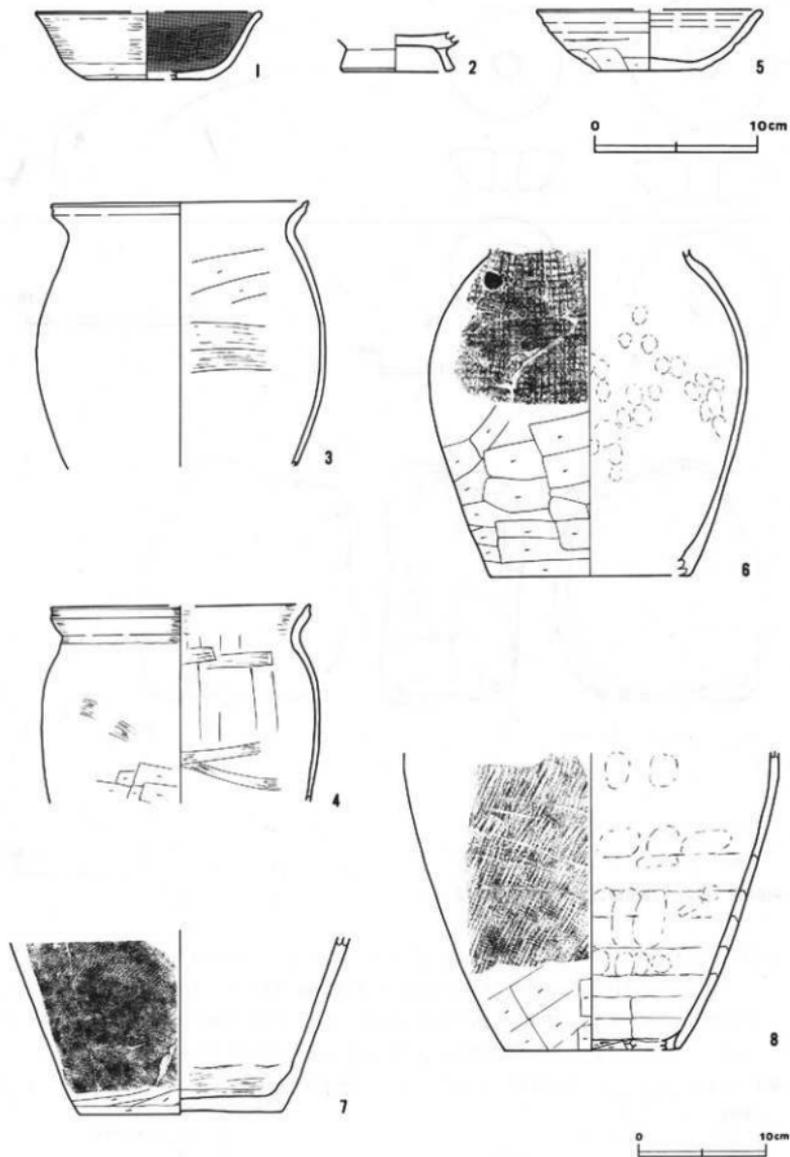
- 12 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 13 褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 14 暗褐色 焼土粒子少量
- 15 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 16 灰褐色 焼土粒子・粘土粒子中量、粘性強
- 17 灰褐色 焼土粒子・粘土粒子少量
- 18 褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量
- 19 暗褐色 焼土粒子中量
- 20 灰褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 21 灰褐色 粘土粒子少量、ローム小ブロック微量
- 22 褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量



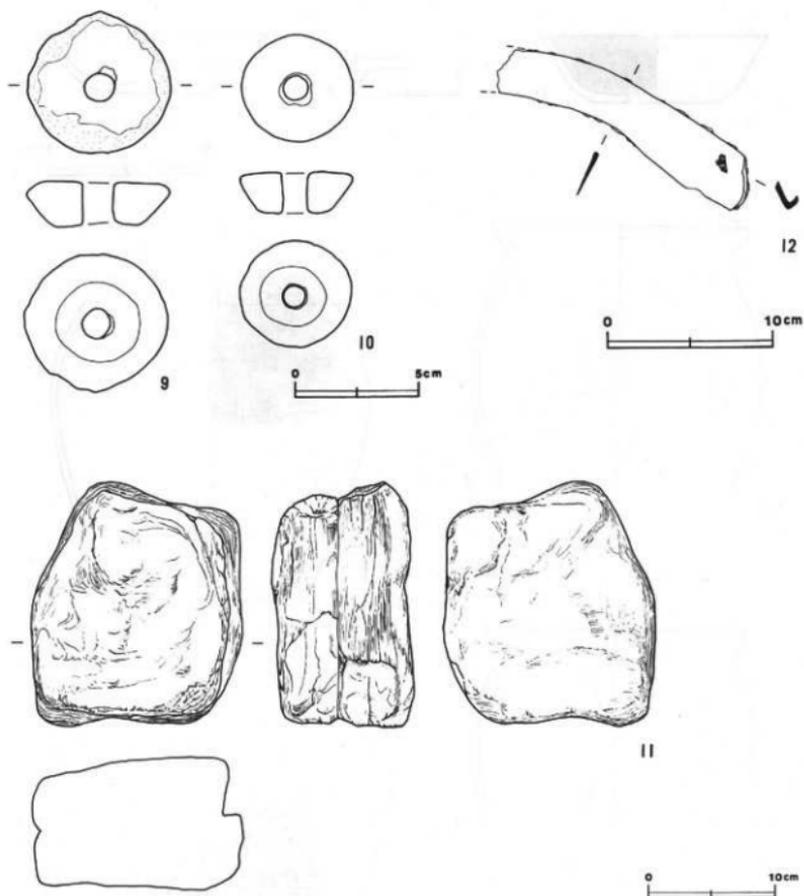
第62図 第21号住居跡実測図

■ 土層解説

- |        |                     |        |                        |
|--------|---------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色  | 砂粒中量, ローム粒子少量, 粘性弱  | 11 褐色  | 炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子中量             | 12 褐色  | ローム粒子少量                |
| 3 暗褐色  | 焼土小ブロック中量           | 13 黒褐色 | 粘土粒子少量, 炭化粒子微量         |
| 4 褐色   | 灰中量, 炭化粒子微量, 粘性強    | 14 灰褐色 | 粘土粒子多量, 炭化粒子微量, 粘性強    |
| 5 黒褐色  | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 | 15 褐色  | ローム粒子中量, 炭化粒子少量        |
| 6 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量, しまり弱  | 16 灰褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量         |
| 7 褐色   | ローム粒子・焼土小ブロック微量     | 17 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量        |
| 8 褐色   | 焼土粒子多量, 炭化粒子少量      | 18 灰褐色 | 粘土粒子少量                 |
| 9 暗褐色  | 焼土粒子少量              | 19 暗褐色 | ローム粒子少量                |
| 10 黒褐色 | 焼土粒子微量              | 20 褐色  | ローム粒子中量                |



第63图 第21号住居跡出土遺物実測図(1)



第64図 第21号住居跡出土物実測図(2)

ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4は、各コーナー側に片寄った位置にあり、支柱穴と考えられる。P1・P3・P4は径48~60cmの円形、P2は長径64cm、短径42cmの楕円形で、深さは12~29cmである。P5は南西壁際の中央部に位置し、径34cmの円形で、深さは14cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は東コーナー部に位置し、径48cmの円形で、深さは16cmである。性格は不明である。

覆土 15層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 紫褐色	ローム粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・同粒子微量	5 褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量	6 暗褐色	ローム粒子中量、赤色粒子微量

7 場 色	ローム粒子中量、粘性強	12 場 色	焼土粒了・炭化粒子少量
8 場 色	ローム粒子微量	13 場 色	ローム粒子微量、粘性・しまり弱
9 場 色	焼土小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	14 場 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
10 場 色	焼土粒子少量	15 場 色	ローム中ブロック・河小ブロック中量
11 場 色	粘土粒子少量、焼土粒子微量		

遺物 土師器片610点、須恵器片310点、灰釉陶器片2点、石片1点、土製品2点（紡錘車）、鉄製品1点（鎌）が出土している。2基の竈付近から比較的多くの遺物が出土している。第63図1の土師器環、4の土師器甕は、それぞれ竈1の覆土中層から出土している。2の土師器高台付坏は、P3の底部から逆位の状態で出土している。3の土師器甕は竈1西袖部から、8の須恵器甕は同じく東袖部からそれぞれ逆位の状態で出土している。6の須恵器甕は、竈2南袖部から逆位の状態で出土している。これらは、竈の補強材として使用されたと考えられる。5は須恵器で、西壁寄りの覆土中層から正位の状態で出土している。7の須恵器甕は、竈2及び住居南側の床面上から覆土下層にかけて、破片の状態で出土している。第64図9の土師器紡錘車はP4内から、10の須恵器紡錘車はP1内からそれぞれ出土している。12の鎌は、中央部付近の覆土下層中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土した土器から9世紀中頃と考えられる。

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第63図 1	坏 土師器	A [13.5]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	底唇・体部下端回転ヘラ削り。体部外周コロナテ。体部内面窪き。灰色焼成。	砂粒 灰褐色 青濁	P151 43% P L17 竈1覆土中
		B 4.2				
		C [7.4]				
2	高台付坏 土師器	B (2.3)	流部の破片。高台はハの字状に開く。	高台部内・外面コロナテ。高台部内面窪き。灰色処理。底部回転ヘラ削り。ナテ。高台部貼り付け。	砂粒・石英 に白い褐色	P185 30% P3底面
		D 6.5				
		E 1.5				
3	素 土師器	A 21.0	体部下以下欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり、流部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ヘラ削り。体部外周ナテ。体部内面上半へ削り。体部内面中位ナテ。	砂粒・スコリア に白い褐色 貝	P186 50% P L47 竈1輪部内
		B (21.5)				
4	流 土師器	A [21.2]	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり、流部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面削りナテ。体部外面上手ナテ。体部外面中位以下へ削り。体部内面ナテ。	砂粒・石英・スコリア 褐色 青濁	P187 35% P L17 竈1覆土中層
		B (16.2)				
5	外 須恵器	A [13.8]	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	口縁部削りナテ。体部内・外面コロナテ。体部下端下持ちヘラ削り。底部・方角の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・長石 灰褐色 青濁	P184 25% P L17 覆土中層
		B 3.7				
		C 6.5				
6	流 須恵器	B (25.2)	体部から底部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面上手粒子目吹き。体部外面下半へ削り。体部内面ナテ後、接頭正成。	砂粒・石英・雲母・長石 に白い褐色 青濁	P189 10% P L17 竈2輪部内
		C 16.0				
7	流 須恵器	B (11.2)	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面逆位の平行叩き。体部下端へ削り。体部内面ナテ。	砂粒・白色粒子 灰褐色 青濁	P190 30% 床面
		C [16.6]				
8	流 須恵器	B (24.4)	体部から底部の破片。平底。孔数不明。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面逆位の平行叩き。体部下端へ削り。体部内面ナテ。接頭正成を残す。底部はヘラ状工具により穿孔。	砂粒・石英・雲母 灰褐色 貝	P191 35% P L17 竈1輪部内
		C 14.2				

図版番号	儀 別	計 測 値				材 質	出 土 地 点	備 考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第64図9	紡錘車	5.8	1.9	1.2	55.0	土 師 器	P4覆土中	D P15 P L53
10	紡錘車	4.5	1.7	1.0	29.6	須 恵 器	P1覆土中	D P16 P L53

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第61図11	石片	19.6	15.7	11.3	5E10	産源不明	Q14 ホルンフェルス

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第64図12	鏃	(15.4)	3.3	0.25	(65.9)	中央部付近下層	M5 有機物付着

## 第22号住居跡 (第65図)

位置 調査区域の中央部, D 4 d3区。

規模と平面形 長軸3.5m, 短軸3.3mの方形である。

主軸方向 N-31°-E

壁 壁高は28~36cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 壁際を全周する。断面はU字形で, 上幅18~34cm, 下幅6~14cm, 深さは5~10cmである。

床 ローム質で, 平坦である。ピットの内側は, 踏み固められている。

竈 北東壁の中央付近に構築されている。天井部は崩落し, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部上端から西側袖部の先端まで108cm, 両袖部幅158cmである。煙道部は壁外へ約60cm掘り込まれ, 煙道は若干角度を変えながら緩やかに外傾して立ち上がる。10~19層は, 袖部の土層である。袖部は, 灰褐色粘土を使用して構築されている。3層は粘土粒子を含んでおり, 天井部の崩落土層と考えられる。火床部は, 竈中央部を径30cmの円形に, 深さ約6cmほど掘りくぼめている。火床部から煙道部にかけて, 火熱を受けて赤変している。

### 電土層解説

1 黒褐色	炭化粒子・赤色粒子少量	11 灰褐色	粘土粒中量
2 暗褐色	焼土粒子微量	12 灰褐色	焼土粒子・粘土粒中量
3 灰褐色	炭化粒子・粘土粒中量, 焼土粒微量	13 褐色	ローム粒中量
4 褐色	焼土粒中量, 粘土粒微量	14 灰褐色	粘土粒少量
5 灰褐色	焼土粒子・粘土粒少量, 粘性強	15 褐色	ローム粒中量, 焼土粒・炭化粒少量
6 褐色	焼土粒少量, ローム粒微量	16 灰褐色	粘土粒中量, 焼土粒少量
7 褐色	粘土粒少量, 焼土粒微量	17 暗褐色	粘土粒少量, 焼土粒微量
8 灰褐色	粘土粒少量	18 灰褐色	粘土粒少量, 焼土粒微量
9 褐色	ローム小ブロック中量	19 暗褐色	焼土粒子・粘土粒少量
10 灰褐色	粘土粒少量, 粘土小ブロック中量, 粘性強		

ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P4は, それぞれコーナー寄りに位置しており, 主柱穴と考えられる。

P1~P3は長径20~28cm, 短径16~23cmの楕円形, P4は径24cmの円形で, 深さは14~24cmである。

P5は南西隅の中央部に位置し, 出入口施設に伴うピットである。径26cmの円形で, 深さは24cmである。

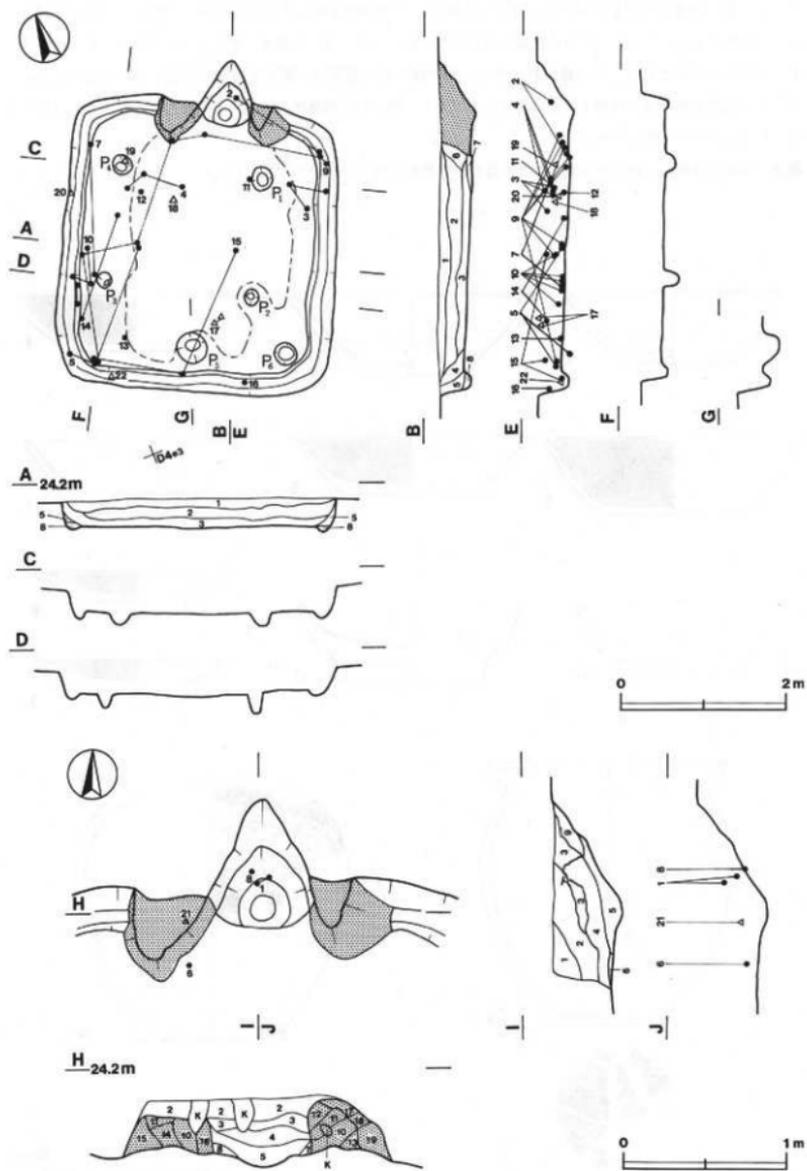
P6は南コーナー部に位置し, 径26cmの円形で, 深さは10cmである。補助的な柱穴の可能性がある。

覆土 8層からなる。レンズ状に堆積しており, 自然堆積と考えられる。

### 土層解説

1 暗褐色	ローム粒少量	5 褐色	ローム粒中量
2 暗褐色	ローム粒少量, ローム小ブロック微量	6 暗褐色	ローム粒中量, 焼土粒・粘土粒少量
3 黒褐色	ローム粒少量, 炭化粒微量, 粘性・しまり強	7 黒色	炭化粒中量, 焼土粒少量
4 暗褐色	ローム粒・炭化粒少量, 焼土粒微量	8 褐色	ローム粒少量, 炭化粒微量

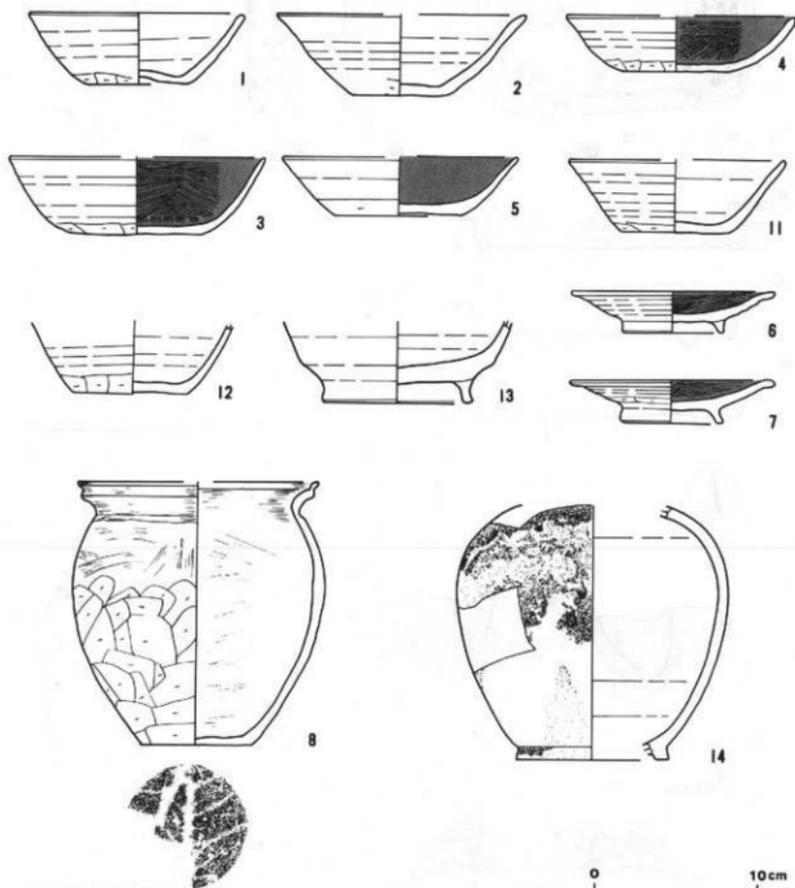
遺物 土師器片302点, 須恵器片66点, 鉄製品5点 (刀子片2, 鎌2, その他1) が出土している。第66図3~5は, 土師器片である。それぞれ, 覆土の下層から中層にかけて出土している。8の土師器小形甕は, 竈の煙道部中央付近から, 底部に2の土師器片をかぶせて, 逆位の状態で出土している。6・7は土師器高台付皿である。6は竈前面から逆位の状態で, 7は北コーナー付近から正位の状態で, それぞれ覆土中層から出土している。第67図10の土師器甕は北西壁際から, 15の須恵器甕は南西壁際から, それぞれ破片の状態で出土し



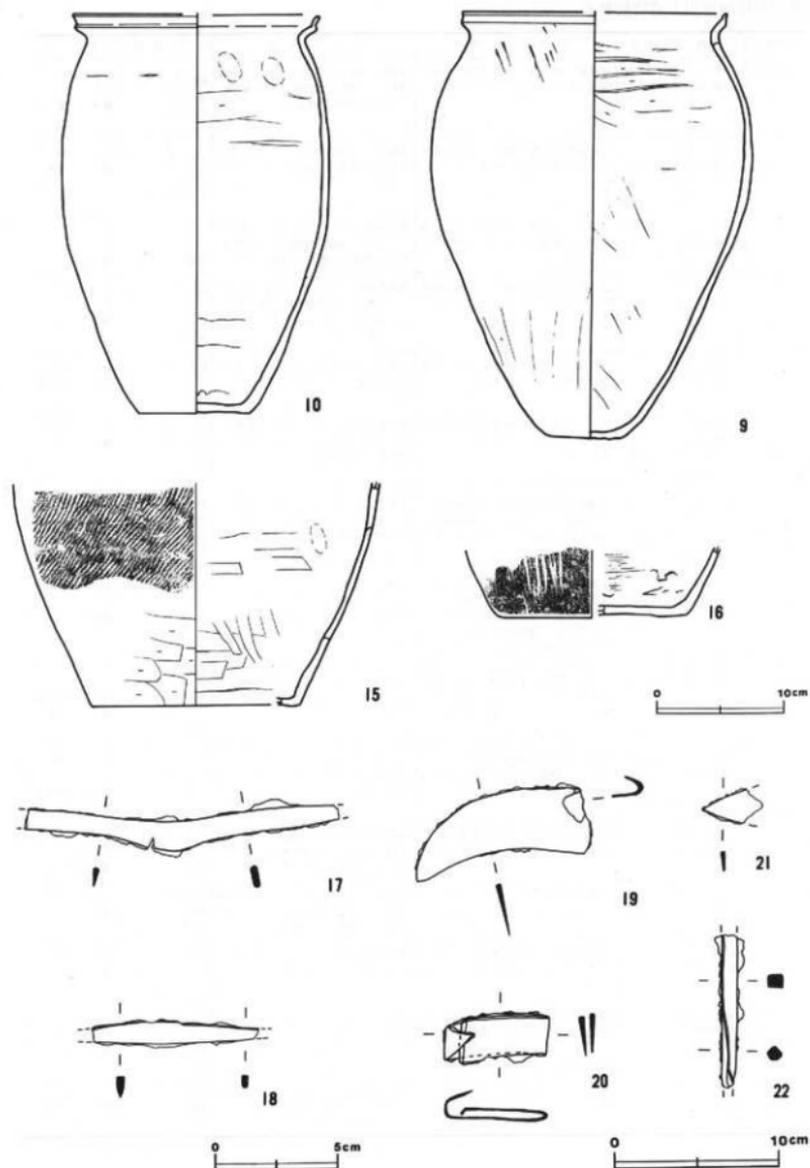
第65图 第22号住居跡实测图

ている。11の須恵器杯はP 1 付近から逆位の状態で、12の須恵器杯はP 4 付近の覆土下層から中層にかけて正位の状態で出土している。13の須恵器高台付杯は、西コーナー寄りの覆土下層から正位の状態で出土している。17の刀子はP 2 付近、19の鎌はP 4 付近、20の鎌は北西壁際の、覆土中層から下層にかけて出土している。15の須恵器高台付壺は覆土上層から出土しており、第23号住居跡出土の破片と接合し、本跡の埋役に伴って流れ込んだものと推定される。

所見 本跡の時期は、竈内から出土した土器から9世紀中頃から後半と考えられる。



第66図 第22号住居跡出土遺物実測図(1)



第67图 第22号住居跡出土遺物実測図(2)

第22号住居跡出土遺物観察表

回収番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色器・収蔵	備 考
第66号 1	坏 土 師 器	A 12.9	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外側ロクロナデ。体部下部手持ちへつ折り。底部回転へつ切り後、多方向の手持ちへつ折り。	砂粒・スクリヤ・青 土・灰 褐色 普通	P192 60% P.L47 覆土中層
		B 4.5				
		C 6.1				
2	坏 土 師 器	A [15.2]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外側ロクロナデ。体部下部手持ちへつ折り。底部一方向手持ちへつ折り。	砂粒・青母・白色 粘土 暗赤褐色 普通	P193 40% 覆土下〜中層
		B 4.9				
		C 5.6				
3	坏 土 師 器	A [15.4]	口縁部から底部・部欠損。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外側ロクロナデ。体部下部手持ちへつ折り。体部内面磨き。黒色処理。底部二方向の手持ちへつ折り。	砂粒・スクリヤ 褐色 普通	P194 55% P.L47 覆土中層
		B 4.7				
		C [7.8]				
4	坏 土 師 器	A [14.0]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外反して立ち上がる。	体部外側ロクロナデ。体部下部手持ちへつ折り。体部内面磨き。赤褐色。底部回転へつ切り後、一方向の手持ちへつ折り。	砂粒・青母・白色 粘土 褐色 普通	P195 40% P.L47 覆土中層
		B 3.4				
		C 6.4				
5	坏 土 師 器	A [14.3]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外側ロクロナデ。体部内面磨き。黒色処理。底部一体部下部回転へつ折り。	砂粒・青母 灰褐色 普通	P196 40% 底面・覆土下層
		B 3.6				
		C 7.6				
6	高台付 土 師 器	A 12.3	胴形。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部外側ロクロナデ。体部内面磨き。黒色処理。高台部内・外側ナデ。底部回転へつ折り後、ナデ。	スクリヤ・青母 に多い褐色 貝	P200 100% 覆土中層
		B 3.0				
		D 6.1				
		E 0.5				
7	高台付 土 師 器	A 12.4	口縁部一部欠損。各場から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。高台は若干外反する。高台はハの字状に開く。	体部外側ロクロナデ。体部下部手持ちへつ折り。黒色処理。高台部内・外面ナデ。底部回転へつ折り後、ナデ。	砂粒 褐色 普通	P203 70% P.L47 覆土中層
		B 2.3				
		D 6.1				
		E 1.0				
		C 1.0				
8	小形 土 師 器	A [14.7]	口縁部・底部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。底部はくの字状に開く。口縁部は外反して立ち上がり、高台は若干外反してつまみ上げられている。	口縁部内・外側ナデ。各場外面ナデナデ。体部外面ナデへつ折り。底部はハの字状に開く。黒色処理。	砂粒・石炭・赤母 灰 に多い赤褐色 貝	P208 85% P.L47 磁器遺物
		B 16.1				
		C [6.8]				
9	高 土 師 器	A [21.0]	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり、高台は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外側ナデ。体部外面へつ折り後、ナデ。体部内側上下へつ折り、下ナデ。	砂粒・スクリヤ・ 石炭 に多い褐色 普通	P206 50% 外山灰化層付着 覆土下〜中層
		B 34.2				
		C 5.6				
10	高 土 師 器	A 19.7	体部一部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり、高台は若干外反してつまみ上げられている。	口縁部内・外側ナデ。体部外面ナデ。体部内側上へつ折り。一部相無圧着。体部内側下ナデ。	砂粒・石炭・赤母 に多い赤褐色 普通	P207 50% P.L47 外山灰化層付着 覆土中層
		B 32.0				
		C 8.9				
11	坏 土 師 器	A [12.9]	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外側ロクロナデ。体部下部手持ちへつ折り。底部回転へつ切り後、多方向の手持ちへつ折り。	砂粒・黒石 褐色 普通	P199 60% P.L47 覆土中層
		B 4.4				
		C 8.6				
12	坏 土 師 器	A [4.3]	口縁部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外側ロクロナデ。体部下部手持ちへつ折り。底部回転へつ切り後、一方向の手持ちへつ折り。	砂粒・青母 褐色 貝	P200 60% 覆土中層
		B 7.0				
		C 7.0				
13	高台付 土 師 器	A [5.0]	口縁部欠損。体部は外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部内・外側ロクロナデ。高台部内・外面ナデ。底部回転へつ折り。	砂粒・スクリヤ・青 母・色粘土 に多い黄褐色 赤褐色 普通	P201 60% 覆土下層
		B 9.2				
		E 1.3				
14	高台付 土 師 器	A [15.5]	体部から底部の破片。体部は内彎して立ち上がる。高台は、狭くハの字状に広がる。	体部内・外側ロクロナデ。高台部内・外面ナデ。外側に自然釉。	砂粒・白色粘土 褐色 普通	P205 55% 覆土中層
		B [9.2]				
		E 0.8				
15	高 土 師 器	B [17.9]	体部から底部の破片。体部は若干内彎して立ち上がる。	体部外面磨きの平行磨き。体部下部へつ折り。体部内側ナデの後、一部指頭厚。	砂粒 黄褐色 普通	P209 30% 覆土中・上層
		C [16.6]				

図版番号	名称	計測値(cm)	断片の特徴	手法の物数	粘土・灰濁・練成	備考
第66回 16	磁器 灰磁器	B (5.4) C 115.21	体部から底部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外側へうねり後、縁部の平行印が、体部内面ナデ。	丹紅・白色粒子 黒褐色 普通	P201 25% 後P1層

図版番号	種別	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第70回17	刀子	(12.8)	1.2	0.3	(13.8)	中央部五層土上層	M7
18	刀子	(6.8)	0.9	0.3	(6.4)	第五回層土中層	M9
19	鏃	11.1	3.3	0.3	37.7	第五回層土中層	M6 青銅物付者 P L54
20	鏃	114.31	2.5	0.3	33.8	北西回層土下層	M8 P L54
21	鏃	(3.6)	(2.1)	0.2	(3.6)	第五回層土中層	M11
22	棒状鏃器	(9.4)	(0.9)	0.8	(3.4)	西コーナー付五層土下層	M10

### 第23号住居跡(第68回)

位置 調査区域の中央部、D4d4区。

規模と平面形 長軸3.35m、短軸3.07mの方形である。後述するように、竈西側の壁の外側に棚状施設を有していた可能性がある。

主軸方向 N-8°-W

壁 壁高は32~38cmで、外傾して立ち上がる。

竈溝 断面はU字形で、上幅10~24cm、下幅2~10cm、深さは4~6cmである。

床 ローム質で、ほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。

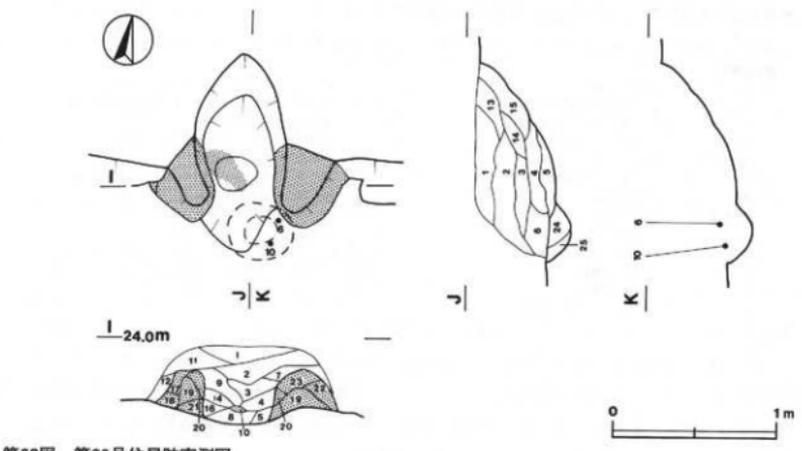
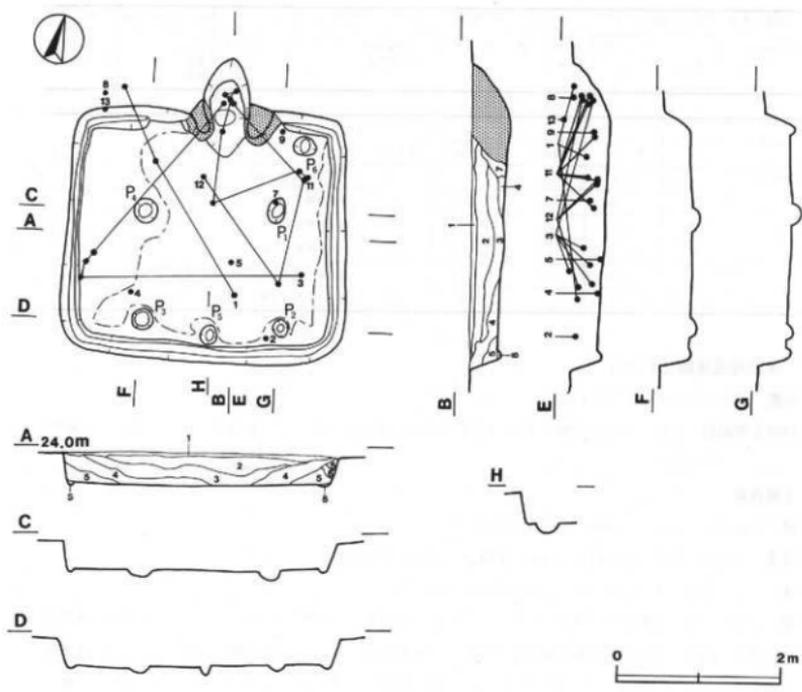
竈 北壁中央部やや東寄りに構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、棚道部上端より突き口部まで119cm、両袖部幅114cmである。煙道部は、室外へ約67cm掘り込んでおり、煙道は角度を変えながら緩やかに外傾して立ち上がる。17~23層は袖部の土層である。袖部は、灰褐色粘土(19層)を芯材として、褐色土を貼り付けて構築されている。3層は粘土粒子を含んでおり、天井部の崩落土と考えられる。東側袖部の先端付近に、長径42cm、短径35cmの楕円形で、深さ13cmのピットを設けて掘り方としている。火床部は、床面から5cm掘り下げており、平屋である。火床部から煙道部にかけて、火熱を受けて赤変している。

#### 竈土層解説

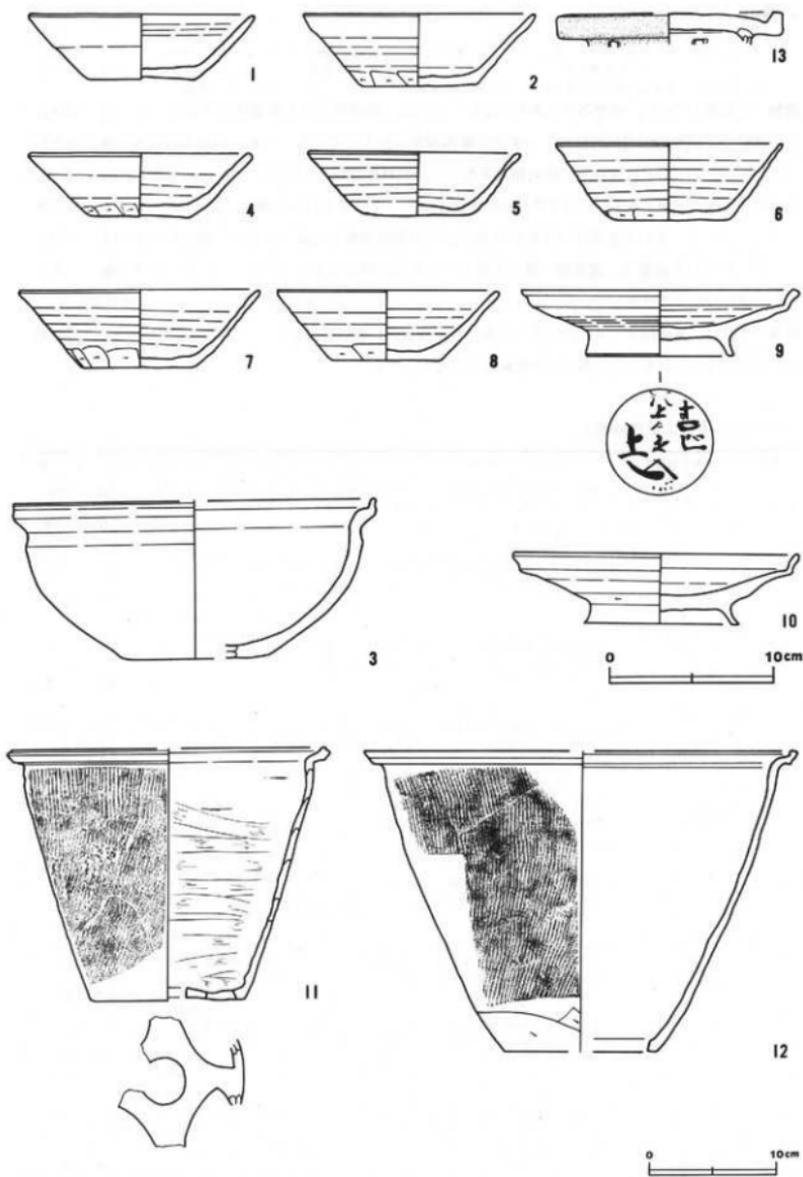
1 暗褐色	赤色砂子少量	14 灰褐色	粘土粒中砂、焼土粒少量
2 暗褐色	ローム粒子・赤角粒少量	15 灰褐色	焼土小ブロック・粘土粒少量、粘性強
3 褐色	ローム粒中砂、粘土粒少量	16 黒褐色	焼土粒少量
4 褐色	ローム粒少量、粘土粒少量、粘性强	17 にぶい褐色	焼土粒少量、粘土粒微量
5 暗褐色	焼土粒少量	18 にぶい褐色	焼土粒少量
6 褐色	ローム粒子・炭化粒少量	19 灰褐色	粘土粒少量、焼土粒少量、粘性強
7 褐色	炭化粒少量	20 灰褐色	粘土粒中砂、焼土粒少量
8 暗褐色	焼土粒少量	21 暗褐色	灰化物中砂、焼土小ブロック少量
9 褐色	ローム粒少量、粘性強	22 にぶい褐色	ローム粒子・炭化粒少量
10 褐色	粘土粒中砂、粘性強	23 褐色	ローム粒子・炭化粒少量
11 黒褐色	ローム粒少量	24 褐色	焼土粒少量、炭化粒少量、粘性・しまり強
12 褐色	ローム粒少量	25 褐色	ローム粒少量、粘性強
13 褐色	ローム粒子・炭化粒少量		

ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4は、それぞれ壁際へ寄った位置にあり、主柱穴と考えられる。P1は長径31cm、短径23cmの楕円形、P2~P4は径20~30cmの円形で、深さは10~15cmである。P5は南壁際中央付近に位置し、出入り口施設に伴うピットである。長径26cm、短径20cmの楕円形で、深さは15cmである。P6は北東コーナー部に位置する。径26cmの円形で、深さは26cmである。補助的な柱穴と考えられる。

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積しており、自然堆積と思われる。



第68图 第23号住居跡实测图



第69图 第23号住居跡出土遺物実測図

## 土器解説

- 1 黒褐色 ローム粒や、焼土小ブロック少量 4 灰褐色 ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量  
 2 黒褐色 ローム小ブロック、焼土中ブロック、焼土小ブロック、炭化腐少量 5 に近い褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック、炭化腐少量  
 3 暗褐色 焼土大ブロック、焼土小ブロック、炭化腐少量 6 に近い灰色 ローム大ブロック多量、ローム小ブロック、焼土小ブロック少量

遺物 土師器片259点、須恵器片128点が出土している。第69図1の土師器環は逆位で、8の須恵器環は破片の状態で、13の円面鏡は逆位で、いずれも竈西側から出土している。これらの土器は本跡の確認図と同じ高さから出土しており、竈西側に欄状施設を有していた可能性が考えられる。4・5・7は須恵器環である。4はP3付近の床面上から、5は中央付近の床面上から、7はP1付近の覆土下層から、それぞれ正位の状態出土している。6の須恵器環は正位の状態、10の須恵器蓋は逆位の状態、竈前面の床面上から出土している。9の須恵器蓋は、竈東側の覆土下層から正位の状態出土している。11・12の須恵器瓶は、共に竈内から破片の状態出土している。

所見 本跡は、第69図1・8・13の出土状況から、竈西側に欄状施設を有していた可能性がある。本跡の時期は、床面付近から出土した土器から9世紀前半と考えられる。

第23号住居跡出土遺物観察表

加観番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・紋様	備考
69004 1	杯 土師器	A 13.7	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナテ。底部多方向手持ちへう割り。	胎土・石灰・スリア 灰・黄砂・長石 に多い暗褐色 青濁	P212 70% P.L.48 覆土下層
		B 4.1				
		C 6.6				
2	杯 土師器	A 14.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて若干外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナテ。体部下部手持ちへう割り。底部ほぼへう割り後、手持ちへう割り。	胎土・黄砂・白色 灰 灰黄褐色 青濁	P213 60% P.L.48 覆土中層
		B 4.4				
		C 7.0				
3	鉢 土師器	A [26.0]	口縁部から底部の破片。平底。口縁部は芯内押しして立ち上がり、底部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナテ。体部内・外面器部が欠け、調査不明。	胎土・黄砂・白色 灰 に多い褐色 青濁	P222 45% P.L.48 覆土下層
		B 9.6				
		C [9.0]				
4	杯 須恵器	A 13.5	定形。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナテ。体部下部手持ちへう割り。底部多方向の手持ちへう割り。	胎土・石灰・黄砂・ 長石 暗褐色 青濁	P214 100% P.L.48 床面
		B 4.0				
		C 6.1				
5	杯 須恵器	A 12.7	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナテ。底部ほぼへう割り。	胎土・石灰・黄砂・ 長石 暗褐色 青濁	P215 75% P.L.48 床面
		B 4.0				
		C 6.6				
6	杯 須恵器	A 12.8	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナテ体部下部手持ちへう割り。底部ほぼへう割り後、多方向の手持ちへう割り。	胎土・スリア・ 黄砂・白色灰 灰黄褐色 青濁	P216 75% P.L.48 床面
		B 4.7				
		C 7.0				
7	杯 須恵器	A 13.5	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナテ。体部下部手持ちへう割り。底部多方向の手持ちへう割り。	胎土・石灰・黄砂・ 長石 暗褐色 青濁	P217 70% P.L.48 覆土下層
		B 2.5				
		C 6.1				
8	杯 須恵器	A [13.4]	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナテ。体部下部手持ちへう割り。底部多方向の手持ちへう割り。	胎土・スリア・ 白色灰 灰黄褐色 青濁	P218 60% P.L.48 覆土上層
		B 4.3				
		C 6.6				
9	甕 須恵器	A 16.8	口縁部・器内部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり、口縁部と器に接合部。口縁部は芯内押しする。底台はひの字状に開く。	口縁部内・外面ナテ。体部内・外面口クロナテ。高倉取り付け後、内・外面ナテ。底部ほぼへう割りを残し、ナテ。	胎土・黄砂・石灰 に多い黄褐色 真	P220 75% P.L.48 遺土「上口」 覆土下層
		B 4.0				
		D 8.8				
		E 1.2				

図面番号	部 材	計測値(cm)	部 材 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・炭素	備 考
10	敷	A [17.1]	口縁部一部欠損。底部は外傾して立ち上がり、口縁部下縁に後を折つ。口縁部は左右外反する。高台はへの字状に開く。	口縁部内・外面ナテ。作部内・外両面コシロナク。底部下縁同様にヘリ取り。底部同様にヘリ取り。高台部は付片後、内・外両ナテ。	赤灰・白黄・スロ ア・黄緑・黒 褐色 青黒	P221 70% P L48 作田
	須	B 4.3				
	底	D 0.3				
	E 0.8					
11	瓶	A [24.8]	底部から底部の破片。5孔。底部は外傾して立ち上がり、口縁部は強く外反する。口縁部は僅くつまみ上げられ、基部下縁に血痕りを施されている。	口縁部内・外面ナテ。底部外面壁位の平写印子。底部内面ヘラナテ。底部はヘラ状工具により穿孔。	赤灰・白黄・黒 灰白色 黒	P221 40% P L48 横濱・中野
	須	B 20.2				
	C [12.2]					
12	瓶	A [24.1]	底部から底部の破片。孔数不明。底部は外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反し、口縁部に傾斜り手痕を施されている。	口縁部内・外面ナテ。底部外面壁位の平写印子。下縁へリ取り。底部内面ヘラナテ。底部はヘラ状工具により穿孔。	赤灰・黄緑 灰褐色 黒	P223 30% 横濱・小野
	須	B 24.1				
	C [12.0]					
13	内面	A [13.8]	破面部の破片。底部は断面内面形を呈し、器部は凸レンズ状に膨らむ。底部は幅7～8mmの溝かしを6方向に持つ。	断面部内・外面コシロナク。破面部外面に自然輪がわかる。	赤灰・スロリア 灰褐色 黒	P221 40% 横濱・上野
	外面	B [1.9]				
	E [0.7]					

## 第27号住居跡 (第70図)

位置 調査区域の中南部，D3g9区。

規模と平面形 長軸3.41m，短軸3.27mの方形である。

主軸方向 N—7°—E

壁 壁高は54～58cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

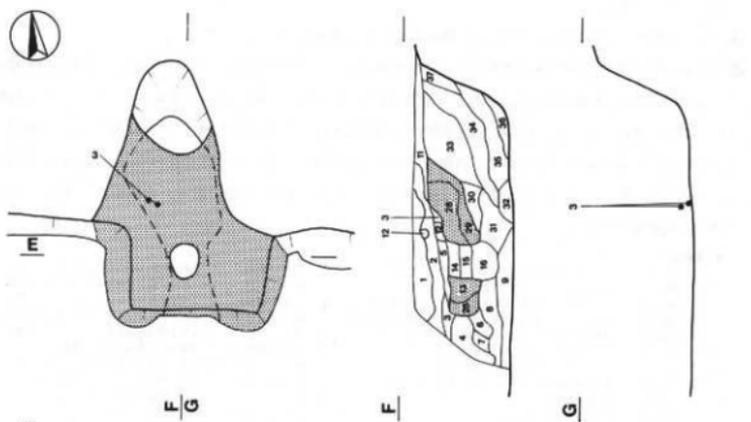
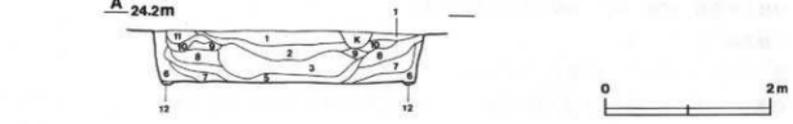
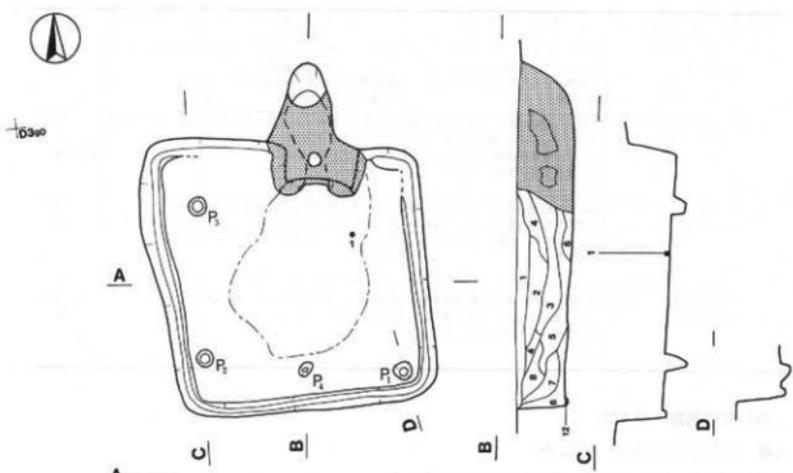
壁溝 北東コーナー部から南壁を経て北西コーナー付近までの壁際を巡る。断面は逆台形で，上幅17～27cm，下幅6～13cmである。

床 ローム質で，平坦である。P4から電前面にかけて踏み固められている。

竈 北壁の中央部や東寄り位置する。遺存状態は良く，天井部が残っている。規模は，煙道部上端から焚き口部まで155cm，両輪部幅115cmである。煙道部は壁外へ約102cm掘り込んで構築されており，壁は外傾して立ち上がる。煙出しとして，長径46cm，短径41cmの楕円形の穴を上端部に設けている。13・18～29層は，袖部及び天井部の土層である。粘土混じりの褐色土を中心に構築されている。天井部の中心には，長径23cm，短径19cmの楕円形の掛け目を設けている。火床面は床面と同じ高さで，平坦である。火床面から煙道部にかけて，火熱のため赤変している。

### 壁土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・粘土中ブロック・焼土小ブロック少量	20 にぶい褐色	ローム粘土中量，ローム小ブロック微量，粘質土
2 灰褐色	焼土粒下・粘土中ブロック少量	21 褐色	ローム粘土中量，ローム小ブロック少量
3 黒褐色	ローム中ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック・砂粒少量	22 にぶい褐色	ローム粘土少量，ローム小ブロック・炭化灰少量
4 黒褐色	焼土大ブロック中量，焼土粒子・粘土中ブロック・砂粒少量，粘質土	23 明褐色	ローム粘土中量，ローム中ブロック微量，粘質土
5 暗赤褐色	焼土粒子・粘土大ブロック・粘土中ブロック少量	24 褐色	ローム粘土・焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
6 黒褐色	ローム中ブロック・粘土中ブロック少量	25 にぶい褐色	ローム粘土・炭化灰粒子・赤色粘土少量
7 黒褐色	ローム中ブロック・粘土中ブロック・砂粒少量	26 褐色	焼土粒子・炭化灰粒子少量，焼土小ブロック微量
8 黒褐色	焼土粒下中量，焼土中ブロック・粘土中ブロック少量，粘質土	27 灰褐色	ローム粘土・焼土粒子・炭化灰粒子少量
9 にぶい赤褐色	焼土粒下少量	28 褐色	ローム粘土少量，粘質土
10 灰褐色	粘土中量	29 褐色	ローム粘土少量
11 粘褐色	ローム粘土・粘土中少量	30 灰褐色	ローム粘土少量
12 褐色	ローム粘土・粘土中少量，粘質土，粘質土	31 粘褐色	焼土中ブロック・粘土中量
13 灰褐色	ローム粘土少量，粘質土	32 褐色	焼土中ブロック・粘土中量
14 褐色	ローム粘土少量	33 褐色	焼土粒下少量
15 褐色	ローム粘土少量，粘土中少量	34 灰褐色	粘土中量，粘土中少量
16 褐色	焼土中量・炭化灰粒子少量，焼土小ブロック微量	35 粘褐色	ローム粘土少量，粘土中少量
17 粘褐色	炭化灰少量，焼土中少量	36 暗褐色	焼土小ブロック少量，粘土中少量，粘質土
18 暗褐色	ローム粘土中量，焼土粒下・粘土中少量	37 灰褐色	ローム粘土・炭化灰粒下・粘土中少量
19 にぶい褐色	ローム粘土中量，炭化灰粒子微量		



第70图 第27号住居跡实测图

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P3は、各コーナーに片寄って位置しており、主柱穴と考えられる。径22cmの円形で、深さは18~28cmである。P3に対応する東側のピットは、床面を精査したものの確認されなかった。

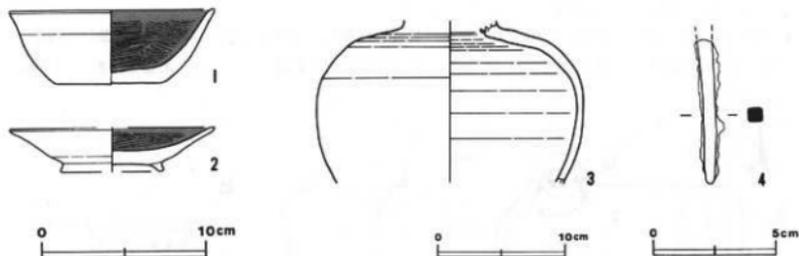
覆土 12層からなる。レンズ状に堆積しており、自然堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量	7 にぶい褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量
2 暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量	8 にぶい褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
3 灰褐色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量	9 黒褐色	ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量
4 黒褐色	ローム小ブロック少量、焼土中ブロック微量	10 灰褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック少量
5 暗褐色	ローム中ブロック中量、炭化物・粘土粒子・砂粒少量	11 暗褐色	ローム小ブロック・同粒子少量
6 暗褐色	ローム大ブロック・同小ブロック少量	12 褐色	ローム粒子中量

遺物 土師器片161点、須恵器片58点、鉄片1点(不明鉄器)が出土している。第71図1の土師器坏は、竈前面から正位の状態で出土している。3の須恵器甕は、破片の状態で竈煙道部の底面から出土している。2の土師器高台付皿、4の不明鉄器は、覆土中から出土している。

所見 竈は天井部も残っており、全体の構造がよく分かる例である。本跡の時期は、出土した土器から8世紀後半から9世紀初め頃と考えられる。



第71図 第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第71図 1	坏 土 師 器	A 12.5	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き、黒色処理。底面二方向の手持ちヘラ刷り。	砂粒・スロリア・白色粒子 褐色 普通	P26 80% P L48
		B 4.5				
		C 6.4				
2	高台付皿 土 師 器	A [12.4]	口縁部・高台部一部欠損。体部から口縁部にかけて大きく開く。高台は短くハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。高台取り付け、内・外面ナデ。体部内面磨き、黒色処理。底面回転ヘラ刷り。	砂粒・スロリア・雲母・白色粒子 にぶい黄褐色 普通	P28 65% 覆土中
		B 2.7				
		D [ 6.2]				
		E 0.5				
3	甕 須 恵 器	B (13.0)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・砂粒 褐色 良	P29 30% 竈煙道部底面

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第71図4	不明鉄器	(5.8)	0.7	0.5	(7.3)	覆土中	M12

### 第28号住居跡 (第72回)

位置 調査区域の中南部, D414区。

規模と平面形 長軸3.01m, 短軸2.71mの長方形である。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は20~34cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ローム質で, 若干起伏がある。東部が踏み固められている。

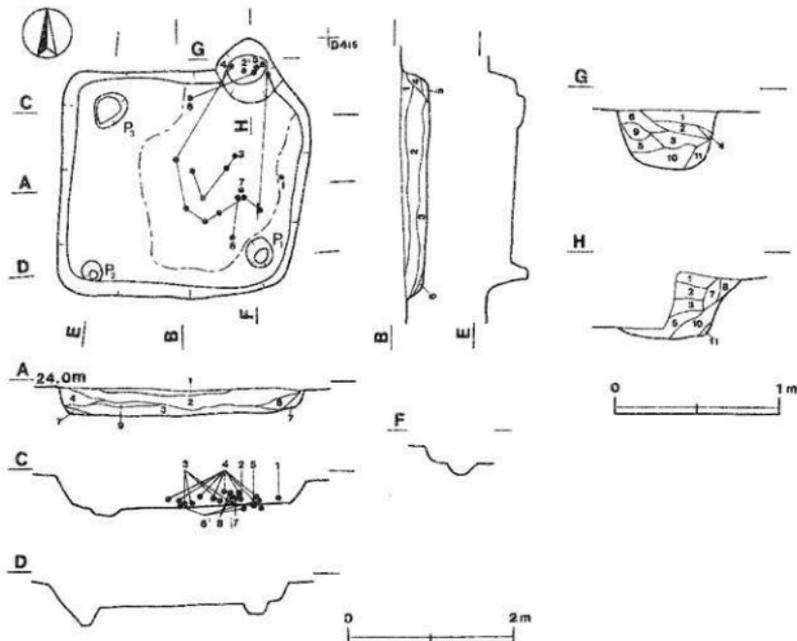
竈 北壁の北東コーナー付近に位置する。天井部及び袖部は残存していない。規模は, 煙道部上端から吹き口部まで76cm, 最大幅83cmである。煙道部は壁面を屋外へ約43cm掘り込んでおり, 煙道は外傾して立ち上がる。

袖部は確認できなかったが, 3層は灰褐色で粘土粒子を含むので, 天井部の崩落1層と考えられる。火床部は床面から5cm掘り下げられ, 底面は平坦である。火床部から煙道部にかけては, 火熱を受け硬化している。

#### 竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 炭土粒少量	7 暗褐色	炭土粒少量, 炭化物少量
2 褐色	ローム粒・炭土粒子微量	8 褐色	炭土粒少量
3 灰褐色	炭土粒・粘土粒少量	9 褐色	炭土小ブロック・炭化物少量
4 暗褐色	炭土粒少量	10 黒褐色	炭土小ブロック少量, 炭土粒子微量
5 暗褐色	炭土小ブロック少量	11 暗褐色	ローム小ブロック少量
6 褐色	炭土粒・炭化粒少量		

ピット 3か所 (P1~P3)。それぞれコーナー付近に位置し, 支柱穴と考えられる。長径26~48cm, 短径24~34cmの楕円形で, 深さは10~21cmである。P3に対応する東側のピットは, 床面を精査したが確認されなかった。



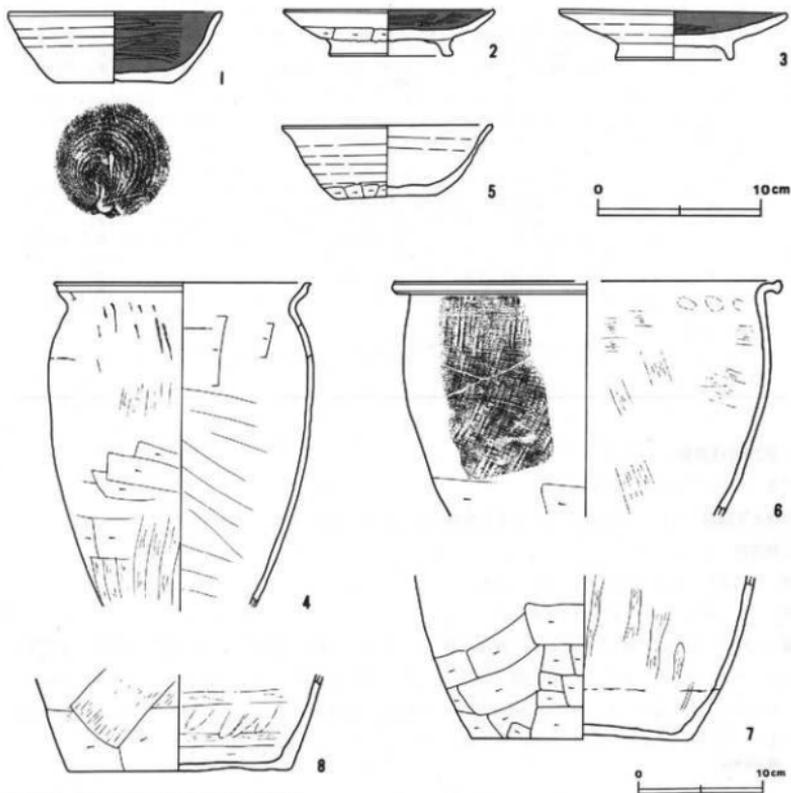
第72回 第28号住居跡実測図

覆土 9層からなる。レンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。

覆土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量, 赤色粒子微量, しまり筋	6 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	7 褐色	ローム粒子少量, 粘性強
3 黒色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	8 暗褐色	焼土粒子少量, ローム中ブロック微量
4 褐色	ローム粒子中量	9 褐色	ローム粒子中量, 赤色粒子少量
5 極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量		

遺物 土師器片202点, 須恵器片37点, 陶器片1点が出土している。陶器片は攪乱により混入したものと思われる。第73図1の土師器坏は、東壁寄りの覆土下層から、正位の状態で出土している。2の土師器高台付皿, 4の土師器甕, 5の須恵器坏, 6の須恵器甕は、主に竈の内部及びその周辺から出土している。2は正位で, 4は横位で, 5は逆位で, 6は破片の状態で, それぞれ出土している。5は、両面に二次的な焼成を受けている。3の土師器高台付皿, 7・8の須恵器甕は、P1の北側の覆土下層から、それぞれ逆位の状態出土している。



第73図 第28号住居跡出土遺物実測図

所見 P1北側から出土した遺物は、一括して投棄された可能性がある。本跡の時期は、出土した土器から9世紀前半頃と考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・成成	備考
第7図 1	灰土加蓋	A 12.8	底部、平底。体部から口縁部にかけて若干内傾して立ち上がる。	体部外面口コナナテ、体部内面滑り、黒色処理。底部回転糸切り。	緑色・スクリップ・黒色・赤い褐色 普通	P230 100% P.L.48 覆土下層
		B 4.4				
		C 7.0				
2	高台付埴土埴器	A 12.8	底部、体部から口縁部にかけて若干内傾して開く。高台は若干外反してハの字状に開く。	体部外面ナテ。体部下部手持ちヘツ削り。高台見内・外周ナテ。体部内面滑り。黒色処理。一部指図圧痕を残す。底部回転糸切り。	緑色・スクリップ・赤色・赤い褐色 普通	P233 100% P.L.48 覆土下層
		B 2.9				
		D 7.4				
		E 1.1				
3	高台付埴土埴器	A 14.0	口縁部欠損。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部外面口コナナテ。高台内面・外周ナテ。体部内面滑り。黒色処理。底部回転糸切り後、ナテ。	緑色・赤黒・赤色・黒石 赤い褐色 普通	P234 80% P.L.18 覆土下層
		B 3.1				
		D 7.3				
		E 0.8				
4	灰土加蓋	A 20.0 (26.6)	底部欠損。口縁部は外傾して立ち上がり、底部はつまみ上げられている。体部は内傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ナテ。体部外面土ヘツナテ。体部内・外面トテウツ削り後、一部ナテ。体部内面土ヘツ削り。	赤色・赤黒・スクリップ・黒石 灰色 普通	P235 80% P.L.49 底面・覆土中層
		B				
5	灰土加蓋	A 12.5	口縁部一基欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部外面強い口コナナテ。高台口コナナテ、底部二方向の手持ちヘツ削り。	緑色・赤黒・白色・赤石 赤い赤褐色 普通	P232 80% 覆土中層
		B 4.5				
		C 6.3				
6	黒須布	A 131.2	口縁部から体部の腹片。口縁部は強く外反し、底部はエトに若干つまみ出されている。	口縁部内・外面滑りナテ。体部外面電位の平行叩き。体部内面ナテ。面に指図圧痕。	緑色・スクリップ・白色・赤石 灰赤褐色 普通	P236 30% P.L.49 底面・覆土中層
		B (19.2)				
7	赤須布	B (13.3)	体部から底部の腹片。平底。底部は若干内傾して立ち上がる。	体部外面電位の平行叩き。体部下部ヘツ削り。体部内面ナテ。	赤色・赤黒・スクリップ・赤石・黒石 灰褐色 普通	P237 30% 覆土下層
		C 17.4				
8	赤須布	B (17.7)	体部から口縁部の腹片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面土位ヘツ削り後、ナテ。底部トテウツ削り。体部内面ナテ。	緑色・赤黒・スクリップ 赤い褐色 普通	P238 25% 覆土下層
		C 17.9				

### 第29号住居跡 (第74図)

位置 調査区域の中部、E4a9区。

規模と平面形 耕作による擾乱を受け、遺存状態は良くない。長軸3.54m、短軸3.25mの方形である。

主軸方向 N-15°-E

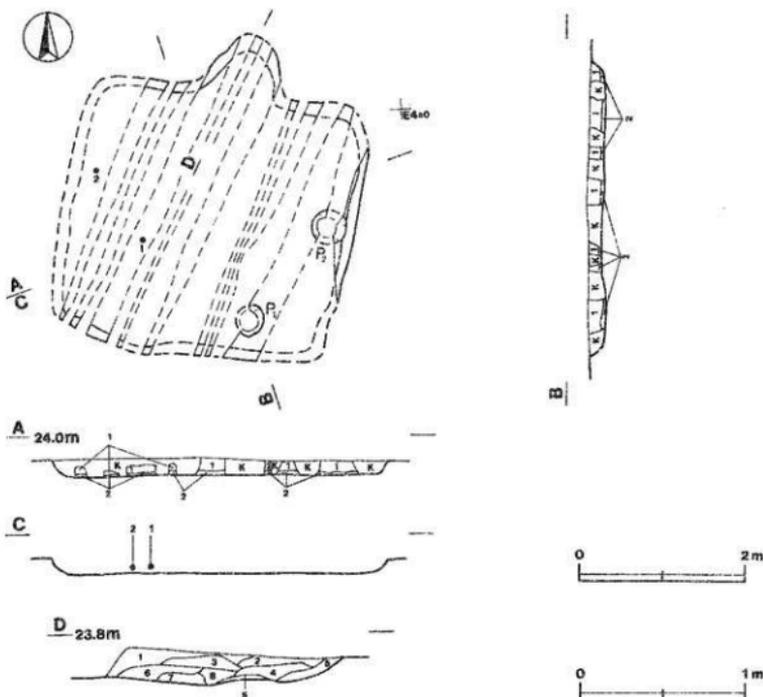
壁 壁高は15~21cmで、外傾して立ち上がる。

床 ローム質で、おおむね平坦と思われる。

竈 北壁の中央付近に構築されている。擾乱が著しく、天井部・袖部とも残存していない。規模は、煙道部上端から焚き口部まで [145] cm、最大幅 [112] cmである。煙道部は、壁外へ約48cm掘り込み、構造は緩やかに外傾して立ち上がる。1~5層は砂粒を含み、天井部または袖部を構築していた層と思われる。火床面は、床面から同じ高さで続き、平坦である。火床部から煙道部にかけて、火熱を受けて硬化している。

#### 出土品観察

- 1 灰褐色 ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化種子・砂粒少量
- 2 赤褐色 焼土大ブロック・河川中ブロック中量・砂粒少量・しまり肌



第74図 第29号住居跡実測図

- |         |                                     |        |                                    |
|---------|-------------------------------------|--------|------------------------------------|
| 3 褐色    | ローム小ブロック・粘土中ブロック・砂粒少量、し<br>まり泥      | 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック<br>張り、しまり泥 |
| 4 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・砂<br>粒少量、しまり泥 | 7 明褐色  | ローム粒子多量、粘性・しまり強                    |
| 5 灰・赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量、しまり弱              | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、しまり弱                   |

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は南東コーナー付近に、P2は東壁際の中央付近に位置する。径35～41cmの円形で、深さは11～14cmである。

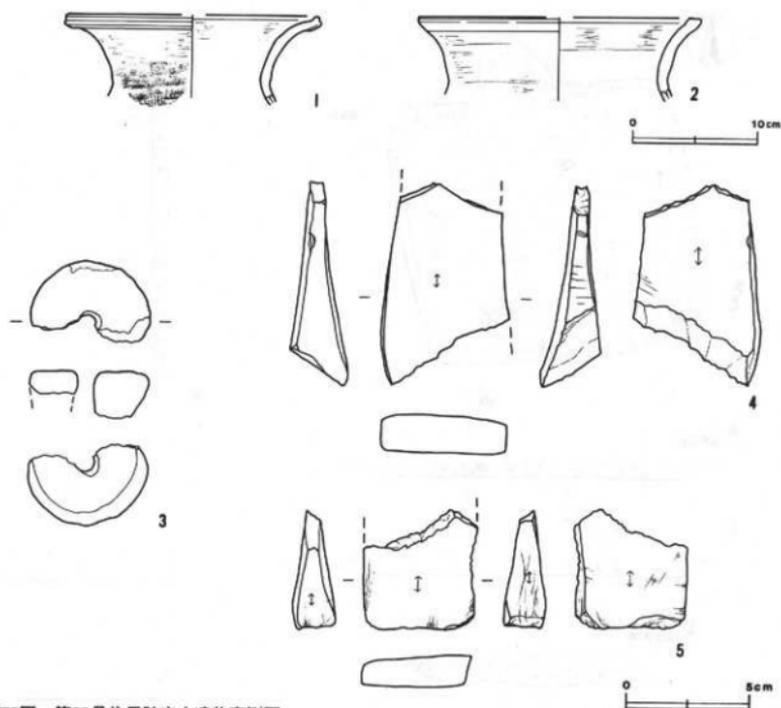
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積しており、自然堆積と思われる。

覆土層解説

- |       |                     |
|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量     |
| 2 黒色  | ローム中ブロック・ローム粒子・砂粒少量 |

遺物 上層器片125点、須恵器片11点、土製品1点(紡錘車)、磚2点、擾乱の混入と思われる陶器片1点が出土している。第75図1の須恵器甕は中央付近の覆土中層から、2の須恵器甕は西壁寄りの覆土下層から、それぞれ出土している。3の紡錘車は、覆土中から出土している。

所見 本跡は擾乱を受けており、遺存状態が良くないが、遺物は覆土中から出土している。本跡の時期は、出土した土器の特徴から9世紀頃と思われる。



第75図 第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第75図 1	壺 須臾器	A [19.6]	口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。口縁部は折り返し口縁状に粘土帯を貼り付ける。口縁部は軽くつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。裏面外面縦位の平行叩き。	粉粒・石英・スコリアに多い褐色普通	P239 15% 覆土中層
		B (7.1)				
2	壺 須臾器	A [22.5]	口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部に面取りを施す。	口縁部内・外面ナデ。	粉粒・スコリア・漆母 灰黄色 普通	P240 25% 覆土下層
		B (6.7)				

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第75図3	紡錘車	4.8	1.9	0.7	(25.8)	須臾質	覆土中	D P 17

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第75図4	砥石	(8.2)	5.3	2.5	(71)	覆土中	Q16 凝灰岩
5	砥石	(4.8)	4.5	1.2	(43)	覆土中	Q17 凝灰岩

### 第31号住居跡（第76図）

位置 調査区域の中部，E 3c7区。

規模と平面形 長軸3.81m，短軸3.56mの方形である。

主軸方向 N-14°-E

壁 壁高は30～38cmで，西壁は外傾して，その他の壁はほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北壁の東半部分を除いて巡っている。断面はU字形で，上幅10～40cm，下幅4～13cm，深さは6～10cmである。

床 ローム質で，若干の起伏がある。中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から袖部先端まで92cm，両袖部幅152cmである。煙道部は，壁外へ約18cm掘り込み，煙道は緩やかに湾曲しながら立ち上がる。14～18層は袖部の上層である。袖部は，地山を削り出して基部をつくり，褐色土を貼り付けて構築している。東袖部では，須恵器甕が補強材として用いられている。3層は粘土粒子を含み，天井部の崩落土と考えられる。底面は4cmほど掘り下げ，火床部としている。火床部から煙道部にかけて，火熱を受けて硬化している。

#### 覆土層解説

1 灰褐色	ローム粒中量，炭化粒子微量	10 褐色	焼土粒子微量
2 褐色	焼土粒子・炭化物・焼土粒少量	11 明褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，粘性强
3 灰褐色	粘土粒子少量，焼土粒子微量，粘性强	12 褐色	焼土粒子微量
4 褐色	焼土粒子少量，ローム粒子微量	13 にぶい褐色	焼土粒・粘土粒子中量
5 暗褐色	粘土小ブロック・炭化物少量	14 にぶい褐色	ローム粒子中量，炭化粒少量
6 にぶい褐色	焼土粒中量，炭化物微量	15 明褐色	ローム粒子中量，粘土粒子微量
7 暗褐色	焼土粒少量	16 灰褐色	ローム粒子・焼土粒少量
8 灰褐色	焼土粒中量	17 にぶい褐色	ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
9 灰褐色	ローム粒子・焼土粒中量	18 褐色	ローム粒子微量

ピット 3か所（P1～P3）。すべて南壁寄りに位置している。床面を精査したが，北壁寄りにピットは確認できなかった。P1・P2は，それぞれコーナー寄りに位置し，支柱穴と考えられる。P1は径28cmの円形，P2は長径28cm，短径21cmの楕円形で，深さは8～12cmである。P3は，中央部付近に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。径28cmの円形で，深さは26cmである。

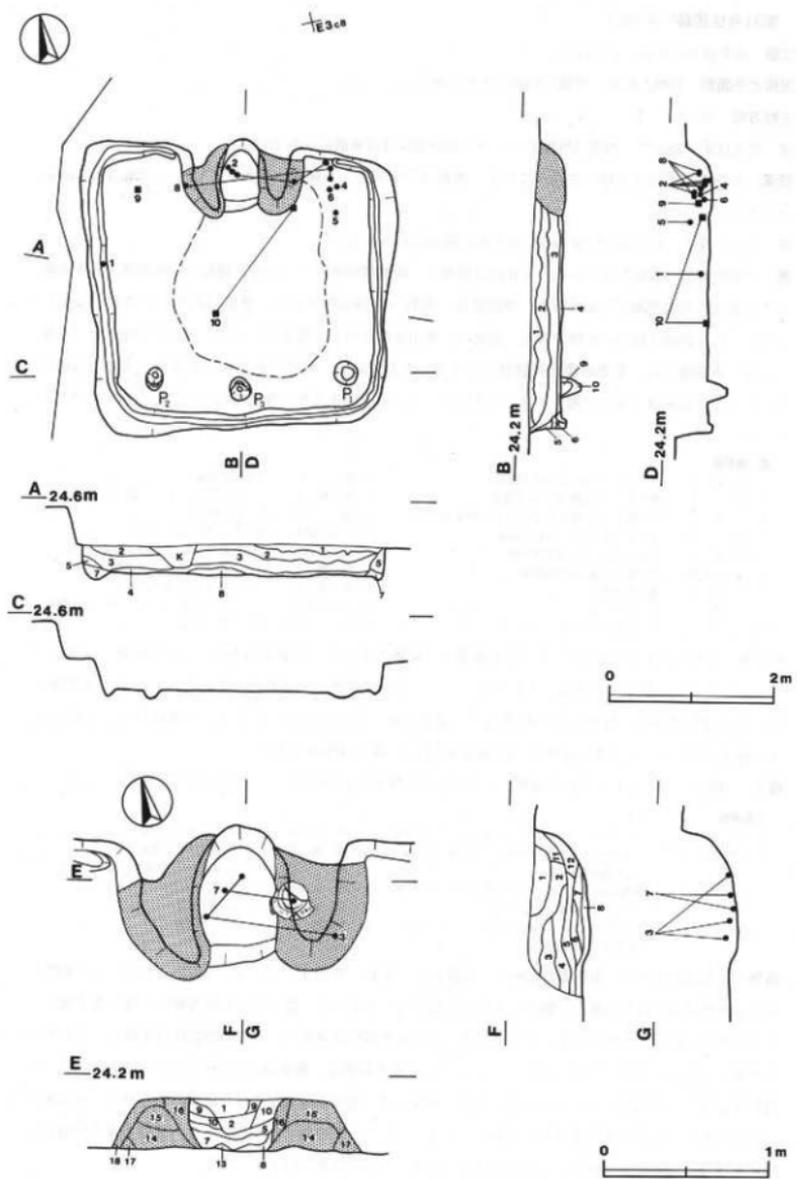
覆土 10層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。9・10層はP3の覆土である。

#### 土層解説

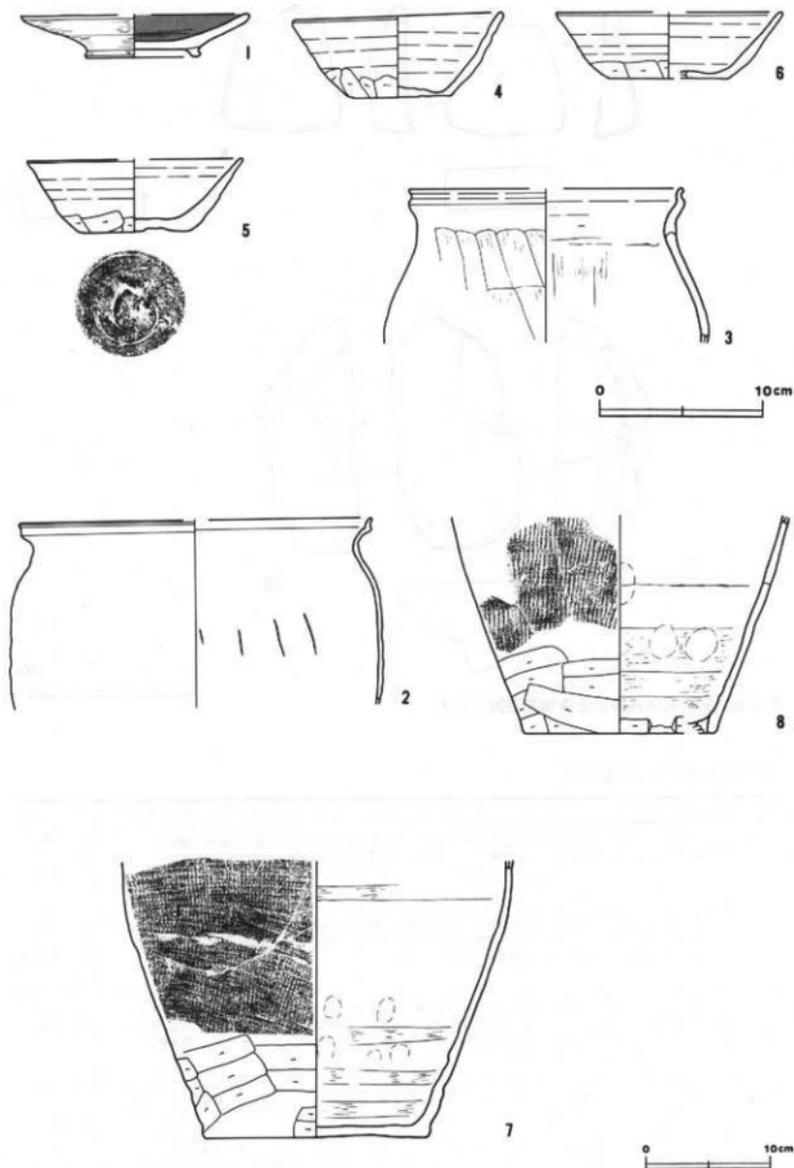
1 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量	5 暗褐色	ローム中ブロック中量
2 褐色	ローム大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量	6 明褐色	ローム小ブロック多量
3 暗褐色	炭化物中量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック少量，しまり羽	7 褐色	ローム中ブロック・同小ブロック少量
4 にぶい褐色	ローム大ブロック中量・焼土小ブロック・炭化物少量，粘性・しまり強	8 灰褐色	炭化物・粘土大ブロック・砂粒少量
		9 黒褐色	ローム粒子中量
		10 黒褐色	ローム粒子微量

遺物 土師器片458点，須恵器片246点，石器2点（砥石）が出土している。第77・78図1の上師器高台付皿は，西壁際中央付近の覆土下層から逆位の状態出土している。2・3の土師器甕は，甕の覆土及び周辺の覆土下層から破片の状態出土している。3・5の須恵器杯は逆位で，6の須恵器杯は正位で，それぞれ甕東側の覆土下層から中層にかけて出土している。7の須恵器甕は，甕東袖部内から逆位の状態出土しており，袖の補強材として利用されたものと思われる。外面には二次的な焼成を受けた痕が認められる。8は須恵器甕の底部であり，やはり甕周辺の覆土中層から出土している。9の砥石は北西コーナー付近の覆土中層から，10の砥石は甕前面の覆土下層および中央部付近の床面から，それぞれ出土している。

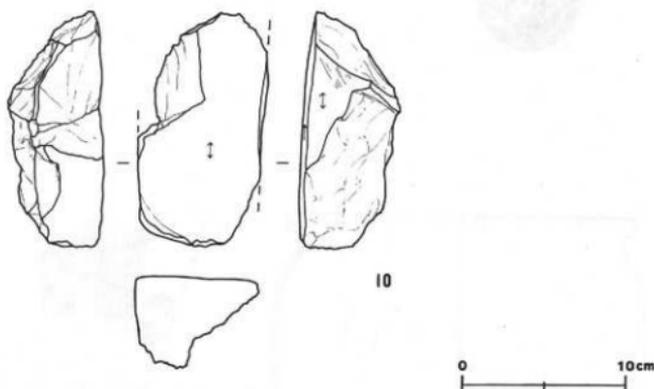
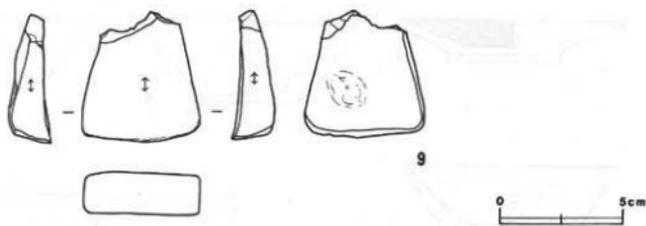
所見 本跡の時期は，出土した土器の特徴から，9世紀前半と考えられる。



第76图 第31号住居跡実測图



第77图 第31号住居跡出土物実測图(1)



第78図 第31号住居跡出土遺物実測図(2)

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器影の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 1	高台付 土師器	A [13.9] B 2.6 C 6.9 E 0.7	口縁部・高台部一部欠損。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。高台は短くハの字状に開く。	体部外面口クロナデ。体部内面磨き、黒色処理。底部回転ヘラ削り。高台跡り付け後、内・外面口クロナデ。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい褐色 黄	P245 50% P L 49 覆土下層
2	甕 土師器	A [28.2] B (15.0)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面、体部外面ナデ。体部内面ヘラ削り後、ナデ。	砂粒・石英・長石 にぶい褐色 普通	P246 35% P L 49 甕内・覆土下層
3	甕 土師器	A [16.8] B (9.4)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は若干外反して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラナデ。端部内面ヘラ削り。体部内面ヘラ削り後、ナデ。	砂粒・石英・スコリア・長石 明赤褐色 普通	P247 25% 覆土下層
4	坏 甕器	A 12.8 B 5.1 C 6.2	定形。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P243 100% P L 49 覆土中層
5	坏 甕器	A [13.2] B 4.5 C 6.6	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残し、手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・ 雲母・白色粒子 褐色 普通	P244 65% P L 49 覆土中層

調査番号	器 種	寸法(cm)	形状の特徴	手法の特徴	胎土・色調・地味	備 考
2772	6	杯 煨出器 A (13.9) B 4.1 C [ 7.4]	口縁部から底部の残片。平底。腰部から口縁部にかけて外反して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。腰部が筒子持ちへつ削り。底部多方向の手持ちへつ削り。	赤・スクリュー 赤 明赤褐色 黄	P211 45% 西上土層
7	7	腰 所遺器 B (22.7) C 17.8	口縁部から腰部上半分迄。平底。腰部は筒子内持ちして立ち上がる。	体部外面褐色の半円筒。腰部と肩へつ削り。体部内面ナデ。一部割取痕あり。	赤・スクリュー 赤・白粉子 に白褐色 帯赤	P248 45% 遊動域内
8	8	瓶 遺器器 B (17.4) C (15.0)	口部から底部の残片。乳首不明。腰部は外傾して立ち上がる。	体部外面褐色の半円筒。腰部と肩へつ削り。体部内面ナデ。一部割取痕あり。底縁はへつ状。口縁より穿孔。	赤・スクリュー 赤・スクリュー 赤・白粉子 に白褐色 黄	P249 25% 西上土層

調査番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2782	瓶 石	(4.9)	(4.9)	1.8	(49)	西上の層	Q18 緑泥質 P L53
20	瓶 石	(14.4)	7.5	(3.9)	(550)	床山~覆土下層	Q26 赤褐色砂

### 第32号住居跡 (第79図)

位置 調査区域の中部、E 3 c0区。

規模と平面形 長軸4.05m、短軸3.68mの長方形である。南東コーナー付近が、擾乱により破壊されている。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は24~28cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 断面はU字形で、上幅18~35cm、下幅6~14cmで、深さは8~14cmである。

床 ローム質で、平坦である。ピットの内側が踏み固められている。

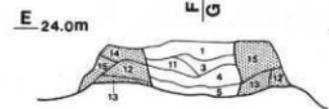
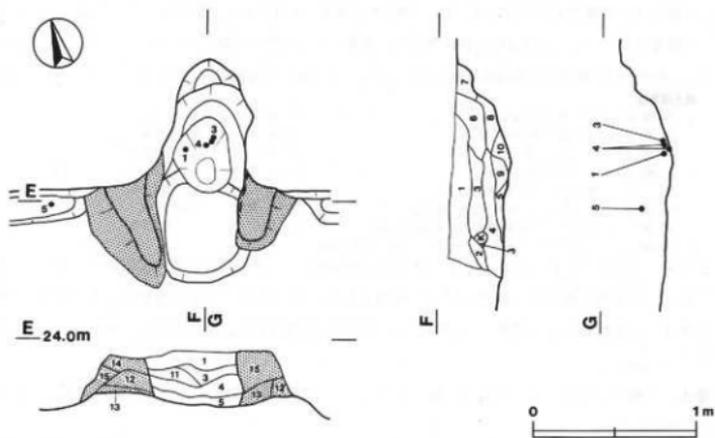
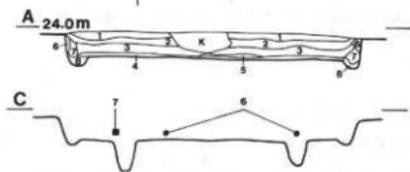
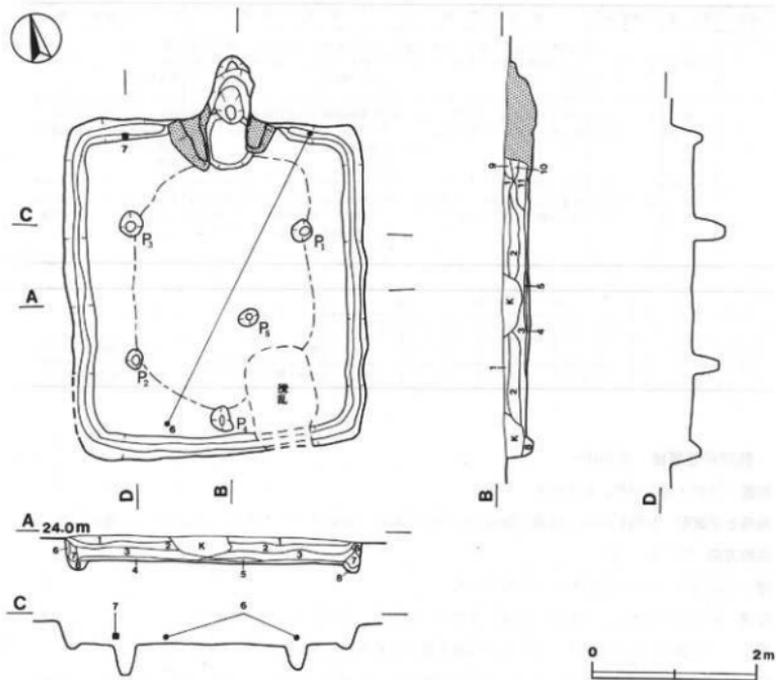
竈 北壁の中央部に構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は煙道部上端から西側袖部の先端まで138cm、両袖部幅130cmである。煙道部は、壁付近を2回に分けて掘り込んでいると思われる。煙道は階段状に外傾して立ち上がる。16~19層は、袖部の上層である。袖部は、ローム混じりの粘土を芯材にして構築されている。2層は粘土粒子を含み、崩落した天井部の土層と思われる。火床部は、焚き口部付近を3cm、袖部の付け根付近を5cmほど掘り下げている。火床部から煙道部にかけては、火熱を受けて赤変している。

#### 竈土層分析

1 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	9 褐色	ローム粒子少量
2 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	10 暗褐色	粘土粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子少量	11 褐色	ローム粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	12 灰褐色	ローム粒子・粘土中ブロック中粒
5 黒色	粘土小ブロック中量、炭化粒子少量	13 褐色	ローム粒子中量
6 暗褐色	ローム中ブロック中量、炭化粒子微量	14 黒褐色	白粉粒子少量
7 暗褐色	粘土小ブロック中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量	15 褐色	ローム粒子少量
8 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量		

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P3は、それぞれコーナー側に片寄って位置しており、主柱穴と考えられる。南東側の柱穴は、擾乱によって破壊されている。径21~32cmの円形で、深さは30~38cmである。P3は、南壁際の中央に位置し、長径32cm、短径22cmの楕円形で、深さは12cmである。出入り口施設に伴うピットである。

覆土 11層からなる。9~10層は、竈から流出した土層と考えられる。レンズ状に堆積しており、自然堆積と思われる。



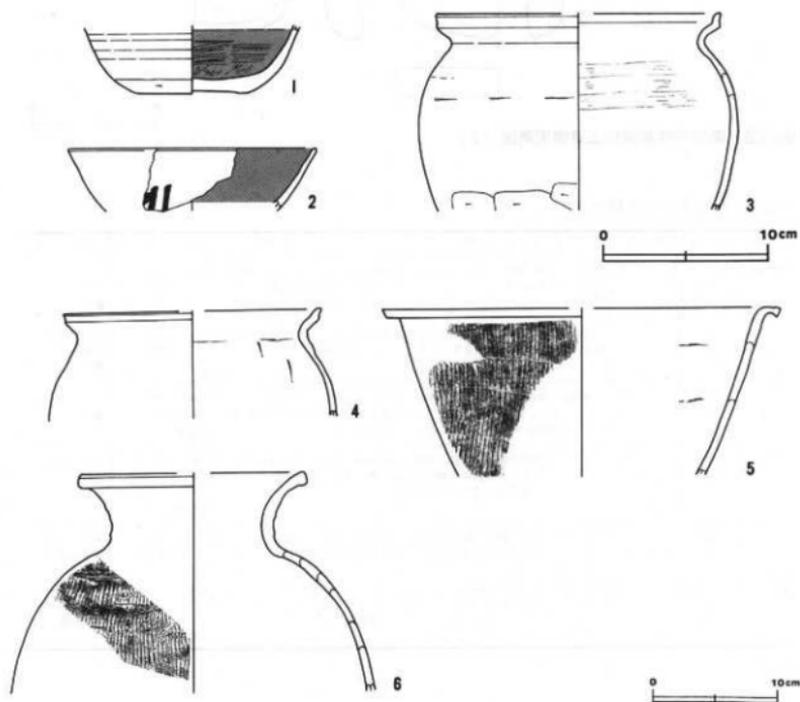
第79图 第32号住居跡实测图

土層解説

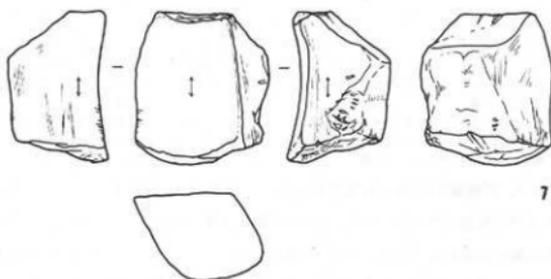
1 黒褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量	6 明褐色	ローム小ブロック中量
2 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7 黒褐色	ローム中ブロック少量
3 灰褐色	ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	8 にぶい褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・同粒子少量
4 黒褐色	ローム大ブロック・炭化粒子少量	9 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
5 にぶい赤褐色	焼土大ブロック・灰中量、しまり強	10 灰赤色	ローム粒子・焼土粒子少量
		11 赤灰色	焼土大ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量

遺物 土師器片258点、須恵器片138点、石器2点（砥石）、陶器片2点が出土している。第80図1の土師器片は、竈の底面から逆位の状態で出土している。2の土師器片は覆土中から出土している。3・4は土師器甕の口縁部片で、ともに竈の火床部近くから、重なった状態で出土している。5・6の須恵器甕は、竈周辺の覆土中層から出土している。第81図7・8の砥石は、北西コーナー寄りの覆土中層から出土している。陶器片は攪乱による混入と思われる。

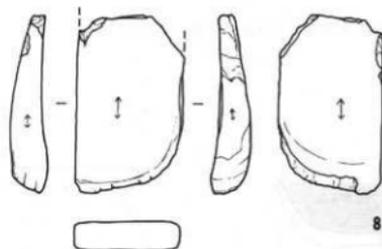
所見 本跡の時期は、出土した土器から9世紀中頃と考えられる。



第80図 第32号住居跡出土遺物実測図（1）



7



8



第81図 第32号住居跡出土遺物実測図(2)

第32号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第80図 1	坏 土師器	B (4.0) C 6.9	体部から底部の破片。平底。体部は外縁して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き、黒色処理。体部下端回転ヘラ削り。底部面削ヘラ削り。	砂粒・雲母にふいひ褐色 良	P250 50% P.L.49 職底面
2	坏 土師器	A [14.0] B [3.9]	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面丁寧なナデ、黒色処理。	砂粒・雲母にふいひ褐色 良	P251 25% 磨き有り 覆土中
3	小形差 土師器	A [17.2] B (12.0)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外縁して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面、体部外面上半ナデ、体部外面中位ヘラ削り。体部内面ヘラ削り後、ナデ。	砂粒・雲母にふいひ褐色 普通	P252 30% 職底面
4	差 土師器	A [20.6] B [8.6]	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外縁して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面、体部外面ナデ。体部内面ヘラ削り後、ナデ。	砂粒・石英・雲母、灰石 褐色 普通	P253 30% 職底面
5	差 土師器	A [15.9] B (13.5)	口縁部から体部の破片。体部は外縁して立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部に面取りを施す。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。	砂粒・雲母にふいひ赤褐色 良	P254 15% 覆土中層
6	差 土師器	A [17.5] B (17.7)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。	砂粒 褐色 普通 面取りの歪みが大きい。	P255 20% 覆土中層

図説番号	種別	寸 法				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第81図7	灰石	16.1	5.4	3.5	(107)	段々中層	Q21 凝灰岩
8	凝石	17.5	4.3	1.5	(60)	段々中層	Q22 凝灰岩

### 第34号住居跡 (第82図)

**位置** 調査区域の南部, E 3 d0区。

**規模と平面形** 本跡の南部は調査区域外に位置しており, 全容は不明であるが東西2.98m, 南北(2.3)mの隅丸方形または隅丸長方形と思われる。

**方向** 本跡の東西の壁は $N-4^{\circ}-W$ を指している。

**壁** 壁高は10~26cmで, 外傾して立ち上がる。

**床** ローム質で, 若干起伏がある。やや軟弱である。

**ピット** 3か所(P1~P3)。P1・P2は, コーナー付近に位置し, 主柱穴と考えられる。長径29~48cm, 短径22~30cmの楕円形で, 深さは22~25cmである。P3は, やや東壁寄りに位置し, 径58cmの円形で, 深さは38cmである。性格は不明である。

**覆土** 6層からなる。レンズ状に堆積しており, 自然堆積と思われる。

#### 土層解説

- |       |                |       |                      |
|-------|----------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | 赤色粘土層, 軟性・しより弱 | 4 黒褐色 | ローム粘土多量              |
| 2 黒褐色 | 赤色粘土中量         | 5 暗褐色 | ローム粘土中量              |
| 3 黒褐色 | ローム粘土少量        | 6 黒褐色 | 赤色粘土少量, ローム粘土少量, 粘性強 |

**遺物** 出土していない。

**所見** 本跡の時期は, 不明である。

### 第35号住居跡 (第83図)

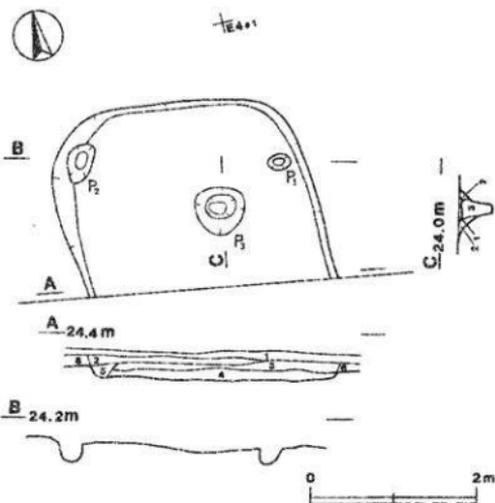
**位置** 調査区域の南部, E 4 c2区。

**重複関係** 第74号上坑が本跡の覆土を掘り込んで構築されているので, 本跡の方が古い。

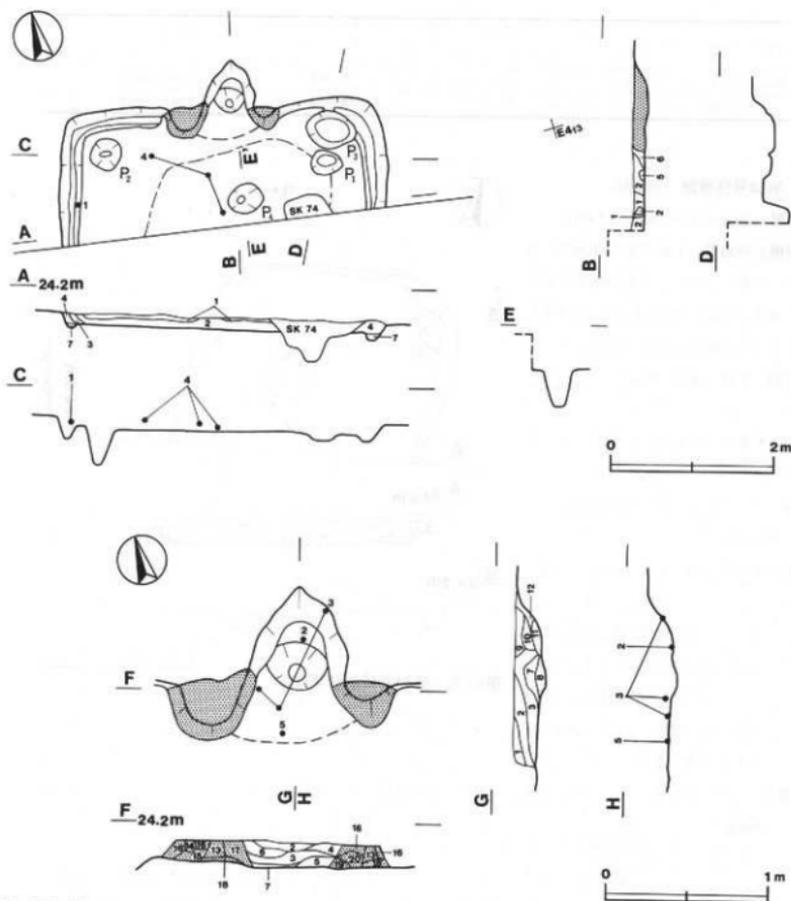
**規模と平面形** 南部が調査区域外に位置しており, 全容は不明であるが東西3.89m, 南北(1.62)mの方形または長方形と推定される。

**主軸方向**  $N-17^{\circ}-W$

**壁** 壁高は10~13cmで, 外傾して立ち上がる。



第82図 第34号住居跡実測図



第83図 第35号住居跡実測図

**壁溝** 東壁及び竈西側の北壁から西壁にかけて巡っている。断面はU字形で、上幅18～31cm、下幅6～14cm、深さは6～18cmである。

**床** ローム質で、平坦である。中央付近が、踏み固められている。

**竈** 北壁中央部に構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、煙道部上端から焚き口部まで98cm、両袖部幅38cmである。煙道部は、壁外へ約62cm掘り込まれ、煙道は若干角度を変えながら緩やかに外傾して立ち上がる。13～20層は袖部の土層である。袖は、灰褐色粘土（13層）を芯材として構築されている。火床面は、床面と同じ高さで続き、平坦である。煙道部の入り口付近に、竈の長軸と直交するように、長径36cm、短径29cm、深さ4cmの浅い楕円形の掘り込みを設けている。この掘り込みから煙道部にかけては、

火熱を受けて硬化している。

覆土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子微量、粘性弱	11 灰 褐色	粘土粒子少量、粘性強
2 暗 褐色	ローム粒子少量、白色粒子微量	12 褐色	粘土粒子少量
3 褐色	ローム小ブロック・焼土粒子微量	13 灰 褐色	粘土粒子中量、粘性強
4 褐色	焼土粒子中量	14 褐色	粘土粒子微量
5 暗 褐色	焼土粒子少量	15 褐色	粘土粒子少量
6 灰 褐色	焼土粒子微量	16 褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
7 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	17 褐色	焼土粒子少量
8 赤黒色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量	18 にぶい褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
9 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量	19 にぶい褐色	焼土粒子中量、粘土粒子少量
10 赤黒色	ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	20 にぶい褐色	焼土粒子微量

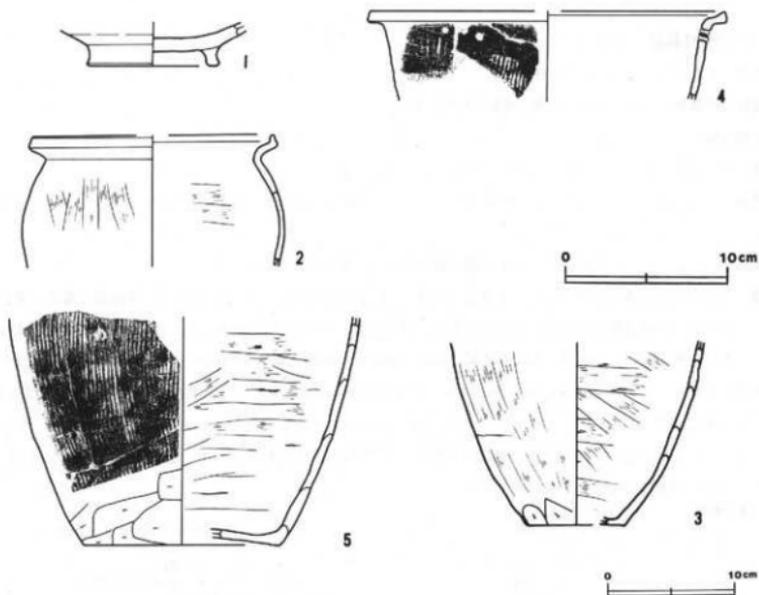
ピット 4か所（P1～P4）。P2は北西コーナー付近に位置し、主柱穴と考えられる。径36cmの円形で、深さは48cmである。P1・P3は、北東コーナー付近に位置している。長径38～58cm、短径28～44cmの楕円形で、深さは12～16cmである。P1・P3のいずれかがP2と対応する主柱穴と思われる。P4はほぼ中央部に位置し、長径44cm、短径32cmの楕円形で、深さは46cmである。性格は不明である。

覆土 7層からなる。レンズ状に堆積しており、自然堆積と思われる。

土層解説

1 黒 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量	5 にぶい褐色	ローム大ブロック多量
2 暗 褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量	6 にぶい褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
3 灰 褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・同粒子少量	7 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
4 にぶい褐色	ローム小ブロック多量、ローム大ブロック中量		

遺物 土師器片91点、須恵器片27点が出土している。第84図1の土師器高台付坏は、覆土中層から正位の状態が出土している。2の土師器甕は竈煙道部の底面上から逆位の状態で、3の土師器甕は、竈の底面から破



第84図 第35号住居跡出土遺物実測図

片の状態で出土している。3の外面には、二次的な焼成を受けた跡が認められる。4の須恵器窯は甍の南側の覆土中層から破片の状態で、5の須恵器窯は焼き口部の床面上から横位で、それぞれ出土している。

所見 木跡の時期は、出土した土器から9世紀後半と推定される。

### 第35号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の考察	粘土・色調・焼成	備考
第44回 1	高山白土 土師器	B (2.7)	甍部の破片。高台はハの字状に開く。	表部内面ラクロナテ。高台部内・外 面ナテ。高台部ハテへ開く。	赤粘・石黄・赤帯 に深い黄褐色 肌	P257 50% 覆土中層
		D 7.8				
		E 1.7				
2	小形美土 土師器	A (14.6)	口縁部から体部の破片。各部に内磨 して立ち上がる。口縁部は強く外反し、 肩部は若干内磨してつまみ上げられ ている。	口縁部内・外面、体部内・外面ナテ。	砂粘・スコリア・ 炭粉 均等褐色 赤帯	P338 30% 甍部底層
		B (8.0)				
3	美土師器	B (14.8)	体部から底部の破片。平底。体部は 若干内磨して立ち上がる。	体部内・外面ナテ。体部ノ端へ開く。 甍部未煮成。	砂粘・スコリア・ 赤帯・長石 に均等褐色	P259 40% 甍表面
		C (7.8)				
4	美土師器	A (28.8)	口縁部から体部の破片。体部は外磨 して立ち上がる。口縁部は強く外反し、 肩部に内磨りを施す。	口縁部内・外面、体部内面ナテ。体 部外面破片の平行印あり。	赤粘・石黄・赤帯・ 長石 均等褐色 赤帯	P460 15% P.149 体部に粘挿孔 甍土中層
		B (7.1)				
5	美土師器	B (18.4)	体部から底部の破片。平底。体部は 若干内磨して立ち上がる。	体部外面破片の平行印あり。体部内面ナテ。	砂粘・スコリア・ 赤帯 赤褐色 赤帯	P261 30% 甍面
		C (15.6)				

### 第37号住居跡 (第85回)

位置 調査区域の中部、E 4 d4区。

規模と平面形 長軸4.16m、短軸4.02mの方形である。

主軸方向 N - 0° - E

壁 壁高は22~26cmで、外傾して立ち上がる。

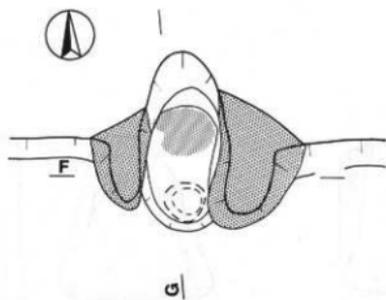
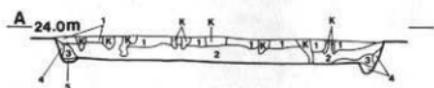
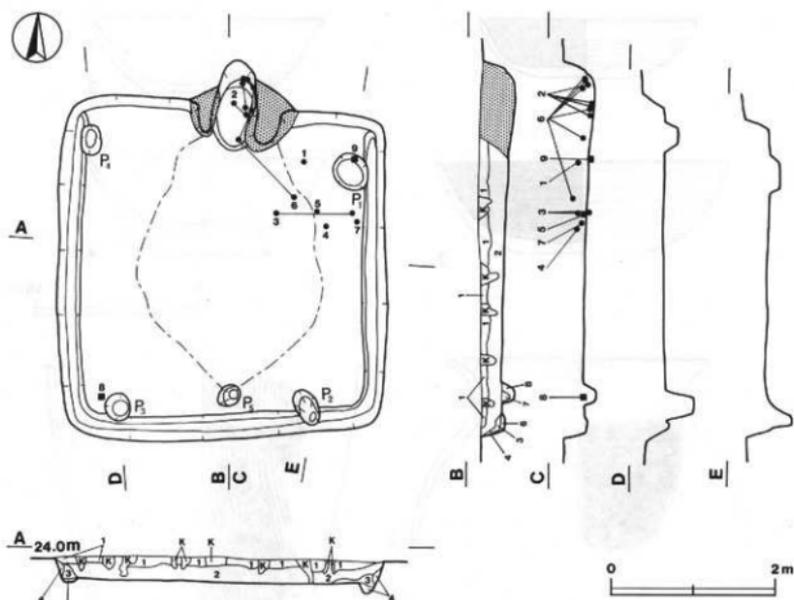
壁溝 北壁を除く壁の下を巡る。断面はU字形で、上幅20~32cm、下幅10~14cm、深さは4~10cmである。

床 ローム質で、平坦である。P5から竈前面にかけて、踏み固められている。

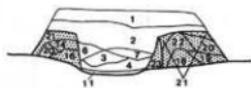
竈 北壁中央部に構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、煙道部上端から焚き口部まで107cm、両袖部外側の基部で122cmである。煙道部は、壁外へ約70cm掘り込んで構築され、煙道は外傾して立ち上がる。18~22層は、袖部の1層である。袖部は、灰褐色粘土を芯材として構築されている。3・7層は粘土粒子、または砂粒を比較的多く含み、天井部の崩落土層と思われる。底面は3cmほど掘り下げられ、平坦である。焚き口付近に、径25cmの円形で、深さ10cmのピットが位置している。竈の掘り方に伴うピットと考えられる。底面から煙道部及び袖部の内側は、火熱を受けて赤変している。煙道部の立ち上がり付近に、第86回6の須恵器が逆位の状態で出土している。

#### 遺土層解説

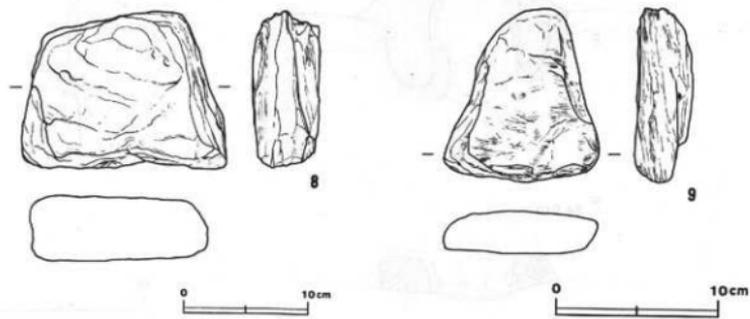
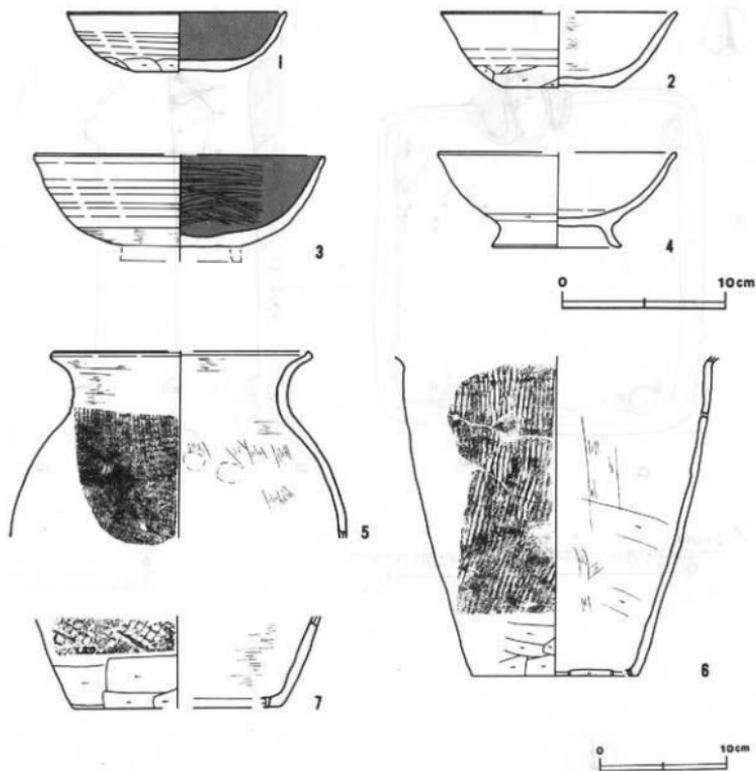
1 灰 褐色	ローム粒子・砂粒微量	7 灰 褐色	砂粒少量、地上小アロック・炭化物少量
2 新 褐色	赤色料少量	8 均 褐色	粘土粒子・砂粒微量
3 暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、砂粒微量	9 均 褐色	ローム粒子微粉
4 暗 褐色	粘土粒子・粘土粒子微量	10 均 褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量
5 褐 褐色	粘土粒子・赤色粘土微量	11 均 褐色	地上粒少量
6 黒 黒褐色	粘土粒子・粘土粒子微量	12 均 褐色	ローム粒下・粘土粒子・炭化した少量



F 24.0m



第85图 第37号住居跡実測图



第86图 第37号住居跡出土遺物実測図

13 黒褐色	炭化粒子少量, 焼土粒子微量	19 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子中量
14 暗褐色	焼土小アブロック中量, 焼土粒子少量	20 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
15 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	21 褐色	粘土粒子少量
16 黒褐色	焼土粒子少量	22 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量
17 暗褐色	焼土粒子少量, ローム粒子微量	23 灰褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量
18 灰褐色	粘土粒子多量, ローム粒子中量, 粘性強	24 暗褐色	焼土小ブロック微量

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、各コーナー付近の壁際に位置し、主柱穴と考えられる。長径32~50cm, 短径24~40cmの楕円形で、深さは13~35cmである。P5は南壁際中央付近に位置し、出入り口施設に伴うピットである。長径33cm, 短径22cmの楕円形で、深さは16cmである。

覆土 8層からなる。レンズ状に堆積しており、自然堆積と思われる。7・8層はP5の土層である。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック微量	5 褐色	ローム小ブロック多量
2 灰褐色	ローム中ブロック・同小ブロック少量	6 暗褐色	ローム粒子中量
3 褐色	ローム小ブロック・同粒子少状	7 暗褐色	ローム粒子微量
4 に近い褐色	ローム小ブロック多量	8 灰褐色	ローム粒子微量

遺物 土師器片220点, 須恵器片147点, 石片2点が出土している。第86図1の土師器片は、東室側から正位の状態出土している。2の土師器片は、竈煙道部の底面付近から正位の状態で、6の須恵器片は同じく逆位の状態出土している。3の土師器片は、東壁寄りの床面上から正位の状態出土している。4の須恵器高台付坏は覆土中層から破片の状態で、5の須恵器壺は覆土下層から横位の状態で、それぞれ出土している。8はP3付近の床面上から、9はP1付近の床面上から、それぞれ出土している。釜母片岩の石片と思われるが、用途・性格は不明である。

所見 本跡の時期は、出土した土器から9世紀後半から末頃と考えられる。

#### 第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・装成	備考
第86図 1	坏 土師器	A 13.4	口縁部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内壁して立ち上がる。	体部外周口ロナテ。体部下面手持ちへつ削り。体部内面ナテ。黒色処理。底面一方向の手持ちへつ削り。	赤粒・石・スコリア・赤土・長石 褐色・黄褐色	P262 80% P.L.19 覆土中層
		B 3.7				
		C 5.4				
2	坏 土師器	A [14.4]	口縁部から底面一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外壁して立ち上がる。	体部外周口ロナテ。外面下面手持ちへつ削り。体部内面口ロナテ。底面一方向の手持ちへつ削り。	赤粒・白色粒子 灰色 普通	P263 60% 竈底面
		B 4.6				
		C 6.8				
3	高台付坏 土師器	A [17.4]	高内面欠損。体部から口縁部にかけて着工内壁して立ち上がる。	体部外周口ロナテ。外面下面へつ削り。ナテ。体部内面付き。黒色処理。底面回転へつ削り。	赤粒・スコリア・赤土 赤褐色	P264 60% 床面
		B (5.7)				
4	高台付坏 須恵器	A [14.5]	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて着工内壁して立ち上がる。高台はかの李状に著工反して閉く。	体部内・外面口ロナテ。体部下面へつ削り。底面回転へつ削り。高内面付き。内・外面ナテ。	赤粒・赤土・長石 灰黄色 普通	P265 55% 覆土中層
		B 6.8				
		D 7.9 E 1.0				
5	壺 須恵器	A [21.0]	口縁部から体部の破片。体部は内寄して立ち上がる。体部から口縁部は紐で外に外反して立ち上がり、肩部は着工つまみ上げられている。	口縁部内・外面ナテ。体部外周縦管叩き。体部内面ナテ。一部は面直装成を残す。	赤粒・赤土・白色 粘土 黒褐色 普通	P266 25% 覆土下層
		B (13.0)				
6	瓶 須恵器	B [23.8]	体部から底面の破片。孔数不明。体部は外壁して立ち上がる。	体部外周縦位の平行叩き。体部下面へつ削り。体部内面口ロナテ。底面は面直装成へつ削り。共により穿孔。	赤粒・赤土・長石 灰黄色 普通	P267 40% 竈跡孔有り 内面
		C 15.2				
7	瓶 須恵器	B (7.4)	体部から底面の破片。孔数不明。体部は外壁して立ち上がる。	体部外周垂直叩き。体部下面へつ削り。体部内面ナテ。体部は面直装成へつ削り。共により穿孔。	赤粒・赤土・長石 灰黄色 普通	P268 25% 覆土中層
		C [13.2]				

図録番号	材 質	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
58868	石 片	9.67	12.37	4.0	780	茶肉	Q24 ホルンフォルス
9	石 片	10.5	9.3	2.6	831	水色	Q25 ホルンフォルス

### 第38A号住居跡(第87図)

位置 調査区域の南部, E 4μ4区。

重複関係 本跡が第38B号住居跡の竈を破壊して構築されているので, 本跡の方が新しい。

規模と平面形 長軸4.1m, 短軸3.7mの長方形である。

主軸方向 N-93°-W

壁 壁高は12~14cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁の南半と南壁の下を巡る。断面はU字形で, 上幅10~26cm, 下幅4~9cm, 深さは4~8cmである。

床 ローム質で, おおむね平坦である。中央部が, 踏み固められている。

竈 西壁中央付近に構築されている。天井部は崩落し, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで117cm, 両袖部幅137cmである。煙道部は, 壁外へ83cm掘り込んでおり, 煙道は外傾して立ち上がる。16~23層は袖部の土層である。粘土混じりの褐色土を中心に構築され, 南側袖部には土師器甕が補強材として使用されている。1層は粘土粒子・砂粒を含み, 天井部の崩落土層と考えられる。火床部は7cmほど掘り込まれており, 底面は平坦である。煙道部の中央付近からは, 土師器甕が石塊の上にかぶせられた状態で出土しており, 支脚として使用されたものと思われる。

#### 甕土層解説

1 黄 褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化灰・焼土	13 にぶい褐色	焼土中ブロック・炭化灰少量
2 暗 赤 褐色	焼土中ブロック中量, 焼土小ブロック・砂粒少量	14 にぶい褐色	焼土小ブロック・焼土大ブロック中量
3 暗 赤 褐色	焼土大ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化灰少量	15 褐色	焼土小ブロック中量, 粘土粒子少量
4 暗 赤 灰色	焼土中ブロック・砂粒少量	16 暗 褐色	粘土粒子・赤色粘土少量
5 暗 赤 褐色	焼土小ブロック・炭化灰少量	17 灰 褐色	粘土粒子少量
6 にぶい褐色	焼土小ブロック・向粒子中量	18 褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
7 褐色	焼土粒子中量	19 灰 褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量
8 にぶい褐色	焼土小ブロック中量	20 灰 褐色	ローム小ブロック・焼土粒中量, しまり盛
9 褐色	焼土小ブロック中量	21 灰 褐色	粘土粒子少量, ローム粒子少量
10 暗 褐色	ローム粒中量	22 灰 褐色	粘土粒中量, 炭化粒少量
11 暗 褐色	ローム粒少量	23 暗 褐色	粘土粒少量, 焼土粒少量
12 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土大ブロック・粘土粒子・砂粒少量, 焼土大ブロック微量, しまり盛		

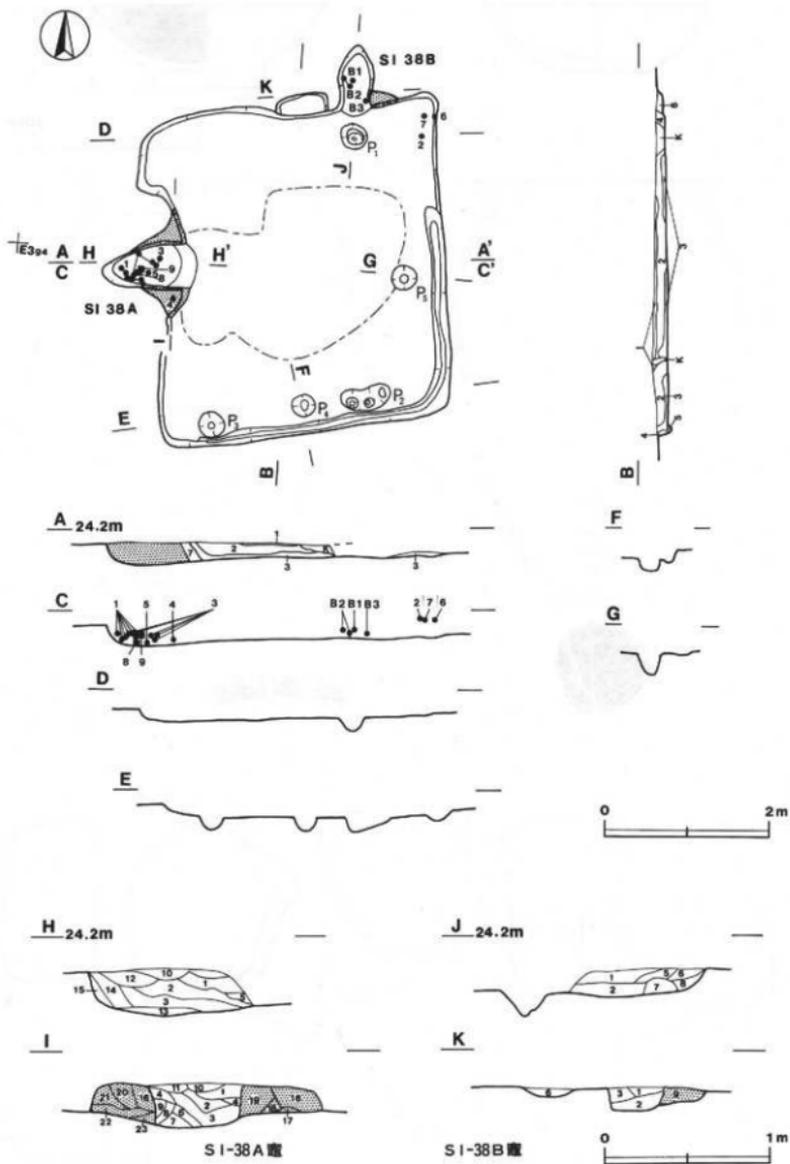
ピット 5か所(P1~P5)。P4は位置的に第38B号住居跡に伴うものと考えられる。P1~P3は, コーナー寄りに位置しており, 柱穴と考えられる。P1・P3は径32cmの円形, P2は長径62cm, 短径22cmの長円形で, 深さは17~18cmである。P5は径約30cmの円形で, 深さは25cmである。東壁寄り中央付近に位置し, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層からなる。レンズ状に堆積しており, 自然堆積と思われる。

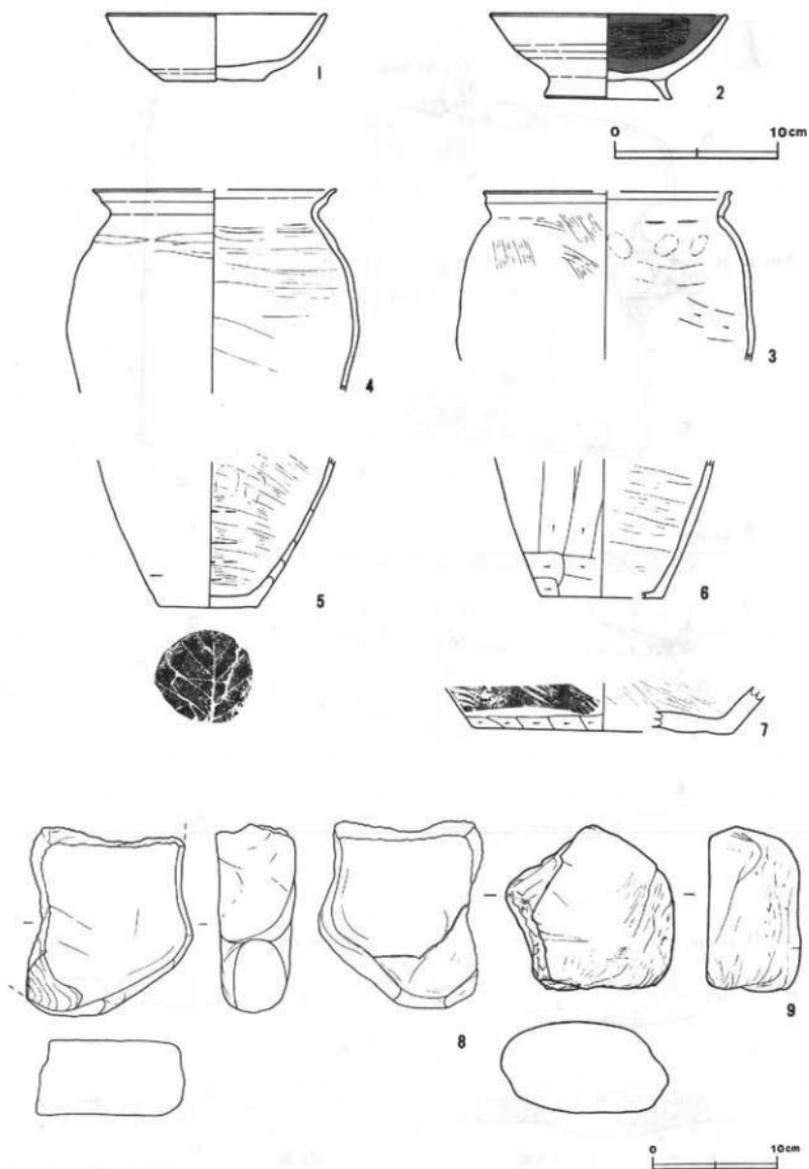
#### 土層解説

1 黒 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量	4 明 褐色	ローム中ブロック中量
2 黒 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化灰少量	5 褐色	ローム中ブロック中量
3 灰 褐色	ローム大ブロック・焼土粒子・砂粒少量	6 明 褐色	ローム粒多量
		7 黒 褐色	焼土大ブロック・焼土小ブロック少量

遺物 土師器片68点, 須恵器片28点, 石製品2点(支脚)が出土している。第88図1の土師器杯, 3の土師器甕は, 竈の覆土中層から破片の状態で出土している。2の土師器高台付杯・6の土師器甕・7の須恵器甕は北東コーナ付近の覆土中層から上層にかけて出土している。4の土師器甕は, 竈の南側袖部から出土している。竈の補強材として使用されたものである。5の土師器甕は, 煙道部底面に置かれた雲母片岩(9)の上



第87图 第38A·B号住居跡実測図



第88图 第38A号住居跡出土遺物実測図

から、逆位の状態で出土している。8の花崗岩の石塊は、煙道部の底面から出土している。8・9は外面に火熱を受けた痕があり、支脚として使用されたものと思われる。

**所見** 本跡と第38B号住居跡との関係は、第38B号住居跡の竪が破壊されていることから、本跡が新しいと考えられる。なお、平面及び土層断面で第38B号住居跡の掘り込みを確認できなかったことから、本跡は第38B号住居跡のプランを再利用した可能性が想定される。本跡の時期は、板根関係及び出土土器から、第38B号住居跡より新しい9世紀後半と考えられる。

### 第38A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	品 種	品別図 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・釉薬・焼成	図 等
1	土 師 器	A 13.4 B 4.1 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて器で内磨して立ち上がる。	体部外面口ワナナテ。体部内面丁磨ナテ。底面凹面ヘラナテ。	赤土・スロリア・灰 黄色 赤土	F127 50% F L19 覆土中層
	高台付土師器	A 14.4 B 5.2 D 7.7 E 1.2	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて器で内磨して立ち上がる。高台はヘラで平削りして外反ししている。	体部内面口ワナナテ。体部内面磨ナテ。高台底面磨ナテ。高台内・外反ナテ。	赤土・赤土・白色 灰土 赤土	F126 50% F L50 覆土上層
		土 師 器	A [19.4] B [15.4]	口縁部から体部の破片。体部は内磨して立ち上がる。口縁部は器で内磨して立ち上がり、口縁部は外反して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外磨ナテ。体部内面ナテ。体部内面ナテ。高台ヘラナテ。底面平削りナテ。	赤土・赤土・スロリア 赤土に黒い焼色 赤土
土 師 器		A [19.6] D [16.2]	口縁部から体部の破片。内磨して立ち上がる。口縁部は外反して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外磨ナテ。体部内面ナテ。内面口ワナナテ。	赤土・赤土・赤土 赤土	F121 30% 覆土中層
5	土 師 器	B [12.2] C 7.9	体部下半から底部の破片。平底。体部は器で内磨して立ち上がる。	体部内面器で内磨し不揃。体部内面ヘラナテ。底面未磨ナテ。	赤土・スロリア 赤土	F123 35% 覆土中層
6	土 師 器	B [11.2] C [9.8]	体部下半から底部の破片。平底。体部は器で内磨して立ち上がる。	体部内面ヘラナテ。体部内面ヘラナテ。	赤土・赤土・スロリア・赤土 赤土に黒い焼色 赤土	F127 35% 覆土中層
		D [3.9] E [5.6]	底部の破片。平底。体部は外磨して立ち上がる。	体部内面磨ナテの平行研ミ。体部下面ヘラ削り。体部内面ナテ。	赤土・赤土 赤土	F124 30% 覆土中層

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	口径(cm)	重量(g)		
第38B/a	石 塊	(15.4)	13.0	6.2	(200g)	煙道側	Q26 化陶器 F L30
9	石 塊	(12.1)	12.5	7.1	(120g)	覆土面	Q27 サルシタス土 P L32

### 第38B号住居跡 (第87図)

**位置** 調査区域の南部、E 3 g1区。

**重複関係** 本跡の竪が第38A号住居によって破壊されているため、本跡の方が古い。

**規模と平面形** 本跡の規模・平面形とも不明である。

**主軸方向** N-2°-W

**壁** 壁高は4～18cmで、外傾して立ち上がる。

**竪** 北壁の北東コーナー寄りに位置している。天井部は崩落し、袖部も破壊されて遺存状態は良くない。規模は、煙道部の上端から突き口部まで74cm、両袖部幅89cmである。煙道部は、壁外へ75cm掘り込まれ、煙道

は外傾して立ち上がる。9層は袖部の土層である。東側袖部は粘土混じりの褐色土で構築されているが、西側袖部は貼り付けた部分は残存せず、地山削り出しで構築された基部が残っている。火床部は平坦で、床面とはほぼ同じ高さである。焚き口部から煙道部にかけては火熱を受けて赤変しており、上面には焼土を含む層が堆積している。

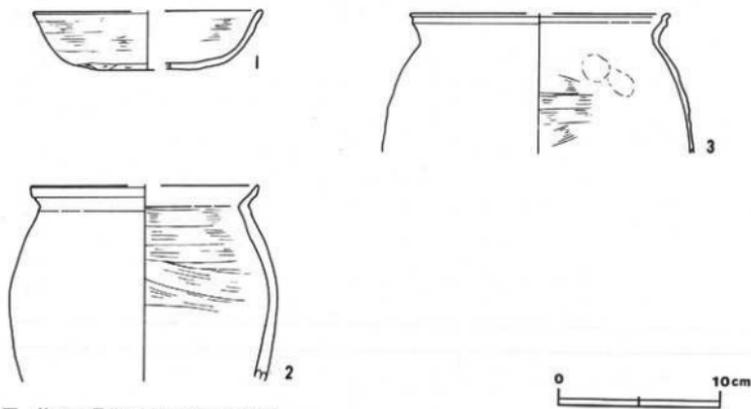
**竈土層解説**

- |        |                         |        |                   |
|--------|-------------------------|--------|-------------------|
| 1 褐色   | 焼土粒子中量                  | 6 暗赤褐色 | ローム大ブロック・同小ブロック少量 |
| 2 褐色   | 焼土粒子中量、焼土中ブロック微量        | 7 褐色   | ローム粒子・焼土粒子微量      |
| 3 褐色   | 焼土粒子少量、炭化粒子微量           | 8 褐色   | 焼土粒子少量            |
| 4 褐色   | ローム粒子中量                 | 9 褐色   | ローム粒子・粘土粒子中量      |
| 5 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量 |        |                   |

**ピット** P4は径約26cmの円形で、深さは14cmである。南壁寄り中央付近に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**遺物** 土師器片74点、須臾器片7点が出土している。第89図1の土師器坏は、竈の覆土中層から正位の状態、2の土師器小形甕は1の下から横位の状態で、それぞれ出土している。3の土師器甕は、竈の東袖部内から出土している。

**所見** 本跡の時期は、第38A号住居跡との重複関係及び出土土器から、第38A号住居跡に先行する9世紀後半と考えられる。



第89図 第38B号住居跡出土遺物実測図

第38B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第89図 1	坏 土師器	A [14.0] B 3.6 C [6.0]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい黄褐色 普通	P269 40% 覆土中層
2	小形甕 土師器	A [13.7] B (12.0)	口縁部から体部の破片。体部は内傾して立ち上がる。口縁部は若干外反して立ち上がる。	口縁部、外部内・外面ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P220 40% 覆土中層
3	甕 土師器	A [20.6] B (11.3)	口縁部から体部の破片。体部は内傾して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり、踵部はつまみ上げられている。	口縁部、体部内・外面ナデ。体部内面に一部指痕正成。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P271 40% 竈袖部内

#### 第40A号住居跡 (第90図)

位置 調査区域の南部，E3f5区。

重複関係 本跡が第40B住居跡の覆土を掘り込んで構築されているので，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.35m，短軸2.95mの長方形である。

主軸方向 N-84°-W

壁 壁高は，12～16cmで，外傾して立ち上がる。

塹溝 北西コーナー付近及び，南東コーナーから南西コーナー付近にかけて巡る。断面はU字形で，上幅19～30cm，下幅5～12cm，深さは4～8cmである。

床 ローム質で，平坦である。中央部付近には貼床が施され，踏み固められている。

竈 西壁中央部に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで135cm，両袖部幅115cmである。煙道部は壁外へ87cm掘り込んでおり，煙道は緩やかに立ち上がる。19層は袖部の1層である。袖部は，ローム混じりの褐色土で構築されている。火床部は，中央部付近が床面から10cmほど掘り込まれている。火床面から煙道部にかけては，火熱のため硬化している。

##### 土層解説

1 黒褐色	赤色粒を微量，粘性・しまり強	11 橙褐色	焼土小ブロック多量，焼土大ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子少量	12 暗赤灰色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，しまり強
3 暗褐色	焼土粒少量	13 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
4 暗褐色	焼土粒を微量	14 灰赤色	焼土粒子多量，焼土中ブロック少量，粘性強
5 暗褐色	焼土粒子・粘土粒を多量	15 暗赤灰色	焼土粒・粘土粒中量，粘性強
6 褐色	焼土粒を多量	16 暗赤灰色	焼土粒少量，粘性強
7 暗赤褐色	ローム粒子少量	17 橙褐色	焼土粒多量
8 黒褐色	ローム粒・粘土粒を微量	18 濃い褐色	ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，粘性強，しまり強
9 暗褐色	焼土粒中量	19 褐色	ローム粒子中量
10 黒褐色	ローム大ブロック・焼土粒・炭化粒少量		

ピット 1か所 (P1)。南壁際中央付近に位置し，径23cmの円形で，深さは11cmである。性格は不明である。

覆土 8層からなる。4・5層は粘性・しまり共に強く，貼床の土層と考えられる。1～3層はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

##### 土層解説

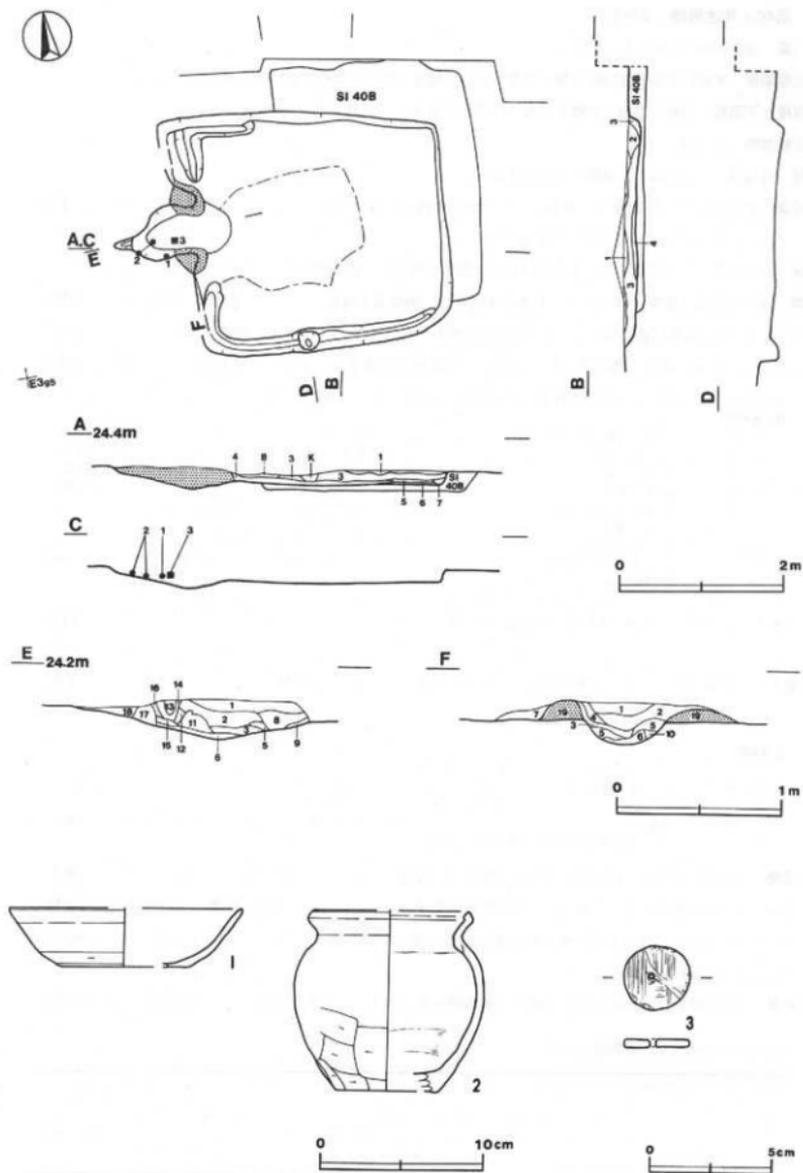
1 黒褐色	ローム粒少量	5 褐色	ローム粒子多量，粘性・しまり強
2 暗褐色	ローム粒を微量	6 暗褐色	ローム粒を微量
3 暗褐色	ローム中ブロック・阿小ブロック少量，炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム中ブロック微量
4 褐色	ローム粒を多量，炭化粒少量，粘性・しまり強	8 暗褐色	ローム粒少量，炭化粒・粘土粒を微量

遺物 土師器片132点，須恵器片22点，石製品1点が出土している。第90図1の土師器片は，竈の覆土下層中から破片の状態で出土しており，二次的な焼成を受けている。2の土師器小形壺は，竈煙道部から逆位の状態で出土している。3の有孔円板は頁岩製で，竈の覆土中から出土している。外面に焼けた様子は見られず，流れ込みの可能性がある。

所見 本跡の時期は，第40B号住居跡との重複関係及び出土した土器の特徴から，10世紀前半と考えられる。

#### 第40A号住居跡出土遺物観察表

図番	層	位置 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第90図 1	上層	A 131.2 B 2.6 C 17.4]	外面から底部の破片。平底。体部から口縁にかけて外傾して立ち上がる。	体部外面口縁コシテ。体部下層凹出。口縁部。体部内面ナギ。底足手持ちヘク割リ。	赤褐色・石色・黒褐色 長石 褐色 普通	P279 30% 覆土土層



第90图 第40A号住居跡・出土遺物実測図

図版番号	品 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第90図 2	小 形 壺	A [10.0]	口縁部から底部の破片。平煎。体部は内傾して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり、肩部は内傾して、両取りを造す。	口縁部内・外面、体部外面に平・体部内面ナデ。体部外側に平へり線り。	粘土・灰黄・黄	F282 45% P.L.30 瀬清洞部普通
	B 11.1					
	C 16.2					

図版番号	種 別	計 測 値				土 主 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第90図3	菅石ノ板	2.7	2.7	0.2	5.72	菅ノ葉	Q28 百軒 F.L.31

#### 第40B号住居跡 (第91図)

位置 調査区域の南部、E 316区。竈の北端が調査区域外に位置する。

重複関係 第40A号住居が本跡の礎土を掘り込んで構築されているので、本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸2.94m、短軸2.48mの長方形である。

主軸方向 N-10°-E

竈 壁高は6~18cmで、外傾して立ち上がる。

床 ローム質で、平坦である。全体的にやや軟弱である。

竈 北壁中央部に構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、袖部先端から調査区域際まで(57)cm、両袖部幅125cmである。揮道部は先端が調査区域外に位置しており、規模・形状とも不明である。7~11層・13層・14層は袖部の土層である。袖部は、灰褐色粘土を芯材として構築されている。火床部は床面と同じ高さで続き、平坦である。火床面は、火熱を受けて硬化している。

#### 出土品解説

1 褐色	ローム粘土塊	8 濃い褐色	ローム粘土中片、粘土粒子微量
2 暗褐色	焼土粒子微量	9 褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
3 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
4 褐色	ローム粒子少量	11 褐色	ローム粒子微量
5 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	焼土粒子少量
6 暗褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量	13 濃い褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
7 灰褐色	粘土粒中片、ローム粒子・炭化粒子少量、粘塊	14 褐色	焼土粒・焼土小ブロック微量

ピット 3か所(P1~P3)。それぞれ壁側に寄って位置しており、主柱穴と考えらる。P1・P3は径20~26cmの円形、P2は長径32cm、短径21cmの不整形で、深さは6~16cmである。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

#### 土層解説

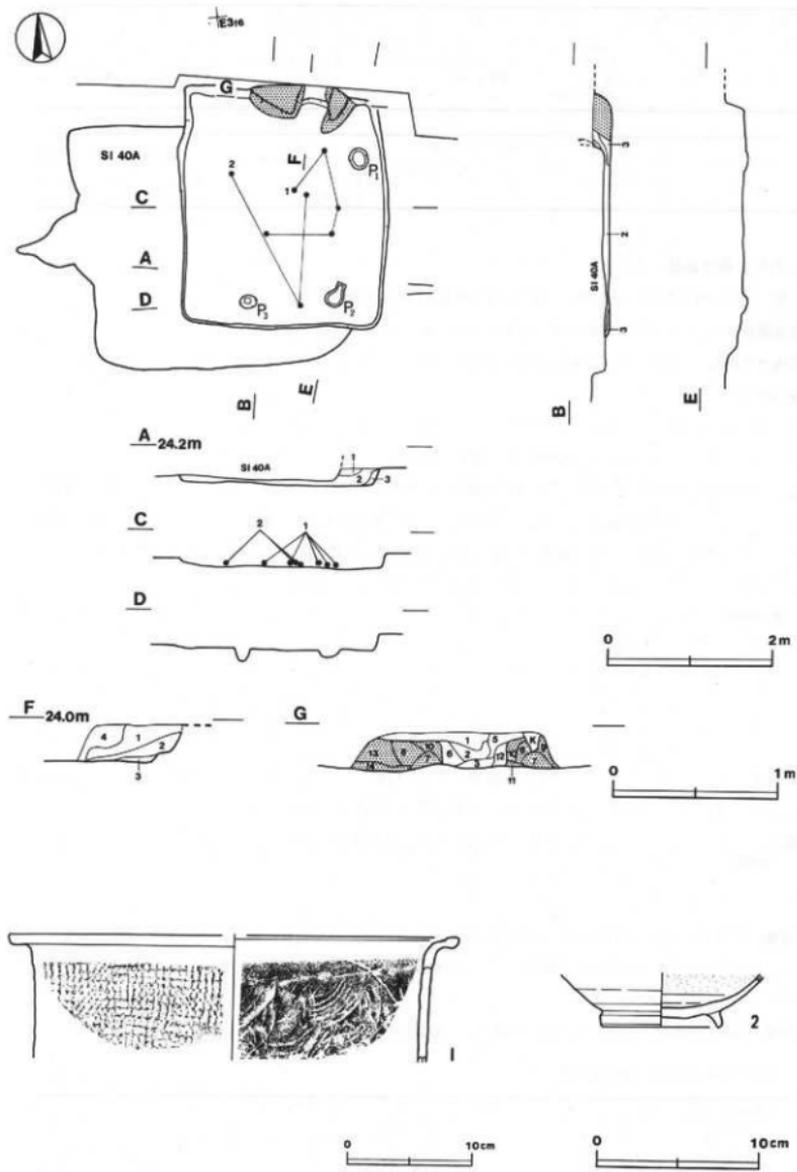
1 濃い褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2 灰褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
3 明褐色	ローム中ブロック中層

遺物 土師器片63点、須恵器片10点、灰輪陶器片3点が出土している。第91図1の須恵器竈は東寄りの床面上から覆土下層にかけて破片の状態で、2の灰輪陶器は中央部付近の覆土下層から逆位の状態で、それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土した土器の特徴から、第40A号住居跡に先攻する。10世紀前半と考えられる。

#### 第40B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	品 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第91図 1	須 恵 器	A [56.0]	口縁部から底部の破片。体部は若干外傾して立ち上がる。口縁部は僅く外反する。	口縁部内・外面、体部外面に平・体部内面に同心円状の溝で具取有り。	粘土・黄赤・黄	P283 25% P.L.50 灰面・黄土下層普通
	B [39.0]					



第91图 第40B号住居跡・出土遺物実測図

図号	名称	計測値(cm)	形状の特徴	手法の特徴	出土・色調・地域	備考
第2図	堀	B (8.2) D 7.1 E 1.0	体部から高台部の破片。体部は外傾して立ち上がる。高台は東西二日月状を呈する。	体部、高台部内・外面ロココナダ。高台部付付け。底部別部へつ張り。	砂砂・白色砂子 赤褐色黄土。黄土 黒褐色 土	P280 40% P145 覆土層 大塚2号掘式

### 第43号住居跡 (第92図)

位置 調査区域の南部，E 2 j0区。

規模と平面形 住居跡の大半が調査区域外に位置する。南北3.5m，東西(0.43)mで，方形または長方形と考えられる。

方向 東壁はN-4°-Wを向いている。

壁 壁高は32~47cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁の南東コーナーから南壁にかけて巡る。

断面はU字形で，上幅11~18cm，下幅3~6cm，深さは10cmである。

床 ローム質で，平坦である。全体的に若干軟弱である。

ピット 床面を精査したが，確認できなかった。

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積し，自然堆積と思われる。

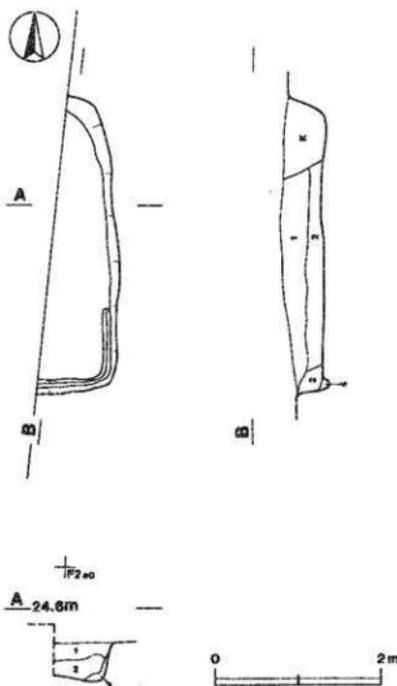
#### 土層解説

- 1 出褐色 ローム大ブロック少量，ローム小ブロック・同粒子少量，しまり葉
- 2 灰褐色 ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量，ローム大ブロック少量，炭化粒子少量
- 4 腐葉色 ローム小ブロック中量，粘性・しまり葉

遺物 土師器片28点，須恵器片9点が出土している。

いずれも小片で，図化できなかった。

所見 本跡は出土した遺物が少なく，時期は不明である。



第92図 第43号住居跡実測図

### 第45号住居跡 (第93・94図)

位置 調査区域の南部，E 3 j3区。

重複関係 第1・2号土坑が本跡の床面を掘り込んでいることから，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.84m，短軸3.70mの方形である。

主軸方向 N-0°-W

壁 壁高は24~36cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁際及び，南西コーナー付近から西側袖部付近にかけて巡る。断面はU字形で，上幅16~31cm，下幅6~13cmで，深さは3~10cmである。

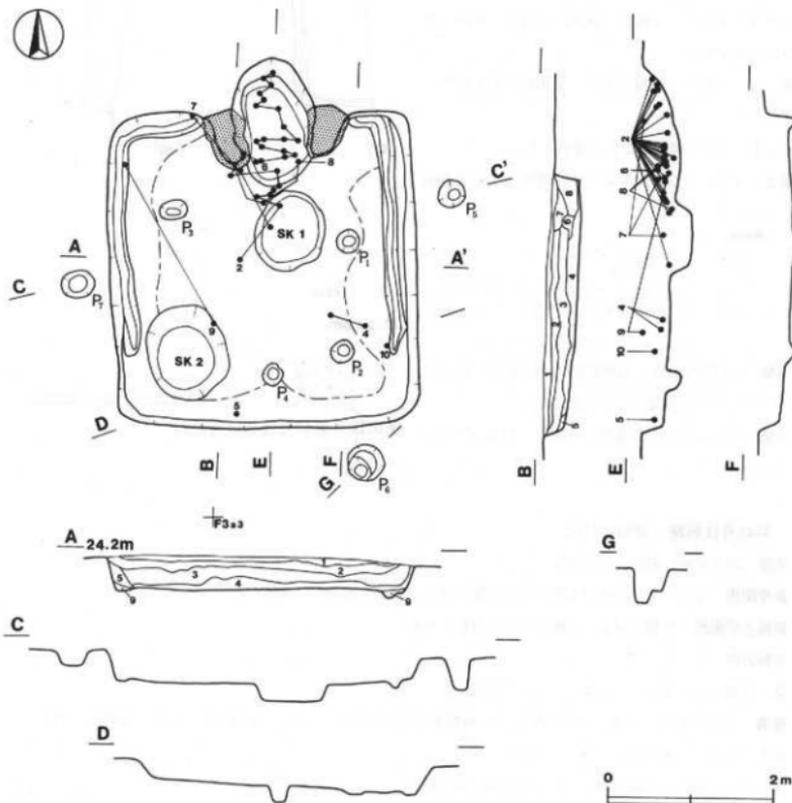
床 ローム質で，平坦である。柱穴の内側は踏み固められている。

竈 北壁中央部やや東寄りに構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残る。規模は，煙道部上端から突き

口部まで154cm, 最大幅171cmである。煙道部は壁外へ74cm掘り込んでおり, 煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。17~20層は, 軸部の土層である。軸部は, 灰褐色粘土を用いて構築されている。5層は, 粘土粒子を含み, 天井部を構築していた層と考えられる。火床部面は, 皿状に床面から9cm掘り下げられている。火床面から煙道部にかけて, 火熱を受けて硬化している。

電土層解説

- |        |                         |          |                   |
|--------|-------------------------|----------|-------------------|
| 1 黒色   | ローム粒子微量                 | 13 暗褐色   | ローム小ブロック・焼土粒子微量   |
| 2 極暗褐色 | 焼土粒子少量, 粘土粒子微量          | 14 極暗褐色  | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量    |
| 3 極暗褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量          | 15 褐色    | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量    |
| 4 暗褐色  | 焼土粒子少量, 粘性・しまり弱         | 16 褐色    | 焼土粒子・灰中量, 粘性・しまり弱 |
| 5 灰褐色  | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 粘性・しまり強 | 17 褐色    | 焼土粒子・粘土粒子少量       |
| 6 黒色   | 焼土粒子微量                  | 18 黒褐色   | ローム粒子少量, 粘性・しまり弱  |
| 7 黒褐色  | 焼土粒子中量                  | 19 暗褐色   | ローム粒子微量           |
| 8 暗褐色  | 焼土粒子・粘土粒子少量             | 20 暗褐色   | 焼土粒子・炭化粒子少量       |
| 9 黒色   | 砂粒微量, 粘性・しまり弱           | 21 褐色    | 焼土粒子中量            |
| 10 暗褐色 | 砂粒少量, 粘性・しまり弱           | 22 褐色    | ローム粒子多量           |
| 11 黒褐色 | 焼土粒子少量                  | 23 にぶい褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量       |
| 12 黒褐色 | 焼土小ブロック微量               |          |                   |



第93図 第45号住居跡実測図

ピット 7か所 (P1~P7)。P1~P3は壁寄りに位置しており、支柱穴と考えられる。P1・P2は径28~30cmの円形、P3は長径34cm、短径23cmの楕円形で、深さは10~17cmである。P4は南壁寄り中央付近に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。径27cmの円形で、深さは22cmである。P5~P7は、壁から18~24cm外側に位置する。P5・P6は径32~42cmの円形、P7は長径42cm、短径33cmの楕円形で、深さは18~42cmである。本跡の補助的な柱穴の可能性がある。

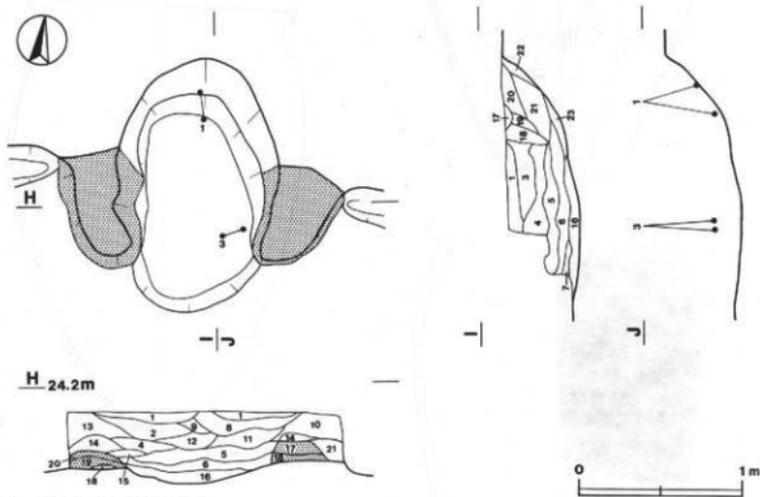
**覆土** 9層からなる。レンズ状に堆積するため、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

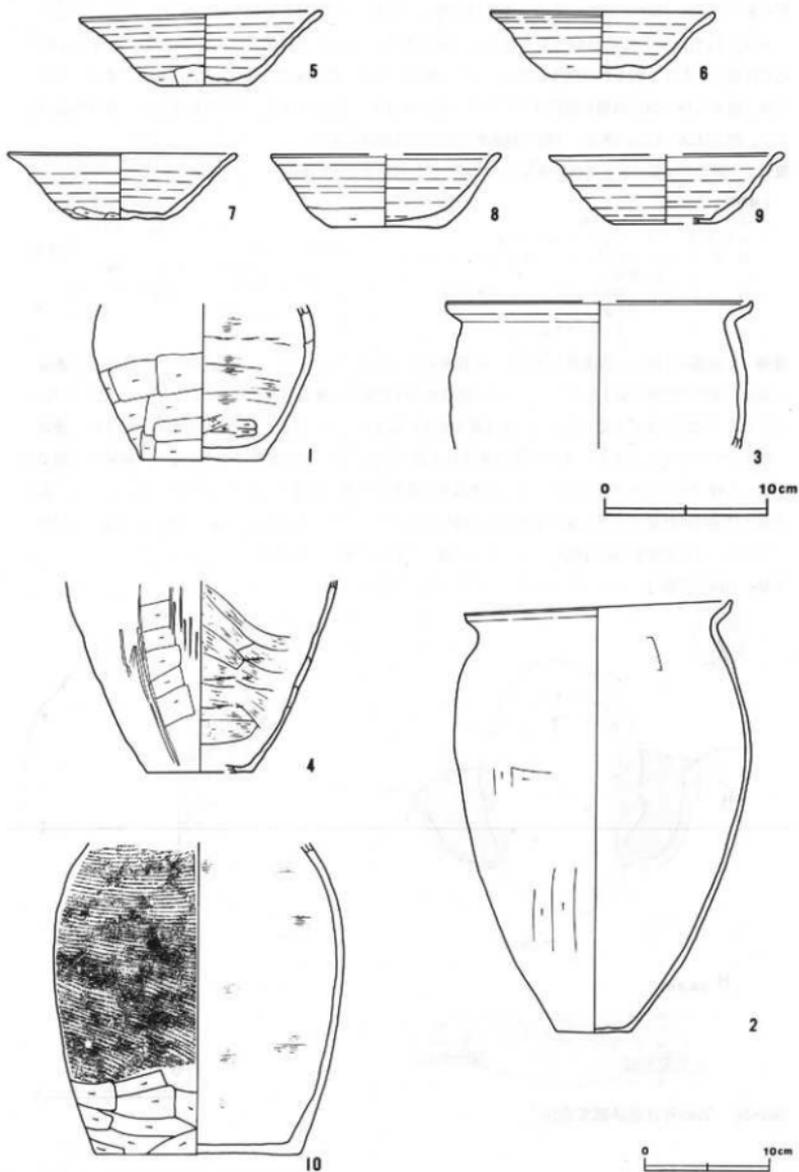
1 黒色	ローム粒子少量	6 橙黄色	ローム大ブロック多量、しまり強
2 暗褐色	ローム小ブロック・同粒子少量	7 濃い赤褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・粘土粒子少量、ローム大ブロック微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量	8 濃い赤褐色	焼土大ブロック・焼土粒子・粘土大ブロック・粘土粒子少量
4 黒色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量	9 褐色	ローム粒子少量、粘性强
5 褐色	ローム小ブロック多量		

**遺物** 土師器片646点、須恵器片290点、灰軸陶器片1点が出土している。第95図1の土師器小形甕は、煙道部から逆位の状態で出土している。2の土師器甕は煙道部から竈前面にかけて、破片の状態で出土している。双方とも二次的な焼成を受けており、2は竈天井部の補強材である可能性が考えられる。3の土師器甕は、竈の覆土中からの出土である。4の土師器甕はP2寄りから、10の須恵器甕は東壁際から、横位の状態で覆土中から上層にかけて出土している。5の須恵器甕は南壁際の覆土中層から正位の状態で出土している。6の須恵器甕は逆位の状態で、7・8の須恵器甕は破片の状態で、それぞれ竈前面の覆土下層から中層にかけて出土している。9の須恵器甕は北東コーナー付近の覆土上層から破片の状態で出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土した土器などから9世紀後半と考えられる。



第94図 第45号住居跡電実測図



第95图 第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表

埋蔵番号	器種	計測値(cm)	器形の概要	出土の状況	粘土・色調・焼成	備考
第95回 1	小石釜 土器器	B (9.4) C 7.4	口縁部欠損。平底。体部は内脛して立ち上がる。	体部外面上下ナテ。体部外面ナテへハケ削り。体部内面ナテの後、一部へケ削り。	砂粒・黒色・白色 粘土 赤い黄褐色 青濁	P284 60% 瀬底土層
2	土器器	A 21.0 B 37.4 C 5.8	体部一部欠損。平底。体部は内脛して立ち上がる。口縁部は外脛して立ち上がり。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面傾ナテ。体部内・外面ナテの後、一部へケ削り。	砂粒・スクリヤ・黒炭 赤褐色 青濁	P291 70% P.L.50 瀬底土層
3	土器器	A [18.6] B (8.9)	口縁部から体部の破片。体部は内脛して立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面。体部内面ナテ。体部外面は断面欠損不明。	砂粒・石炭・スクリヤ・黒炭 赤褐色 青濁	P292 25% 瀬底土中層
4	土器器	B (15.5) C (8.1)	体部から底部の破片。平底。体部は若干内脛して立ち上がる。	体部外面へケ削りした後、一部傾伏状態で埋蔵のナテ。体部内面へケ削り。	砂粒・石炭・黒炭 赤褐色 青濁	P293 30% 瀬底土層
5	土器器	A 14.3 B 4.6 C 5.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて若干外反して立ち上がる。	体部内・外面口クロナテ。体部下部ナテへケ削り。底面一方の手持ちへケ削り。	砂粒・スクリヤ 緑褐色 青濁	P294 60% P.L.50 瀬底土層
6	土器器	A 13.5 B 4.9 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外脛して立ち上がる。口縁部が反て若干外反する。	体部内・外面口クロナテ。体部下部傾伏へケ削り。底面一方の手持ちへケ削り。	砂粒・石炭・黒炭 赤褐色 青濁	P285 80% P.L.50 瀬底土層
7	土器器	A 13.9 B 4.0 C 5.3	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外脛して立ち上がる。口縁部が反て若干外反する。	体部内・外面口クロナテ。体部下部ナテへケ削り。底面傾伏へケ削り後、手持ちへケ削り。	砂粒・石炭・黒炭 赤褐色 青濁	P287 75% P.L.50 瀬底土中層
8	土器器	A 13.9 B 4.1 C 6.6	口縁部から体部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外脛して立ち上がる。	体部内・外面口クロナテ。体部下部傾伏へケ削り。底面一方の手持ちへケ削り。	砂粒・白色粘土 赤褐色 青濁	P288 50% 瀬底土層
9	土器器	A [14.1] B 4.5 C (6.2)	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて若干内脛して立ち上がる。口縁部が反て若干外反する。	体部内・外面傾伏口クロナテ。体部内面口クロナテ。底面手持ちへケ削り。	砂粒・石炭・黒炭 赤褐色・緑 赤い赤褐色 良	P285 50% 瀬底土層
10	土器器	B (25.0) C (16.4)	体部から底部の破片。平底。体部は内脛して立ち上がる。	体部外面傾伏の若干傾き。体部下部へケ削り。内面ナテ。	砂粒・石炭・黒炭 赤褐色 青濁	P295 30% 瀬底土中層

第46号住居跡 (第96回)

位置 調査区域の南部、F 3a2区。第45号住居跡の南に位置する。

重複関係 第3号土坑と重複している。第3号土坑が本住居跡の床面を掘り込んでいることから、本跡が古いと思われるが、土層断面では第3号土坑の掘り込みを確認できなかった。

規模と平面形 長軸4.03m、短軸4.00mの方形である。

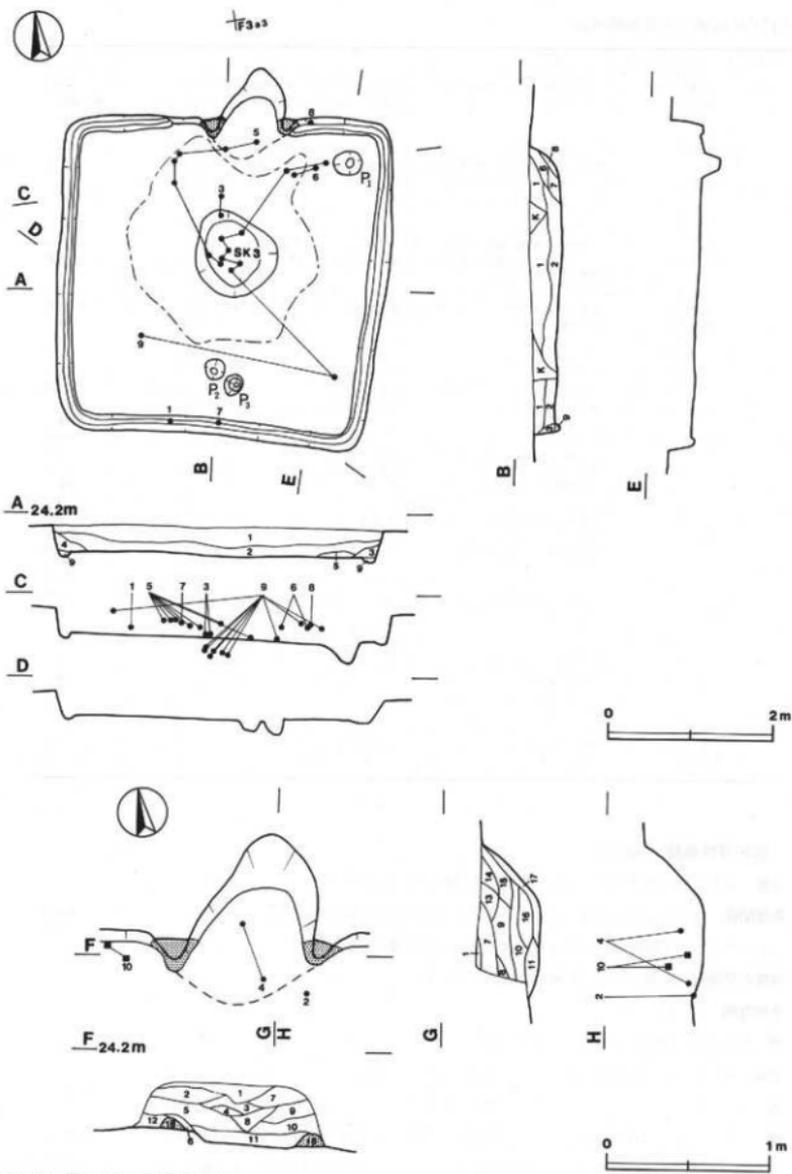
主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は26~40cmで、外脛して立ち上がる。

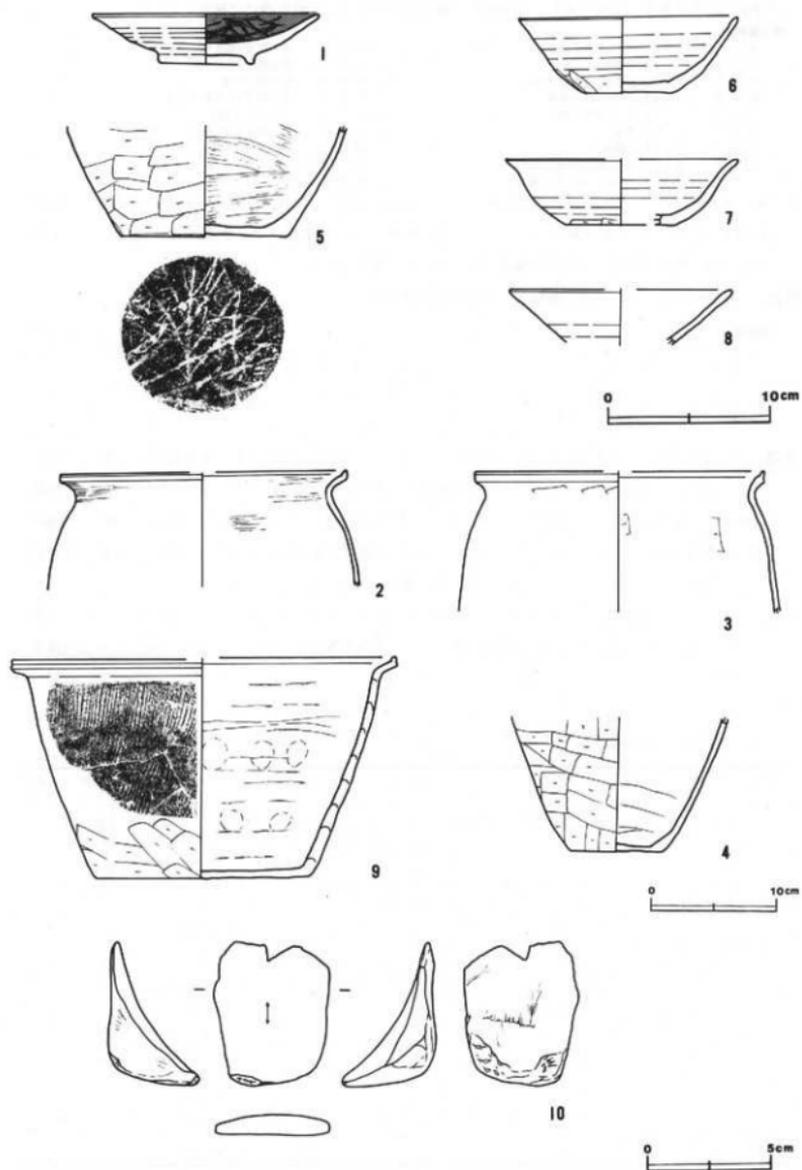
壁溝 壁際を巡る。断面はU字形で、上幅16~21cm、下幅6~12cmで、深さは4~8cmである。

床 ローム質で、平坦である。P 2 から壁前面にかけては、踏み固められている。

竈 北壁中央付近に構築されている。天井部は崩落し、両袖部も基部付近だけが残存している。規模は、煙道部上端から吹き口部まで105cm、両袖部幅106cmである。煙道部は壁外へ68cm掘り込んでおり、煙道は外脛して立ち上がる。18層は袖部の土層である。袖部は、灰褐色粘土を使用して構築されている。火床部は床面



第96图 第46号住居跡実測図



第97图 第46号住居跡出土遺物実測図

とはほぼ同じ高さで続き、平坦である。火床面から埋遣部にかけて、火熱を受けて硬化している。

埋土層解説

1 暗褐色	ローム粒了・赤色粒子微量	10 暗褐色	焼土粒了・粘土粒少量
2 暗褐色	ローム粒子微量	11 暗褐色	焼土粒子・砂粒少量
3 黒褐色	ローム粒子少量、粘土粒少量	12 暗褐色	粘土粒子中位
4 暗褐色	ローム粒了・粘土粒少量	13 暗褐色	焼土粒子・炭化粒少量
5 黒褐色	ローム粒了・炭化粒微量	14 暗褐色	ローム粒了微量
6 暗褐色	焼土粒少量	15 暗褐色	粘土粒少量、粘土・しまり弱
7 黒褐色	ローム粒子微量	16 暗褐色	ローム粒子少量
8 黒褐色	焼土粒子・粘土粒・砂粒少量	17 暗褐色	ローム粒子中位
9 黒色	ローム粒子少量、粘土粒微量	18 暗褐色	粘土粒少量

ピット 3か所 (P1～P3)。P1は北東コーナー付近に位置し、主柱穴と考えられる。長径36cm、短径31cmの楕円形で、深さは27cmである。P2・P3は、南壁よりの中央部付近に位置する。径21～25cmの円形で、深さは14～20cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層からなる。レンズ状に堆積し、自然堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒了少量	6 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子微量	7 褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ローム小ブロック少量	8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
4 暗褐色	ローム小ブロック少量	9 褐色	ローム粒子少量、粘性強
5 暗褐色	ローム粒子中位		

遺物 土師器片553点、須恵器片334点、石片2点が出土している。第97図1の土師器高台付皿は正位の状態で、7の須恵器杯は逆位の状態で、それぞれ南壁際中央付近の覆土中層から出土している。2～5の土師器甕は、甕内から甕前面にかけて出土している。6の須恵器杯は逆位の状態で、8の須恵器杯は破片の状態で、それぞれ甕東側の覆土中層から出土している。9の須恵器甕は、甕東側の甕面上から覆土中層及び第34号土坑内から破片の状態で出土している。10は、甕西側の覆土下層から出土している。

所見 第3号土坑と木作居跡との関係は、第97図9が第3号土坑内と甕東側床面上の破片同士で接合することから、第3号土坑は本跡に伴う遺構の可能性がある。本跡の時期は、出土した土師の特徴から9世紀後半と考えられる。

第46号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	位置座標	器形の特徴	手造りの特徴	胎土・色調・状態	備考	
第97図 1	高台付皿 土師器	A (13.4)	口縁部一部欠損。甕部から口縁部にかけて大きく開く。高台には浮彫りする。	外部高直リクワナ。体部は羅布色へツ別り。体部内面赤さ、無色処理、高台彫り付いた。内・外面ナデ。甕部凹版へツ別り。	暗粒・赤黄・灰7 に濃い赤褐色	P200 70% 覆土中層	
		B (3.2)					
		D (5.5)					
2	甕 土師器	A (22.8)	口縁部から体部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、甕部はつまみ上げられている。体部は内反して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面同様に赤褐色不明。	暗粒・赤黄・白色 粘土 褐色 青濁	P201 30% 埋土	
		B (8.1)					
3	甕 土師器	A (22.0)	口縁部から体部の破片。体部は若干内反して立ち上がる。口縁部は弱く外反して立ち上がり、甕部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面同様にナデ。体部内面へツ別り突、ナデ。	暗粒・赤黄・スコ リア に濃い赤褐色 青濁	P202 30% 覆土下層	
		B (11.2)					
4	甕 土師器	B (19.7)	体部から底部の破片。平底。体部は外反して立ち上がる。	体部外面へツ別り、内面ナデ。	暗粒・赤黄・スコ リア に濃い赤褐色 青濁	P203 30% 覆土中層	
		C (7.8)					
5	甕 土師器	B (6.8)	体部から底部の破片。平底。体部は内反して立ち上がる。	体部外面へツ別り、内面ナデ。底面木炭部。	暗粒・スコリア に濃い赤褐色 青濁	P201 30% 覆土下・中層	
		C (9.3)					

調査番号	層 級	計測値(cm)	造 形 の 特 徴	平 法 の 特 徴	粘土・灰・焼灰	備 考
第97図 6	坪 築造部	A 13.4	口縁部一部欠損。平直。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部下端平持ちヘラ削り。体部内・外面口縁部はヘラ削り。体部内・外面口縁部はヘラ削り。裏を削り、方向の手入れヘラ削り。	砂質・石灰質 コリア 灰土 黄灰色 普通	P297 50% P.L50 覆土中層
		B 4.8				
		C 5.4				
7	坪 築造部	A (14.2)	口縁部から体部の破片。平直。体部から口縁部にかけて若干内傾して立ち上がり、口縁部は平直で若干外反する。	体部内・外面口縁部はヘラ削り。体部下端・底面平持ちヘラ削り。	砂質・スクリュー 赤味・白灰土 に多い黄褐色 普通	P298 10% 覆土中層
		B 4.1				
		C 16.8				
8	坪 築造部	A [13.4]	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	内・外面口縁部はヘラ削り。	砂質 黄褐色 普通	P299 40% 覆土中層
		B (3.2)				
9	坪 築造部	A [30.4]	口縁部から体部の破片。平直。口縁部は外傾して立ち上がり、端部はつまみ上げられ、内側には山取りを施す。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面はヘラ削り。体部外面は杖の平行削り。体部下端ヘラ削り。体部内面は平直。一部窪窪面。	砂質 黄褐色 普通	P300 50% 床面・覆土下層
		B 17.5				
		C 17.1				

調査番号	地 層	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第97図10	磁 石	(5.8)	5.7	0.9	(59.1)	覆土下層	Q29 凝灰質 P.L50

### 第47号住居跡 (第98・99図)

位置 調査区域の南部、F2a0区。

重複関係 第2号掘立柱建物の本跡の覆土を掘り込んで構築されているので、本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸5.25m、短軸4.87mの方形である。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は18・24cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁脚を巡る。断面はU字形で、上幅8～22cm、下幅4～10cmで、深さは4～7cmである。

床 ローム質で、平坦である。ピットの内側が踏み固められている。

竈 2基礎礎されている。竈1は、北壁中央付近に構築されている。天井部は崩落しており、第2号掘立柱建物の掘り方によって竈部が破壊されている。規模は、煙道部上端から両側袖部の先端まで109cm、両袖部幅で149cmである。煙道部は壁外へ56cm掘り込んでおり、煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。袖部は、砂粒混じりの灰褐色粘土を中心に構築されている。1層及び8層は、天井部の土層と考えられる。火床部は平坦で、床面とはほぼ同じ高さである。火床面から煙道部にかけて、火熱を受けて硬化している。

竈2は東壁の南東コーナー付近に構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、煙道部上端から両側袖部の先端まで70cm、両袖部幅124cmである。煙道部は壁外へ20cmほど掘り込んでおり、煙道は外傾して立ち上がる。袖部は、砂粒混じりの灰褐色粘土を中心に構築されている。1～4層は砂粒または粘土粒子を含んでおり、天井部の土層と考えられる。火床部は床面から同じ高さで続き、竈中央付近を円形に深さ5cmほど掘り込んでいる。火床面から煙道部にかけて、火熱を受けて硬化している。

#### 竈1土層解説

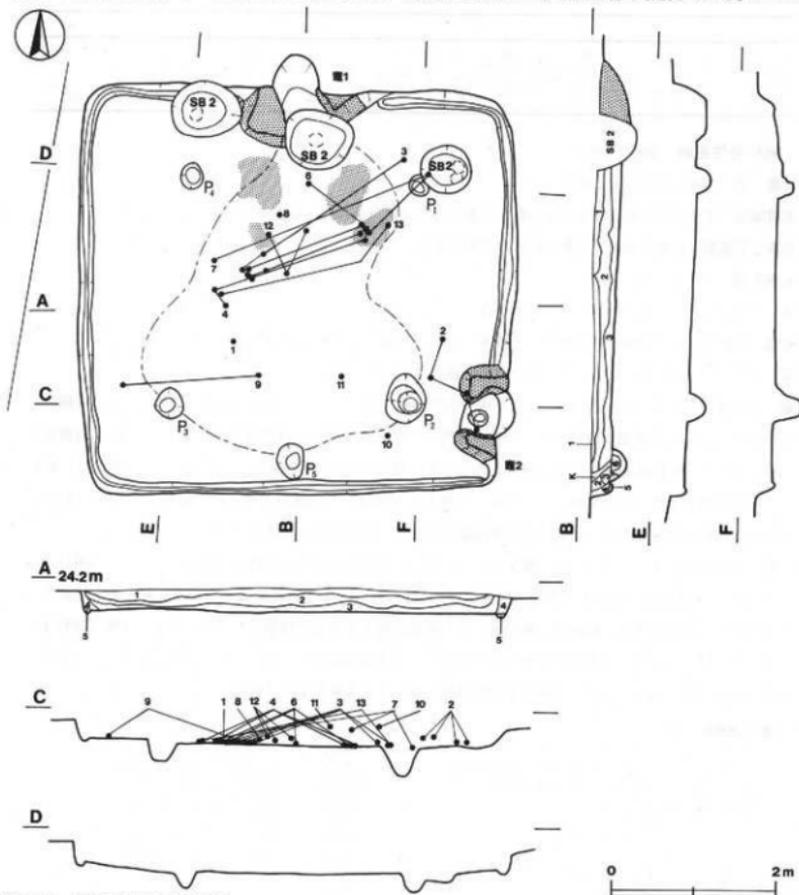
- |        |                     |         |                   |
|--------|---------------------|---------|-------------------|
| 1 粘 褐色 | ローム粒子・粘土粒少量         | 9 暗 褐色  | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子少量、炭土粒子・炭化粒子少量 | 10 黒 褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量    |
| 3 褐 色  | 炭土粒子少量、粘土粒子微量、粘着質   | 11 暗 褐色 | 炭土粒子少量、粘り・しまり弱    |
| 4 暗 褐色 | 粘土粒子少量              | 12 暗 褐色 | 炭土粒子・炭化粒子少量       |
| 5 褐 色  | 炭土粒子・炭化粒子少量         | 13 暗 褐色 | 炭土粒子中量、炭化粒子少量     |
| 6 黒褐色  | 炭土粒子・炭化粒子少量         | 14 黒 褐色 | 炭土小ブロック、粘り・しまり弱   |
| 7 黒 褐色 | 炭土小ブロック・同粒子少量       | 15 暗 褐色 | 炭土粒子・炭化粒子少量       |
| 8 暗 褐色 | ローム粒子・粘土粒少量         |         |                   |

電2土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量, 焼土小ブロック微量	5 極暗赤褐色	焼土小ブロック・同粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量, しまり弱
2 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量, しまり弱
3 灰褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	7 明赤褐色	焼土大ブロック多量, しまり強
4 極暗赤褐色	焼土中ブロック・同小ブロック・同粒子中量, 炭化粒子少量, 砂粒微量	8 暗赤褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、それぞれコーナー側に片寄って位置し、主柱穴と考えられる。P1・P3・P4は径26~38cmの円形, P2は長径57cm, 短径46cmの楕円形で、深さは22~36cmである。P5は南壁際中央付近に位置し、出入り口施設に伴うピットである。長径43cm, 短径34cmの楕円形で、深さは18cmである。

覆土 7層からなる。5・6層はP5の上層である。電前面の床面上には、焼土が薄く堆積している。レンズ



第98図 第47号住居跡実測図

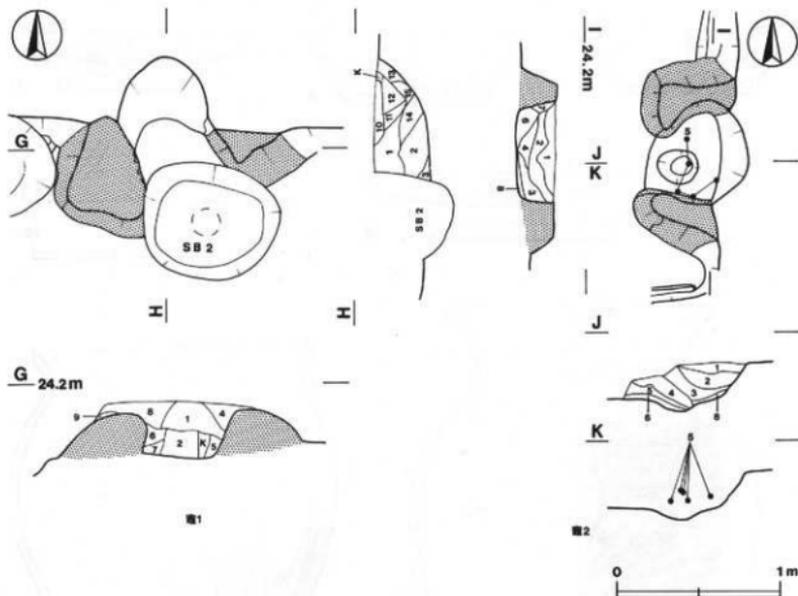
状に堆積し、自然堆積と思われる。

土層解説

- |       |                             |       |                       |
|-------|-----------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子少量                     | 4 明褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、しまり強 |
| 2 灰褐色 | ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量        | 5 褐色  | ローム小ブロック中量            |
| 3 褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量               |
|       |                             | 7 褐色  | ローム粒子少量               |

**遺物** 土師器片444点、須恵器片154点、陶器片1点が出土している。第100図1の土師器甕は覆土下層から正位の状態、2の土師器甕は竈2前面の覆土下層から破片の状態、それぞれ出土している。3・4・6～8の須恵器環は、住居跡中央付近の床面上から覆土下層にかけて、破片の状態で出土している。5の須恵器環は竈2の覆土中層から出土している。9の須恵器釜は正位の状態で南壁寄りの床面上から、10の須恵器釜は逆位の状態でP2の南側の覆土中層から、それぞれ出土している。11の須恵器高環は、P2の西側の覆土上層から出土している。12・13の須恵器甕は、中央部付近の床面上から破片の状態で出土している。

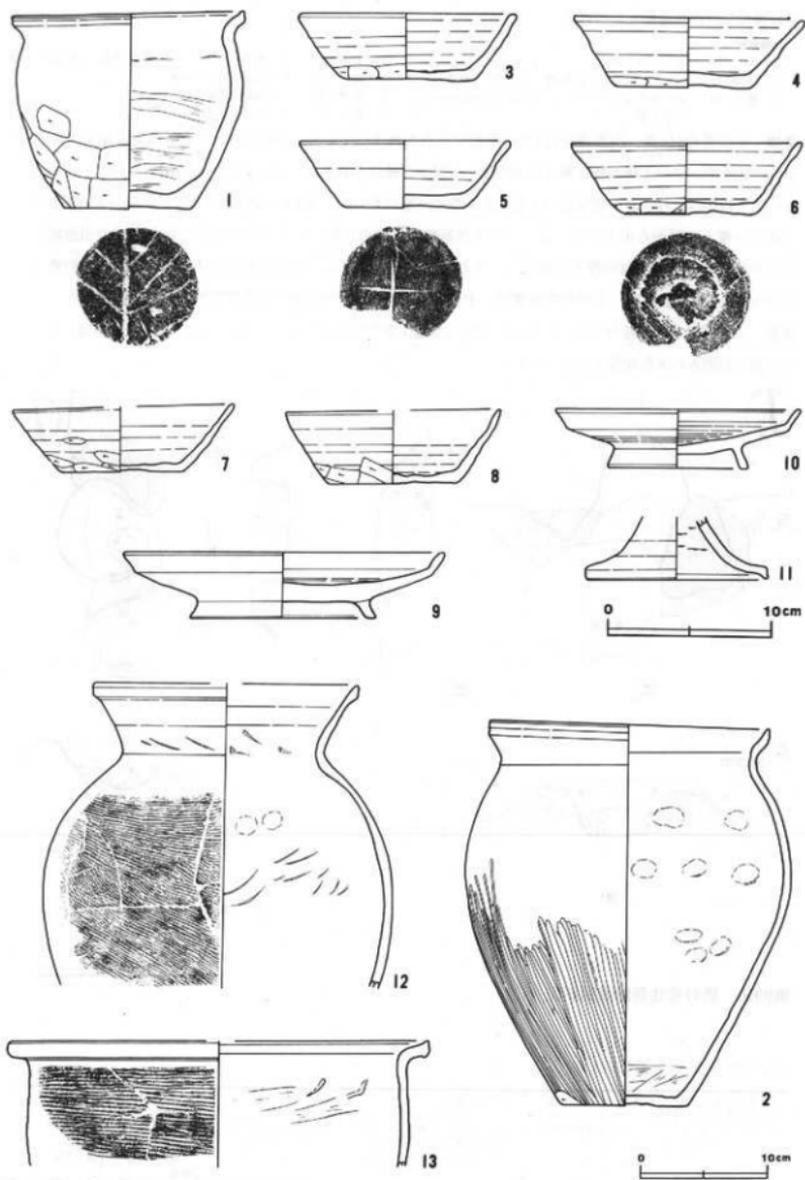
**所見** 2基確認された竈のうち、位置から判断して竈1が主たる竈であると思われる。本跡の時期は、出土した土器の特徴から8世紀後半と考えられる。



第99図 第47号住居跡実測図

第47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第100図 1	小形薬土師器	A 14.1	体部一部欠損。平底。体部は内脣して立ち上がる。口縁部は縦やかに外反して立ち上がり、口縁端部は若干つまみ上げられている。	口縁部内・外面、体部外面上半、体部内面ナデ。体部下平へ削り。木炭灰。	粉粒・スコリア・雲母・長石に多い赤褐色	P322 96% P.L.50 覆土下層普通
		B 12.1				
		C 7.7				



第100图 第47号住居跡出土遺物実測図

図紙番号	名称	計測値(cm)	形状の概要	寸法の概要	材質・色調・補装	備考
第100回 2	土留器	A 22.6	体部一部欠損。平底。体部は内壁して立ち上がる。口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。	口縁部内・外面、体部外面上下ナデ。体部外側下半部迄の骨子。体部内面ナデ。一部隆起部を欠す。	砂粒・雲母・白色粘土 灰黄色	P318 70% P.L.50 覆土下層
		B 20.6				
		C 10.2				
3	灰須恵器	A 13.2	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部下端手持ちへう割り。体部内・外面口クロナデ。底部回転へう切り痕を残し、一方の手持ちへう割り。	砂粒・雲母・灰石 灰黄色 普通	P310 80% P.L.51 床面
		B 4.1				
		C 7.6				
4	灰須恵器	A 14.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部下端手持ちへう割り。底部回転へう切り痕を残し、一方の手持ちへう割り。	砂粒・スコリア・雲母 灰黄色 普通	P309 70% 床面
		B 4.2				
		C 8.2				
5	灰須恵器	A 12.7	体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部下端手持ちへう割り。底部一方の手持ちへう割り。	砂粒・石英・雲母・灰石 灰黄色 普通	P311 70% P.L.50 へう記号「ズ」 覆土層上中層
		B 4.1				
		C 7.2				
6	灰須恵器	A 13.7	口縁部から体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部下端手持ちへう割り。底部回転へう切り痕を残し、手持ちへう割り。	砂粒 灰黄色 普通	P312 60% P.L.51 床面
		B 4.4				
		C 7.7				
7	灰須恵器	A [13.4]	口縁部から体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部下端手持ちへう割り。底部多方向の手持ちへう割り。	砂粒・石英・雲母・灰石 灰黄色 普通	P313 55% 床面・覆土下層
		H 4.2				
		C 7.2				
8	灰須恵器	A [13.0]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部下端手持ちへう割り。底部一方の手持ちへう割り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P314 45% 覆土下層
		B 4.4				
		C [7.7]				
9	甌形土器	A 19.4	口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境界に後を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。高台はへの字状に開く。	口縁部内・外面、体部外面ナデ。体部内面口クロナデ。底部回転へう割り。高台取り付け後、内・外面ナデ。	砂粒・雲母・白色粘土 黒褐色 普通	P315 90% P.L.51 床面
		B 4.0				
		D 11.2				
		E 1.0				
10	甌形土器	A 14.7	口縁部から体部一部欠損。体部は大きく開き、口縁部との境界に後を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。高台はへの字状に開く。	口縁部・体部内・外面口クロナデ。高台取り付け後、ナデ。底部回転へう割り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P316 70% 覆土下層
		B 3.8				
		D 8.5				
		E 1.4				
11	灰須恵器	B (3.9)	口縁部の破片。脚は外反して広がり、脚端部はど方につまみ出される。	脚部内・外面口クロナデ。	砂粒・石英・灰石 灰黄色 普通	P317 90% 覆土上層
		D [11.0]				
12	灰須恵器	A [20.9]	口縁部一部・底部欠損。体部は内壁して立ち上がる。口縁部は緩やかに外傾して立ち上がる。口縁部は断面を呈す。	口縁部ナデ。口縁部内・外面口クロナデ。体部外面横位の平行凹み。体部内面ナデ。同心円状の当て具痕有り。	砂粒・雲母 灰黄色 良	P320 60% P.L.51 床面
		B (21.3)				
13	灰須恵器	A [33.0]	口縁部から体部の破片。体部は乙子内壁して立ち上がる。口縁部は強く外反し、溝部を若干つまみ上げる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面横位の平行凹み。体部内面ナデ。同心円状の当て具痕有り。	砂粒・スコリア・雲母 褐色 普通	P321 25% 床面
		B (10.1)				

#### 第48号住居跡 (第101回)

位置 調査区域の南部、F 2d9区。

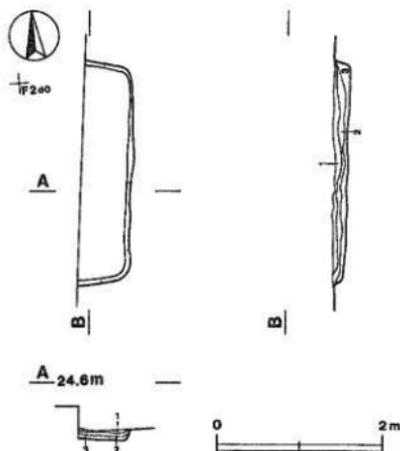
規模と平面形 住居の西側が調査区域外に位置している。南北2.66m、東西(0.6)mの方形または長方形と推定される。

方向 東壁はN-6°-Eを向く。

壁 壁高は12~16cmで、外傾して立ち上がる。

床 ローム質で、平坦である。

ピット 床面を精査したが、確認できなかった。



第101図 第48号住居跡実測図

### 第50号住居跡 (第102図)

位置 調査区域の南部, E 36gⅠ区。

規模と平面形 長軸3.94m, 短軸3.47mの長方形である。

主軸方向 N-22°-E

壁 壁高は8~14cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁際を走る。断面はU字形で、上幅11~22cm, 下幅3~8cm, 深さは4~6cmである。

床 ローム質で、平坦である。ピットの内側は踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、煙道部上端から焚き口部まで100cm, 両袖部外側の基部で152cmである。煙道部は壁外へ30cm掘り込んでおり、煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。25~35層は袖部の土層である。袖部は、灰褐色粘土を素材として構築されている。10・11層は粘土粒子・砂粒を含み、崩落した天井部の土層と思われる。火床部は、長径60cm, 短径40cmの楕円形で、床面から深さ9cmほど掘り込まれている。火床面から煙道部にかけて、火熱を受けて硬化している。

#### 竈土層解説

1 灰褐色	粘土中ブロック・同小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量, しまり強	12 暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
2 灰褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化物・砂粒少量, 焼土大ブロック微量, しまり強	13 灰褐色	粘土小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
3 暗赤褐色	炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	14 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
4 にぶい褐色	焼土粒子・炭化物・砂粒少量, しまり強	15 黒褐色	ローム小ブロック・同粒少量
5 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量, しまり強	16 黒褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック少量
6 暗赤褐色	焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量, しまり強	17 暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
7 灰褐色	ローム小ブロック・砂粒中量, しまり強	18 灰褐色	粘土小ブロック・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 粘性强
8 灰褐色	粘土小ブロック中量, 焼土粒少量, しまり強	19 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒・砂粒少量, 粘性・しまり強
9 にぶい褐色	粘土小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量	20 暗赤褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土粒・粘土粒子・砂粒少量, しまり強
10 灰褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒少量		
11 灰褐色	粘土小ブロック多量, 粘性强・しまり強		

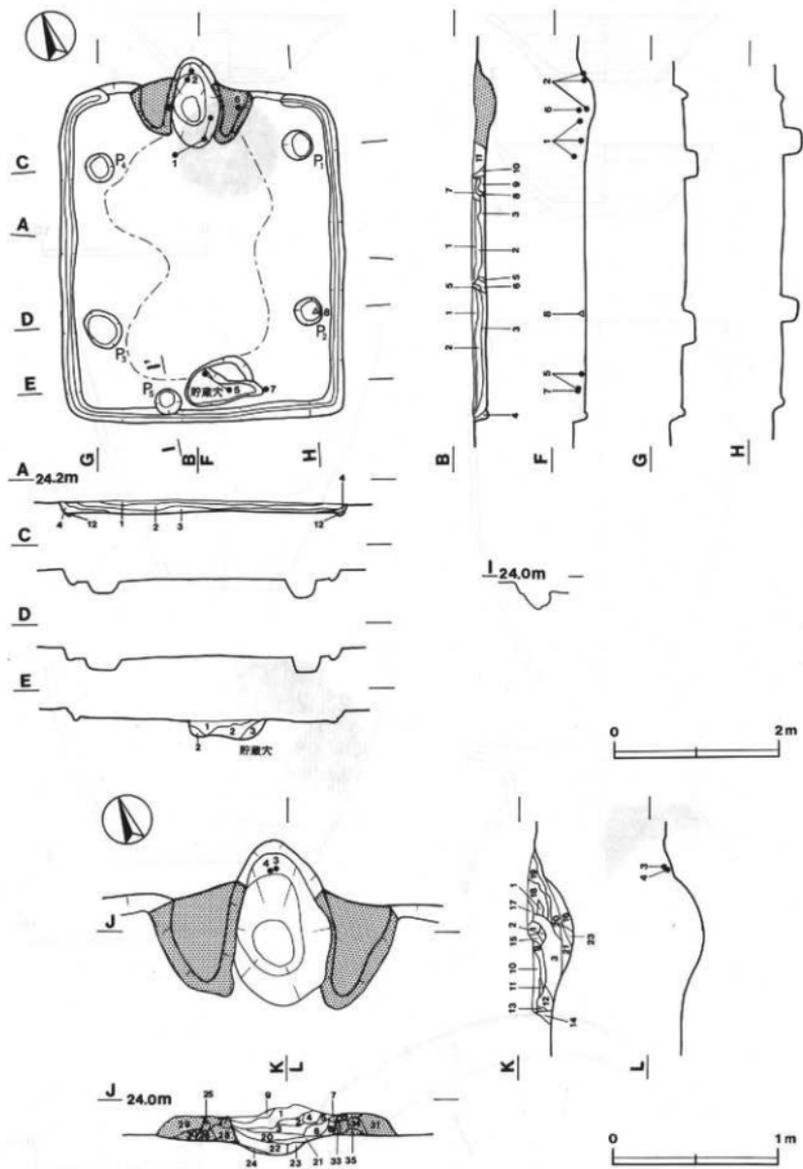
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積し、自然堆積と思われる。

#### 土層解説

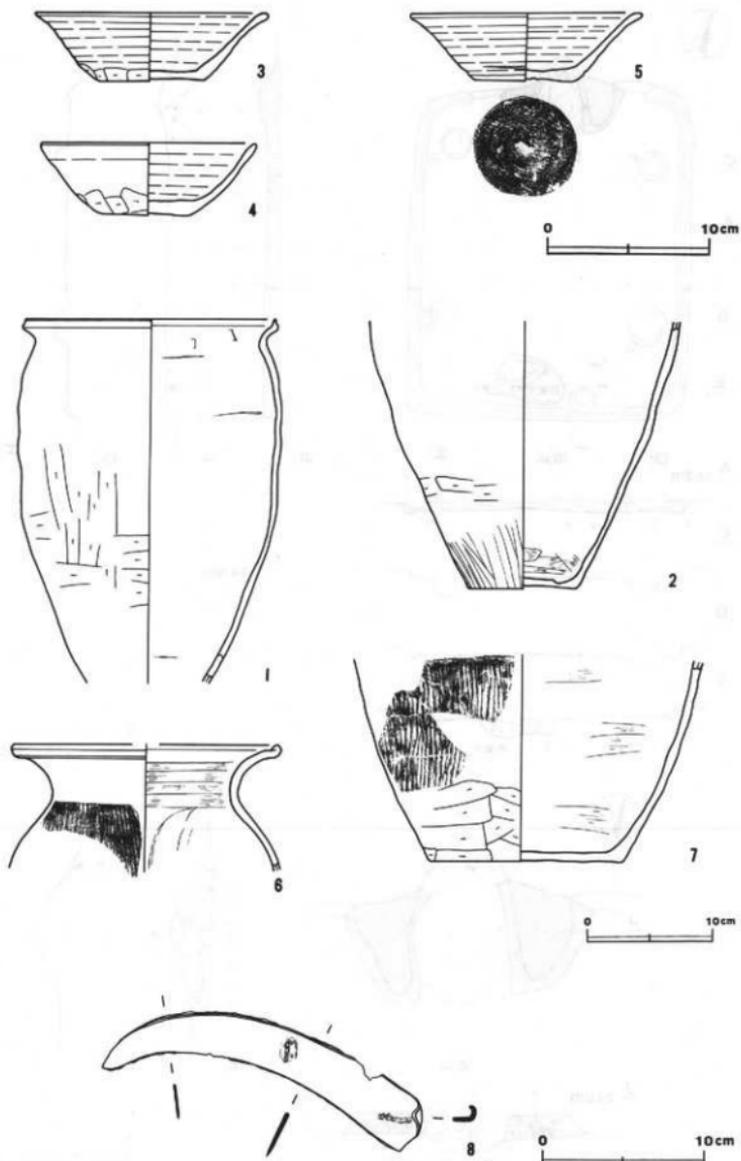
- 1 にぶい褐色 ローム小ブロック中量
- 2 にぶい褐色 ローム小ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・同小ブロック少量

遺物 土師器片4点, 須恵器片4点が出土している。いずれも小片であり, 図示し得なかった。

所見 本跡の時期は, 明らかではない。



第102图 第50号住居跡实测图



第103图 第50号住居跡出土遺物実測図

21 褐 灰 色	等粒中砂, ローム粒子・塊土小ブロック・塊土粒子・炭化粒子少量	29 灰 褐色	粘土粒子中量, 塊土粒子少量
22 にぶい赤褐色	ローム小ブロック・塊土中ブロック・塊土小ブロック・炭化粒子少量	30 暗 褐色	ローム小ブロック少量
23 にぶい褐色	ローム大ブロック少量, ローム小ブロック・塊土粒子・炭化粒子・塊土少量	31 褐 色	ローム小ブロック少量
24 にぶい褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・塊土・炭化粒子・塊土少量	32 灰 褐色	粘土粒子少量, ローム粒子中量
25 にぶい褐色	粘土粒子多量, ローム粒子少量, 粘性強	33 灰 褐色	粘土粒子多量
26 明 褐色	ローム粒子多量, 粘性強	34 明 褐色	ローム粒子多量, 粘土粒子中量, 粘性強
27 明 灰 褐色	粘土粒子多量, 粘性強	35 にぶい褐色	ローム粒子多量
28 灰 褐色	粘土粒子多量, 塊土粒子少量, 粘性強		

**貯蔵穴** 南壁際中央付近に位置する。長軸86cm, 短軸52cmの不整形長方形で、深さは22cmである。底面は若干起伏があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

**貯蔵穴土層解説**

- 1 暗 褐色 ローム粒子多量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子微量, 粘性強

**ピット** 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、それぞれ壁寄りに位置し、柱柱穴と考えられる。P1・P2・P4は径26~28cmの円形、P3は長径48cm, 短径40cmの楕円形で、深さは15~26cmである。P5は南壁際に位置し、径30cmの円形で、深さは22cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 10層からなる。レンズ状に堆積するため、自然堆積と思われる。

**土層解説**

- |        |               |         |                 |
|--------|---------------|---------|-----------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子微量       | 6 褐 色   | ローム粒子多量, 粘性しずく強 |
| 2 黒 褐色 | ローム小ブロック多量    | 7 暗 褐色  | ローム粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 3 暗 褐色 | ローム小ブロック・粘土中量 | 8 黒 褐色  | ローム粒子中量         |
| 4 黒 褐色 | ローム小ブロック微量    | 9 黒 褐色  | ローム粒子・塊土・粘土粒子少量 |
| 5 暗 褐色 | ローム粒子多量       | 10 黒 褐色 | 粘土粒子少量, 炭化粒子微量  |

**遺物** 土師器片76点, 須恵器片157点, 鉄製品1点(鏝)が出土している。第103図1・2の土師器甕は、竈内から出土している。1は焚き口部寄りの覆土中層から、2は煙道部寄りの底面から覆土下層にかけて、それぞれ破片の状態で出土している。3・4の須恵器甕は、竈煙道部の底面上に、下から4・3と重なって逆位の状態に出土している。2点とも外面には二次焼成を受けた痕跡が認められ、支脚として転用されていたと思われる。5の須恵器甕は、貯蔵穴付近の覆土下層から逆位の状態に出土している。6の須恵器甕は、竈東側袖部の上面から横位の状態で出土している。7の須恵器甕は南壁際東寄りの、8の鏝は東壁際南寄りの、それぞれ覆土中層から出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土遺物の特徴から9世紀後半と考えられる。

**第50号住居跡出土遺物観察表**

図号番号	図 様	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	了 述 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第103図 1	甕 土師器	A 20.1	口縁部から底面の破片。体部は内巻して立ち上がる。口縁部は縦向きに外反し、扉部を若干つまみ上げる。	口縁部内・外面ナゲ。体部外面は手取部・下縁ナゲ。中底へう割り、体部内面ナゲ。	粉粒・石片・スクリヤ 粘性 普通	P326 50% P.L.1 竈土中層
		B (29.1)				
2	甕 土師器	B (21.6)	体部トナリから底面の破片。平気。体部は若干内巻して立ち上がる。	体部外面ナゲ。一部へう割り。体部下縁破綻の痕き。体部内面は器面寛れ、調整不明。	粉粒・石片・スクリヤ 切赤褐色 普通	P327 40% 竈煙道部
		C 8.4				
3	甕 須恵器	A 14.2	定形。平底。体部から口縁部にかけて外巻して立ち上がる。口縁部唇部は若干外反する。	体部外面強いロクロナテ。体部下縁手取らへう割り。体部内面ロクロナテ。底部一方向の手取らへう割り。	粉粒・石片・炭粒 灰 にぶい黄褐色 良	P321 100% P.L.5 竈煙道部
		B 4.1				
		C 6.4				
4	甕 須恵器	A 12.9	口縁部 短欠損。平底。体部から口縁部にかけて外巻して立ち上がる。	体部外面ロクロナテ。体部下縁手取らへう割り。体部内面ロクロナテ。底部一方向の手取らへう割り。	粉粒・炭粒・炭 にぶい褐色 良	P323 80% P.L.5 竈煙道部
		B 4.5				
		C 5.3				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第54回 5	坏 土器	A 14.0	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がり、肩部付近は若干外反する。	体部内・外面ロクロナデ。肩部回転ハツ切り取を残し、一方の手押すへツ削り。	赤褐色・白土粒子 褐色黄色 赤褐色	P.325 75% P.L.51 覆土下層
		B 4.3				
		C 6.0				
6	土 器	A [25.0]	口縁部から体部の破片。体部は内傾して立ち上がる。口縁部は緩やかに外反する。口縁部は若干つまみ上げられ、断面三角形を呈している。	口縁部内・外面、体部内面ナデ、体部外面傾位の平行明き。	赤褐色・黒・スロア・黄・白色粘土 紫褐色 黄	P.328 30% 壁筋部
		B (10.2)				
7	土 器	B (16.2)	体部から体部の破片、平底。体部は若干内傾して立ち上がる。	体部外面傾位の平行明き、内面ナデ。	赤褐色・黄・白色 粘土 赤褐色	P.329 30% 覆土中層
		C [16.4]				

図版番号	種別	測定値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第103回 8	鏡	19.0	3.3	0.2	(43.4)	東院寺り覆土中層	M13 有儀物付著 P.154

### 第51号住居跡 (第104回)

位置 調査区域の南部，E 3 i7f区。

重複関係 第52号住居跡の覆土を掘り込んで構築されているので、本跡の方が新しい。

規模と平面形 長軸3.79m，短軸3.52mの方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は26~32cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁及び、南壁南東コーナー付近から北西コーナー付近にかけて巡る。断面はU字形で、上幅14~28cm，下幅8~17cm，深さは5~10cmである。

床 ローム質で、ほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。

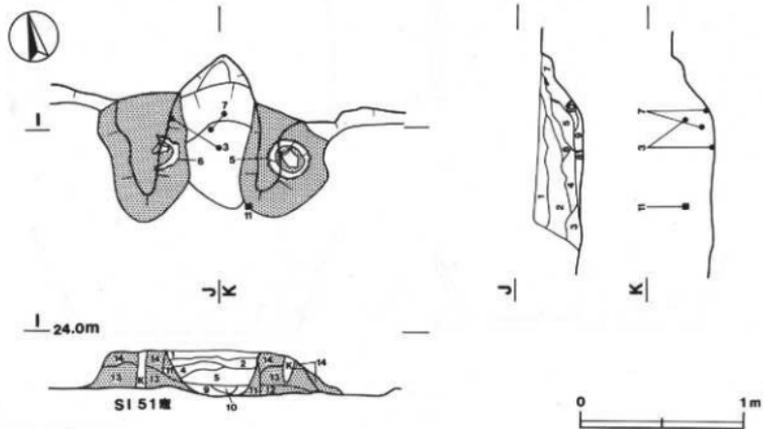
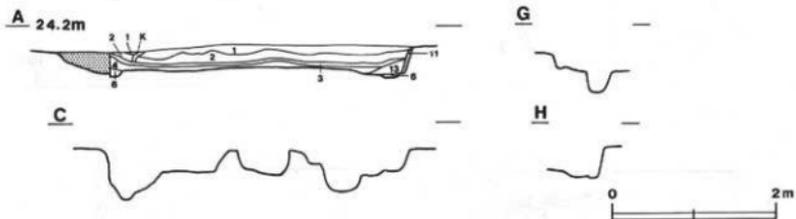
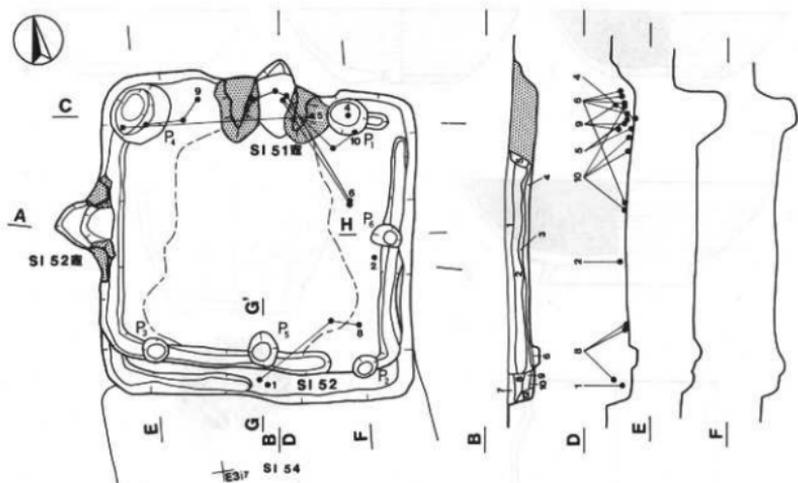
竈 北壁中央に構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、煙道部上端から吹き口部まで90cm，両袖部幅138cmである。煙道部は、壁外へ42cm掘り込んで構築されている。煙道は、外傾して立ち上がる。11~14層は袖部の土層である。袖部は、第105回5・6の土師器壺を補強材として、粘土及びローム混じりの褐色土を用いて構築されている。6層は粘土粒子を含み、天井部の一部と思われる。火床部は床面よりなだらかに盛り、平坦である。火床面から煙道部・袖部の内側にかけては、火熱を受けて亦変している。

#### 竈土層解説

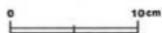
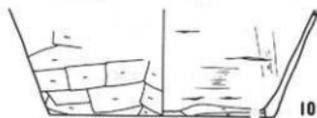
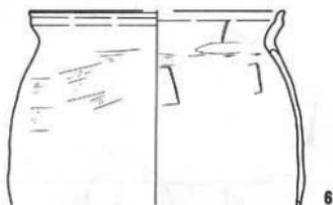
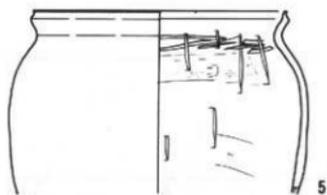
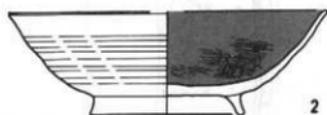
1 研 褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	8 褐色	ローム粒子中層
2 研 褐色	ローム粒子少量	9 褐色	ローム粒子中層、焼土粒子少量
3 研 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	10 灰 褐色	粘土粒中層、焼土粒子少量
4 研 褐色	ローム粒子中層、焼土粒子少量	11 灰 褐色	焼土粒中層、ローム粒子少量
5 研 褐色	焼土粒子中層	12 にぶい褐色	ローム粒子中層
6 研 褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	13 明 褐色	ローム粒子中層、焼土粒微量
7 研 褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	14 褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒微量

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、それぞれコーナー付近に位置し、平柱穴と考えられる。これらは、第52号住居跡の柱穴を再利用している可能性がある。P1~P3は径30~42cmの円形、P4は長径74cm，短径65cmの楕円形で、深さは12~36cmである。P5は南壁中央付近に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。長径42cm，短径36cmの楕円形で、深さは16cmである。

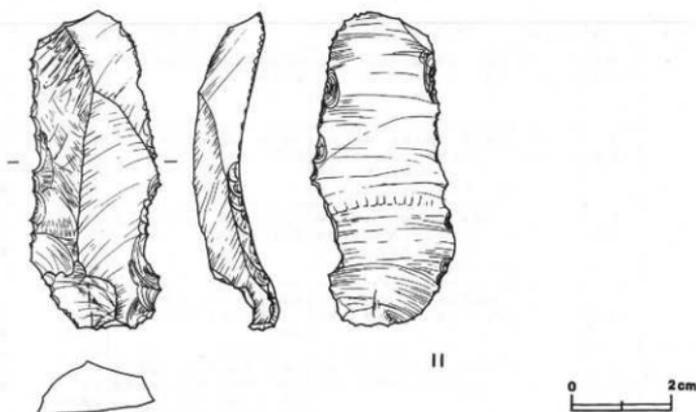
覆土 1~6層は第51号住居跡の覆土である。レンズ状に堆積し、自然堆積と思われる。



第104图 第51·52号住居跡实测图



第105图 第51号住居跡出土遺物実測図(1)



第106図 第51号住居跡出土遺物実測図(2)

第51・52号住居跡土層解説

- |       |                                     |        |                          |
|-------|-------------------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム中ブロック・同小ブロック少量, 焼土中ブロック微量        | 7 黒色   | 焼土中ブロック・炭化物微量            |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物少量                      | 8 黒色   | ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量  |
| 3 灰褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック・粘土粒子・砂少量, 粘性・しまり強 | 9 黒色   | 焼土小ブロック・砂粒少量             |
| 4 褐色  | 炭化物・粘土粒子・砂粒少量                       | 10 暗褐色 | ローム中ブロック中量               |
| 5 灰褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量                | 11 暗褐色 | ローム小ブロック・砂粒少量, 焼土粒子微量    |
| 6 褐色  | ローム粒子少量, 粘性強                        | 12 灰褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子少量 |
|       |                                     | 13 黒色  | 砂粒少量                     |

遺物 土師器片491点, 須恵器片241点, 灰釉陶器片2点, 陶器片2点, 剥片1点が出土している。陶器片・剥片は混入と思われる。第105図1の土師器杯・2の土師器高台付杯・8の須恵器杯は南東コーナー寄りの床面上から覆土中層にかけて, それぞれ破片の状態出土している。3の土師器小形甕は, 竈中央部の底面上から逆位の状態出土しており, 転用支脚と考えられる。4の土師器小形甕は, 竈東側の床面上から逆位の状態出土している。5の土師器甕は竈東側袖部内から, 6の土師器甕は同じく西側袖部内から, それぞれ逆位の状態出土している。7の須恵器杯は竈の底面上から破片の状態, 9の須恵器甕は竈西側の覆土中層から正位の状態, それぞれ出土している。10の須恵器甕は, 竈東側の床面上から覆土下層にかけて, 破片の状態出土している。

所見 本跡の時期は, 第52号住居跡との重複関係及び出土した土器から, 9世紀末~10世紀前半と考えられる。

第51号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第105図 1	杯 土師器	A [14.4]	口縁部から体部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がり, 端部付近は若干外反する。	体部外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面磨き, 黒色処理。底部一方向の手持ちヘラ削り。	粉粒・スコリア・雲母・白色粒子 褐色 普通	P331 50% P.L.51 覆土中層
		B 4.0				
		C 6.8				
2	高台付杯 土師器	A [19.4]	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。高台は直線的にハの字状に開く。	体部外面口クロナデ。体部内面磨き, 黒色処理。高台貼り付け後, 内・外面ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 に近い褐色 普通	P333 50% 覆土中層
		B 6.4				
		D 9.4				
		E 1.2				
3	小形美土師器	A 12.2	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は緩やかに外反して立ち上がり, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外削, 体部内面ナデ。体部外面ナデ, 下位ヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 赤褐色 普通	P337 30% P.L.52 竈底面
		B (10.0)				

図面番号	部 種	寸法(㎝)	器 形 の 特 徴	工 法 の 特 徴	材料・色調・完成	備 考	
第108図 4	小形蓋	D (7.6)	体部から底部の破片。平底。体部は約等して立ち上がる。	体部外面へ張り。体部内面ナデ。底部木製板。	砂粒・石膏・スリコア・塗料 にふい色褐色 普通	P338 40% 伝南	
	土輪部	C 7.2					
5	蓋	A 20.1	口縁部から体部の破片。体部は内穿して立ち上がる。口縁部は若干外開して立ち上がり。蓋部は軽くつまみ上げられている。	口縁部内・外開。体部外面ナデ。体部内面へ張り。	砂粒・石膏・スリコア にふい褐色 普通	P334 40% P.152 外面灰土物付き 電輪部	
	土輪部	B (11.8)					
6	蓋	A 26.4	口縁部から体部の破片。体部は内穿して立ち上がる。口縁部は若干外開して立ち上がり。蓋部はつまみ上げられている。	口縁部内・外開。体部外面ナデ。体部内面へ張り後、ナデ。	砂粒・雲母・褐色 にふい褐色 普通	P335 40% P.152 磁輪部	
	土輪部	B (15.7)					
7	環	A 14.2	口縁部から蓋部一長欠損。平底。体部から口縁部にかけて外開して立ち上がる。	体部内面クロコナデ。体部下縁手持ちへ張り。蓋部一方向の手持ちへ張り。	砂粒・スリコア・雲母 にふい褐色 良	P339 70% P.151 磁輪部	
	蓋部	B 4.5 C (6.1)					
8	環	A 113.9	口縁部から蓋部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外開して立ち上がる。	体部内・外開クロコナデ。体部下縁手持ちへ張り。内・外面とも磁成が著しい。蓋部一方向の手持ちへ張り。	砂粒・スリコア・雲母 灰黄褐色 普通	P332 50% 東岡	
	須臾器	B 4.0					
		C 6.3					
9	蓋	B (6.4)	体部から底部の破片。平底。体部は外開して立ち上がる。	体部外面へ張り。体部内面ナデ。 一部磁成江底。	砂粒・灰砂 にふい褐色 普通	P349 20% 豊土中層	
	須臾器	C 18.0					
10	蓋	B (4.6)	体部から底部の破片。孔状不明。体部は外開して立ち上がる。蓋部は磁成面にへ張り具により穿孔。	体部外面へ張り。内面ナデ。	砂粒・スリコア・雲母・褐色 にふい褐色 普通	P341 25% 伝南・豊土下層	
	須臾器	C (17.8)					
図面番号	種 類	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重量(g)		
第108図11	明 片	6.4	2.7	1.0	19.6	豊土中層	Q37 加塚石 P.154

### 第52号住居跡 (第104・107図)

位置 調査区域の南部，E 317区。

重複関係 第51・54号住居跡と重複している。新旧関係は，土層断面から，第54号住居跡→第52号住居跡→第51号住居跡の順である。

規模と平面形 長軸3.80m、短軸 [3.51] mの方形と推定される。

主軸方向 N-81°-W

壁 壁高は29～32cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁中央付近から南西コーナーにかけて通る。その他は，第51号住居に掘り込まれており不明である。

断面はU字形で、上幅22～30cm、下幅8～17cm、深さは4～8cmである。

床 南壁寄りに幅12～30cmで残存している。ローム質で、やや軟弱である。

竈 西壁中央付近に構築されている。天井部は崩落し、袖部も第51号住居によって破壊されている。規模は、煙道部上端から第51号住居跡の壁溝外縁まで68cm、両袖部外側の基部で131cmである。煙道部は、壁外へ約60cmほど掘り込んでおり、煙道は火床部部は緩やかな傾斜面となっているが、厨外へ向かって外傾して立ち上がる。緩斜面には板石(第108図6)が支脚状に立てられている。5・6・8～10・19～21・23層は、袖部の上層である。袖部は、第108図1・2の須臾器を補強材とし、灰褐色粘土を中心に構築されている。火床部は、残存部で見ると平坦であり、6cmの段差をもって煙道部の緩斜面に続いている。火床面から煙道部にかけて、火熱のため硬化している。

電土層解説

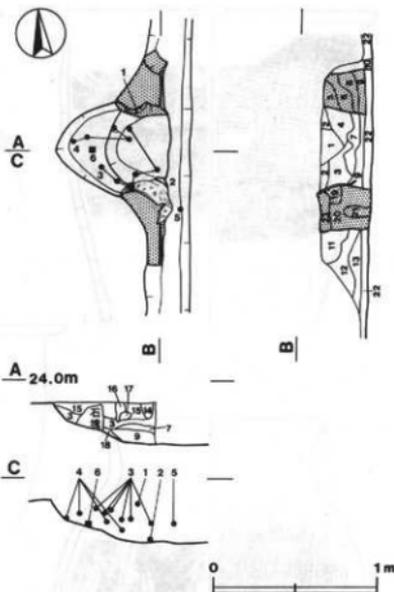
- |          |                            |
|----------|----------------------------|
| 1 黒 褐色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量          |
| 2 黒 色    | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量   |
| 3 黒 褐色   | 焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量 |
| 4 暗 赤褐色  | 焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量       |
| 5 ぶい赤褐色  | 砂粒中量、焼土中ブロック少量             |
| 6 黒 褐色   | 焼土小ブロック・炭化物少量              |
| 7 暗 赤褐色  | 焼土大ブロック中量、炭化物・砂粒少量         |
| 8 ぶい褐色   | ローム大ブロック中量、砂粒少量            |
| 9 褐色     | 焼土中ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量  |
| 10 ぶい褐色  | ローム中ブロック中量、炭化物・砂粒少量、しり強    |
| 11 ぶい赤褐色 | 砂粒多量、焼土粒子・炭化粒子少量           |
| 12 明 褐色  | ローム大ブロック・炭化粒子・砂粒少量         |
| 13 灰 褐色  | ローム大ブロック・洞中ブロック中量          |

ピット 5か所 (P1~P4・P6)。P1~P4は、第51号住居に再利用されている可能性がある。P6は、東壁際中央部に位置する。長径36cm、短径27cmの楕円形で、深さは10cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。

覆土 6層からなる(第104図)。7~13層が第52号住居跡の覆土である。

遺物 土師器片61点、須恵器片38点、石塊1点が出土している。第108図1の須恵器甕は北側袖部から、2の須恵器甕は南側袖部の内部から、それぞれ逆位の状態でも出土している。袖部の補強材として使用されたと考えられる。3・4の須恵器甕は、甕の覆土中層から破片の状態でも出土している。5の須恵器甕は、甕前面の覆土下層から正位の状態でも出土している。

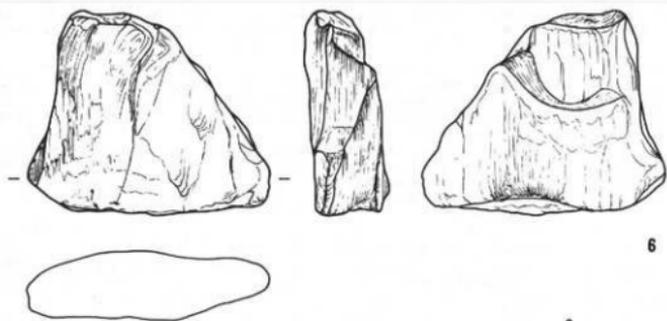
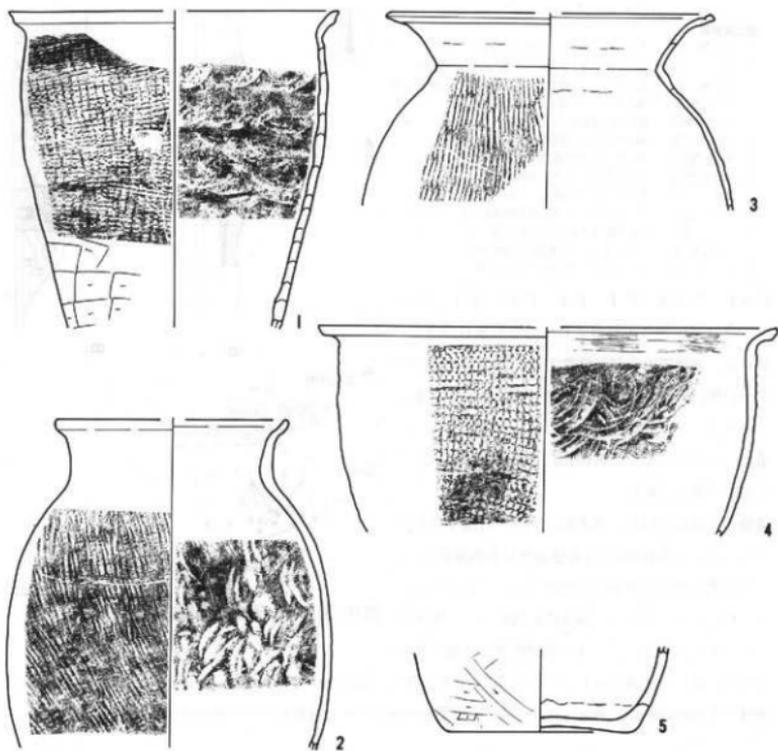
所見 本跡の時期は、第51・54号住居跡との重複関係及び出土遺物から、9世紀後半と考えられる。



第107図 第52号住居跡電土層図

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図 1	甕	A [26.4]	口縁部から体部の破片。体部は若干内彎して立ち上がる。口縁部は若干外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面傾子目叩き。体部外面下半へ丸り。体部内面ナデ。同心円状の当て具痕有り。	砂粒・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P342 50% 甕袖部
	須恵器	B (25.3)				
2	甕	A [18.1]	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部はほぼ直立し、端部付近で若干外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。体部内面ナデ、同心円状の当て具痕有り。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P343 45% P.L52 甕袖部
	須恵器	B (27.0)				
3	甕	A [25.4]	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。胴部はくの字状に屈曲し、内面に横を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。胴部は内側に沈線を持ち、断面三角形を呈している。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。	砂粒・石英・長石 褐色 普通	P344 30% 甕覆土中
	須恵器	B (15.7)				
4	甕	A [36.6]	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、口縁部は前面三角形を呈している。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面傾子目叩き。体部内面に同心円状の当て具痕有り。	砂粒・スコリア・ 雲母・自然粒子 褐色 普通	P345 25% 甕覆土中
	須恵器	B 16.6				
5	甕	B (6.7)	体部から底部の破片。平底。体部は若干内彎して立ち上がる。	体部外面へ丸り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 ぶい黄褐色 普通	P346 25% 覆土下層
	須恵器	C [14.6]				



第108图 第52号住居跡出土遺物実測図

調査番号	検 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第109図6	石 塊	16.2	19.2	3.6	2070	葬内	Q32 カルネオフォルス

### 第53号住居跡 (第109図)

**位置** 調査区域の南部，F 3 a5区。

**重複関係** 第4号掘立柱建物と重複している。第4号掘立柱建物の掘り方が、本跡の覆土を掘り込んで構築されているので、本跡の方が古い。

**規模と平面形** 長軸2.47m、短軸2.22mの長方形である。

**主軸方向** N-4°-E

**壁** 壁高は4~10cmで、緩やかに外傾して立ち上がる。

**床** ローム質で、若干起伏がある。全体的にやや軟弱である。

**ピット** 床面を精査したが、確認できなかった。

**覆土** 2層からなる。ロームブロックを多く含む。人為堆積の可能性がある。

#### 土層解説

- 1 泥 色 ローム小アコック多量
- 2 黄 色 ローム大ブロック多量

**遺物** 土師器片21点、須恵器片6点が出土している。いずれも小片であり、接合した資料はなかった。

**所見** 本跡の時期は、手がかりが少ないため明らかではない。第4号掘立柱建物との重複関係から、これより古い時期と考えられる。

### 第54号住居跡 (第110図)

**位置** 調査区域の南部，E 3 j7区。

**重複関係** 第51・52号住居によって本跡の北壁が破壊されているため、本跡が最も古い。

**規模と平面形** 長軸4.15m、短軸3.87mの長方形である。

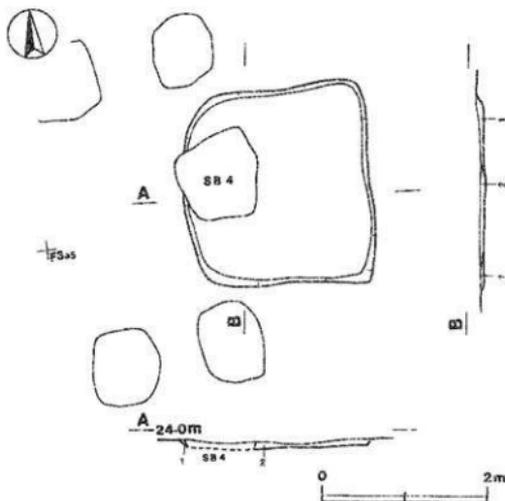
**主軸方向** N-6°-W

**壁** 壁高は22~30cmで、外傾して立ち上がる。

**壁溝** 破壊されている北壁を除いて全周する。断面はU字形で、上幅15~25cm、下幅4~13cm、深さは4~8cmである。

**床** ローム質で、平坦である。P1~P4の内側は、踏み固められて硬化している。

**竪** 北壁中央やや西側に構築されている。大半は第52号住居跡の掘り込みによって破壊されており、袖部の先端部が残存している。規模は、残存部で長軸方向に79cm、袖部の幅98cmである。袖部は、ローム混じりの褐色



第109図 第53号住居跡実測図

土で構築されている。火床部は床面から同じ高さで続き、若干起伏がある。火床面は、火熱を受けて硬化している。

**覆土層解説**

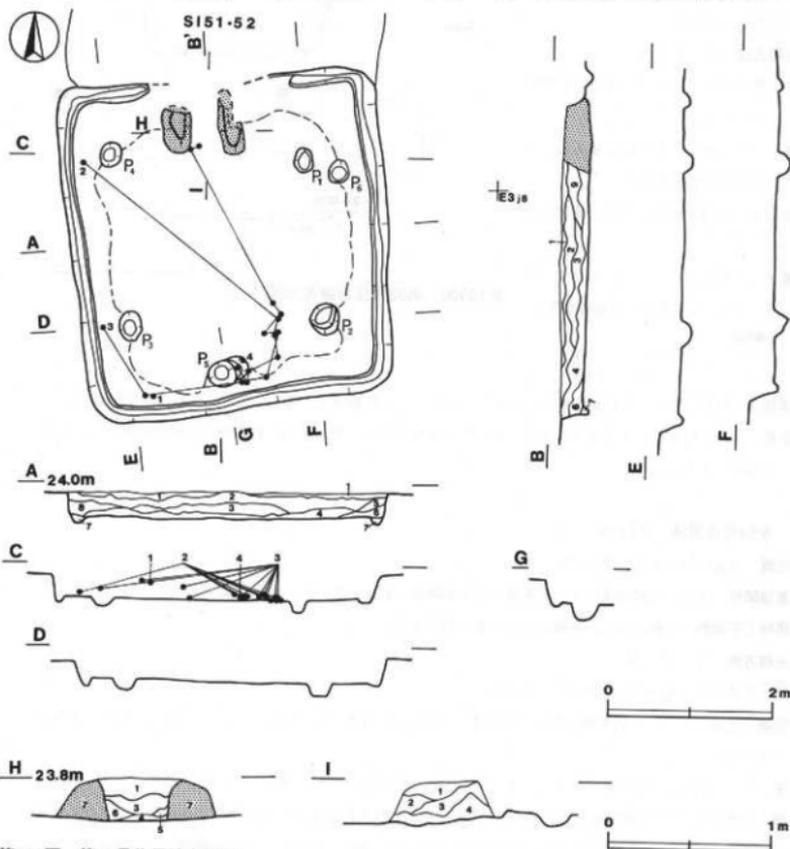
- |       |                         |       |                |
|-------|-------------------------|-------|----------------|
| 1 褐色  | ローム粒子少量、粘土粒子微量          | 5 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 3 褐色  | ローム粒子・粘土粒子少量            | 7 褐色  | ローム粒子中量        |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量            |       |                |

**ピット** 6か所 (P1～P6)。P1～P4は、それぞれ壁寄りに位置し、主柱穴と考えられる。長径29～38cm、短径20～32cm、深さは13～18cmである。P5は南壁際中央付近に位置し、出入り口施設に伴うピットである。長径48cm、短径38cmの楕円形で、深さは22cmである。P6は、P1と東壁との間に位置する。径24cmの円形で、深さは12cmである。補助的な柱穴と思われる。

**覆土** 9層からなる。ローム粒子を含む層が多く、人為堆積の可能性がある。

**土層解説**

- |       |                    |       |                    |
|-------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・赤色粒子微量       | 3 暗褐色 | ローム粒子微量            |
| 2 褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量 | 4 褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量、粘性強 |



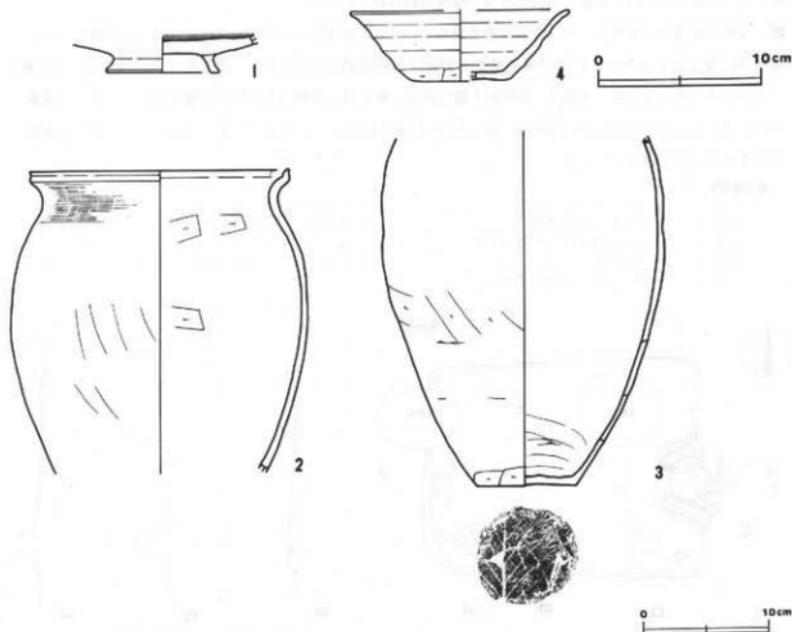
第110図 第54号住居跡実測図

- 5 褐色 ローム粒子中量  
 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
 7 褐色 ローム粒子中量、粘性強

- 8 暗褐色 ローム中ブロック・同粒子中量  
 9 にふい褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック微量

遺物 土師器片122点、須恵器片27点が出土している。第111図1の土師器高台付坏は南西コーナー付近から逆位の状態で、覆土中層から出土している。2・3の土師器甕、4の須恵器坏は、P5付近から破片の状態で、覆土下層から中層にかけて出土している。

所見 本跡の時期は、第51・52号住居跡の重複関係及び出土した土器から9世紀前半と考えられる。



第111図 第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第111図 1	高台付坏 土師器	B (2.3) D [6.7] E 1.1	底部から高台部の破片。高台はハの字状に外反して開く。	底部内面磨き、黒色地埋。高台部内・外面ナデ。底部回転へう割り。	雲母・長石にふい褐色 普通	P349 30% 覆土中層
2	甕 土師器	A 20.6 B (24.3)	口縁部から体部の破片。体部は内磨して立ち上がる。口縁部は緩やかに外反して立ち上がり、端部はつまみあげられている。	体部内・外面ナデ。体部外面へう割り後、ナデ。体部内面ナデ、一部へう割り。	砂粒・雲母・白色粒子 褐色普通	P350 40% P L52 覆土下～中層
3	甕 土師器	B (27.6) C 7.7	体部から底部の破片。平底。体部は内磨して立ち上がる。	体部外面へう割り後、ナデ。体部内面器面欠れ、調整不明。	砂粒・スコリア 明赤褐色普通	P351 45% 覆土下～中層
4	坏 須恵器	A [13.0] B 4.3 C [6.2]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外磨して立ち上がる。	体部外面強いロクロナデ。体部内面ロクロナデ。底部手持ちへう割り。	砂粒・雲母 黄灰色普通	P347 30% 覆土下層

### 第56号住居跡 (第112図)

位置 調査区域の南部, E 3 h9区。

重複関係 第2号掘立柱建物が本跡の覆土を掘り込んで構築されているので, 本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸3.25m, 短軸2.17mの長方形である。

主軸方向 N-83°-W

壁 かなり削平を受け, 北壁は一部消失している。壁高は, 4~6cmで, 外傾して立ち上がる。

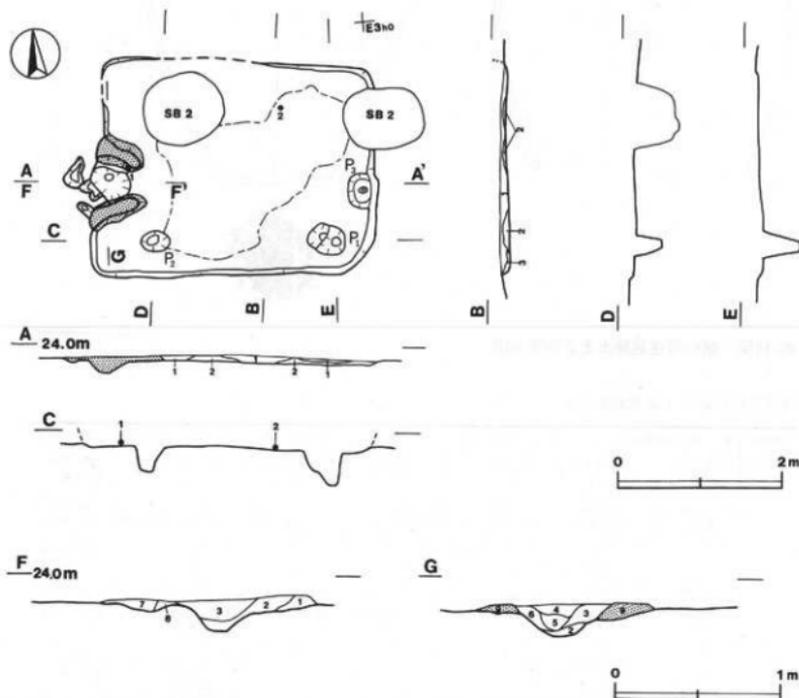
床 ローム質で, 平坦である。中央付近は, 踏み固められている。

竈 西壁中央部やや南西コーナー寄りに構築されている。上部は削平されており, 基底部付近が残存している。

規模は, 煙道部上端部から焚き口部先端まで99cm, 両袖部幅118cmである。煙道部は, 壁外へ48cmほど掘り込んでいと推定される。9層は, 袖部の土層である。袖部は, 暗褐色土を用いて構築されている。火床部は, 竈の中央付近に長径50cm, 短径40cm, 深さ12cmの楕円形のピットを設け, 掘り方としている。火床面は, 火熱を受けて若干硬化している。

#### 覆土層解説

- |       |                    |       |                       |
|-------|--------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量       | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 粘性・しまり強 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量       | 7 暗褐色 | 赤色粒子微量                |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  | 8 褐色  | ローム粒子中量               |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子微量             | 9 暗褐色 | ローム粒子中量               |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子・砂粒少量, 粘性・しまり弱 |       |                       |



第112図 第56号住居跡実測図

ピット 3か所 (P1~P3)。P1・P2は、南壁寄りに位置し、支柱穴と考えられる。長径34~46cm、短径24~34cmの楕円形で、深さは31~46cmである。P3は、東壁中央やや南寄りに位置する。長軸42cm、短軸35cmの隅丸方形で、深さ14cmである。底面中央部に長径10cm、短径6cmの楕円形で、深さ4cmのピットが確認されている。P3は、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積し、自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |             |       |         |
|-------|-------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量     | 4 褐色  | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量     | 5 暗褐色 | 焼土粒子少量  |
| 3 褐色  | ローム粒子多量、粘性弱 |       |         |

遺物 土師器片29点、須恵器片32点が出土している。第113図1の須恵器甕は竈北側袖の上面から、2の灰釉陶器碗は北壁寄りの床面上から、それぞれ出土している。

所見 2は折戸53窯式に比定される。本跡の時期は、第2号掘立柱建物に先行し、9世紀後半から10世紀前半を中心とした時期と推定される。



第113図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・構成	備考
第113図 1	須恵器	A [20.4]	口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。口縁部は面取りを施し、断面台形を呈している。	口縁部外反ナゲ。口縁部内面滑減のため調整不明。	砂粒・石英・白色粒子・長石 黒褐色 普通	P252 15% 甕袖部
		B (4.8)				
2	碗 灰釉陶器	A [15.6]	口縁部の破片。口縁部は若干内押しで立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナゲ。	砂粒・微小白色粒子 黒褐色・灰褐色 釉黄褐色 良	P352 20% 折戸56号窯式 床面
		B (2.9)				

第58号住居跡 (第114図)

位置 調査区域の南部，E4j1区。

規模と平面形 長軸3.54m，短軸3.35mの方形である。

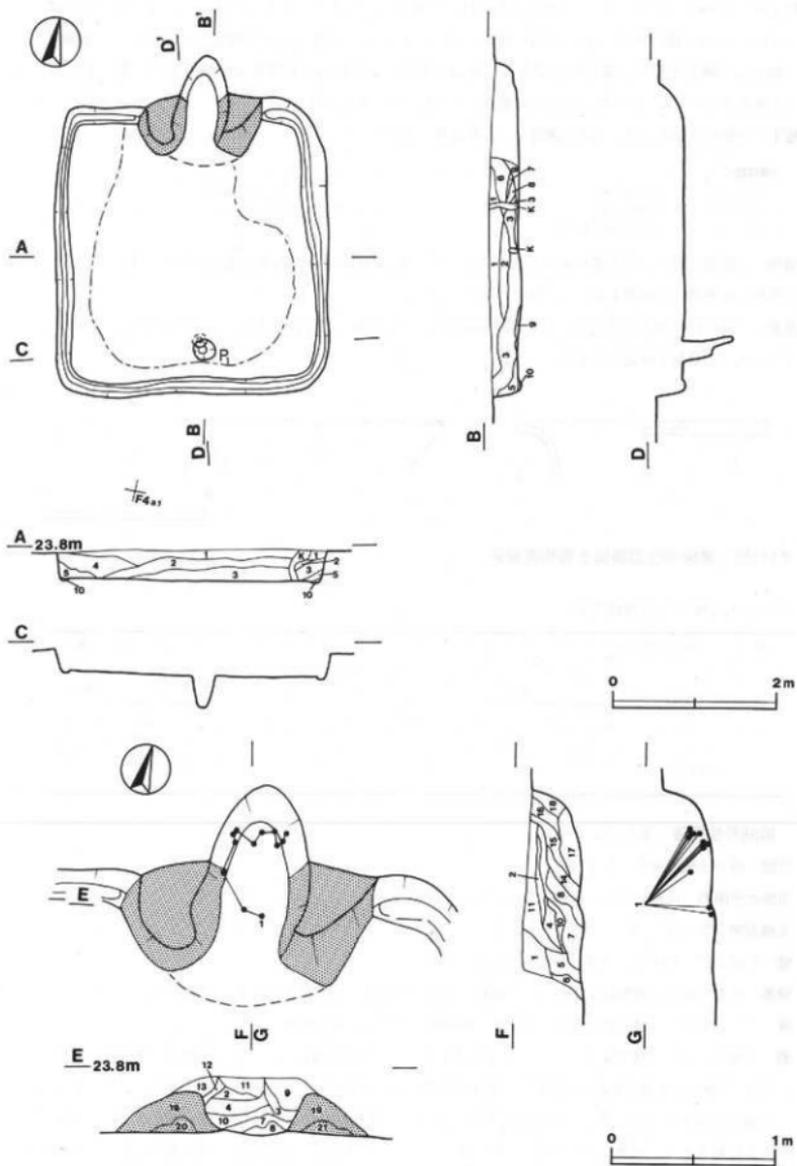
主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は27~36cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 壁際を巡る。断面はU字形で，上幅12~33cm，下幅4~10cm，深さは4~6cmである。

床 ローム質で，ほぼ平坦である。P1から竈前面にかけて，踏み固められている。

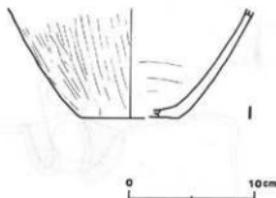
竈 北壁中央付近に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで138cm，両袖部幅149cmである。煙道部は壁外へ67cm掘り込んでおり，煙道は外傾して立ち上がる。19~21層は，袖部の土層である。袖部は，褐色土を用いて構築されている。13・14・16層は，粘土または砂粒を含む灰褐色土で，崩落した天井部の土層と考えられる。火床部は，ほぼ床面と同じ高さで続く。火床面から煙道部にかけて，火熱のため硬化している。



第114图 第58号住居跡実測図

### 覆土層解説

- 1 灰 褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 に近い赤褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
- 3 灰 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
- 4 褐 灰色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
- 5 褐 灰色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 6 に近い赤褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 7 赤 褐色 ローム大ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- 8 に近い赤褐色 焼土粒子中量、しまり強
- 9 灰 褐色 ローム大ブロック・同小ブロック少量
- 10 暗 赤 褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
- 11 暗 赤 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
- 12 暗 赤 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
- 13 灰 褐色 コム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量
- 14 灰 褐色 粘土中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子少量
- 15 暗 赤 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量



第115図 第58号住居跡出土遺物実測図

- 16 灰 褐色 ローム中ブロック・粘土粒子・炭化粒子・砂粒少量
- 17 暗 赤 褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
- 18 黒 褐色 焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 19 暗 褐色 ローム粒子中量
- 20 暗 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 21 褐 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量、粘り強

ピット 1 所 (P1)。P1 は南壁寄り中央部に位置しており、径28cmの円形で、深さは64cmである。ピットの断面は、南壁側に傾いており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。他のピットは、床面を精査したの確認できなかった。

覆土 10層からなる。6～8層は粘土粒子を含み、竈から流出した土層と考えられる。覆土はレンズ状に堆積しており、自然堆積と思われる。

### 土層解説

- 1 黒 色 ローム大ブロック・同粒子少量
- 2 褐 色 ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・同粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム中ブロック・同粒子少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量
- 5 褐 色 ローム粒子中量
- 6 暗 褐色 ローム粒子・粘土中ブロック少量
- 7 黒 褐色 粘土大ブロック・同粒子少量
- 8 暗 褐色 ローム粒子中量、粘土大ブロック・同粒子少量
- 9 黒 色 ローム大ブロック・同粒子少量、粘性強、しまり強
- 10 褐 色 ローム粒子中量、しまり強

遺物 土師器片44点、須恵器片17点、陶器片2点、石片1点が出土している。第115図1の土師器甕は、竈内の覆土下層から中層にかけて、破片の状態が出土している。

所見 本跡の時期は、出土した土器の特徴から8世紀後半頃と考えられる。

### 第58号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・硬成	備考
第115図 1	甕 土師器	B (8.9) C [7.6]	体部から底部の破片。体部は内壁して立ち上がる。	体部外面縦位の磨き。体部内面ナデ。	砂粘・スクリア・炭粒・長石 明赤褐色 普通	P354 20% 覆土中

### 第59号住居跡 (第116図)

位置 調査区域の南部、F3a0区。

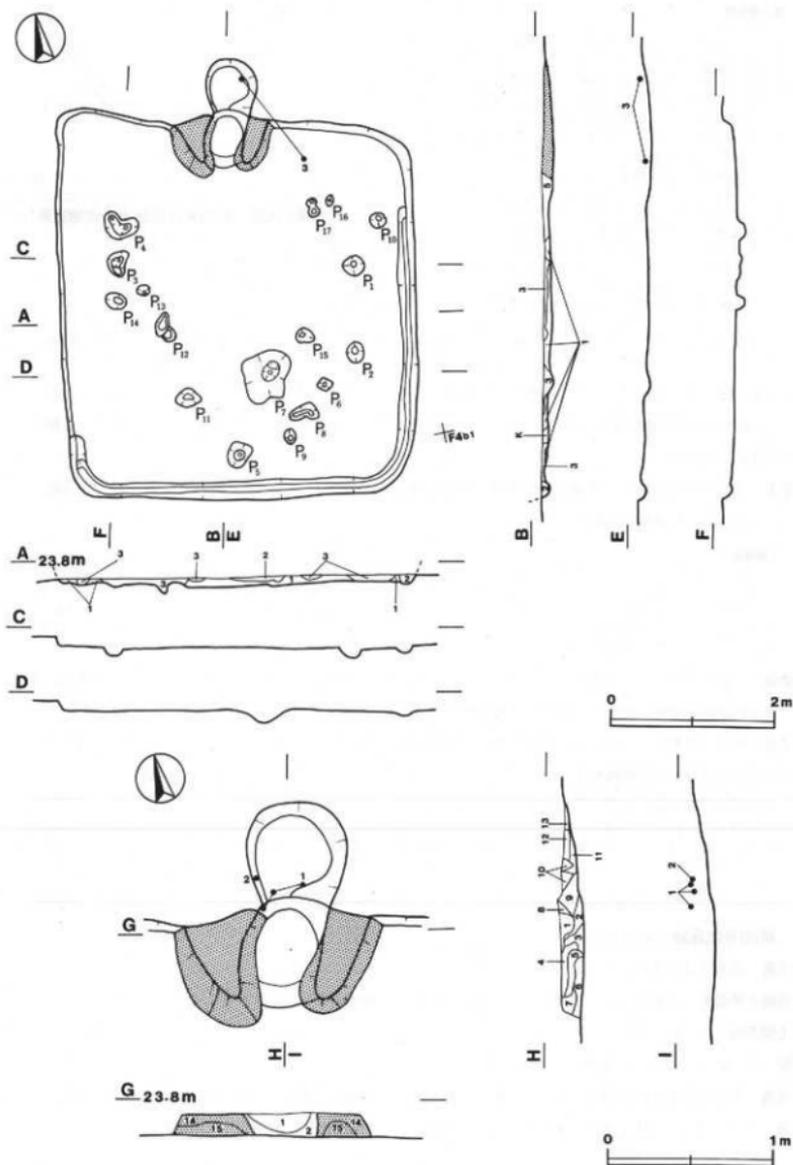
規模と平面形 長軸4.50m、短軸4.33mの方形である。上面はかなり削平されている。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は4～6cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁及び南壁際を巡る。断面はU字形で、上幅16～26cm、下幅4～10cm、深さは4～6cmである。

床 ローム質で、起伏がある。踏み固められた形跡は見られなかった。



第116图 第59号住居跡実測図

竈 北壁中央付近に構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、煙道部上端から焚き口部まで135cm、両袖部幅124cmである。煙道部は、壁外に長径67cm、短径60cmの楕円形で、深さ8cmほど掘り込んで設けており、煙道は緩やかに外傾して立ち上がると推定される。14・15層は袖部の土層である。袖部は、粘土混じりの褐色土を用いて構築されている。1・8・9層は粘土粒子を含み、崩落した天井部の土層と考えられる。火床部は皿状に床面から2cmほど掘り下げられており、5cmの段差をもって煙道部へ続いている。火床面から煙道部にかけて、火熱をうけて硬化している。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	8 暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
2 にいり赤褐色	ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量	9 暗赤褐色	焼土中ブロック中量、焼土大ブロック・粘土粒子少量
3 灰褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	10 暗褐色	焼土小ブロック少量
4 灰褐色	ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	11 褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量
5 にいり赤褐色	ローム中ブロック少量	12 明褐色	粘土粒子中量、粘性・しまり強
6 黒褐色	ローム中ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量	13 褐色	ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
7 暗赤褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	14 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、粘性・しまり強
		15 褐色	ローム粒子中量、粘性・しまり強

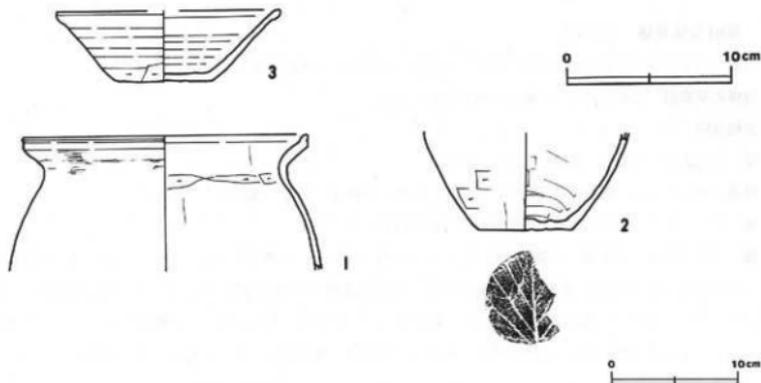
ピット 17か所（P1～P17）。P1・P2は東壁寄りに位置し、主柱穴と考えられる。P1は径24cm、P2は長径24cm、短径20cmの楕円形で、深さは10～13cmである。P3・P4は西壁寄りに位置し、柱穴の可能性がある。P3は長軸40cm、短軸38cm、P4は長軸30cm、短軸25cmの不整形で、深さは10～15cmである。P5は南壁より中央部に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。長径32cm、短径23cmの楕円形で、深さは12cmである。その他のピットは掘り込みの浅いものが多く、性格は不明である。

覆土 5層からなる。ロームブロックまたはローム粒子を含む層が多く、堆積状況が不自然であるため、人為堆積の可能性がある。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、粘性・しまり強	4 褐色	ローム粒子多量、粘性・しまり強
2 暗褐色	ローム粒子少量	5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
3 黒褐色	ローム粒子微量		

遺物 土師器片44点、須恵器片17点、陶器片2点が出土している。第117図1・2は、土師器の甕である。1は逆位の状態で、2は破片の状態で、それぞれ竈の覆土中層から出土している。3の須恵器片は、竈煙道部の底面付近より横位の状態で出土している。



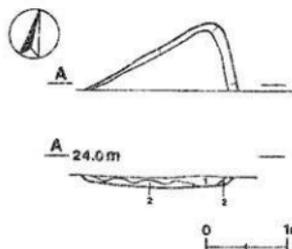
第117図 第59号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は上面がかなり削平されており、掘り方部だけが残存していた可能性がある。時期は、出土した土器から9世紀後半頃と考えられる。

第59号住居跡出土遺物観察表

加藤番号	器名	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第117号	土 器	A 22.6	口縁部から底部の破片。底部は内側して立ち上がる。口縁部は外側して立ち上がり、肩部はつまみ上げられている。	体内内・外側、口縁部外側ナデ。体内内面へナゲリ筋、ナゲ。	粉粒・石英・白色 灰子・雲母 赤褐色 青褐色	P356 30% 燻土中
		B (19.8)				
2	土 器	R 7.9	底部から底部の破片。平底。底部は内側して立ち上がる。	体内内・外側へナゲリ。底部木炭痕。	粉粒・石英・スコリア・灰子 にぶい赤褐色 青褐色	P254 20% 燻土中
		C 7.5				
3	土 器	A [13.1]	口縁部一部欠損。平底。底部から口縁部にかけて外側して立ち上がる。	体内内・外側口縁部ナデ。底部ナゲリ筋ナゲリ筋。底部口縁部ナゲリ筋ナゲリ筋。底部口縁部ナゲリ筋ナゲリ筋。	粉粒・スコリア・雲母 にぶい赤褐色 青褐色	P353 55% P.L.51 燻土中
		B 4.3				
		C 5.5				

第60号住居跡 (第118図)



第118図 第60号住居跡実測図

位置 調査区域の南部，F30区。

規模と平面形 東西1.59m、南北0.86m。コーナー部分の調査であるため、平面形は不明である。

壁 壁高は8～10cmで、外傾して立ち上がる。

床 ローム質で、平坦である。若干踏み固められている。

覆土 2層からなる。ロームブロック・ローム粒子を多く含むため、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 赤褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物少量、粘結・しまり弱  
2 にぶい褐色 ローム粒子多量、しまり弱

遺物 遺物は、確認できなかった。

所見 本跡の時期は、ごく限られた調査であり出土した遺物もないため明らかではない。

第61号住居跡 (第119図)

位置 調査区域の南部，E414区。第1・2号粘土採掘坑の北側に位置する。

規模と平面形 長軸2.97m、短軸2.87mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は18～22cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁際を巡る。断面はU字形で、上幅16～30cm、下幅4～10cm、深さは4～6cmである。

床 ローム質で、平坦である。中央部付近は踏み固められている。

竈 北壁中央部やや東寄りに構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、煙道部上端から焚き口部まで80cm、両袖部幅90cmである。煙道部は壁外へ28cm掘り込んでおり、煙道は外傾して立ち上がる。13～18層は、袖部の上層である。袖部は、粘上混じりの褐色土を中心に構築されている。火床部は床面より4cmほど掘り込んでおり、平坦である。火床面から煙道部にかけて、火熱を受けて硬化している。

覆土層解説

- |         |                   |
|---------|-------------------|
| 1 暗褐色   | ローム粒子少量           |
| 2 暗褐色   | ローム粒子微量           |
| 3 黒色    | 焼土粒子・炭化粒子微量       |
| 4 黒褐色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色   | 焼土中量,炭化粒子・粘土粒子微量  |
| 6 黒褐色   | 焼土粒子微量            |
| 7 暗褐色   | ローム粒子微量           |
| 8 暗褐色   | 炭化粒子少量,ローム粒子少量    |
| 9 暗褐色   | 焼土粒子少量            |
| 10 極暗褐色 | 焼土粒子微量            |

- |         |               |
|---------|---------------|
| 11 暗褐色  | 焼土粒子・粘土粒子少量   |
| 12 明赤褐色 | 焼土大ブロック少量     |
| 13 褐色   | ローム粒子少量       |
| 14 黒褐色  | 焼土粒子微量        |
| 15 灰褐色  | ローム粒子・粘土粒子中量  |
| 16 褐色   | 粘土粒子少量,焼土粒子微量 |
| 17 暗褐色  | ローム粒子微量       |
| 18 黒褐色  | 焼土粒子・炭化粒子少量   |
| 19 黒褐色  | 炭化粒子中量,焼土粒子少量 |

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は東壁寄り中央付近に位置する。長径26cm, 短径18cmの楕円形で, 深さは22cmである。性格は不明である。P2は南壁寄り中央付近に位置するため, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。径18cmの円形で, 深さは16cmである。

覆土 10層からなる。ロームブロックを多く含み, 不自然な堆積状況を示しているため, 人為堆積と考えられる。

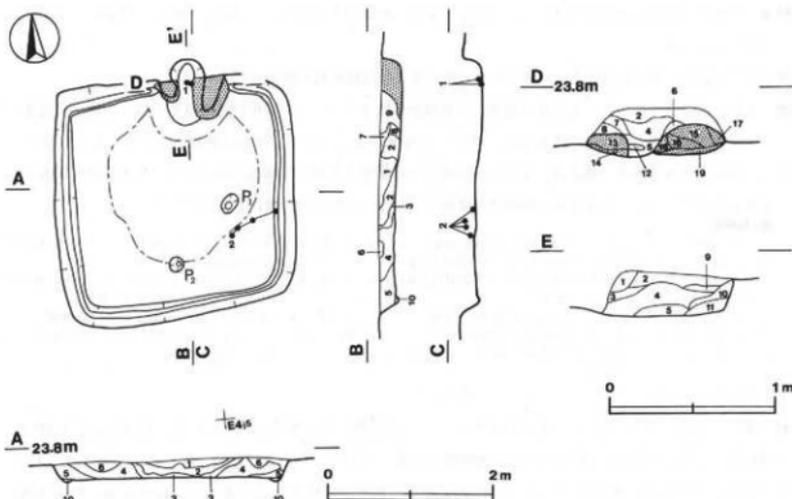
土層解説

- |       |   |
|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量                                  |
| 2 黒褐色 | ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子少量                 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・同粒子少量                              |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土中ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム中ブロック中量,ローム小ブロック少量                       |

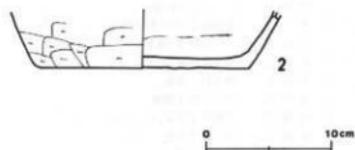
- |       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| 6 黒褐色 | 焼土小ブロック少量                             |
| 7 黒褐色 | 焼土粒子・粘土中ブロック・砂粒少量                     |
| 8 黒褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック少量                     |
| 9 褐色  | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量 |
| 10 褐色 | ローム粒子中量                               |

遺物 土師器片51点, 須恵器片71点が出土している。第120図1の須恵器甕は, 竈底面から破片が重なった状態で出土している。外面には二次的な焼成を受けた痕跡が認められる。2の須恵器甕は, 東壁寄りの覆土上層から正位の状態で出土している。

所見 本跡の時期は, 出土した土器の特徴から9世紀後半頃と考えられる。



第119図 第61号住居跡実測図



第120図 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第120図 1	須恵器 壺	A [20.4] B (13.1)	口縁部から体部の破片。口縁部は強く外反する。口縁部は内側に若干折り返して面取りを施し、内面に稜を持つ。	口縁部内外面・体部内面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。	砂粒・白色粒子 灰褐色 良	P359 30% P L52 露底面
2	須恵器 壺	B (4.8) C 17.0	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・石英 灰褐色 普通	P360 25% 覆土上層

#### 第64号住居跡（第121図）

位置 調査区域の南部，E 4 i5区。

規模と平面形 住居東側が調査区域外に位置する。南北2.93m，東西（2.54）mの方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は8～14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁・南壁及び西壁北西コーナー付近を巡る。断面はU字形で，上幅12～26cm，下幅4～10cm，深さは4～7cmである。

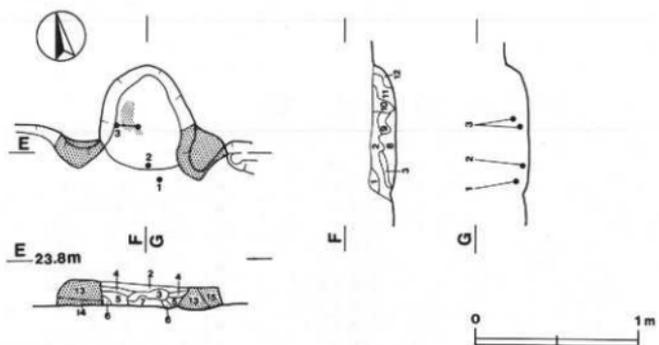
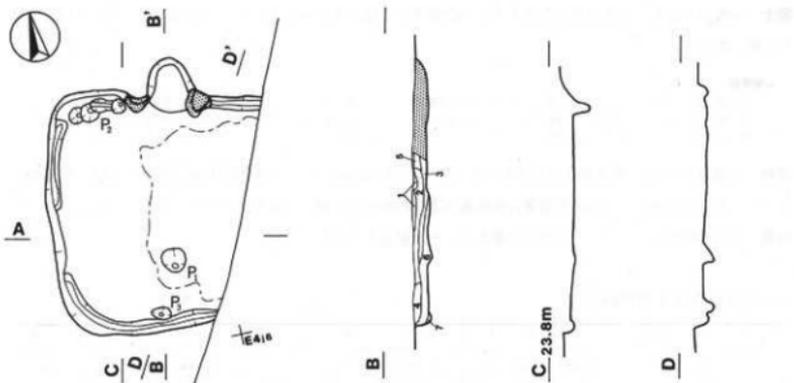
床 ローム質で，若干起伏がある。竈とP3を結ぶ線より東側が踏み固められている。

竈 北壁に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで65cm，両袖部幅104cmである。煙道部は，壁外へ43cm掘り込んでおり，煙道は外傾して立ち上がる。13～15層は，袖部の土層である。袖部は，主にローム混じりの褐色土を用いて構築されている。火床部は，床面より3cm掘り込まれている。火床面から煙道部の壁面にかけて，火熱のため硬化している。

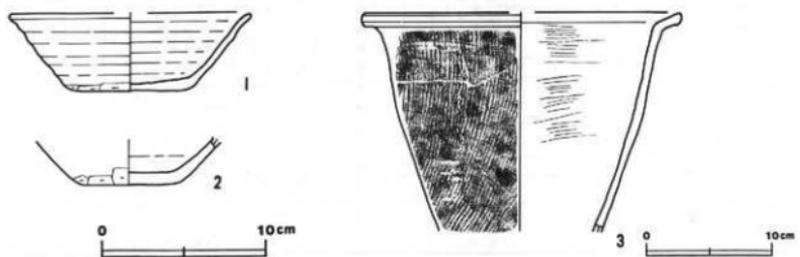
#### 電土層解説

1 にいり赤褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，粘土粒子・砂粒微量
2 灰褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	10 黒褐色	ローム小ブロック・粘土中ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量，しまり強
3 にいり赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	11 黒褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4 暗灰色	ローム小ブロック少量	12 褐色	ローム小ブロック・粘土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
5 灰褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量		
6 黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量		
7 赤褐色	ローム小ブロック中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量		
8 黒褐色	粘土粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量		

ピット 3か所（P1～P3）。P2は北西コーナーに位置し，支柱穴と考えられる。長径26cm，短径22cmの楕円形で，深さは21cmである。P3は南壁際に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。長径24cm，短径16cmの楕円形で，深さは16cmである。P1は南壁寄りに位置する。長径32cm，短径26cmの楕円形で，深さは14cmである。性格は不明である。



第121图 第64号住居跡実測图



第122图 第64号住居跡出土遺物実測图

覆土 6層からなる。6層は住居の掘り方または貼床の土層と考えられる。1～5層はレンズ状に堆積し、自然堆積と思われる。

土層解説

1	灰褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック散在	4	褐色	ローム小ブロック多量
2	黒褐色	ローム大ブロック・同小ブロック・同粒子少量	5	灰褐色	ローム大ブロック・同中ブロック中量
3	褐色	ローム小ブロック少	6	褐色	ローム小ブロック多量、粘性・しりしり

遺物 土師器片22点、須恵器片21点が出土している。第122図1・2の須恵器片は、甕の美き口部付近の覆土中から正位の状態で、3の須恵器片は両側袖部寄りの底面から破片の状態で、それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土した土器の特徴から、9世紀前半と考えられる。

第64号住居跡出土遺物観察表

図面番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色澤・焼成	備考
第122図1	杯形土師器	A [14.4] B 4.7 C 6.9	口縁部から底部一部欠損。平底。外部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	内部内・外面のクワノテ。下部下縁より手持ちへテ削り、底面傾斜へテ削りを残し、口縁の手持ちへテ削り。	緑・石黒・雲母・黄褐色	P361 60% P.L.52 観察中・中層
2	杯形土師器	H (2.4) C 6.0	口縁部欠損。平底。外部は外傾して立ち上がる。	内部内・外面のクワノテ。底部向の手持ちへテ削り。	緑・石黒・ス・クワ・雲母・黄褐色・青褐色	P362 40% 高麗土の層
3	須恵器	A [23.3] B (17.6)	口縁部から底部の破片。口縁部は傾斜を外し、内面に傾斜を待つ。	口縁部内・外は、内部内傾ノテ。外部は傾斜の平行可なり。	緑・白色粒子・雲母・灰褐色・雲母	P363 30% P.L.52 観察中

表4 六十日遺跡住居跡(奈良・平安時代)一覧表

住居跡番号	位置	上層方向	平面形状	縦横(m) (長×短)	建坪 (cm)	内部施設						出土遺物	備考	
						竪穴	土師器	須恵器	瓦	土師器	須恵器			瓦
2	C56	N-7°-W	方形	3.09×2.90	37-40	平掘	有	4	1	3	竪	自然	土師器片38, 須恵器片23	
10	D36	N-31°-E	方形	3.51×3.70	38-44	平掘	有	2	1	3	竪	自然	土師器片38, 須恵器片23, 石製品3	SD-14と重複
12	D36	N-22°-E	方形	3.77×3.69	38-39	平掘	有	1	1	3	竪	自然	土師器片97, 須恵器片37, 石製品1	
13	D26	N-41°-E	方形	2.90×3.36	4-22	平掘	有	4	1	1	竪	自然	土師器片163, 須恵器片17, 石製品1	SD-13と重複
14	C56	N-60°-W	長方形	2.70×2.35	28-39	平掘	有	1	1	1	竪	人為	土師器片78, 須恵器片6, 石製品1	
15	D38	N-18°-E	方形	3.01×3.03	32-39	平掘	有	1	1	1	竪	自然	土師器片2, 須恵器片2	
16	D36	N-22°-E	方形	3.22×3.14	32-41	平掘	有	4	5	1	竪	自然	土師器片38, 須恵器片38, 石製品1, 瓦製品1	
17	D36	N-39°-E	方形	2.73×2.56	7-13	平掘	有	4	1	2	竪	自然	土師器片66	
18	D3	N-116°-E	長方形	2.71×2.49	30-41	平掘	有	2	1	1	竪	人為	土師器片156, 須恵器片31, 土製品2	SD-10と重複
19	C14	N-55°-E	方形	3.30×3.35	38-39	平掘	有	3	1	1	竪	自然	土師器片184, 須恵器片2	
21	D46	N-52°-E	方形	1.15×1.00	18-33	平掘	有	4	1	1	竪	自然	土師器片68, 須恵器片38, 石製品2, 土製品2	SD-5と重複
22	D43	N-31°-E	方形	3.30×3.31	28-36	平掘	有	4	1	1	竪	自然	土師器片302, 須恵器片66, 須恵器片3	
23	D46	N-6°-W	方形	3.31×3.07	32-38	平掘	有	4	1	1	竪	自然	土師器片265, 須恵器片138	
27	D36	N-7°-E	方形	3.41×3.27	34-38	平掘	有	3	1	1	竪	自然	土師器片16, 須恵器片38, 須恵器片3	
28	D14	N-7°-E	長方形	3.01×2.71	25-34	平掘	有	3	1	1	竪	自然	土師器片302, 須恵器片37	
29	E46	N-15°-E	方形	3.34×3.25	15-21	平掘	有	1	1	1	竪	自然	土師器片125, 須恵器片11, 土製品1	
31	E33	N-14°-E	方形	2.81×3.56	36-38	平掘	有	2	1	1	竪	自然	土師器片458, 須恵器片265, 石製品2	
32	E33	N-15°-E	長方形	1.36×1.64	24-28	平掘	有	3	1	1	竪	自然	土師器片208, 須恵器片138, 石片2	
34	E46	N-4°-W	長方形	2.98×2.93	18-26	平掘	有	2	1	1	竪	自然	土師器片208, 須恵器片138, 石片2	
35	E46	N-17°-W	方形	1.89×1.82	10-13	平掘	有	2	1	2	竪	自然	土師器片91, 須恵器片27	SD-74と重複
37	E46	N-6°-W	方形	4.16×4.02	22-26	平掘	有	4	1	1	竪	自然	土師器片220, 須恵器片147, 石片2	
38A	E34	N-2°-W	長方形	4.81×3.51	12-14	平掘	有	3	1	1	竪	自然	土師器片68, 須恵器片28, 石製品2	
38B	E34	N-92°-W	長方形	4.81×3.51	12-14	平掘	有	1	1	1	竪	自然	土師器片74, 須恵器片7	
43B	E33	N-81°-W	長方形	3.33×2.95	12-16	平掘	有	1	1	1	竪	自然	土師器片132, 須恵器片32, 石製品3	SD-60と重複

柱洞番号	位置	主軸方向	平面形	縦幅(m)	横幅(m)	深さ(m)	内 部 構 造						覆土	出 土 遺 物	備 考			
							礎石	柱内小穴(小)	伊	瓦	漆	土師器						
40	E26	N-10°-E	長方形	2.24×2.68	6~28	平礎	無	5	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器片63, 須恵器片1, 灰被陶器片3	SI-40Aと重複
43	E27	N-4°-W	[方形]	3.50×3.02	32~47	平礎	無	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器片28, 須恵器片9	
45	E33	N-0°	方形	3.30×3.70	24~36	平礎	有	3	1	3	—	—	—	—	—	—	土師器片646, 須恵器片296, 灰被陶器片1	SI-1, SI-2と重複
46	F32	N-12°-E	方形	4.03×4.00	26~40	平礎	有	1	1	1	—	—	—	—	—	—	土師器片553, 須恵器片299, 石片2	SI-34と重複
47	F29	N-1°-W	方形	5.25×4.87	18~24	平礎	有	4	1	—	—	—	—	—	—	—	土師器片444, 須恵器片154	SI-2と重複, 須恵器片
48	F26	N-6°-E	[方形]	2.66×3.60	12~16	平礎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	自然土師器片4, 須恵器片4	SI-52と重複
50	F30	N-22°-E	長方形	3.94×3.47	8~14	平礎	有	4	1	—	—	—	—	—	—	—	土師器片76, 須恵器片137, 鉄製品1	
51	51a	N-10°-E	方形	3.79×3.28	26~32	平礎	有	4	1	1	—	—	—	—	—	—	土師器片491, 須恵器片341, 灰被陶器片1	
52	E36	N-81°-W	[方形]	3.89×3.81	29~32	平礎	有	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器片61, 須恵器片38, 石製1	SI-61-SI-51と重複
53	F36	N-4°-E	長方形	2.47×2.22	4~10	平礎	無	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器片21, 須恵器片6	SI-11と重複
54	E37	N-6°-W	長方形	4.35×3.87	22~30	平礎	有	4	1	—	—	—	—	—	—	—	土師器片132, 須恵器片27	SI-51SI-52と重複
56	E39	N-83°-W	長方形	3.25×2.17	1~6	平礎	無	2	1	—	—	—	—	—	—	—	土師器片29, 須恵器片32, 灰被陶器片1	
58	E41	N-11°-W	方形	3.54×3.35	27~36	平礎	有	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器片14, 須恵器片17	SI-3と重複
59	F32	N-19°-E	方形	4.50×4.33	1~6	平礎	湿存	2	1	13	—	—	—	—	—	—	土師器片14, 須恵器片19	
60	F35	—	—	1.29×0.86	8~10	平礎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
61	E44	N-20°-E	方形	2.97×2.87	18~22	平礎	有	—	1	1	—	—	—	—	—	—	土師器片51, 須恵器片71	
64	E48	N-12°-E	[方形]	2.95×2.52	8~14	平礎	有	1	2	—	—	—	—	—	—	—	土師器片22, 須恵器片21	

## (2) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、調査区域の南部を中心に6棟確認されている。以下、その特徴と遺物について記述する。

### 第1号掘立柱建物跡(第123区)

位置 調査区域の南部, E3h3区。

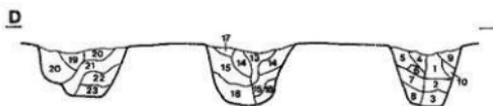
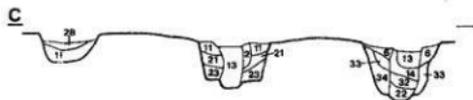
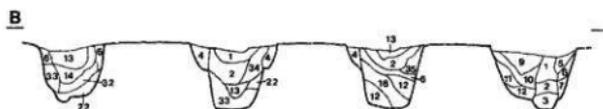
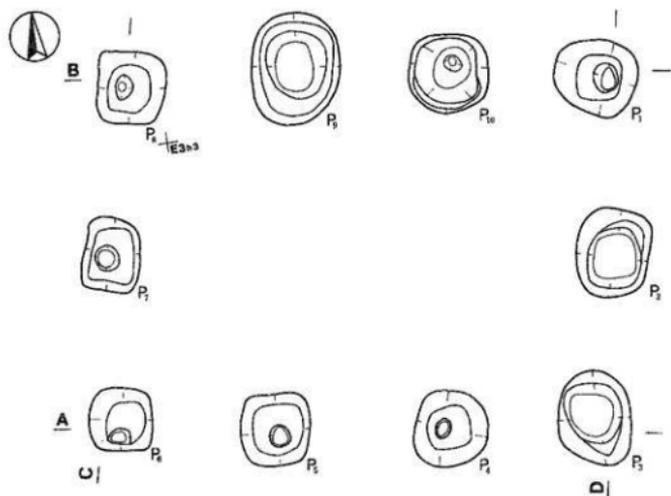
規模 桁行3間(平均5.93m), 梁行2間(平均4.4m)の側柱構造の建物跡である。柱穴は10か所(P1~P10)で, 柱間寸法はほぼ間で桁行1.9~2.0m, 梁行2.1~2.2m, 面積は約26.09㎡である。柱穴の掘り方は, P2・P3・P7・P9が長軸0.9~1.34m, 短軸0.72~1.04mの長方形, P1・P4~6・P8が一辺0.75~0.96mの方形である。断面は逆台形で, 深さ0.56~0.8mである。柱痕または柱抜き取り痕はP1・P4~P8・P10で認められ, 復元される柱の径は20~36cmである。

桁行方向 N-81°-E

覆土 1~3・13・14・24・25・28・32層は, 柱痕または柱抜き取り痕の上層と考えられる。その他の層は, 水平に散架状の堆積状況が認められることから, 埋土と考えられる。

#### 土層解説

1	にぶい褐色	ローム大ブロック・洞小ブロック中量, ローム小ブロック少量	19	褐色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・洞小ブロック少量
2	褐色	ローム大ブロック・洞小ブロック中量	20	褐色	ローム小ブロック・洞小ブロック中量, ローム大ブロック・洞小ブロック少量
3	暗褐色	ローム大ブロック・洞小ブロック中量	21	褐色	ローム大ブロック・洞小ブロック中量, ローム小ブロック少量
4	灰褐色	ローム小ブロック・洞小ブロック少量	22	褐色	ローム小ブロック少量
5	にぶい褐色	ローム大ブロック・洞小ブロック中量	23	灰褐色	ローム小ブロック少量
6	にぶい褐色	ローム小ブロック・洞小ブロック中量	24	褐色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック少量
7	灰褐色	ローム大ブロック・洞小ブロック中量	25	灰褐色	ローム大ブロック少量, ローム小ブロック少量
8	暗褐色	ローム大ブロック少量, しまり筋	26	褐色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック少量
9	灰褐色	ローム大ブロック少量	27	暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム大ブロック少量
10	にぶい褐色	ローム大ブロック中量, ローム塊中量	28	褐色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック少量, しまり筋
11	褐色	ローム大ブロック・洞小ブロック中量	29	暗褐色	ローム大ブロック・洞小ブロック少量, ローム大ブロック少量
12	暗褐色	ローム小ブロック・洞小ブロック中量	30	褐色	ローム大ブロック中量, ローム小ブロック少量
13	灰褐色	ローム大ブロック中量, ローム大ブロック・洞小ブロック少量	31	暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック少量, しまり筋
14	褐色	ローム大ブロック中量, ローム大ブロック・洞小ブロック少量	32	暗褐色	ローム大ブロック少量, ローム大ブロック少量, しまり筋
15	暗褐色	ローム大ブロック・洞小ブロック少量	33	褐色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック少量
16	暗褐色	ローム大ブロック中量, ローム小ブロック少量	34	暗褐色	ローム小ブロック少量
17	褐色	ローム大ブロック少量	35	暗褐色	ローム大ブロック・洞小ブロック中量
18	暗褐色	ローム大ブロック・洞小ブロック・洞小ブロック少量			



第123图 第1号孤立柱建物跡実測図

遺物 遺物は出土していない。

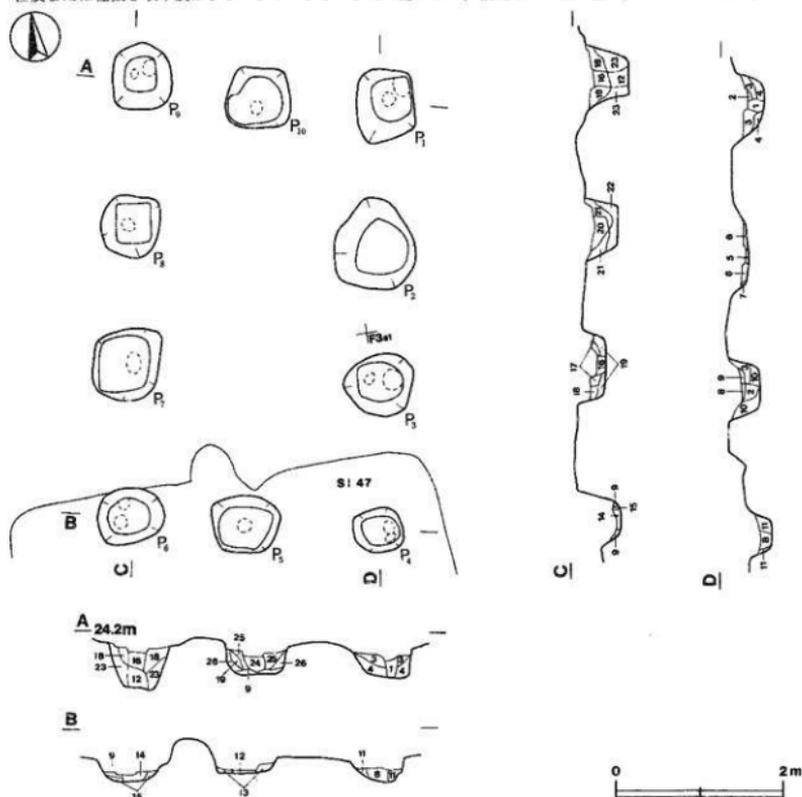
所見 本跡の桁行方向は、第2号掘立柱建物跡の桁行方向と直交し、第3号掘立柱建物跡とはほぼ平行である。このことから、これらの掘立柱建物跡は一連の企画の下で構築されたと思われる。このことから、本跡の時期は、第2号掘立柱建物跡とはほぼ同時期と考えられる。

### 第2号掘立柱建物跡 (第124図)

位置 調査区域の南部、E 2 j01区。

重複関係 本跡が、第47号住居跡の覆土を掘り込んで構築されていることから、本跡の方が新しい。

規模 桁行3間(平均5.4m)、梁行2間(平均3.18m)の側柱構造の建物跡である。柱穴は10か所(P1～P10)で、柱間寸法は芯々間で桁行1.75～1.85m、梁行1.45～1.65m、面積は約17.17㎡である。柱穴の掘り方は、P1・P3～P7・P9は長軸0.58～0.9m、短軸0.54～0.8mの長方形、P2は長径1.06m、短径1.0mの不整形円形、P8・P10は一辺0.74～0.76mの方形である。断面形は逆台形で、深さは0.2～0.64mである。柱痕または柱抜き取り痕はP1～P7・P9・P10で認められ、復元される柱の径は、15～24cmである。



第124図 第2号掘立柱建物跡実測図

桁行方向 N-9°-E

覆土 1・2・4・8・12・16・24層は、粘性・しまりが弱い層が多く、柱痕または柱抜き取り痕の土層と考えられる。その他の層は、ローム・黒色土五層や版築状の堆積が認められることから、埋土と考えられる。

土層解説	
1 時 樹 色	ローム大ブロック多量、しまり弱
2 暗 樹 色	ローム大ブロック中量、ローム粒子少量、しまり弱
3 時 樹 色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・同小ブロック少量
4 黄 樹 色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・同小ブロック少量
5 灰 樹 色	ローム粒子多量
6 暗 樹 色	ローム中ブロック・同小ブロック中量、粘性・しまり強
7 樹 色	ローム小ブロック多量、粘性・しまり強
8 黒 樹 色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、粘性弱
9 灰 樹 色	ローム中ブロック中量
10 樹 色	ローム大ブロック・同小ブロック中量
11 暗 樹 色	ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量
12 暗 樹 色	ローム中ブロック・同小ブロック少量
13 出 樹 色	ローム大ブロック・同小ブロック少量、しまり強
14 黒 樹 色	ローム小ブロック少量、しまり強
15 樹 色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量
16 黒 樹 色	ローム大ブロック少量、しまり弱
17 暗 樹 色	ローム小ブロック中量
18 樹 色	ローム小ブロック多量
19 にぶい樹色	ローム大ブロック多量
20 樹 色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・同小ブロック少量、しまり弱
21 にぶい樹色	ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・同小ブロック少量
22 にぶい樹色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・同小ブロック少量
23 暗 樹 色	ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
24 樹 色	ローム大ブロック・同中ブロック少量、ローム小ブロック少量、しまり弱
25 暗 樹 色	ローム大ブロック・同中ブロック少量
26 暗 樹 色	ローム中ブロック・同小ブロック少量

遺物 土師器片5点、須恵器片2点が出土している。いずれも小片であり、図示できなかった。

所見 第2号掘立柱建物跡の桁行方向は、第1・3号掘立柱建物跡の桁行方向とほぼ直交しており、これらの建物を意識した配置である。本跡は、8世紀後半と考えられる第47号住居跡の覆土を掘り込んでいることから、これよりも後出する。9世紀後半から10世紀初め頃と考えられる第50・51号住居跡の主軸と本跡の桁行方向がほぼ同じ方向であるため、これと近い時期に構築されたと推定される。

### 第3号掘立柱建物跡（第125号）

位置 調査区域の南部、F3g9区。

重複関係 本跡が、第56号住居跡の覆土を掘り込んで構築されているので、本跡の方が新しい。

規模 桁行2間（平均5.2m）、梁行2間（平均3.6m）の側柱構造の建物跡である。柱穴は8か所（P1～P8）で、柱間小法は芯々間で桁行2.45～2.55m、梁行1.77～1.88mで、面積は約18.72㎡である。柱穴の掘り方は、長軸0.76～1.15m、短軸0.7～0.85mの長方形である。断面形は逆台形で、深さは0.38～0.5mである。柱痕または柱抜き取り痕はP1～P8で確認され、復元される柱の径は19～23cmである。

桁行方向 N-80°-W

覆土 1・6・10・15・22・23・26層は、粘性あるいはしまりが弱い層位が多く、柱痕または柱抜き取り痕の土層と考えられる。その他の層は、版築状の堆積が認められることから、埋土と考えられる。

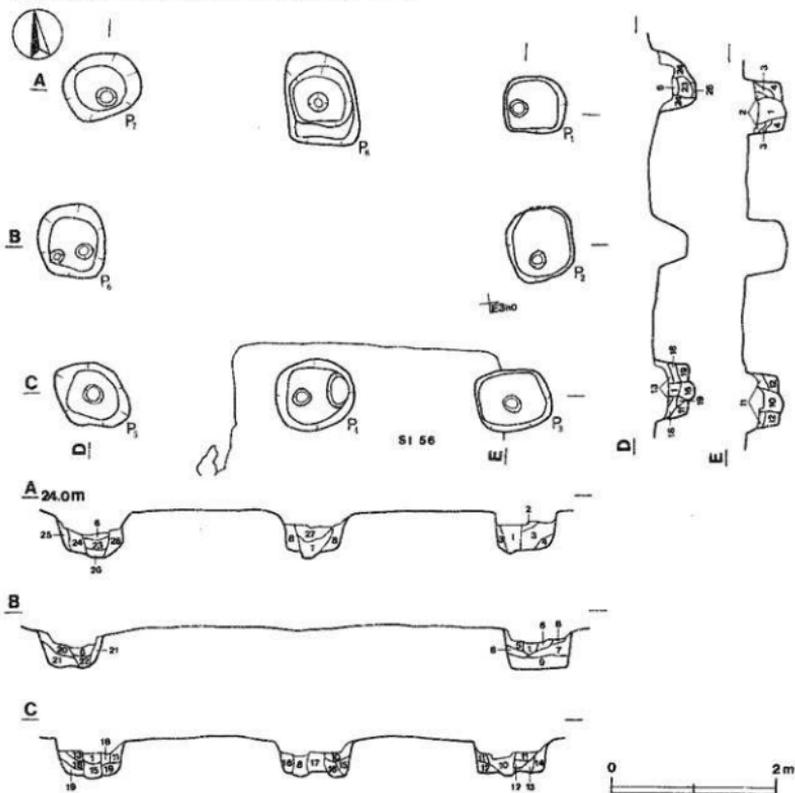
#### 土層解説

1 黒 樹 色	ローム大ブロック中量、しまり弱
2 灰 樹 色	ローム中ブロック少量、しまり弱
3 暗 樹 色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・同小ブロック少量
4 樹 色	ローム小ブロック多量
5 灰 樹 色	ローム小ブロック少量
6 灰 樹 色	ローム大ブロック中量
7 暗 樹 色	ローム大ブロック中量、ローム小ブロック少量、しまり弱
8 暗 樹 色	ローム小ブロック多量
9 黒 樹 色	ローム大ブロック・同中ブロック少量
10 黒 樹 色	ローム中ブロック少量
11 樹 色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量
12 樹 色	ローム中ブロック多量
13 黒 樹 色	ローム小ブロック少量、しまり弱
14 樹 色	ローム大ブロック中量
15 暗 樹 色	ローム小ブロック、しまり弱
16 暗 樹 色	ローム大ブロック中量、ローム小ブロック少量
17 樹 色	ローム大ブロック・同中ブロック中量、粘性・しまり強
18 暗 樹 色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
19 暗 樹 色	ローム中ブロック・同小ブロック少量
20 にぶい樹色	ローム大ブロック多量
21 樹 色	ローム大ブロック中量
22 暗 樹 色	ローム大ブロック中量
23 暗 樹 色	ローム大ブロック多量、しまり弱

- |        |                       |        |                            |
|--------|-----------------------|--------|----------------------------|
| 24 暗褐色 | ローム小ブロック少量、粘土・しまり前    | 27 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量、しまり前 |
| 25 暗褐色 | ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量 |        |                            |
| 26 暗褐色 | ローム中ブロック多量、しまり前       |        |                            |

遺物 遺物は、出土していない。

所見 本跡の桁行方向は、第1号掘立柱建物跡の桁行と平行し、第2号掘立柱建物跡桁行とはほぼ直交する。本跡の時期は、これらの建物跡と同じ時期と考えられる。



第125図 第3号掘立柱建物跡実測図

#### 第4号掘立柱建物跡 (第126図)

位置 調査区域の南部、F 3a5区。

重複関係 本跡は、第53号住居跡の覆上を掘り込んで構築されているので、本跡の方が新しい。

規模 桁行2間(平均3.37m)、梁行2間(平均3.18m)の個性構造の建物跡である。柱穴は8か所(P1～P8)で、柱間寸法は芯々間で桁行1.6～1.7m、梁行1.35～1.92m、面積は約10.72㎡である。柱穴の掘り方は、長軸0.82～1.03m、短軸0.75～0.98mの方形である。断面形は逆台形で、深さは0.26～0.56mである。

柱痕または柱抜き取り痕はP3・P5・P7・P8で認められ、P1・P6では平面的には確認できなかったものの、土層断面から確認された。復元される柱の径は20~28cmである。

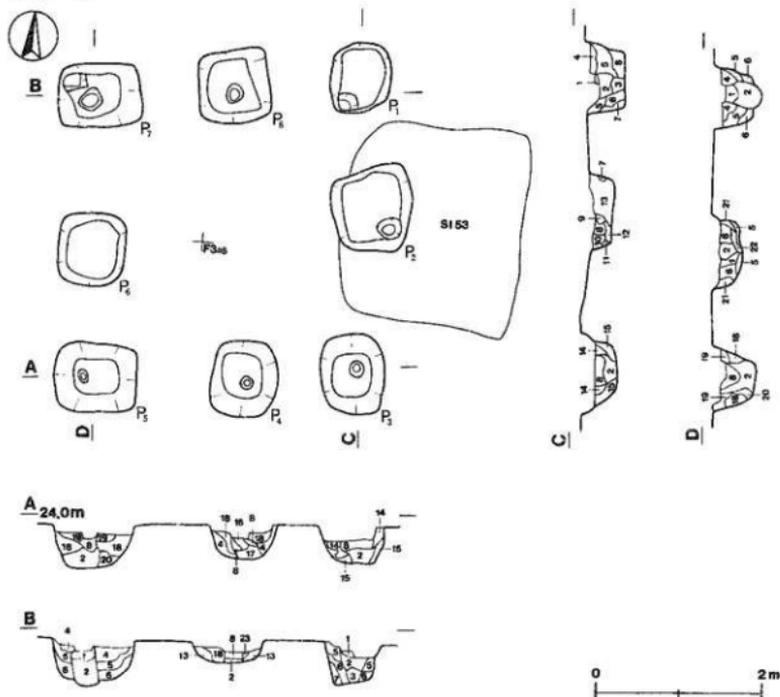
桁行方向 N-3°-W

覆土 1~3・8・16層はしまりが弱く、柱痕または柱抜き取り痕の土層と思われる。その他の層は、版築状の堆積が認められることから、埋土と考えられる。

土層解説

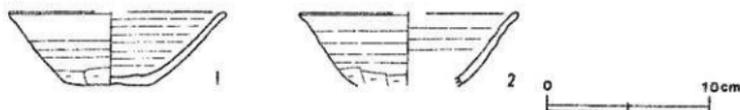
1	にぶい褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・同粒少量	12	明褐色	ローム大ブロック少量
2	灰褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量、しまり弱	13	褐色	ローム小ブロック・同粒中量
3	暗灰色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、しまり弱	14	黒褐色	ローム大ブロック・同中ブロック少量
4	灰褐色	ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量	15	暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量
5	褐色	ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・同小ブロック少量	16	にぶい褐色	ローム大ブロック少量、粘性・しまり弱
6	褐色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・同小ブロック少量	17	暗褐色	ローム中ブロック中量
7	にぶい褐色	ローム小ブロック少量	18	褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量
8	褐色	ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量、しまり弱	19	にぶい褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量
9	明褐色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・同小ブロック少量	20	暗褐色	ローム大ブロック少量
10	褐色	ローム小ブロック少量	21	褐色	ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量
11	明褐色	ローム中ブロック・同小ブロック中量	22	灰褐色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・同小ブロック少量
			23	褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量

遺物 土師器片11点、須恵器片12点が出土している。第127号1・2は、須恵器の坏で、P8の埋土中から出土している。



第126図 第4号掘立柱建物跡実測図

所見 本跡の桁行方向は、第1～3号掘立柱建物跡の桁行方向より西側を指し、別の企画によって構築されたと考えられる。木跡の時期は、P 8の埋土から出土した土器から、9世紀以降の平安時代と考えられる。



第127図 第4号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表

採取番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	平 法 の 特 徴	粘土・色調・破綻	備 考
第127図 1	杯	A 112.71	口縁部一程欠損。平底。外縁から口縁部にかけて外反して立ち上がる。	底面凹陥へつ凹み穴を挟み、手持ちへつ割り。体部内・外側ロクロナガ。体部+握り持ちへつ割り。	赤・黒	P364 60% P.L.52 P.8寛十中
	須恵系	B 5.4				
	C 5.4					
2	杯	A 113.21	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて垂下内反して立ち上がり、握り付定で若干外反する。	体部内・外側ロクロナガ。作柄+握り持ちへつ割り。	赤・黒	P365 20% P.8狭上中
	須恵系	B (4.3)				

第5号掘立柱建物跡 (第128図)

位置 調査区域の中南部、F 3 d8区。

規模 桁行3間(平均5.32m)、梁行2間(平均3.38m)の側柱構造の建物跡である。柱穴は10か所(P1～P10)で、柱間寸法は芯々間で桁行1.5～1.88m、梁行1.32～1.98m、面積は約17.98㎡である。柱穴の掘り方は、P2～P4・P8・P10が一边0.68～0.82mの方形、P1・P5～P7・P9が長軸0.84～1.0m、短軸0.7～0.82mの長方形である。断面形はおおむね逆台形で、深さは0.46～0.66mである。柱痕または柱抜き取り痕はP2～P8で認められ、復元される柱の径は24～38cmである。

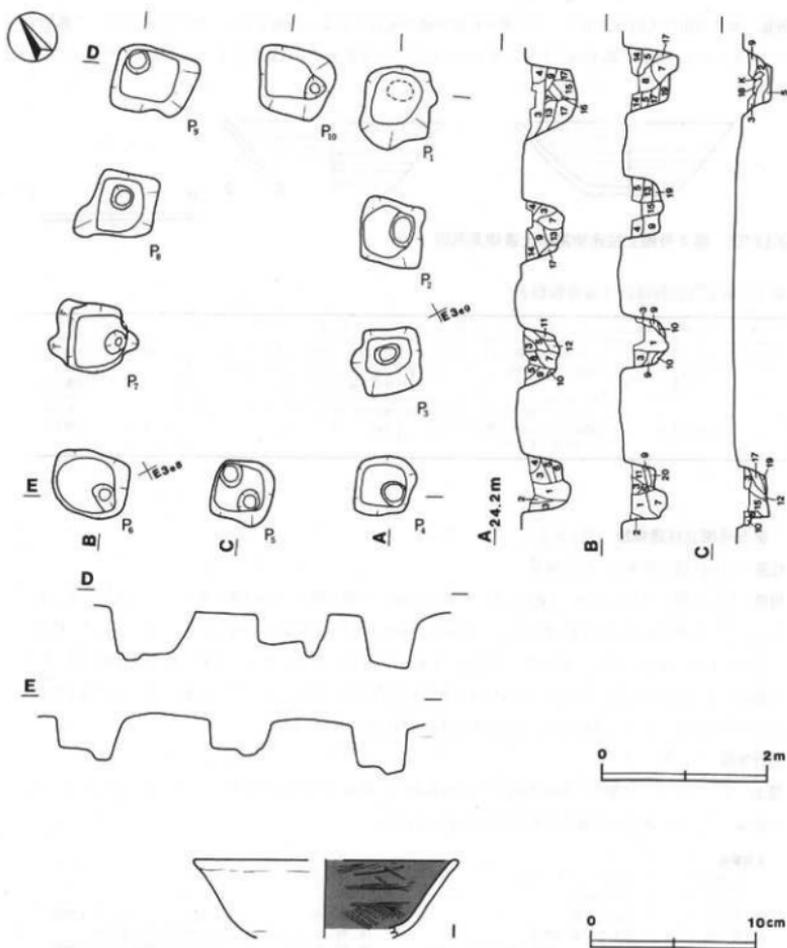
桁行方向 N-31°-E

覆土 1・7・8・15層は、極暗褐色または暗褐色で、柱痕または柱抜き取り痕の土層と思われる。その他の層は、ローム・黒色土互層のため、埋土と考えられる。

土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒の中量
2 暗褐色	ローム粒子少量	12 褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ローム粒の中量	13 暗褐色	ローム小ブロック・同粒子少量・粘性強
4 暗褐色	ローム粒子中量・粘性強	14 褐色	ローム粒の中量・赤色粒少量
5 褐色	ローム小ブロック・同粒子少量・炭化粒子微量	15 暗褐色	ローム小ブロック・同粒子少量・粘性強
6 褐色	ローム小ブロック・同粒子中量	16 褐色	ローム粒子少量
7 暗褐色	ローム粒中量・赤色粒子微量	17 にぶい褐色	ローム粒子少量・砂粒微量・粘性強
8 暗褐色	ローム粒子少量	18 褐色	ローム粒の中量・炭化粒子微量
9 褐色	ローム粒の中量・赤色粒少量	19 暗褐色	赤色粒子少量、ローム粒子微量
10 褐色	ローム粒子中量・粘性強	20 暗褐色	ローム粒少量・炭化粒少量・赤色粒微量

遺物 土師器片12点、須恵器片7点が出土している。第128図1は土師器の杯で、P3の埋土中から出土している。



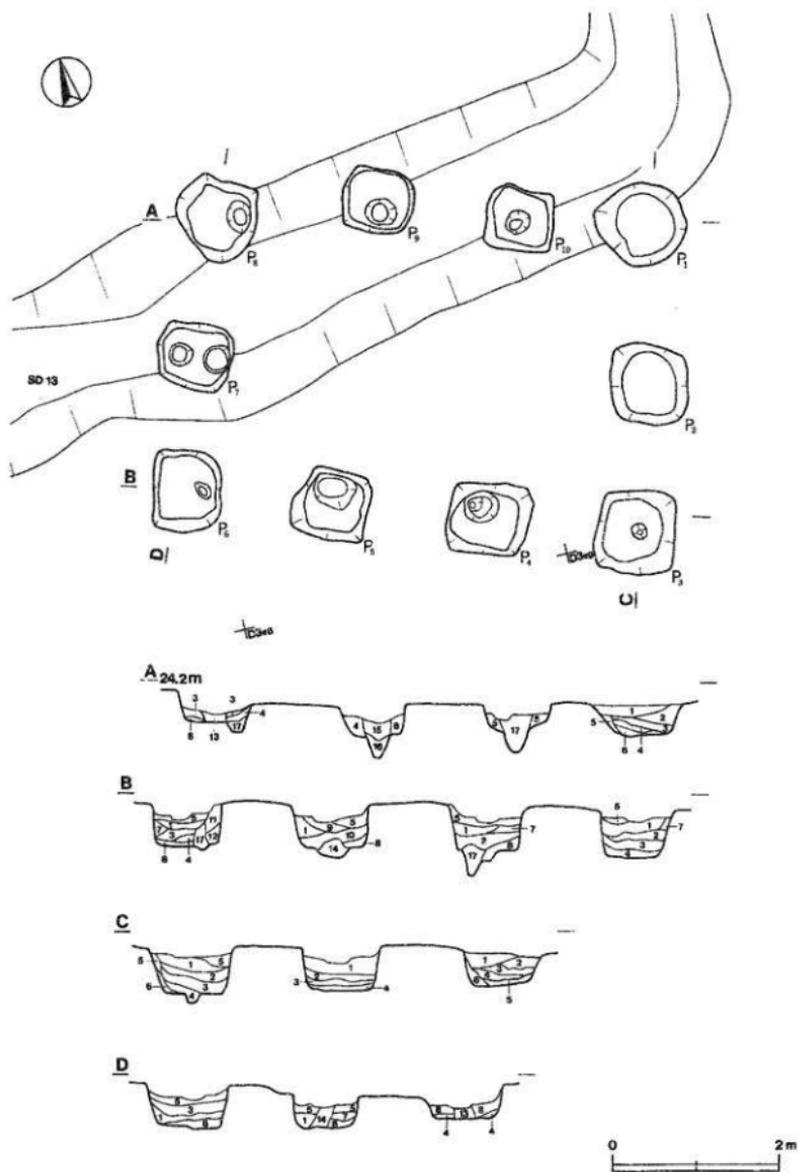
第128図 第5号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第128図 1	坏 土 師 器	A [15.9] B (4.9)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き・黒色処理。	砂粒・スコリア・雲母 黄褐色 普通	P366 25% P3 黄土中

第6号掘立柱建物跡 (第129図)

位置 調査区域の中部, D3 d8区。



第129图 第6号掘立柱建物跡実測图

重複関係 第13号溝跡によって覆土を破壊されているので、本跡の方が古い。

規模 桁行3周(平均5.17m)、梁行2間(平均3.4m)の備柱構造の建物である。柱穴は10か所(P1～P10)で、柱間寸法は芯々間で桁行1.58～1.98m、梁行1.6～1.84m、面積は約17.58㎡である。柱穴の掘り方は、P1～P3・P5・P8～P10は、一辺0.74～1.0mの方形、P4・P6・P7は長軸0.92～1.0m、短軸0.82～0.9mの長方形である。断面形は逆台形で、深さは0.38～0.54mである。柱痕または柱抜き取り痕はP4・P5・P7～P10で認められ、復元される柱の径は28～40cmである。

桁行方向 N-77°-W

覆土 14～16層は、暗褐色または粘性の弱い層位であり、柱痕または柱抜き取り痕の土層と思われる。その他の層は水平に版築状の堆積が見られることから、埋土と考えられる。

土層解説

1	明褐色	ローム粒子多量、炭化粒子・赤色粒子微量	9	にぶい褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量	10	にぶい褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
3	にぶい褐色	ローム粒子中量、粘性強	11	黒褐色	ローム粒子・赤色粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック散在、粘性強	12	暗褐色	ローム粒子中粒
5	褐色	ローム粒子・赤色粒子少量	13	明褐色	ローム粒子多量
6	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
7	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子少量、粘性弱
8	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量、粘性強	16	暗褐色	ローム粒子・赤色粒子少量、粘性弱
			17	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物 遺物は、出土していない。

所見 本建物跡は、桁行方向が第1号掘立柱建物跡の桁行方向とほぼ同一方向を指向しており、共通した企画の下で構築された可能性がある。時期は、第1～3号掘立柱建物跡と同じ時期と考えられる。

表5 六十目遺跡掘立柱建物跡一覧表

掘立柱建物番号	位置	桁行方向	規模 (長さの単位はすべてm)										柱穴 (長さの単位はすべてcm)	覆土	主な遺物	備考					
			棟根距離	桁行間隔	梁行間隔	梁行幅	間柱幅	間柱径	備柱径	柱穴径	半間柱径	間柱径					備柱径	柱穴径			
1	E38.2	N-61°-E	3.4	1.2	2.1	2	5.39	1.9	2.0	26.09	備柱	10	方	長方	75-79	72-80	55-60	73-75	人土	SB-1, 平安	遺物等、第13号溝跡、方柱穴、その他
2	E2.0	N-9°-E	3.3	3.4	1.75-1.85	2	3.18	2.65-1.66	17.17	備柱	10	方	長方	68-70	74-80	55-64	75-78	人土	SB-2, S1-47-本跡, 平安		
3	E34.9	N-60°-W	2.5	2.2	2.0	2	3.6	1.77-1.88	16.72	備柱	8	方	長方	71-72	73-85	58-59	79-79	人土	SB-3, 平安		
4	F2a.5	K-3°-W	2.3	3.7	1.5	1.7	2.1	3.18	1.55-1.52	10.72	備柱	8	方	長方	62-60	75-66	58-58	60-58	人土	二層築、土版築、方柱穴	SB-4, S1-53-本跡, 平安
5	F3e.8	N-31°-E	3.5	3.32	1.5	1.36	2	3.38	1.32-1.38	17.98	備柱	10	方	長方	66-66	76-82	60-60	70-78	人土	二層築、土版築、方柱穴	SB-5, 平安
6	D3h.1	N-77°-W	3.5	3.17	1.58-1.98	2	3.4	1.6	1.8	17.58	備柱	10	方	長方	71-70	74-76	58-54	72-71	人土	SB-6, 本跡-50-13, 平安	

(3) 竪穴状遺構

調査区の中中部から、規模・形状は異なるものの、底面を2段に掘り込んだ竪穴状の遺構を2基確認した。以下、その特徴と遺物について記載する。

第1号竪穴状遺構(第130回)

位置 調査区域の中中部、D3h9区。

形状と規模 本跡の北西部が一部調査区域外にかかる。断面は円筒状で、底面に一段の掘り込みを持っている。底面は掘鉢状に緩やかに傾斜し、掘り込み面に至る。規模は、上端で長径2.61m、短径(2.02)mの不整形円形、底面は長径2.3m、短径(1.70)mの同じく不整形円形である。壁高は1.05～1.1mで、ほぼ垂直に立ち上がる。底面の掘り込みは長軸1.45m、短軸0.85mの長方形で、深さは0.2mである。底面はほぼ平坦で、掘り込み面の壁は外傾して立ち上がる。遺構上端から掘り込み面の底部までの深さは、1.88mである。

長径方向 N-26°-E

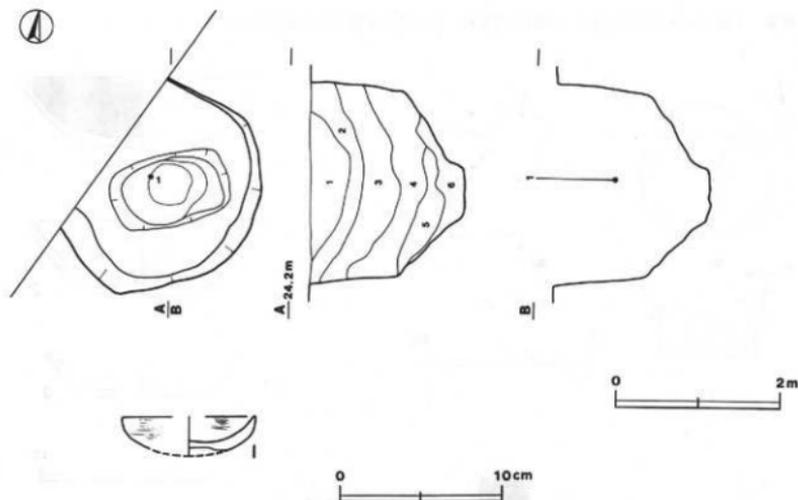
覆土 6層からなる。ロームブロックを含む層が多いことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                                |         |                |
|-------|--------------------------------|---------|----------------|
| 1 明褐色 | ローム大ブロック多量, しまり強               | 4 にぶい褐色 | ローム大ブロック多量     |
| 2 黒褐色 | 粘土大ブロック多量, ローム小ブロック少量          | 5 極暗褐色  | ローム小ブロック・同粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 粘土大ブロック中量, ローム大ブロック少量, 粘性・しまり強 | 6 褐色    | ローム粒子中量, 粘性強   |

遺物 土師器片 5点, 須恵器片 6点が出土している。第130図1は土師器小皿で, 覆土中層から出土している。

所見 本跡の性格は明らかではない。時期は, 出土した土器から11世紀前後と推定される。



第130図 第1号竪穴状遺構・出土遺物実測図

第1号竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第130図 1	小皿 土師器土器	A [ 8.0 ] B ( 2.1 )	口縁部一部欠損。体部から口縁部に かけて内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	砂粒・スコリア 褐色 普通	P406 60% 覆土中層

第2号竪穴状遺構 (第131図)

位置 調査区域の中部, D4 f5区。

規模と形状 断面は南北方向で若干袋状を呈し, 北壁側が一段深く掘り込まれている。底面は平坦である。上端部は径約1.55mの円形, 底面は長径1.7m, 短径1.25mの楕円形である。壁高は0.85~0.95mで, 南壁側は内傾して, 北壁側は外傾して立ち上がる。底面の掘り込みは長径0.95m, 短径 [0.57]mの楕円形で, 深さは0.1mである。掘り込み面の底面は平坦である。遺構上端から掘り込み面の底部までの深さは, 1.01mである。

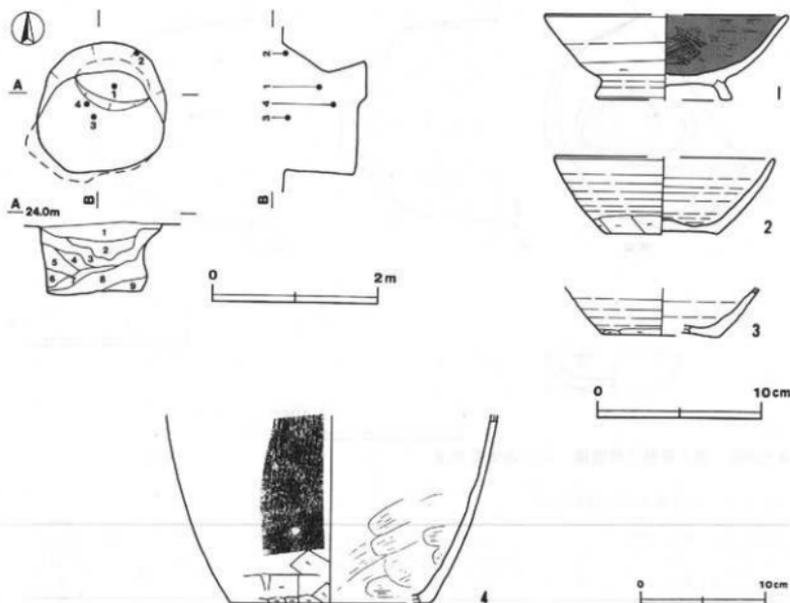
覆土 9層からなる。ロームブロック・粘土ブロックを含む層が多く、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 褐灰色	粘土粒子中量, ローム中ブロック・同小ブロック少量, 粘性・しまり強	5 褐色	ローム粒子中量
2 黒褐色	ローム小ブロック・同粒子少量	6 にぶい褐色	ローム粒子中量, 粘性強
3 褐色	ローム大ブロック中量, ローム中ブロック・同小ブロック少量, 粘土大ブロック微量	7 褐色	粘土小ブロック中量, ローム粒子少量
4 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量	8 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
		9 にぶい褐色	ローム粒子中量, 粘性強

遺物 土師器片36点, 須恵器片37点が出土している。第131図1の土師器高台付杯は, 覆土中層から横位の状態で出土している。2・3は須恵器の坏である。2は覆土上層から破片の状態で, 3は覆土上層から逆位の状態でそれぞれ出土している。4の須恵器壺は, 覆土中層から破片の状態で出土している。

所見 本跡の性格は不明である。本跡の時期は, 出土した土器から9世紀中頃と考えられる。



第131図 第2号竪穴状遺構・出土遺物実測図

第2号竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131図 1	高台付杯 土師器	A 14.5 B 5.3 D [4.3] E 1.2	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り。口縁部から体部上半外面ロケロナデ。体部下端回転ヘラ削り。体部内面磨き, 黒色処理。	赤土・スコリア・雲母 にぶい褐色 普通	P401 70% 覆土中層
2	坏 須恵器	A [13.3] B 5.7 C [6.8]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて若干内傾して立ち上がる。	底部一方向の手持ちヘラ削り。体部内・外面ロケロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	スコリア・雲母 明赤褐色 普通	P402 50% 覆土上層

調査番号	部 位	計測値(cm)	器 材 の 材 質	手 法 の 特 徴	出土・色調・構成	備 考
第13区 3	灰 須磨器	B (3.0) C (7.0)	体部から底部の破片。下底。体部は 外部して立ち上がる。	底部回転ヘリあり。体部内・外面は クロノア。	砂灰・姜母・白色 粘土 古灰色 普通	P403 20% 覆土上層
4	須 磨 器	B (15.3) C (16.0)	体部から底部の破片。平底。体部は 扁平内厚して立ち上がる。	体部外底面位の平行突起。体部下端 ヘリあり。体部内面ナシ。	砂灰・姜母 褐色 普通	P405 25% 覆土中層

表6 六十目遺跡壑穴状遺構一覧表

番号	経緯	採得方向	平面形	規 模		壁 厚	内 面	覆 土	出 上 遺 物	備 考	
				長径(軸)×短径(軸)(m)	高さ(m)					遺構番号・新旧関係(古→新)	時代 その他
1	D47	N 86°-E	不規則形	2.64×(2.02)	1.88	変厚	凹凸状	人 為	土師器片5, 須磨器片6	平安時代	
2	D47	-	円 形	1.53×1.53	1.1	内 壁	平 足	人 為	土師器片36, 須磨器片37	平安時代	北側面が一段掘り込まれている。

### 3 その他の時代の遺構と遺物

当遺跡からは、古墳時代及び奈良・平安時代の遺構のほか、中・近世または年代が明らかではない遺構として、溝跡29条・火葬施設2基・粘土採掘坑2基・地下式横穴4基・井戸跡1基・土坑144基が確認されている。

以下、これらの遺構について記述する。

#### (1) 溝跡

当遺跡からは29条の溝跡が確認されている。一部は薬研堀状に掘り込まれており、これらは奈良・平安時代の遺構や地下式横穴を破壊して構築されていることから、当遺跡の西方に存在したとされる苅間城跡に関連するものと考えられる。代表的な遺構について記述し、それ以外の遺構の特徴や遺物については、一覧表で掲載する。

#### 第1号溝跡(第132区)

**位置** 調査区域の北部, A5・B5区。

**重複関係** 本跡が第1号住居跡を掘り込んでいることから、本跡の方が新しい。

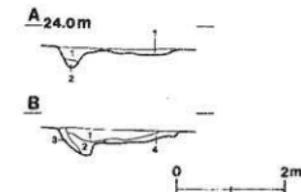
**規模と形状** 断面は逆台形で、東壁は一度段を形成して、西壁は外傾して立ち上がる。規模は、上幅0.55~1.65m, 下幅0.05~0.75m, 深さ0.17~0.32mである。確認できた長さは26.0mで、北側はさらに調査区域外に延びる。東側の段は幅0.4~1.2m, 上端からの深さ0.5~0.8mで、上面が硬化している。

**方向** N-38°-E

**覆土** 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                 |       |                 |
|-------|-----------------|-------|-----------------|
| 1 緑褐色 | ローム粒子中量, 赤色粒子少量 | 3 褐色  | ローム粒子中量, 赤色粒子少量 |
| 2 褐色  | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量         |



第132図 第1号溝跡土層断面図

**遺物** 遺物は出土していない。

**所見** 本跡の東側の段はかなり硬化しており、道路として使用された可能性がある。本跡の時期は、4世紀前半と考えられる第1号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降と考えられる。

#### 第14号溝跡（第133図）

**位置** 調査区域の中央部、D3区。

**重複関係** 第10号住居跡、第10・16～18号溝跡と重複している。第10号住居跡を掘り込んでいることから、本跡の方が新しい。第10・16～18号溝跡との新川関係は、上層断面の観察からは確認できなかった。同時代に存在していた可能性がある。

**規模と形状** 断面は逆台形で、葉研堀状に掘り込まれている。幅は1～2か所段を作りながら外傾して立ち上がる。上幅0.7～2.8m、下幅0.08～0.4m、深さは0.7～0.78mである。長さは、調査された範囲では36mである。D3a8区付近ではほぼ90度屈曲し、逆L字状を呈する。北部は第19号溝跡につながり、西側は調査区域外へ延びる。

**方向** N-80°-E、N-10°-W

**覆土** 15層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

##### 土層解説

1 灰褐色	ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック 少灰、しまり弱	7 褐色	ローム大ブロック・同中ブロック中量
2 褐色	ローム大ブロック中量、ローム小ブロック少灰、しまり弱	8 暗褐色	ローム粒少量
3 褐灰色	ローム中ブロック少灰、しまり弱	9 暗褐色	ローム粒少量
4 暗褐色	ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック 少灰、しまり弱	10 褐色	ローム粒子中量
5 褐灰色	ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・同小 ブロック少灰、しまり弱	11 褐色	ローム粒子中量、粘性强
6 褐色	ローム大ブロック中量、ローム小ブロック少灰	12 暗褐色	ローム粒子少量
		13 暗褐色	ローム粒少量、しまり弱
		14 暗褐色	ローム小ブロック・同粒少量
		15 におい褐色	ローム粒中量、ローム小ブロック微量

**遺物** 土師器片51点、須恵器片4点、陶器片6点が出土している。いずれも小片で、図化できるものはない。本跡が埋没する過程で流れ込んだものと考えられる。

**所見** 本跡の時期は、遺物が少なく判断する材料が乏しい。深さが約0.7mと比較的深く、葉研堀状に掘り込まれていることから、当遺跡の西方に存在した両間城跡との関連が想定される。

#### 第27号溝跡（第134図）

**位置** 調査区域の北西部、B1・C1区。

**重複関係** 本跡が第65・67号住居跡を掘り込んでいるので、本跡の方が新しい。

**規模と形状** 断面は逆台形である。壁は、北側では角度を変えて、南側では直線的に、それぞれ外傾して立ち上がる。上幅0.59～1.31m、下幅0.22～0.46m、深さ0.83～0.93mである。長さは、調査された範囲では27.6mで、直線的に延びており、さらに南北に向かって調査区域外へ延びる。

**方向** N-5°-W

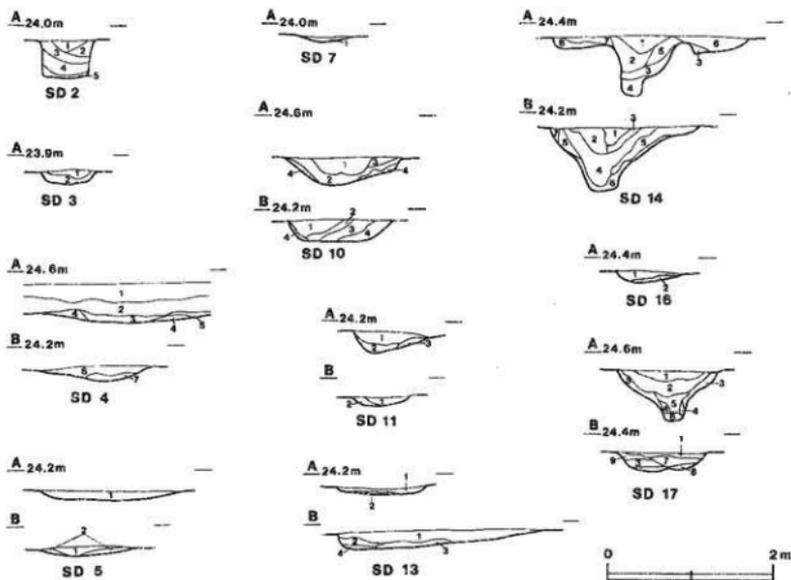
**覆土** 5層からなる。レンズ状に堆積しているが、ロームブロックを比較的多く含み、またしまりの弱い層が多いため、人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

1 灰褐色	ローム小ブロック・級上小ブロック・炭化物少量、 しまり弱	3 褐色	ローム小ブロック中量、しまり弱
2 明褐色	ローム中ブロック多量、ローム大ブロック少灰、 しまり弱	4 褐色	ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック 少量、しまり弱
		5 明褐色	ローム中ブロック多量

遺物 土師器片43点, 須志器片3点, 陶器片31点が出土している。本跡を埋める際に廃棄されたものか, 埋土に混入していたものと考えられる。第135図1は陶器の鉢, 2・3は陶器の茶碗, 4は陶器の湯飲みである。いずれも覆土中から破片の状態で出土している。

所見 掘り込みが0.9m前後と深いことから, 竈間域跡との関連が想定される。本跡は, 近世のものと思われる陶器が出土していることから, ある程度の期間存続し, 近世に至って廃棄されたと考えられる。



第133図 第2～5・7・10・11・13・14・16・17号溝跡土層断面図

以下に, 上述した遺構を除く溝跡の土層解説を記載する。

第2号溝跡土層解説

- 1 ぶい褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・同粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・同小ブロック少量
- 4 明褐色 ローム小ブロック・同粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第3号溝跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第4号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 白色粒少量, ローム粒子微量, 粘性弱
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 赤色粒少量
- 7 暗褐色 ローム粒子微量

第5号溝跡土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・同粒子少量, 炭化粒少量
- 2 明褐色 ローム粒子中量

第7号溝跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量

第10号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・同小ブロック少量
- 3 灰褐色 ローム中ブロック中量, 炭化物少量, しまり強
- 4 ぶい褐色 ローム大ブロック多量

第11号溝跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 赤色粒少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 ぶい褐色 ローム粒子少量

第12号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・赤色粒少量

第13号清跡土層解説

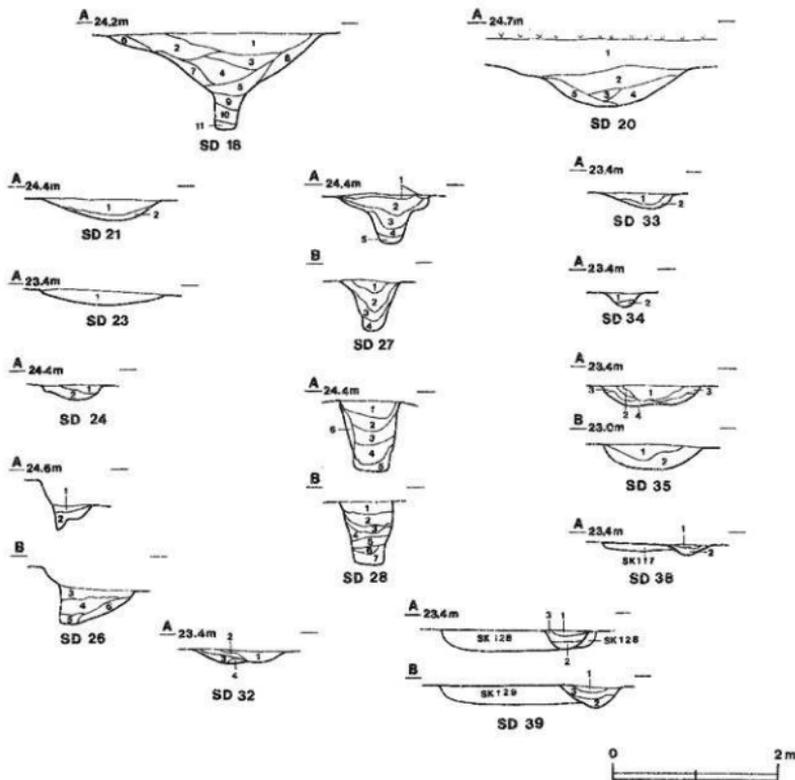
- |   |     |                     |
|---|-----|---------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 |
| 2 | 褐色  | ローム粒子少量             |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量             |
| 4 | 褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 |

第16号清跡土層解説

- |   |     |         |
|---|-----|---------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 | 褐色  | ローム粒子少量 |

第17号清跡土層解説

- |   |       |                            |
|---|-------|----------------------------|
| 1 | 褐色    | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量        |
| 2 | 暗褐色   | ローム小ブロック多量, ローム粒子少量        |
| 3 | 暗褐色   | ローム小ブロック・同粒子中量             |
| 4 | 褐色    | ローム中ブロック・同小ブロック少量          |
| 5 | 暗褐色   | ローム大ブロック・同中ブロック中量, しまり弱    |
| 6 | 暗褐色   | ローム大ブロック多量, しまり弱           |
| 7 | 褐色    | ローム粒子中量, ローム中ブロック・同小ブロック少量 |
| 8 | にぶい褐色 | ローム大ブロック・同小ブロック中量          |
| 9 | にぶい褐色 | ローム中ブロック・同小ブロック中量          |



第134図 第18・20・21・23・24・26~28・32~35・38・39号清跡土層断面図

第18号清跡土層解説

- |   |       |                              |
|---|-------|------------------------------|
| 1 | 褐色    | ローム粒子少量, 赤色粒子微量, 粘性弱         |
| 2 | 褐色    | ローム粒子・赤色粒子少量, ローム小ブロック微量     |
| 3 | 暗褐色   | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・赤色粒子微量    |
| 4 | 暗褐色   | ローム粒子微量, 粘性弱                 |
| 5 | 暗褐色   | ローム粒子少量, 赤色粒子微量, しまり弱        |
| 6 | にぶい褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量          |
| 7 | 暗褐色   | ローム粒子少量                      |
| 8 | 褐色    | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 粘性・しまり弱 |
| 9 | 褐色    | ローム小ブロック・同粒子微量, 粘性弱          |

- |    |     |                     |
|----|-----|---------------------|
| 10 | 暗褐色 | ローム小ブロック・同粒子微量, 粘性弱 |
| 11 | 暗褐色 | 粘土ブロック少量, ローム粒子微量   |

第20号清跡土層解説

- |   |       |                           |
|---|-------|---------------------------|
| 1 | 暗褐色   | ローム粒子・赤色粒子微量              |
| 2 | 褐色    | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, しまり弱 |
| 3 | 暗褐色   | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量       |
| 4 | 暗褐色   | ローム粒子・赤色粒子少量              |
| 5 | にぶい褐色 | ローム粒子少量, 粘性強              |

第21号溝跡土層解説

- 1 褐色 rome 粒子中量, rome 小ブロック少量  
2 褐色 rome 小ブロック・同粒子少量

第23号溝跡土層解説

- 1 褐色 rome 大ブロック・同中ブロック中量

第24号溝跡土層解説

- 1 茶褐色 赤色粒少量, rome 粒子少量  
2 茶褐色 rome 粒子少量

第26号溝跡土層解説

- 1 茶褐色 rome 粒子少量  
2 茶褐色 rome 粒子中量, 粘付強  
3 茶褐色 rome 粒子少量  
4 茶褐色 rome 粒子中量  
5 茶褐色 赤色粒中量, rome 粒子少量, 粘付強  
6 褐色 rome 粒子多量, しまり強

第28号溝跡土層解説

- 1 褐色 rome 大ブロック・同小ブロック中量  
2 茶褐色 rome 大ブロック・同中ブロック中量, しまり弱  
3 黒褐色 rome 大ブロック・成化物少量, しまり弱  
4 茶褐色 rome 小ブロック多量, rome 大ブロック少量, しまり弱  
5 黒褐色 rome 小ブロック多量, しまり弱  
6 褐色 rome 粒子多量  
7 茶褐色 rome 小ブロック多量, しまり弱

第32号溝跡土層解説

- 1 褐色 rome 粒子・赤色粒少量  
2 褐色 rome 中ブロック・同粒子中量  
3 濃い褐色 rome 粒子中量  
4 明褐色 rome 粒子中量

第33号溝跡土層解説

- 1 褐色 rome 小ブロック・同粒子少量  
2 明褐色 rome 粒子多量, rome 小ブロック中量

第34号溝跡土層解説

- 1 褐色 rome 小ブロック少量  
2 褐色 rome 粒子少量, rome 大ブロック少量

第35号溝跡土層解説

- 1 茶褐色 rome 小ブロック・同粒子少量  
2 明褐色 rome 粒子多量, rome 小ブロック中量  
3 褐色 rome 粒子中量, rome 小ブロック少量  
4 明褐色 rome 粒子中量

第38号溝跡土層解説

- 1 茶褐色 rome 粒子少量  
2 褐色 rome 小ブロック少量

第39号溝跡土層解説

- 1 茶褐色 rome 大ブロック・同小ブロック少量  
2 黒褐色 rome 中ブロック・同小ブロック少量  
3 茶褐色 rome 中ブロック・同小ブロック少量

第14号溝跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)				出土地点	備考
		長さ	幅	厚さ	重量		
0135図11	灰 埴	3.5	4.7	2.1	105.3	第14号溝跡掘上中	M14

第18号溝跡出土遺物観察表

図版番号	器種	器質	計測値 (cm)				残存率	色調	絵付け	文様	出土層
			A	B	D	E					
第135図1	鉢	陶器	11.4	3.1	4.2	0.7	86%	灰白色	変形透明釉	平行及び縦	P373
2	小瓶	陶器	[8.4]	4.1	[3.2]	[0.7]	49%	灰白色	鈍有り透明釉	縦文	P374

第19号溝跡出土遺物観察表

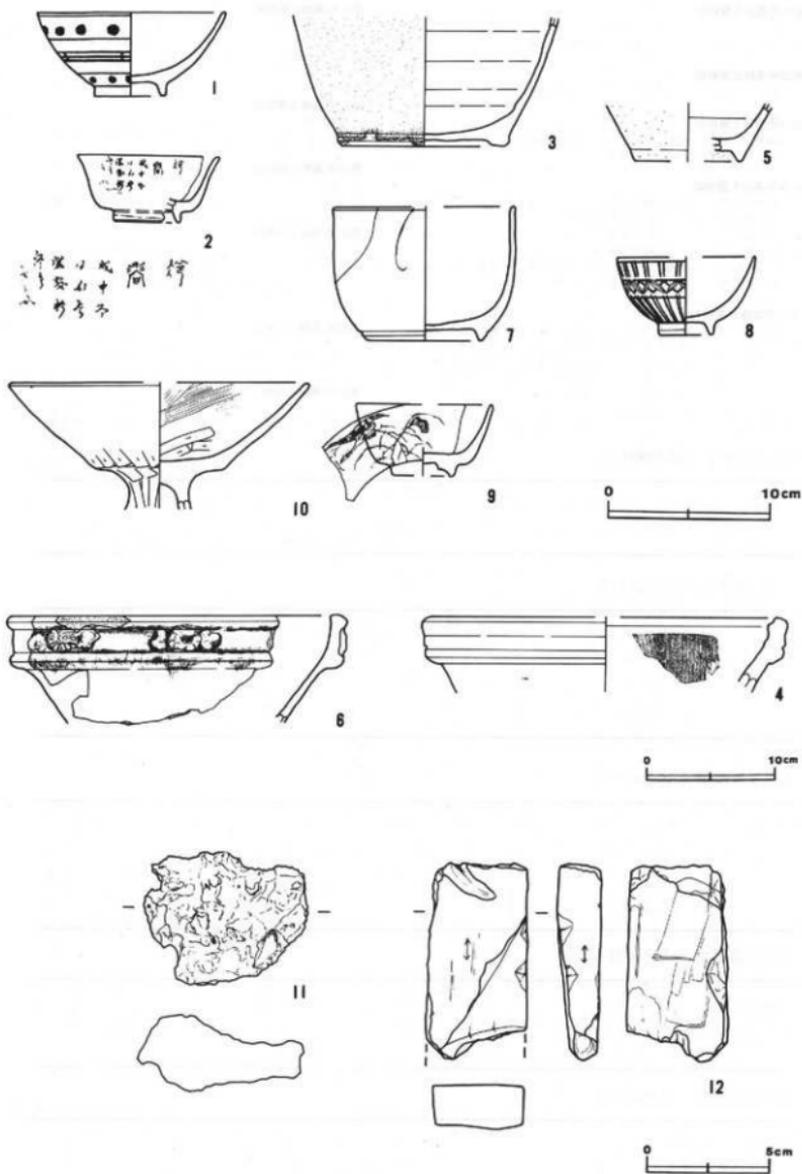
図版番号	器種	器質	計測値 (cm)				残存率	色調	絵付け	文様	出土層
			A	B	D	E					
第135図3	鉢	陶器	--	(7.9)	9.7	0.3	30%	淡黄色	透明釉	内周クロ口 底台部底面磨削	P375 深15・浅縁系
4	鉢	陶器	[27.3]	15.0	--	--	3%	(L25)赤褐色	鈍地	一帯位10cm以上の粗目付。	P377

第23号溝跡出土遺物観察表

図版番号	器種	器質	計測値 (cm)				残存率	色調	絵付け	文様	出土層
			A	B	D	E					
第135図5	高台付鉢	陶器	--	(3.6)	[6.6]	0.7	10%	濃い褐色	白色物	内周クロ口	P376

第27号溝跡出土遺物観察表

図版番号	器種	器質	計測値 (cm)				残存率	色調	絵付け	文様	出土層
			A	B	D	E					
0135図6	鉢	陶器	[26.0]	(8.7)	--	--	20%	(L25)濃褐色	透明釉 白色物	外周に足跡あり	P379



第135图 第14·18·19·23·27·28号满迹出土遗物实测图

図版番号	器 種	器 型	計 測 値 (cm)				残存率	色 澤	絵 付 様 式	文 物 類 別	出 土 層
			A	B	D	E					
第132図 7	甌	細器	[10.1]	8.2	6.6	0.7	40%	灰白色	素付 透明釉	墓木?	P383
第133図 8	小 甌	粗器	[ 8.4]	4.8	4.3	0.7	30%	灰白色	素付 透明釉	灰・磁粉了	P385
第135図 9	小 甌	粗器	[ 8.0]	4.4	3.8	0.7	30%	灰白色	素付 透明釉	草木・鳥	P387

### 第28号溝跡出土遺物 (土師器) 観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第133図 10	高杯 土師器	A [18.2] B ( 7.7)	杯部の残片。平部外面下縁に稜を持つ。口縁部は外側して立ち上がり、内側に凹取りを施す。	口縁部内面ナデ。口縁部から杯部外面へ斜削り後、ナデ。杯部底面へ斜削り。	赤灰・石灰・スコリア・白色粘土 に薄い褐色 青濁	P388 30% 覆土中

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第135図 12	瓦 石	(8.0)	4.1	1.8	86	覆土中	Q33 アフタイト P.L.O

表7 六丁目遺跡溝跡一覧表

遺物番号	位置	主軸方向	器 型	器 幅 (m)				壁 面	底 面	覆 土	出土遺物	備 考
				長さ	上 幅	下 幅	深 さ					
1	A3-B4	N-28°-E	深台形	(26)	4.3-4.6	3.0-3.5	3.0-3.2	細斜	平凹	自然		SI-1と重複
2	C4	N-0°	浅台形	(28)	3.7-4.0	4.6-4.8	3.5-3.8	垂直	平坦	自然	土師器片9, 須恵器片4, 陶器片3	
3	C4	N-69°-E	浅台形	(16.0)	3.5-4.0	4.8-4.0	3.1-3.6	細斜	平凹	自然		
4	D3-E4	N-83°-E	皿 状	(18)	4.8-1.8	4.5-4.5	2.5-2.2	細斜	平坦	自然		第4号地下式障と重複
5	D4	N-12°-E	皿 状	27	6.5-7	4.7-5.3	6.2-6.3	細斜	平坦	自然	陶器片3	
7	C4	N-40°-W	皿 状	8.5	4.5-7.1	3.0-3.0	4.8-6.1	細斜	平坦	自然		底面は踏み認められている
10	D3	N-87°-W	皿 状	(21)	6.8-7.4	3.0-3.7	4.8-4.3	細斜	皿状	自然	土師器片13, 須恵器片3, 陶器片1	SI-18と重複
11	D3	N-4°-E	皿 状	26	4.7-7	3.0-4.0	4.1	細斜	皿状	自然		
12	D3	N-50°-E	皿 状	(26.4)	4.3-5.7	3.2-3.2	4.8-4.2	細斜	皿状	自然		SI-12・SI-13号住居跡と重複
13	D3	N-82°-E	皿 状	(16.0)	3.8-4.8	4.2-4.1	3.0-3.3	細斜	平坦	自然		SR 6と重複
14	D3	N-80°-E	浅台形	(26)	3.7-4.0	4.8-4.4	3.7-3.9	外傾	平坦	自然	土師器片51, 須恵器片4・陶器片6	SI-10重複
16	D3	N-6°-W	皿 状	16.4	3.8-4.6	4.9-4.4	3.8-3.2	細斜	皿状	自然		
17	D3	N 86°	浅台形	(26)	4.8-1.8	6.3-4.9	4.0-4.8	外傾	平坦	自然	土師器片6, 須恵器片3, 陶器片3	
18	C3	N-83°-E	浅台形	(15.8)	2.8-2.3	4.5-1.8	4.7-1.7	外傾	平坦	自然	土師器片1, 陶器片4	
19	C3	N-9°-W	浅台形	(40)	4.1-4.3	4.7-3.8	4.9-4.1	外傾	平坦	自然	土師器片7, 須恵器片1, 陶器片1	SI-9と重複
20	C4	N-14°-E	皿 状	(7.8)	1.1-2.1	4.3-3.4	4.3-4.0	細斜	皿状	自然	陶器片2	
21	C3	N-79°-E	皿 状	(15.6)	3.7-4	3.5-3.6	4.2-4.1	細斜	皿状	自然	土師器片6, 陶器片1, 灰褐色陶器片1	
25	C4	N-12°-W	皿 状	(31.8)	2.8-4	3.1-3.6	3.0-3.2	細斜	皿状	自然	土師器片13, 陶器片10	
24	B2	N-68°-E	皿 状	9	3.3-3.7	3.6-3.5	3.0-3.4	細斜	皿状	自然	土師器片9, 陶器片1	SI-5と重複
26	C1	N-79°-W	V字状	(31.3)	3.4-4	4.2-4.2	3.2-3.4	外傾	皿状	自然	陶器片7	
27	B1-C1	N-5°-W	浅台形	(27.6)	3.8-1.6	4.2-4.0	3.6-3.9	外傾	平坦	人為	土師器片43, 須恵器片3, 陶器片31	SI-65・SI-67と重複
28	B1-C1	N 3°	浅台形	(27.6)	3.8-1.6	4.2-4.0	3.6-3.9	外傾	平坦	人為	土師器片43, 陶器片31	SI-67と重複
31	F4	N-62°-W	皿 状	7.75	6.8-1.8	4.5-4.5	4.8-4.1	細斜	皿状	自然		第1号地下式障と重複
32	C5-C6	N-42°-E	皿 状	(23.5)	4.9-1.0	4.2-3.5	4.4-4.9	微傾	皿状	自然	土師器片2	
33	D7-D8	N 73°-E	皿 状	4.8	4.5-3.7	3.1-3.2	3.3-4.2	細斜	皿状	自然		
34	D7-D8	N 80°-E	皿 状	(12.2)	4.4-3.4	3.2-3.5	3.0-4.2	細斜	皿状	自然		
35	C1-C2	N-3°-E	浅台形	(37.8)	3.7-1.8	3.6-4.8	3.7-3.4	細斜	平坦	自然		
38	D7	N 78°-E	V字状	(22.3)	4.2-4.0	4.6-4.4	3.6-3.2	外傾	平坦	自然		
39	D7	N-62°-E	V字状	20.1	3.4-4.1	4.8-4.4	3.1-3.2	外傾	平坦	自然		

## (2) 火葬施設

### 第1号火葬施設 (第136図)

位置 調査区域の南部, E 3 i8区。

規模と形状 上面をかなり削平されており, 燃焼部及び通気溝の基底部が残存している。i'字状を呈しており, 長さは1.5mである。燃焼部は長径43cm, 短径33cmの楕円形である。深さは4cmである。長径方向は主軸と平行している。壁面は緩やかに立ち上がる。通気溝は断面U字形で, 長さ55cm, 幅は上端で27~33cm, 底面で10~19cm, 深さ4~6cmである。壁面は外傾して立ち上がる。

主軸方向 N-59°-E

底面 燃焼部は皿状で, 火熱を受けて赤変している。通気溝は平坦である。

覆土 2層からなる。ロームブロック・骨片を含んでいるため, 人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
- 2 黒色 炭化物・骨片多量, ローム大ブロック少量, 粘性・しまり弱

所見 本跡は, 燃焼部底面が火熱を受けて赤変しており, 骨片・炭化物が出土していることから, 火葬施設と考えられる。時期は, 形状から中世と推定される。

### 第2号火葬施設 (第136図)

位置 調査区域の南部, F 4 b1区。

規模と形状 T字状を呈しており, 長さは1.8mである。燃焼部は主軸と直交し, 長軸76cm, 短軸50cmの長方形で, 深さは17cmである。断面は逆台形で, 壁面は外傾して立ち上がる。開口部は主軸と平行し, 長軸115cm, 短軸70cmの長方形で, 深さは17~25cmである。断面は逆台形で, 壁面は外傾して立ち上がる。通気溝は燃焼部のほぼ中央に穿たれ, 断面はU字形である。規模は, 長さ95cm, 幅は上端で47cm, 底面で20cm, 深さは35~40cmである。壁面は, 開口部側は緩やかに外傾して立ち上がり, 燃焼部側は外傾して立ち上がる。

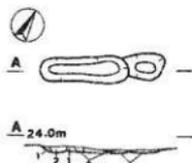
主軸方向 N-66°-E

底面 開口部から燃焼部へ緩やかに下がっている。燃焼部及び通気溝の底面は, 火熱を受けて赤変している。

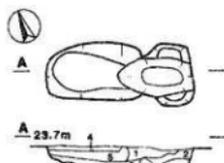
覆土 6層からなる。ロームブロック・骨片を含んでいるため人為堆積と思われる。

#### 土層解説

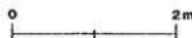
- 1 濃い赤褐色 ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・骨片少量, しまり弱
- 3 暗灰色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・骨片少量, 粘性・しまり弱
- 4 褐色 ローム大ブロック多量, ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム大ブロック少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 6 赤褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量, 粘性弱



第1号火葬施設



第2号火葬施設



第136図 第1・2号火葬施設実測図

所見 本跡は、燃焼部及び通気溝底面が火熱を受けて赤変しており、骨片・炭化物が出土していることから、火葬施設と考えられる。本跡の時期は、形状から中世と推定される。

表8 六十目遺跡火葬施設一覽表

番号	位置	採掘方向	平面形	遺 跡 形				土 質				覆土	出土遺物	備考	
				長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	傾斜	層位	層厚(m)	層位	層厚(m)				
1	R3.18	N-50° E	1字形	4.3 × 3.3	4	傾斜形	-	X	-	-	5.5	4-6	1字	人骨	
2	C5.11	N-68° W	T字形	7.6 × 3.0	17	直方形	1.15 × 7.0	17-25	傾斜形	9.0	32-40	17字	人骨		

### (3) 粘土探掘坑

#### 第1号粘土探掘坑(第137図)

位置 調査区域の南部, E4 i4区。

重複関係 本跡が第2号粘土探掘坑を掘り込んでいることから, 本跡の方が新しい。

規模と形状 長径3.3m, 短径2.45mの楕円形で, 深さは1.15mである。壁はほぼ垂直に立ち上がり, 底面は平坦である。底面は黄灰色粘土層を掘り込んでいる。

主軸 N-39° -W

覆土 19層からなる。2・4・6・7・9~12・18・19層は本跡の, 13~17層は第2号粘土探掘坑の覆土である。1・3・5・8層は, 双方に見られる。ロームブロック・粘土ブロックを含む土層があるため, 人為堆積と考えられる。

#### 第1・2号粘土探掘坑土層解説

1 明褐色	粘土粒子多量, 粘性・しまり強	11 明褐色	ローム粒子・粘土粒中量, ローム中ブロック少量
2 暗褐色	ローム粒中量, 粘土粒子・赤色粒子少量	12 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・粘土土人ブロック中量
3 明褐色	粘土粒子多量, 粘土中ブロック少量, 粘性・しまり強	13 暗褐色	ローム粒子多量, 粘土小ブロック微量, しまり弱
4 暗褐色	ローム大ブロック・粘土小ブロック中量, 粘土粒子少量	14 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・粘土土人ブロック中量
5 暗褐色	ローム粒子多量, 粘土粒子微量, 粘性・しまり強	15 暗褐色	粘土粒子多量, 粘性・しまり強
6 暗褐色	粘土大ブロック多量, 粘性強	16 暗褐色	ローム大ブロック・粘土中ブロック中量, 粘性・しまり強
7 暗褐色	ローム粒子多量, 粘性・しまり強	17 におい褐色	ローム大ブロック・両粒多量, 粘性・しまり強
8 暗褐色	ローム粒子多量, 赤色粒子少量, 粘性・しまり強	18 明褐色	ローム中ブロック・両粒中量, 粘性強
9 におい褐色	ローム粒子多量, 粘性・しまり強	19 暗褐色	ローム粒子少量
10 暗褐色	ローム粒子・粘土小ブロック中量, 粘性強		

遺物 土師器片9点, 須恵器片11点が出土している。第137図1は土師器高台付皿, 2は須恵器甕で覆土中から破片の状態が出土している。皿上に泥入したものと考えられる。

所見 黄灰色粘土層を掘り込み, 覆土に粘土ブロックを含むことから粘土探掘坑と考えられる。第2号粘土探掘坑と共通する土層があり, 両者にはそれほど時間的な差はないと思われる。本跡の時期は, 出土した土器から9世紀後半以降と考えられる。

#### 第2号粘土探掘坑(第137図)

位置 調査区域の南部, E4 j5区。

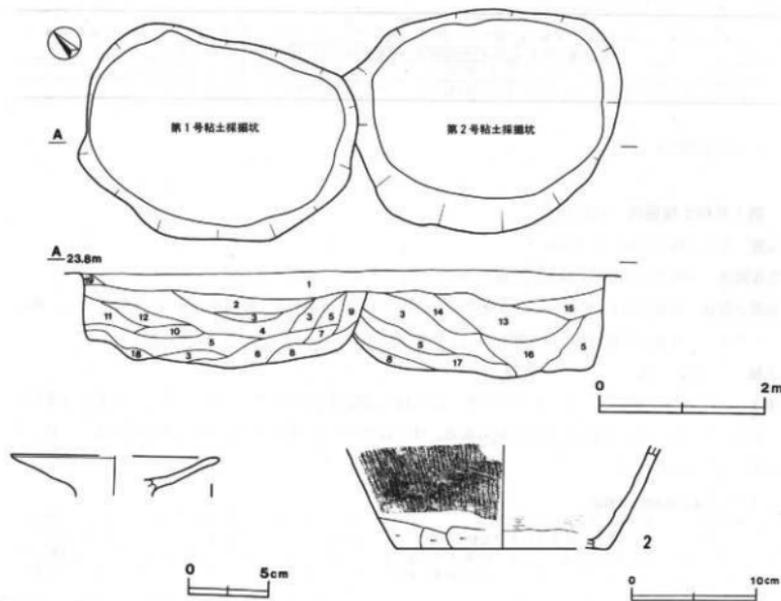
重複関係 第1号粘土探掘坑が本跡を掘り込んで構築していることから, 本跡の方が古い。

規模と形状 長径(3.4)m, 短径2.75mの楕円形で, 深さは1.3mである。壁はほぼ垂直に立ち上がり, 底面は平坦である。底面は黄灰色粘土層を掘り込んでいる。

主軸 N-47°-W

遺物 出土した遺物は見られなかった。

所見 黄灰色粘土層を掘り込み、覆土に粘土ブロックを含むことから粘土採掘坑と考えられる。本跡の時期は、明らかではないが、第1号粘土採掘坑に若干先行すると考えられる。



第137図 第1・2号粘土採掘坑・出土遺物実測図

第1号粘土採掘坑出土遺物観察表

図版番号	部 位	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備 考
第137図 1	高台付 土師器 A 土師器 B	[12.6] [2.4]	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア・ 雲母 褐色 普通	P303 40% 覆土中
2	素 土師器 B 土師器 C	[8.3] [16.9]	体部から底部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行印き。体部下端へタ磨り。体部内面ナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P305 10% 覆土中

表9 六十日遺跡粘土採掘坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	底 横		壁 面	底 面	覆 土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新) 時代 その他
				長径側 X 短径側(m)	深(m)					
1	D414	N-39°-W	種円形	3.3 × 2.45	1.15	垂直	平坦	人為	土師器片9, 須恵器片11	第2号粘土採掘坑→第1号粘土採掘坑
2	E415	N-45°-W	種円形	(3.4) × 2.75	1.3	垂直	平坦	人為		第2号粘土採掘坑→第1号粘土採掘坑

#### (4) 地下式墳

##### 第1号地下式墳 (第138図)

位置 調査区域の南部、D 4 a2区。

重複関係 第31号溝跡と重複している。第31号溝跡との新旧関係は、土層断面では確認できなかった。

主軸 N-70°-W

竪坑 崩落しているため、上面の形状は不明である。底面は長軸1.1m、短軸0.3mで、長軸が主軸と直交する長方形と推定される。底面は平坦で、主室と同じ高さで続く。確認面からの深さは、約1mである。

主室 崩落しているため、上面または天井部の形状は不明である。底面は長軸1.65m、短軸1.20m、長軸が主軸と直交する隅丸長方形である。底面は平坦で、確認面からの深さは102cmである。

壁 壁面は若干内傾して立ち上がり、壁高は50~60cmである。

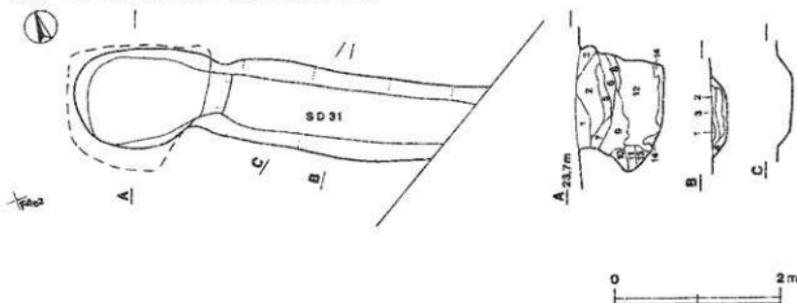
覆土 14層からなる。レンズ状に堆積しているため、自然堆積と考えられる。9~13層は天井又は壁が崩落した土層と思われる。

##### 土層解説

1 黒褐色	ローム大ブロック・粘土中ブロック少量	8 褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量、粘性強
2 黒褐色	粘土大ブロック中量、粘土中ブロック少量、粘性・しまり強	9 暗灰褐色	ローム殻中量、粘性・しまり強
3 黒褐色	ローム小ブロック・粘土中ブロック少量、しまり弱	10 暗黄褐色	ローム粒子多量、しまり強
4 灰黄褐色	ローム大ブロック・同粒中・粘土大ブロック少量、しまり弱	11 オリーブ褐色	ローム中ブロック中量、粘土大ブロック少量、粘性強
5 黒褐色	粘土中ブロック中量、粘性強	12 赤黄褐色	ローム粒子多量、粘土粒中量、粘性強
6 灰褐色	粘土大ブロック中量、粘性・しまり強	13 暗黄褐色	ローム殻多量、しまり強
7 濃い黄褐色	ローム粒子多量	14 黒褐色	粘土大ブロック少量、粘性強

遺物 遺物は確認できなかった。

所見 本跡の時期は、形状から中世と推定される。



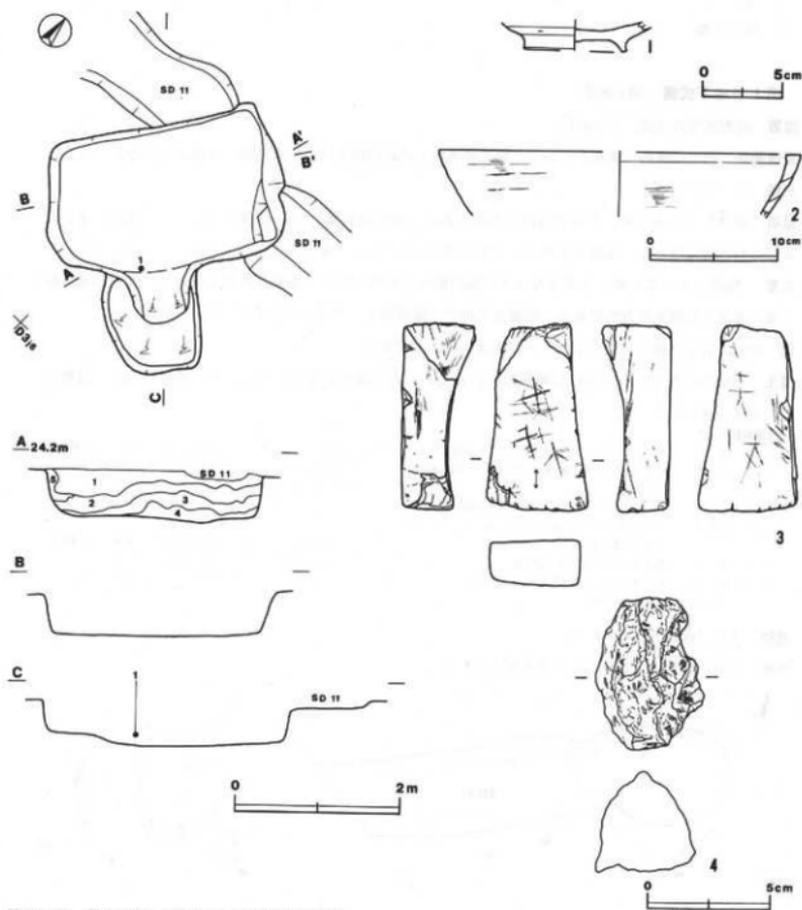
第138図 第1号地下式墳実測図

##### 第2号地下式墳 (第139図)

位置 調査区域の中部、D 3 i6区。

重複関係 第11号溝跡が本跡を掘り込んで侵食していることから、本跡の方が古い。

竪坑 天井部は崩落しており、上面の形状は不明である。規模は、確認面で長軸1.25m、短軸1.15m、底面で長軸1.05m、短軸1.0m、長軸が主軸と一致する方形である。確認面からの深さは12cmで、主室底面から14cm高い。底面は平坦であるが、主室底面側だけがスロープ状に緩やかに傾斜する。



第139図 第2号地下式墳・出土遺物実測図

**主室** 削平された可能性があり、天井部の形状は不明である。規模は、確認面で長軸2.85m、短軸1.78m、底面で長軸2.49m、短軸1.64m、長軸が主軸と直交する長方形である。底面は平坦で、確認面からの深さは56cmである。

**壁** 堅坑・主室ともにほぼ垂直に立ち上がる。

**主軸方向** N-44°-W

**覆土** 5層からなる。レンズ状に堆積しているため、自然堆積と思われる。5層はローム粒子を多く含んでおり、崩落した天井部または壁面の土層と考えられる。

## 土層解説

1 期	色	赤色砂子中量, ローム中ブロック・阿陀子少量	4	黒褐色	ローム粒中量, ローム中ブロック・阿陀子少量
2 期	顔色	ローム粒中量, 赤色砂子少量			少量
3 期	顔色	ローム粒中量, ローム中ブロック少量	5	にがい褐色	ローム粒中量

遺物 土師器片16点, 須恵器片20点, 土師質土器片1点, 石製品1点(砥石), 鉄滓1点が出土している。第139図1の高台付杯, 3の砥石などが出土している。これらの遺物は, 本跡が埋没する過程で流れ込んだものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 形状から中世と推定される。

## 第2号地下式竪出上遺物観察表

発掘番号	器種	計測値(cm)	器形の概要	手法の特徴	出土・位置・構成	備考
第139図1	高台付杯	B (1.3)	作部下縁から高台部の破片, 体部は外壁として立ち上がる。高台はハの字状に開く。	成部内瀬口ナメテ, 作部下縁開断へナメテ, 成部内瀬へナメテ, 高台部貼付付後, 内・外両ナメテ。	砂粒・スクリヤ に多い黄褐色 普通	P140 60% 覆上ノ底
	須恵器	D [1.6.2] E 0.8				
2	粘土	A [28.8]	口縁部の破片。口縁部は内湾して立ち上がる。口縁部は歪曲りを被さる。	口縁部内・外両ナメテ。	砂粒・スクリヤ 黒褐色 貝	P139 10% 外周縁付着 覆上中
	印瓦	B (5.2)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第139図3	砥石	7.5	4.1	1.8	91	覆上中	Q14 妙徳保良寺 蔵持付 P.153

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第139図4	底壇	6.2	4.4	4.1	228.4	覆土中	M15

## 第3号地下式墳(第140図)

位置 調査区域の中南部, D3 i0区。

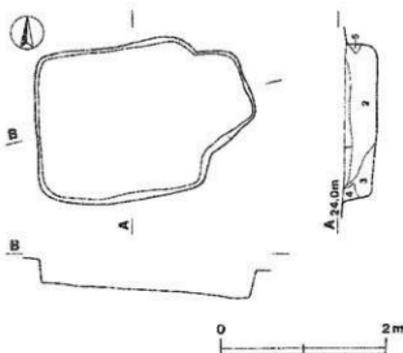
壘坑 削平を受け, 上面の形状は不明である。規模は, 確認面で長軸1.2m, 短軸0.65m, 底面で長軸1.1m, 短軸0.55m, 長軸が主軸と直交する長方形である。底面は平坦で, 主室底面と同じ高さで続いている。確認面からの深さは34cmである。

主室 削平を受け, 天井部の形状は不明である。規模は, 確認面で長軸2.07m, 短軸1.89m, 底面で長軸1.95m, 短軸1.82m, 長軸が主軸と一致する方形である。底面は平坦で, 確認面からの深さは30~35cmである。

壁 壘坑・主室ともにほぼ垂直に立ち上がる。

主軸 N-79°-E

覆土 5層からなる。1~3層に粘土ブロックを多く含んでいるため, 人為堆積と思われる。4・5層は壘の崩落土と考えられる。



第140図 第3号地下式墳実測図

土層解説

- |        |                                     |       |                   |
|--------|-------------------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色  | 粘土大ブロック中量, ローム粒子微量, 粘性・しまり強         | 3 黒褐色 | 赤色粒子少量, 粘土小ブロック微量 |
| 2 麻暗褐色 | 粘土大ブロック多量, ローム中ブロック・粘土粒子少量, 粘性・しまり強 | 4 褐色  | ローム粒子多量           |
|        |                                     | 5 褐色  | ローム粒子中量, 粘性・しまり強  |

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は明らかではないが、形状などから中世と推定される。

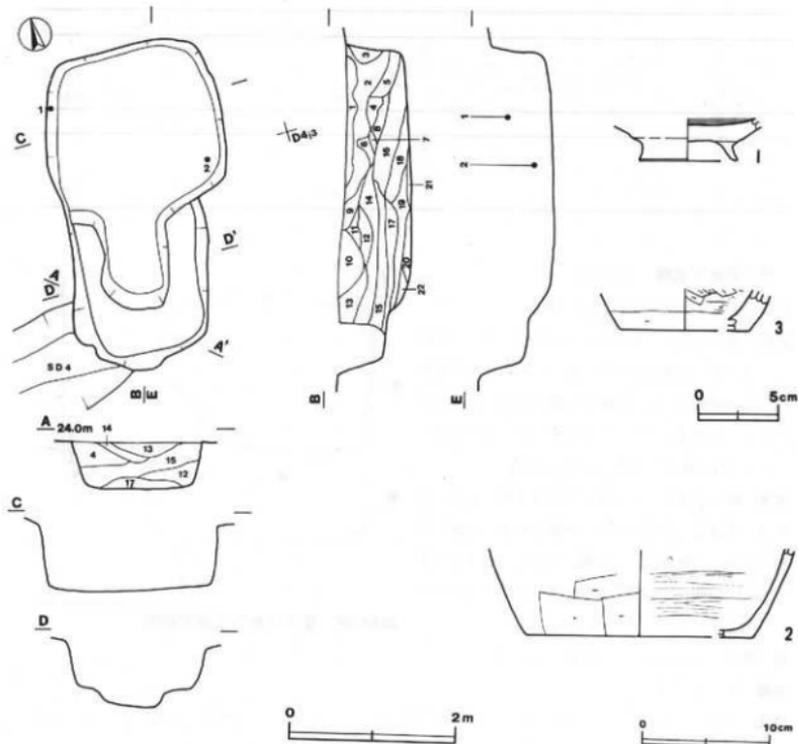
第4号地下式竈 (第141図)

位置 調査区域の中部, D4j2区。

重複関係 第4号溝が本跡を掘り込んでいるため、本跡の方が古い。

竪坑 崩落しており、上面の形状は不明である。規模は、確認面で長軸2.0m, 短軸1.62m, 底面で長軸1.85m, 短軸1.45m, 長軸が主軸と一致する長方形である。底面は平坦で、確認面からの深さは60cmである。主室底面より20~22cm高く、階段状となっている。

主室 崩落しており、天井部の形状は不明である。規模は、確認面で長軸2.15m, 短軸2.0m, 底面で長軸1.94m, 短軸1.82m, 主軸が長軸と一致する方形である。底面は平坦で、確認面からの深さは80cmである。



第141図 第4号地下式竈・出土遺物実測図

壁 壁境は外傾して、主室はほぼ垂直に立ち上がる。

主軸方向 N-11°-E

覆土 22層からなる。10・13層は第4号溝跡の覆土である。16層はローム粒子を多量に含んでいることから、天井部の崩落土層と考えられる。これより下位の土層は、ロームブロックを多く含むことから天井部・壁の崩落土層の可能性はある。1-9・11層は、天井部崩落後のくぼみに自然に堆積した土層と考えられる。

土層解説

1 緑褐色	ローム粒少量、ローム小ブロック微量	14 泥っぽい褐色	ローム小ブロック少量、赤色粒少量、粘性強
2 黒褐色	赤色粒少量、ローム小ブロック・同粒子微量	15 泥っぽい褐色	ローム小ブロック・同粒子中量、ローム大ブロック微量、粘性強
3 泥っぽい褐色	ローム粒子多量	16 明褐色	ローム粒子多量
4 褐色	ローム粒子少量	17 泥っぽい褐色	ローム小ブロック・同粒子中量、粘性強
5 褐色	ローム粒子中量	18 泥っぽい褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・赤色粒中量、粘土粒微量
6 暗褐色	ローム粒子中量	19 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・赤色粒中量、粘土粒微量、粘性強
7 暗褐色	赤色粒中量、ローム粒子少量	20 褐色	ローム粒子・粘土粒少量、粘性強
8 褐色	ローム粒多量、粘性弱	21 黒褐色	ローム粒少量
9 褐色	ローム粒子・白色粒少量	22 明褐色	ローム小ブロック・同粒子中量、炭化粒少量、粘性強
10 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・赤色粒微量		
11 褐色	ローム粒子微量、粘性強		
12 泥っぽい褐色	ローム小ブロック・同粒子少量		
13 泥っぽい褐色	ローム小ブロック・同粒子少量		

遺物 土師器片13点、須恵器片16点、陶器片1点が出土している。第141図1は土師器高台付坏、2は須恵器甕の底部、3は瀬戸産の壺の底部である。いずれも本跡の埋没する過程で流れ込んだものと思われる。

所見 本跡の時期は、形状から中世と推定される。

第4号地下式竈出土遺物観察表

図版番号	図名	対照値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第141図 1	高台付坏 土師器	B (2.6)	底部から高台部の破片。体部は外傾して立ち上がる。高台は外反してハの字状に開く。	体部外面から高台部内・外面ナゲ。底部同色へナゲ。高台筋り付付後、内外面ナゲ。内面黒色染め。	砂粒・赤褐色	F408 40% 覆土中層
		D [6.0]			褐色	
		E 1.2			褐色	
2	壺 須恵器	B (7.0)	体部から底部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へナゲ。体部内面ナゲ。	砂粒・石英・長石 泥っぽい灰褐色	F409 15% 覆土下層
		C [18.2]			普通	
3	壺 陶器	B (2.3)	体部から底部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面へナゲ。体部外面コラコナゲ。体部下面同色へナゲ。	砂粒 薄褐色	F410 5% 覆土中 古瀬戸
		C [7.8]			良	

表10 六十日遺跡地下式竈一覽表

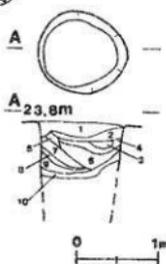
番号	位置	長径方向	竈						覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新田区跡(古一統)時代・その他			
			竈	坑	室	竈	室	竈						
1	F402	N-70°-E	1.1	×	0.3	1.0	長方形	1.68	×	1.2	1.02	長方形	自然	SD-31と重複
2	D316	N-44°-W	1.25	×	1.15	0.4	方形	2.85	×	1.78	0.56	長方形	自然	土師器片15, 須恵器片2, 石製品1
3	D319	N-79°-E	1.2	×	0.65	0.34	長方形	2.07	×	1.89	0.35	方形	人海	実跡→SD-11 土師器片13出土
4	D423	N-11°-E	2.0	×	1.85	0.6	長方形	2.15	×	2.0	0.8	方形	自然	土師器片12, 須恵器片15, 陶器片1

(5) 井戸跡

第1号井戸跡 (第142図)

位置 調査区域の南部, E 413区。

規模と形状 径1mの円筒形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。深さ約1mまで掘り込んだところで湧水が著しくなり、それ以下の調査を打ち切った。



第142図 第1号井戸跡実測図

覆土 10層からなる。粘土ブロックを多く含むことから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |    |         |                         |
|----|---------|-------------------------|
| 1  | 暗オリーブ褐色 | 粘土大ブロック・同粒少量、しまり強       |
| 2  | 黄灰色     | 粘土大ブロック中粒、粘性・しまり強       |
| 3  | にぶい黄色   | 粘土ブロック多量、粘性・しまり強        |
| 4  | 黒褐色     | 粘土大ブロック少量、しまり強          |
| 5  | 黄灰色     | 粘土大ブロック・同小ブロック少量        |
| 6  | オリーブ褐色  | 粘土大ブロック中粒、粘性強           |
| 7  | オリーブ褐色  | 粘土粒中粒、粘性強               |
| 8  | にぶい黄色   | 粘土小ブロック中粒、粘土大ブロック少量、粘性強 |
| 9  | オリーブ褐色  | 粘土粒中粒、粘性・しまり強           |
| 10 | にぶい黄色   | 粘土小ブロック多量、粘性強           |

所見 本跡の時期は、遺物が出土していないため、明らかではない。

表11 六十目遺跡井戸跡一覽表

番号	位置	長径方向	形状	径		深さ	土質	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古・新) 時代 その他
				径(m)	径(m)				
1	E413	-	円形	1	1以上	垂土	人為		

(6) 土坑

今回の調査の結果、当遺跡では144基の土坑が確認された。調査区域の東部及び南部に多く分布しており、内訳は、方形及び長方形のもの56基、円形及び楕円形のもの73基、不整形のもの15基である。この内、第52号土坑は古墳時代の遺物が出土していることから、遺構・遺物の概要を古墳時代の項で取り上げている。その他の土坑は、遺物が出土したものが少ないため、時代・性格とも不明なものが多い。調査区域の東部に分布する一群については、規模・形状がほぼ等しく、覆土の堆積状況が不自然なものであることから、墓塚の可能性が考えられる。

ここでは、代表的な遺構をいくつか取り上げ、それ以外については一覽表及び実測図を掲載する。

第92号土坑 (第143図)

位置 調査区域の東部、C6c4区。

規模と形状 径1.28mほどの円形で、深さは13cmである。壁は外傾して立ち上がり、底部は平坦である。

覆土 3層からなる。ロームブロックを多く含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |   |     |                           |
|---|-----|---------------------------|
| 1 | 褐色  | ローム粒子少量、ローム中ブロック・同小ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒少量、赤色粒子微量             |
| 3 | 黒褐色 | ローム小ブロック・同粒少量             |

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡及び以下に記載する第93～98号土坑は、台地平坦面から谷部に入る傾斜変換点付近に位置しており、ほぼ標高23.5mの等高線に沿って並んで構築されている。覆土にロームブロックを含む層が多いことから、人為堆積と考えられる。直径がほぼ1m前後であり、埋め戻した形跡が認められるので、墓塚の可能性が考えられる。時期は、遺物が出土していないため明らかではない。

### 第93号土坑 (第143図)

**位置** 調査区域の東部，C 6 c4区。第92号土坑の南西側に位置している。

**規模と形状** 長径1.15m，短径1.07mの円形で，深さは12cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，底部は平坦である。

**覆土** 2層からなる。ロームブロックを含むことから，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒少量，ローム大ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，ローム大ブロック微量

**遺物** 遺物は出土していない。

### 第94号土坑 (第143図)

**位置** 調査区域の東部，C 6 d4区。第93号土坑の南側に位置している。

**規模と形状** 長径1.07m，短径0.94mの不整形円で，深さは5cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，北壁には長径45cm，短径30cmの楕円形で，深さ3cmのピットがある。底面は平坦である。

**覆土** 2層からなる。不自然な堆積状況をしていることから，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒少量，ローム大ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒少量

**遺物** 遺物は出土していない。

### 第95号土坑 (第143図)

**位置** 調査区域の東部，C 6 d4区。第94号土坑の南側に位置している。

**規模と形状** 長径0.85m，短径0.75mの楕円形で，深さは6cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，西壁に長径37cm，短径30cmの楕円形で，深さ25cmのピットがある。底面は平坦である。

**長径方向** N-50°-W

**覆土** 2層からなる。不自然な堆積状況をしていることから，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒少量，ローム大ブロック微量
- 2 明褐色 ローム粒中量，粘性強

**遺物** 遺物は出土していない。

### 第96号土坑 (第143図)

**位置** 調査区域の東部，C 6 d3区。第95号土坑の南西側に位置している。

**規模と形状** 長径0.92m，短径0.8mの楕円形で，深さは7cmである。壁は緩やかに立ち上がり，底面は平坦である。西壁及び底部に長径40-45cm，短径25-29cmの楕円形で，深さ14-21cmのピットがある。

**主軸** N-17°-E

**覆土** 3層からなる。ロームブロックを含むことから，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒少量，ローム大ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，ローム大ブロック微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量，粘性強

**遺物** 遺物は出土していない。

### 第97号土坑 (第143図)

位置 調査区域の東部、C 6 d3区。第96号土坑の南西側に位置する。

規模と形状 長径1.27m, 短径1.18mの円形で、深さは10cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・同小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、赤色粒子微量

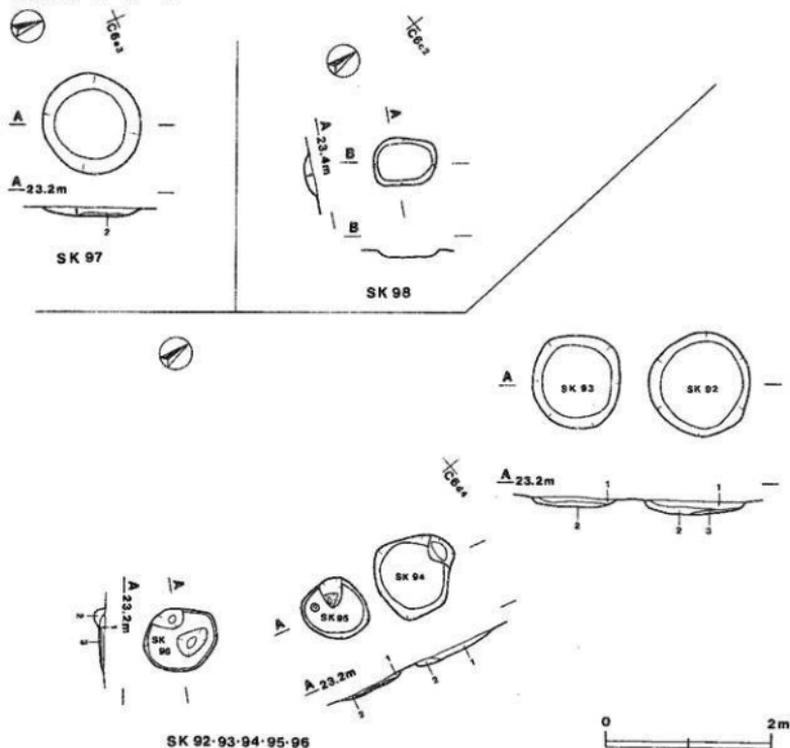
遺物 遺物は出土していない。

### 第98号土坑 (第143図)

位置 調査区域の東部、C 6 c2区。第92~97号土坑の西側に位置する。

規模と形状 長軸0.75m, 短軸0.57mの長方形で、深さは10cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、底面は皿状である。

長軸方向 N-40°-E



SK 92-93-94-95-96

第143図 第92~98号土坑実測図

覆土 単一層である。ロームブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・同小ブロック微量

遺物 遺物は出土していない。

第121号土坑（第144図）

位置 調査区域の東部，D7b9区。

重複関係 第38号溝が本跡の覆土を掘り込んでいるので，本跡の方が古い。

規模と形状 径1.14mほどの円形で，深さは12cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，底面は平坦である。

覆土 2層からなり，ロームブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。3層は第38号溝跡の土層である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、赤色粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・同小ブロック微量  
3 暗褐色 ローム粒子・赤色粒子微量

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡は第92～98号土坑と規模・形態が類似しており，円形の墓塚と推定される。時期については，遺物が出土していないため，不明である。

第126号土坑（第144図）

位置 調査区域の東部，D7c9区。第117号土坑の南側に位置している。

重複関係 本跡が第39号溝跡・第127号土坑の覆土を掘り込んでいるので，本跡の方が新しい。

規模と形状 長軸1.89m，短軸0.86mの隅丸長方形で，深さは18cmである。壁は外傾して立ち上がり，底面は平坦である。

長軸方向 N-3°-W

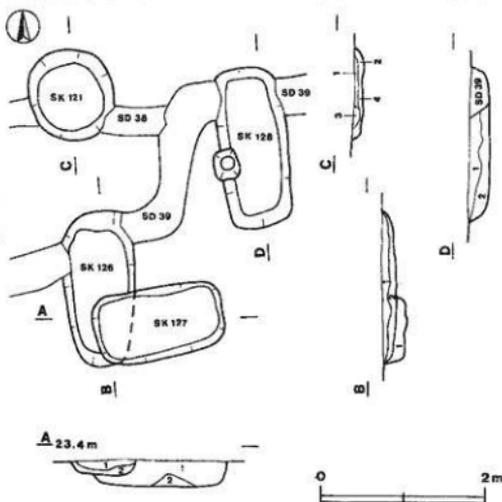
覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・同小ブロック少量  
2 黒褐色 ローム中ブロック・同粒子少量

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡及び以下に記載する第127・128号土坑は，長軸1.55～1.92m，短軸0.82～0.88mの長方形を呈している。規模・形態に共通性が認められ，覆土も人為堆積と考えられることから，墓塚の可能性が考えられる。時期については，遺物が出土していない



第144図 第121・126～128号土坑実測図

め明らかではない。

### 第127号土坑（第144回）

位置 調査区域の東部，D7c9区。

重複関係 第126号土坑が本跡の覆土を掘り込んでいることから，本跡の方が古い。

規模と形状 長軸1.55m，短軸0.88mの長方形で，深さは31cmである。壁は外傾して立ち上がり，底面は平坦である。

長軸方向 N-78°-E

覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・同小ブロック少量
- 2 灰褐色 ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量，粘性強

遺物 遺物は出土していない。

### 第128号土坑（第144回）

位置 調査区域の東部，D7b9区。第121号土坑の東側に位置する。

重複関係 第39号溝が本跡の覆土を掘り込んでいることから，本跡の方が古い。

規模と形状 長軸1.92m，短軸0.82mの長方形で，深さは24cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，底面は平坦である。

長軸方向 N-6°-W

覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・同小ブロック少量

遺物 遺物は出土していない。

以下に，上述した遺構を除く土坑の土層解説を記載する。

#### 第1号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，粘性強
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・同小ブロック同量，粘性強
- 3 褐色 ローム小ブロック 同粒子中量，ローム中ブロック少量，粘性強
- 4 褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

#### 第2号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，粘性強
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム大ブロック少量，粘性強
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子微量，粘性強

#### 第3号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム大ブロック・粘土粒子・粘土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量，粘性強
- 3 褐色 ローム粒子少量，赤色粒子微量

#### 第4号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・赤色粒子微量，粘性強
- 2 暗褐色 赤色粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量

#### 第5号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム大ブロック・同小ブロック中量，しまり強
- 2 黒褐色 ローム中ブロック中量

#### 第6号土坑土層解説

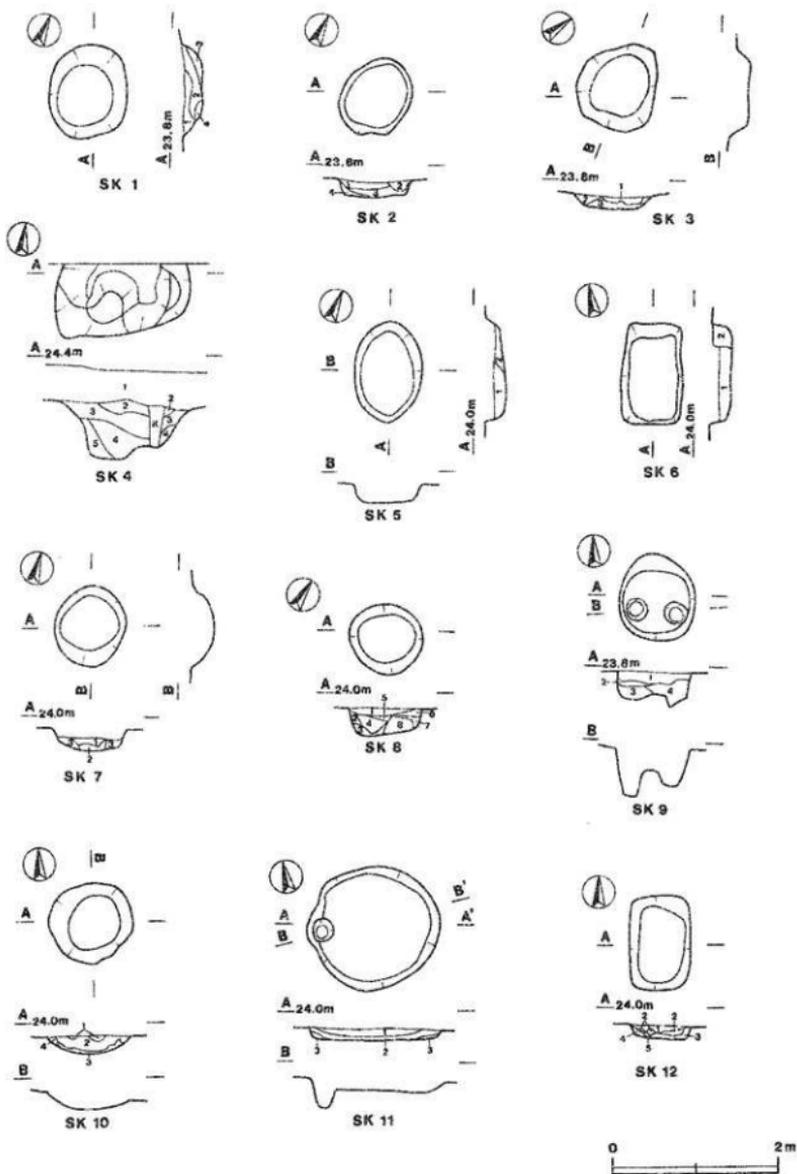
- 1 暗褐色 ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量，しまり強
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量，しまり強

#### 第7号土坑土層解説

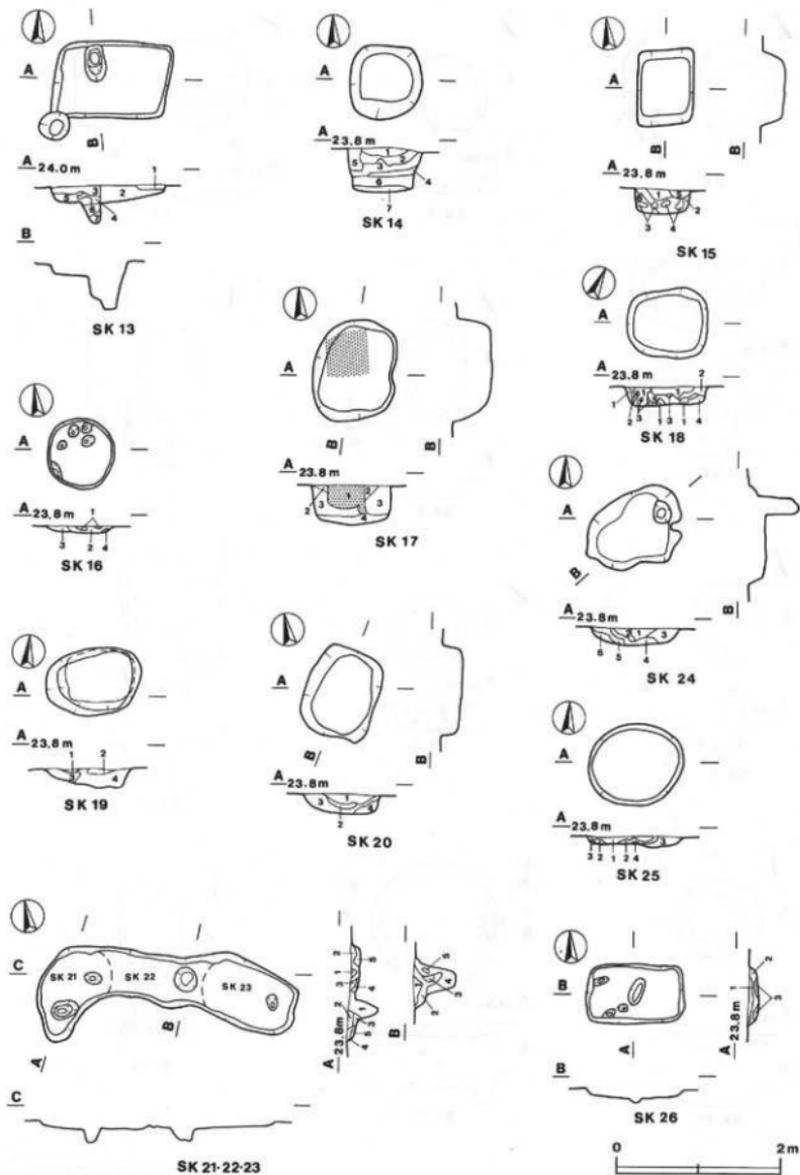
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・粘土粒子少量，粘性強，しまり強
- 3 灰褐色 ローム粒子少量，しまり強

#### 第8号土坑土層解説

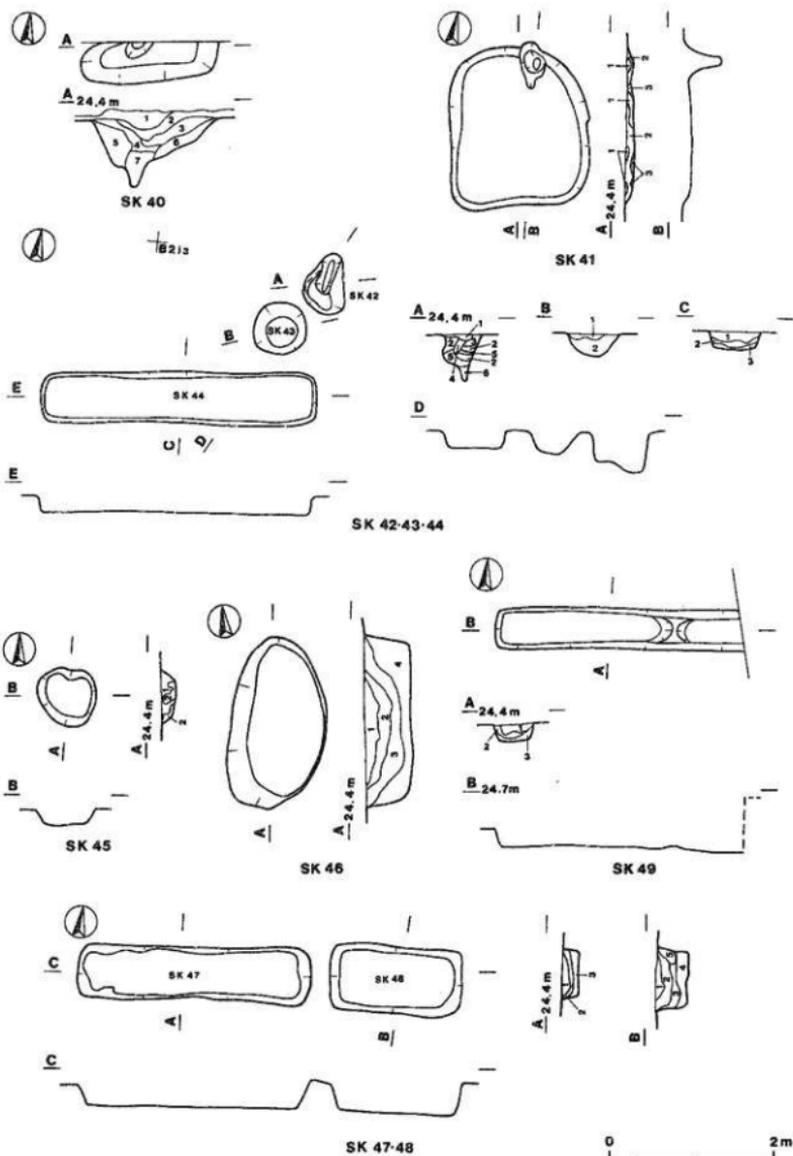
- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量，しまり強
- 2 褐色 ローム中ブロック中量，しまり強
- 3 褐色 ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・粘土大ブロック少量
- 5 暗褐色 粘土小ブロック中量，粘性強
- 6 にぶい褐色 ローム大ブロック少量，しまり強
- 7 褐色 ローム大ブロック少量
- 8 灰褐色 粘土大ブロック少量，粘性強，しまり強



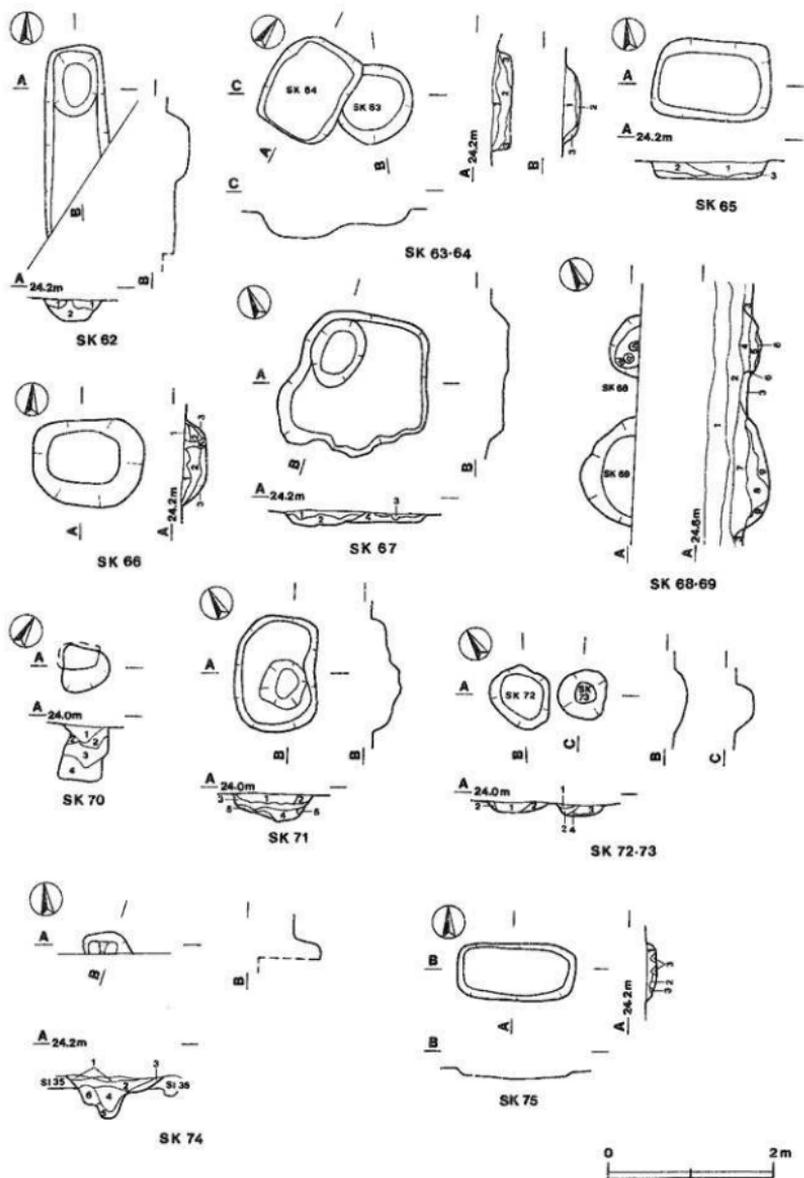
第145図 その他の土坑実測図 (1)



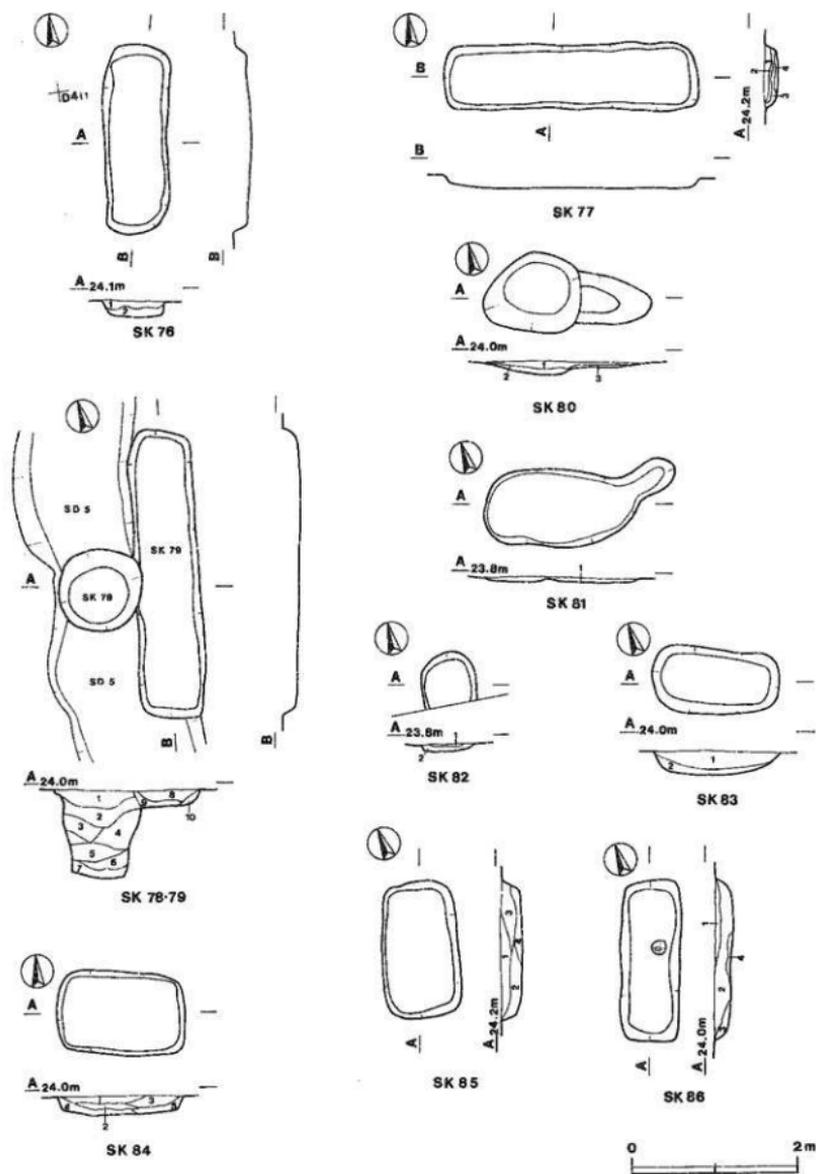
SK 21-22-23  
 第146図 その他の土坑実測図(2)



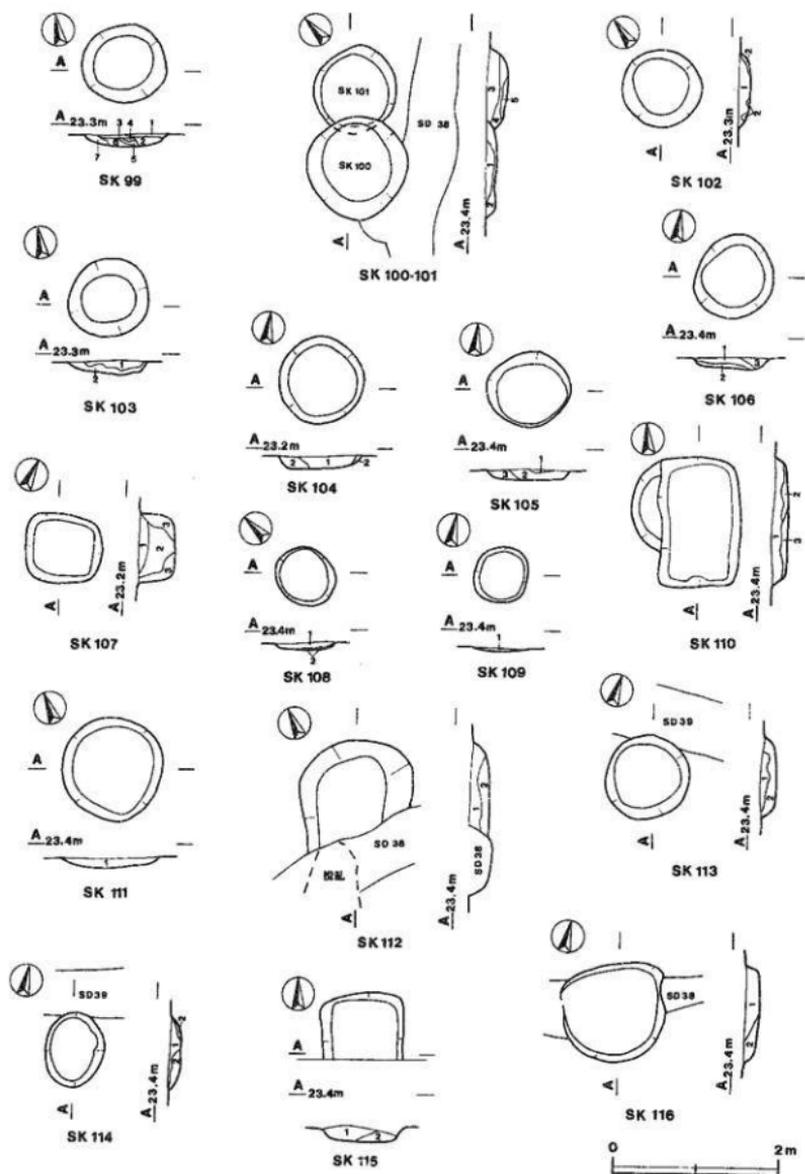
第147図 その他の土坑実測図(3)



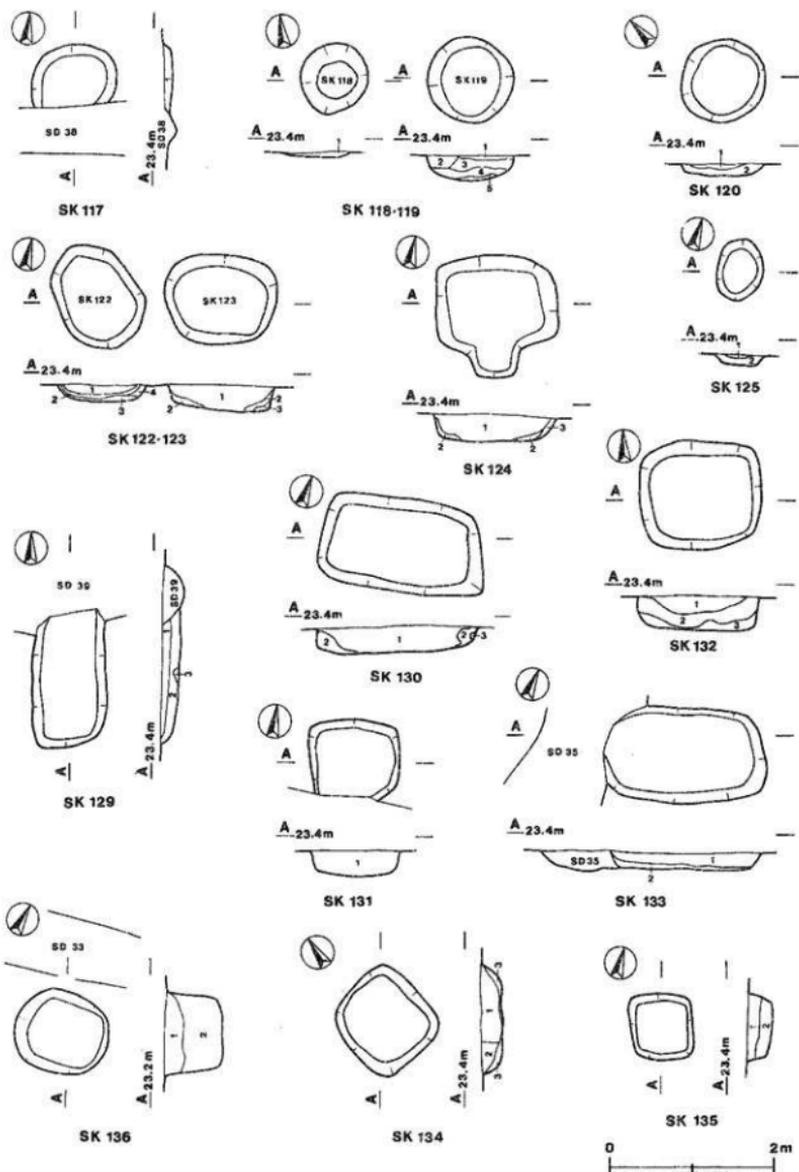
第148図 その他の土坑実測図(4)



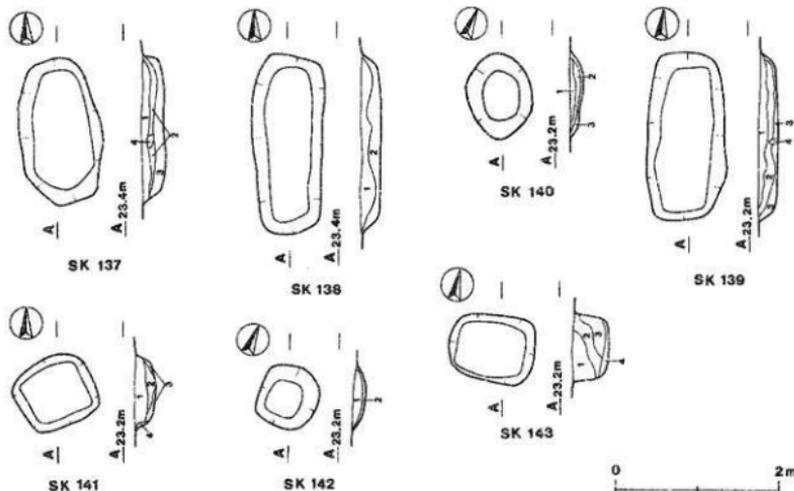
第149図 その他の土坑実測図 (5)



第150図 その他の土坑実測図 (6)



第151図 その他の土坑実測図(7)



第152図 その他の土坑実測図 (8)

第9号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量、粘性強
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・同小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒中量、ローム大ブロック少量
- 4 暗灰色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・粘土粒子少量

第10号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム大ブロック・同小ブロック少量、しまり強
- 2 黒褐色 ローム大ブロック・ローム粒・焼土小ブロック少量
- 3 灰褐色 ローム大ブロック中量
- 4 褐色 ローム小ブロック多量

第11号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム大ブロック中量、しまり強
- 3 灰褐色 ローム粒・炭化粒子少量

第12号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
- 2 橙褐色 ローム大ブロック多量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量
- 4 明褐色 ローム小ブロック少量

第13号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒中量
- 2 にぶい褐色 ローム粒多量
- 3 褐色 ローム粒中量、ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 5 にぶい褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒少量
- 6 にぶい褐色 ローム中ブロック中量
- 7 褐色 ローム小ブロック多量

第14号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム大ブロック・炭化粒少量、しまり強
- 3 にぶい褐色 ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量
- 4 褐色 ローム中ブロック中量
- 5 灰褐色 ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒少量
- 7 にぶい褐色 ローム粒多量

第15号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒少量、粘性強
- 2 褐色 ローム中ブロック少量、ローム大ブロック少量、粘性強
- 3 明褐色 ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 赤色粒子微量
- 5 灰褐色 ローム小ブロック中量、粘性強
- 6 暗褐色 ローム粒中量、粘性強

第16号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック多量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量
- 3 灰褐色 ローム粒中量
- 4 明褐色 ローム中ブロック中量、しまり強

第17号土坑土層解説

- 1 淡黄褐色 粘土大ブロック・同粒子多量、粘性強
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム大ブロック中量
- 4 灰褐色 ローム粒中量、しまり強

第18号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム大ブロック中量
- 2 橙褐色 ローム大ブロック多量
- 3 黒褐色 赤色粒子微量、しまり強
- 4 灰褐色 ローム小ブロック多量
- 5 にぶい褐色 ローム中ブロック多量

第19号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒少量
- 2 にぶい褐色 ローム大ブロック・粘土大ブロック中量、粘性強
- 3 にぶい褐色 ローム粒中量
- 4 黒褐色 ローム粒少量、ローム大ブロック微量

第20号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック少量、ローム大ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 3 灰褐色 ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
- 4 褐色 ローム中ブロック中量

**第21号土壌層解説**

- 1 灰 褐色 ローム中ブロック・同小ブロック少量
- 2 暗 褐色 ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
- 3 暗 灰色 ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗 褐色 ローム中ブロック・同小ブロック少量、しまり弱
- 5 にぶい褐色 ローム小ブロック多量

**第22号土壌層解説**

- 1 黒 褐色 ローム大ブロック・同中ブロック少量、焼土大ブロック微量、粘性・しまり弱
- 2 灰 褐色 ローム小ブロック中量、粘性・しまり弱
- 3 暗 褐色 ローム粒子多量、粘性・しまり弱
- 4 黒 褐色 ローム中ブロック・同小ブロック少量、粘性・しまり弱
- 5 暗 褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、粘性・しまり弱

**第23号土壌層解説**

- 1 黒 褐色 ローム中ブロック少量、粘性・しまり弱
- 2 灰 褐色 ローム中ブロック中量、粘性・しまり弱
- 3 暗 褐色 ローム中ブロック・同小ブロック少量、粘性・しまり弱
- 4 黒 褐色 ローム小ブロック少量、粘性・しまり弱
- 5 暗 褐色 ローム大ブロック・同中ブロック・同粒子少量、粘性・しまり弱

**第24号土壌層解説**

- 1 黒 褐色 ローム小ブロック・同粒中量、ローム中ブロック・粘土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック・同粒子中量、焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子微量
- 4 暗 褐色 ローム小ブロック・同粒子多量
- 5 暗 褐色 ローム小ブロック・同粒子多量、粘性強
- 6 明 褐色 ローム粒子多量、粘性強

**第25号土壌層解説**

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 3 灰 褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
- 4 粒 色 ローム小ブロック多量

**第26号土壌層解説**

- 1 黒 褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 2 灰 褐色 ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム小ブロック多量

**第40号土壌層解説**

- 1 灰 褐色 ローム大ブロック中量
- 2 にぶい褐色 ローム中ブロック中量
- 3 暗 灰色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
- 4 灰 褐色 ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・炭化物少量
- 5 にぶい褐色 ローム大ブロック多量
- 6 黒 褐色 ローム大ブロック・炭化物少量
- 7 にぶい褐色 ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量

**第41号土壌層解説**

- 1 にぶい褐色 ローム大ブロック中量、炭化物少量、しまり弱
- 2 灰 褐色 ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量、しまり弱
- 3 にぶい褐色 ローム小ブロック多量

**第42号土壌層解説**

- 1 暗 褐色 ローム粒少量
- 2 暗 褐色 ローム粒多量
- 3 暗 褐色 ローム粒中量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量、粘性強
- 5 暗 褐色 ローム粒子中量、粘性・しまり強
- 6 暗 褐色 ローム小ブロック・同粒中量、粘性・しまり強

**第43号土壌層解説**

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子多量

**第44号土壌層解説**

- 1 にぶい褐色 ローム小ブロック多量
- 2 灰 褐色 ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム中ブロック多量

**第45号土壌層解説**

- 1 灰 褐色 ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量
- 2 暗 褐色 ローム大ブロック多量

**第46号土壌層解説**

- 1 灰 褐色 ローム小ブロック中量、炭化物少量
- 2 にぶい褐色 ローム小ブロック多量、ローム大ブロック少量
- 3 にぶい褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック少量
- 4 暗 褐色 ローム中ブロック多量
- 5 にぶい褐色 ローム中ブロック・同小ブロック中量

**第47号土壌層解説**

- 1 暗 褐色 ローム大ブロック・同小ブロック少量
- 2 にぶい褐色 ローム大ブロック中量、ローム小ブロック少量、しまり弱
- 3 暗 褐色 ローム小ブロック少量、しまり弱

**第48号土壌層解説**

- 1 にぶい褐色 ローム大ブロック多量、炭化物少量、しまり弱
- 2 暗 褐色 ローム小ブロック・炭化物少量、しまり弱
- 3 にぶい褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、しまり弱
- 4 暗 褐色 ローム大ブロック・同中ブロック少量、しまり弱
- 5 灰 褐色 ローム大ブロック中量、ローム大ブロック・同中ブロック少量、しまり弱

**第49号土壌層解説**

- 1 灰 褐色 ローム中ブロック・同粒中量、炭化物少量
- 2 暗 褐色 ローム中ブロック・炭化物少量
- 3 暗 褐色 ローム小ブロック中量

**第62号土壌層解説**

- 1 黒 褐色 ローム中ブロック・同小ブロック少量
- 2 灰 褐色 ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・同小ブロック少量

**第63号土壌層解説**

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒少量、炭化物微量
- 2 暗 褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

**第64号土壌層解説**

- 1 暗 褐色 ローム粒子微量
- 2 にぶい褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量

**第66号土壌層解説**

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 3 暗 褐色 炭化物・炭化粒子中量、ローム粒少量

**第68号土壌層解説**

- 1 黒 褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 2 暗 褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
- 3 暗 褐色 ローム中ブロック中量、炭化物少量、しまり弱

**第67号土壌層解説**

- 1 暗 褐色 赤色粒中量、ローム粒微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量、白色粒少量
- 4 にぶい褐色 ローム粒中量

**第68・69号土壌層解説 (1・2層は表土層、4～6層は第68号土壌、7～9層は第69号土壌の1層)**

- 1 黒 褐色 ローム粒・赤色粒少量、粘性弱
- 2 暗 褐色 白色粒少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量、粘性強
- 4 暗 褐色 ローム粒子微量
- 5 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒微量
- 6 暗 褐色 ローム粒子少量、粘性強
- 7 暗 褐色 ローム小ブロック・同粒微量
- 8 暗 褐色 赤色粒中量、ローム粒子微量
- 9 暗 褐色 ローム小ブロック・同粒中量

**第70号土壌層解説**

- 1 暗 褐色 ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 2 暗 褐色 ローム大ブロック・同中ブロック中量
- 3 暗 褐色 ローム粒中量、ローム大ブロック・同中ブロック中量

第71号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム小ブロック・同粒中層、炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームコア部、ローム大ブロック・同粒中層、炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・同小ブロック少量、炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック・同小ブロック中層、炭化物少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量

第72号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・同粒少量
- 2 明褐色 ローム大ブロック中層

第73号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム大ブロック中層、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中層、ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中層、炭化物少量
- 4 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

第74号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム大ブロック・同小ブロック少量
- 2 褐色 ローム大ブロック・同小ブロック・炭化物少量
- 3 褐色 ローム大ブロック中層、ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック中層、ローム大ブロック・同粒少量
- 5 に近い褐色 熱火ブロック中層、炭化粒子少量、粘性强
- 6 明褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・同粒少量

第75号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック中層
- 3 明褐色 ローム大ブロック少量、しまり強

第76号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック中層
- 2 暗褐色 ローム大ブロック中層、ローム中ブロック・同小ブロック少量

第77号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・同小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック中層
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・同小ブロック少量、しまり強

第78・79号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・同粒少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中層、ローム粒下・赤色粒子少量
- 3 褐色 ローム粒中層、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム大ブロック中層、ローム粒少量、粘性强
- 5 褐色 ローム粒中層、粘性强
- 6 暗褐色 ローム粒少量
- 7 暗褐色 ローム粒中層
- 8 暗褐色 ローム粒子・赤色粒少量
- 9 暗褐色 ローム粒少量
- 10 褐色 ローム粒中層

第80号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量
- 2 暗褐色 ローム粒少量
- 3 暗褐色 ローム粒中層

第81号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒少量、白色粒子微量

第82号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量
- 2 褐色 ローム粒少量、ローム中ブロック微量

第83号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量、焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒少量

第84号土坑土層解説

- 1 に近い褐色 ローム粒子・白色粒中層
- 2 褐色 ローム粒下・赤色粒少量
- 3 に近い褐色 ローム粒子中層
- 4 褐色 ローム粒子・白色粒少量
- 5 暗褐色 ローム粒少量

第85号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・同粒少量
- 2 褐色 ローム粒中層
- 3 褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック微量、しまり強

第86号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量
- 2 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒少量
- 4 褐色 ローム粒中層、粘性强

第89号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、粘性・しまり弱
- 2 灰褐色 ローム大ブロック中層、ローム中ブロック・同小ブロック少量、しまり弱
- 3 暗褐色 ローム中ブロック少量、しまり弱
- 4 明褐色 ローム中ブロック多量、ローム大ブロック少量、しまり弱
- 5 黒褐色 ローム大ブロック中層、しまり弱
- 6 明褐色 ローム大ブロック多量、ローム大ブロック・同小ブロック少量、しまり弱
- 7 褐色 ローム中ブロック中層、しまり弱

第100・101号土坑土層解説 (1・2層は第100号土坑、その他は第101号土坑の上層)

- 1 灰褐色 ロームコア中層、ローム大ブロック・同小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・同粒少量
- 3 褐色 ローム中ブロック・同粒中層、ローム大ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・同粒中層
- 5 褐色 ローム粒中層

第102号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック中層、ローム大ブロック・同小ブロック少量、しまり弱
- 2 明褐色 ローム大ブロック多量

第103号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム小ブロック中層、ローム大ブロック・同中ブロック少量、しまり弱
- 2 に近い褐色 ローム大ブロック中層、ローム中ブロック・同小ブロック少量、しまり弱

第104号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム大ブロック多量
- 2 褐色 ローム中ブロック多量

第105号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中層、ローム小ブロック・同粒少量
- 3 褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量

第106号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック中層、ローム小ブロック・同粒少量
- 2 褐色 ローム粒中層、ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒下・炭化粒子少量

第107号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・同小ブロック少量

第108号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム大ブロック中層、ローム中ブロック・同小ブロック少量、しまり弱
- 2 明褐色 ローム大ブロック多量

第109号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・赤色粒子微量

第110号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 2 褐色 ローム大ブロック多量、ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・同中ブロック少量

第111号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム大ブロック・同中ブロック中層

**第112号土壌土層解説**

- 1 紺 色 ローム粒子少量,ローム中ブロック微量
- 2 紺 色 ローム中ブロック・同粒中粒

**第113号土壌土層解説**

- 1 紺 紺 色 ローム大ブロック・同中ブロック少量,しまり弱
- 2 に近い紺色 ローム大ブロック中粒,ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱

**第114号土壌土層解説**

- 1 紺 紺 色 ローム小ブロック中量,ローム大ブロック・同中ブロック少量,しまり弱
- 2 紺 色 ローム大ブロック多量,ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱

**第115号土壌土層解説**

- 1 紺 紺 色 ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱
- 2 明 紺 色 ローム大ブロック中量

**第116号土壌土層解説**

- 1 出 紺 色 ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
- 2 黒 紺 色 ローム大ブロック中粒,ローム中ブロック・同小ブロック少量

**第117号土壌土層解説**

- 1 暗 紺 色 ローム小ブロック中量,ローム大ブロック少量

**第118号土壌土層解説**

- 1 紺 紺 色 ローム小ブロック少量,ローム大ブロック・同中ブロック少量

**第119号土壌土層解説**

- 1 紺 色 ローム粒子少量,赤色粒子微量
- 2 紺 紺 色 ローム粒中粒,赤色粒子微量
- 3 暗 紺 色 ローム粒子少量,ローム中ブロック・同小ブロック微量
- 4 紺 紺 色 ローム粒子少量,ローム大ブロック・同中ブロック微量
- 5 暗 紺 色 ローム小ブロック少量,粘性強

**第120号土壌土層解説**

- 1 黒 紺 色 ローム中ブロック少量
- 2 暗 紺 色 ローム大ブロック中粒

**第122号土壌土層解説**

- 1 紺 色 ローム小ブロック中量,ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 2 暗 紺 色 ローム大ブロック・同中ブロック少量,しまり弱
- 3 紺 紺 色 ローム小ブロック中量,ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 4 紺 色 ローム中ブロック中量

**第123号土壌土層解説**

- 1 灰 紺 色 ローム中ブロック少量,ローム大ブロック少量
- 2 黒 紺 色 ローム大ブロック少量,しまり弱
- 3 に近い紺色 ローム大ブロック中量

**第124号土壌土層解説**

- 1 灰 紺 色 ローム中ブロック少量,ローム大ブロック少量
- 2 黒 紺 色 ローム大ブロック少量,しまり弱
- 3 に近い紺色 ローム大ブロック多量

**第125号土壌土層解説**

- 1 暗 紺 色 ローム粒子少量
- 2 暗 紺 色 ローム粒少量,ローム小ブロック微量

**第129号土壌土層解説**

- 1 暗 紺 色 ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
- 2 黒 紺 色 ローム中ブロック・同小ブロック少量
- 3 明 紺 色 ローム小ブロック多量
- 4 暗 紺 色 ローム中ブロック・同小ブロック少量

**第130号土壌土層解説**

- 1 黒 紺 色 ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
- 2 暗 紺 色 ローム中ブロック・同小ブロック少量
- 3 明 紺 色 ローム小ブロック多量

**第131号土壌土層解説**

- 1 黒 紺 色 ローム大ブロック中量,ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱

**第132号土壌土層解説**

- 1 紺 紺 色 ローム大ブロック中粒,ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱
- 2 暗 紺 色 ローム大ブロック多量,ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱
- 3 灰 紺 色 ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱

**第133号土壌土層解説**

- 1 紺 色 ローム粒中粒,ローム小ブロック少量
- 2 紺 紺 色 ローム小ブロック・同粒少量,ローム大ブロック微量
- 3 暗 紺 色 ローム小ブロック・同粒少量
- 4 紺 紺 色 ローム粒中量,ローム小ブロック少量

**第134号土壌土層解説**

- 1 暗 紺 色 ローム小ブロック少量,ローム中ブロック・同粒少量,しまり弱
- 2 暗 紺 色 ローム小ブロック少量
- 3 紺 紺 色 ローム小ブロック少量,ローム中ブロック微量

**第135号土壌土層解説**

- 1 紺 色 ローム中ブロック中粒,ローム粒少量
- 2 紺 色 ローム粒中量,ローム小ブロック少量

**第136号土壌土層解説**

- 1 黒 紺 色 ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 2 明 紺 色 ローム大ブロック・同中ブロック中量

**第137号土壌土層解説**

- 1 紺 色 ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱
- 2 出 紺 色 ローム大ブロック・同中ブロック少量,しまり弱
- 3 紺 色 ローム大ブロック中量,しまり弱
- 4 明 紺 色 ローム大ブロック多量

**第138号土壌土層解説**

- 1 紺 色 ローム大ブロック少量
- 2 暗 紺 色 ローム大ブロック中粒,ローム中ブロック・同小ブロック少量

**第139号土壌土層解説**

- 1 灰 紺 色 ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 2 暗 紺 色 ローム中ブロック・同小ブロック少量
- 3 黒 紺 色 ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 4 に近い紺色 ローム中ブロック多量

**第140号土壌土層解説**

- 1 黒 紺 色 ローム粒少量
- 2 暗 紺 色 ローム粒中・赤色粒少量
- 3 紺 色 ローム小ブロック・同粒少量

**第141号土壌土層解説**

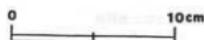
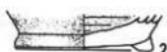
- 1 黒 紺 色 ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
- 2 出 紺 色 ローム大ブロック・同中ブロック少量
- 3 黒 紺 色 ローム中ブロック・同小ブロック少量
- 4 暗 紺 色 ローム小ブロック多量

**第142号土壌土層解説**

- 1 紺 紺 色 ローム小ブロック少量,炭化粒少量
- 2 紺 色 ローム小ブロック・同粒少量

**第143号土壌土層解説**

- 1 暗 紺 色 ローム小ブロック・同粒少量
- 2 暗 紺 色 ローム中ブロック・同粒少量
- 3 紺 色 ローム中ブロック・同小ブロック少量
- 4 暗 紺 色 ローム粒中・赤色粒少量



第153図 第16・78号土坑出土遺物実測図

第16号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第153図 1	長頸瓶 灰輪陶器	A [12.0] B (2.5)	口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。口縁縁部は断面三角形を呈する。	内・外面ロクロナデ。	砂粒 黄赤褐色。釉濁 色 具	P392 5% 黒灰90腐式 覆土中

第78号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第153図 2	長頸瓶 灰輪陶器	B (2.2) D [ 8.3] E 1.0	体部から高台部の破片。体部は外傾して立ち上がり、高台はハの字状に大きく開く。	内面ロクロナデ。高台貼り付け後、内・外面ナデ。	砂粒 黄赤褐色。釉濁 褐色色 具	P407 5% 覆土中

表12 六十日遺跡土坑一覧表

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	縦 横		壁 面	底 面	覆 土	出土遺物	備考 遺構番号・新田関係(古一新) 時代 その他
				長径(縦)×短径(横)	深さ(km)					
1	E3j3	—	円形	0.98 × 0.82	21	緩斜	平垣	人為		SI-45内
2	F3j2	—	円形	1.13 × 0.96	18	外傾	平垣	自然		SI-45内
3	F3a2	N-7°-W	楕円形	1.12 × 1.04	19	緩斜	平垣	自然		SI-46内
4	F3c8	N-80°-E	[方形]	1.63 × (0.79)	69	緩斜	平垣	自然		
5	E3i8	N-21°-W	楕円形	1.23 × 0.81	24	外傾	平垣	自然	土師器片6	
6	E3i8	N-16°-E	長方形	1.24 × 0.75	23	緩斜	平垣	自然		
7	E3j8	—	円形	0.97 × 0.88	27	緩斜	皿状	自然	土師器片6, 須恵器片3	
8	F3a8	—	円形	0.88 × 0.85	34	外傾	皿状	自然		
9	F3b8	—	円形	1.05 × 0.90	34	外傾	凹凸	自然		
10	F3a7	—	円形	1.03 × 0.93	17	緩斜	皿状	自然		
11	E3b6	—	円形	1.54 × 1.48	16	緩斜	平垣	自然	土師器片5, 須恵器片1	
12	E3i0	N-0°	長方形	1.12 × 0.75	16	外傾	平垣	自然		
13	E3j9	N-89°-W	長方形	1.40 × 0.94	14	外傾	平垣	自然		
14	F3b9	—	円形	0.91 × 0.88	55	垂直	平垣	自然		
15	F4b1	N-6°-E	長方形	0.91 × 0.67	28	垂直	平垣	自然	土師器片2, 灰輪片1 P392	
16	E4b1	—	円形	0.85 × 0.80	14	緩斜	凹凸	自然		
17	E4b2	N-22°-E	楕円形	1.27 × 0.99	48	垂直	平垣	自然		
18	E4i2	N-64°-E	楕円形	0.98 × 0.81	23	外傾	平垣	自然		
19	E4b3	N-73°-E	楕円形	1.19 × 0.43	44	緩斜	平垣	自然	土師器片11, 須恵器片9	
20	E4i2	N-29°-E	長方形	1.09 × 0.88	24	外傾	平垣	自然	土師器片6, 須恵器片1	
21	E4j3	N-74°-W	[長方形]	(1.86) × 0.56	10	緩斜	平垣	自然		本跡→SK-22・SK-23
22	E4j3	N-74°-W	[長方形]	(1.13) × 0.82	12	緩斜	平垣	自然		SK-21→本跡
23	E4j3	N-12°-E	[楕円形]	1.15 × (0.51)	8	外傾	平垣	自然	土師器片1	SK-21→本跡
24	F4a2	N-58°-E	不整形円形	1.30 × 0.95	18	外傾	平垣	自然		
25	F4a1	—	円形	1.17 × 0.99	10	緩斜	凹凸	自然	土師器片3	
26	F4a2	N-5°-E	長方形	1.18 × 0.73	7	緩斜	平垣	自然		
27	F4a2	N-82°-W	長方形	2.23 × 0.71	2	緩斜	平垣	自然		
28	E4j2	N-43°-W	[長方形]	[1.32] × 0.75	11	緩斜	平垣	自然		本跡→SK-29
29	E4j3	N-35°-E	[長方形]	[1.27] × 0.62	10	緩斜	平垣	自然	土師器片1	SK-28・本跡
30	E3j3	N-82°-W	楕円形	1.20 × 0.95	33	緩斜	平垣	自然	土師器片4	
31	B0j7	N-73°-W	楕円形	1.81 × 0.75	13	緩斜	平垣	自然		
32	C1a8	N-55°-E	楕円形	1.70 × 1.46	39	緩斜	平垣	自然		
33	C1a8	N-36°-W	楕円形	1.69 × 0.92	15	緩斜	平垣	自然		

符号	位置	長持方向 (真端方向)	平面形	規 則		壁 面	地 面	地 土	出土遺物	備 考 遺構番号・新旧関係(六一紀) 年代 その他
				基礎×柱礎間	深×幅					
34	C196	N-32-E	狭方形	1.22 × 0.72	35	緩斜	平垣	自然		
35	C198	-	円形	0.61 × 0.78	20	緩斜	土床	自然		
36	C168	-	円形	0.85 × 0.80	31	緩斜	平垣	自然		
37	C147	-	円形	0.49 × 0.49	32	外傾	土伏	自然		
38	C147	-	円形	0.52 × 0.48	20	外傾	土伏	自然		
39	B211	N-0°	楕円形	1.74 × 1.17	34	緩斜	凸凸	自然		
40	B261	N-80°-E	不整形	1.55 × 0.50	85	緩斜	段状	自然		防火?
41	B264	N-13°-W	方形	1.55 × 1.68	11	緩斜	平垣	自然		
42	B213	N-9°-E	不整形円形	0.74 × 0.49	48	垂直	土伏	人為		
43	B213	-	円形	0.67 × 0.65	28	外傾	土伏	自然		
44	B213	N-8°-E	長方形	3.34 × 0.62	21	外傾	平垣	自然		
45	C2a3	-	円形	0.75 × 0.69	18	緩斜	平垣	自然		
46	C2a3	N-7°-E	楕円形	2.0 × 1.14	32	外傾	平垣	自然	土師器片1, 須恵器片2	
47	C2a3	N-80°-E	狭方形	2.84 × 0.95	35	外傾	平垣	自然		
48	C2a4	N-80°-E	長方形	1.60 × 0.82	40	外傾	平垣	人為	土師器片1	
49	C2a5	N-83°-E	長方形	3.00 × 0.50	31	外傾	平垣	自然		
50	C2a5	N-9°	長方形	1.48 × 1.05	12	緩斜	平垣	人為	土師器片2, 須恵器片2	
51	C2a5	N-7°-E	長方形	1.97 × 0.40	16	緩斜	平垣	人為	土師器片4, 須恵器片1	
52	D217	N-3°-E	長方形	2.31 × 1.97	82	垂直	土垣	人為	土師器片93, P397-399	
53	B265	N-29°-E	築地長方形	2.26 × 1.63	34	外傾	外壁	自然		
54	B218	N-90°	長方形	1.43 × 0.63	50	外傾	平垣	自然		
55	B312	N-90°-W	楕円長方形	1.62 × 0.35	13	外傾	平垣	自然		
56	B313	N-1°-E	楕円長方形	2.04 × 0.70	22	緩斜	平垣	自然		
57	C368	N-10°-W	楕円長方形	1.51 × 0.48	34	緩斜	土伏	人為		
58	C34	N-22°-E	築地長方形	1.18 × 1.26	23	緩斜	土垣	人為		
59	C366	N-2°-W	楕円形	1.19 × 0.77	47	緩斜	土伏	自然		
60	B311	N-6°-W	楕円形	1.71 × 1.32	36	外傾	平垣	自然		
61	D368	N-79°-W	長方形	(1.94) × 0.92	30	外傾	平垣	人為	土師器片1, 須恵器片2	
62	D368	N-7°-W	長方形	(1.80) × 0.76	30	緩斜	平垣	人為		
63	D376	N-32°-W	円形	0.96 × 0.84	20	外傾	土伏	自然		4跡→3跡-64
64	D376	N-3°-W	長方形	1.21 × 0.97	24	外傾	土垣	自然	土師器片2	SK-35・木跡
65	B365	N-78°-W	長方形	1.43 × 0.97	23	外傾	平垣	自然		
66	D311	N-89°-E	楕円形	1.33 × 1.01	28	緩斜	土伏	自然	土師器片1	
67	B363	N-30°-E	不整形	1.82 × 1.72	21	外傾	平垣	自然		
68	E341	-	円形	(0.74) × -	25	緩斜	土伏	自然	須恵器片1	
69	E361	-	円形	(1.35) × -	33	緩斜	土伏	自然	土師器片1	
70	C418	N-64°-E	不整形円形	0.99 × 0.55	62	緩斜	平垣	人為		
71	D4a7	N-49°-E	楕円形	1.41 × 0.99	34	外傾	凸凸	人為	土師器片16, 須恵器片1	
72	D4b5	N-2°-W	楕円形	0.80 × 0.68	15	緩斜	土垣	自然		
73	D4b7	-	円形	0.51 × 0.56	21	外傾	土伏	人為		
74	E412	N-1°-W	-	(0.32) × (0.25)	34	垂直	平垣	人為		SI-35・木跡
75	D318	N-99°	長方形	1.42 × 0.71	13	緩斜	平垣	自然		
76	D414	N-90°-E	長方形	2.32 × 0.80	22	緩斜	平垣	自然		
77	D318	N-83°-W	長方形	3.48 × 0.80	16	緩斜	平垣	人為		
78	D411	-	円形	0.97 × 0.96	106	垂直	平垣	人為	須恵器片1 P407	SD-5・木跡1区-79
79	D412	N-11°-E	長方形	3.59 × 0.73	20	緩斜	平垣	自然		SD-5・SK-76・木跡
80	B261	N-71°-W	不整形円形	2.02 × 0.96	14	緩斜	平垣	自然		
81	B4c4	N-72°-E	不整形円形	1.86 × 0.93	6	緩斜	平垣	自然		
82	E414	N-50°-E	長方形	0.67 × 0.64	12	緩斜	平垣	自然		
83	E4c3	N-63°-W	楕円形	1.56 × 0.79	28	外傾	平垣	自然		
84	D412	N-82°-W	長方形	1.33 × 0.58	22	外傾	土垣	自然		
85	E412	N-20°-E	長方形	1.65 × 0.93	26	外傾	土垣	自然	土師器片1, 須恵器片1	
86	B4c2	N-22°-E	長方形	1.97 × 0.60	30	緩斜	平垣	自然	土師器片2, 須恵器片1	
87	E4d1	N-14°-E	不整形	1.42 × 1.41	40	外傾	平垣	人為	土師器片1, 須恵器片2	
88	C311	N-88°-W	楕円形	1.20 × 0.60	35	外傾	土垣	人為		
89	C210	N-35°-E	不整形円形	(1.75) × 1.63	38	外傾	土垣	人為		
90	D310	-	円形	1.07 × 1.00	22	緩斜	土垣	人為		

番号	位置	真方位角 (真方位角)	平面形	延 尺		壁 高	延 尺	層 上	出上設備	備 考 連絡番号、既設設備(占一)等 その他
				延 尺						
				延長(延尺)	深(延尺)					
91	D310	N-0°	凸 円形	0.82 × 0.69	13	緩斜	歩道	自然		
92	C664	-	円 形	1.28 × 1.22	13	外傾	平頂	人形		
93	C664	-	円 形	1.15 × 1.07	2	緩斜	平頂	人形		
94	C634	N-32°-W	不整形	1.07 × 0.91	5	緩斜	平頂	人形		
95	C661	-	円 形	0.85 × 0.75	6	外傾	円凸	人形		
96	C633	N-17°-E	不整形	0.92 × 0.80	7	緩斜	円凸	人形		
97	C633	N-90°-E	円 形	1.27 × 1.28	20	緩斜	平頂	人形		
98	C622	N-40°-E	長方形	0.75 × 0.87	10	緩斜	直状	人形		
99	D764	-	円 形	1.32 × 0.96	16	緩斜	直状	人形		
100	D764	-	円 形	1.23 × 1.22	14	緩斜	平頂	人形	58-101→本館	
101	D766	N-40°-E	円 形	1.10 × 1.00	24	緩斜	平頂	人形	本館→58-100	
102	D764	-	円 形	0.97 × 0.91	14	緩斜	直状	人形		
103	D765	-	円 形	1.02 × 0.93	16	緩斜	直状	人形		
104	D765	-	円 形	1.04 × 1.03	16	緩斜	直状	人形		
105	D766	-	円 形	1.01 × 0.92	13	外傾	平頂	人形		
106	D766	-	円 形	1.04 × 0.91	15	緩斜	直状	人形		
107	D833	N-60°-E	方形	0.93 × 0.87	43	兼直	平頂	人形		
108	D766	-	円 形	0.71 × 0.65	9	緩斜	直状	人形		
109	D765	-	円 形	0.71 × 0.60	4	緩斜	直状	人形		
110	D766	N-4°-E	不整形	1.57 × 1.20	20	緩斜	平頂	人形		
111	D766	-	円 形	1.26 × 1.24	42	緩斜	直状	人形		
112	D765	N 22°-E	円 形	1.30 × 1.15	21	緩斜	平頂	人形	本館→58-35	
113	D765	-	円 形	1.04 × 0.99	16	外傾	直状	人形		
114	D765	N-6°-W	楕円形	0.90 × 0.72	15	緩斜	平頂	人形		
115	D765	N-0°	不整形	0.86 × 0.86	16	緩斜	平頂	人形		
116	D767	N-70°-E	不整形	1.25 × 1.28	28	外傾	平頂	人形		
117	D767	-	円 形	1.00 × 0.76	11	緩斜	平頂	人形	本館→58-38	
118	D768	-	円 形	0.88 × 0.80	7	緩斜	直状	人形		
119	D768	-	円 形	1.03 × 1.02	30	緩斜	直状	人形		
120	D768	-	円 形	1.05 × 1.03	14	緩斜	直状	人形		
121	D768	-	円 形	1.14 × 1.12	12	緩斜	平頂	人形		
122	D768	N 38°-W	楕円形	1.32 × 0.98	19	緩斜	平頂	人形		
123	D768	N 85°-E	楕円形	1.37 × 1.10	31	外傾	平頂	人形		
124	D768	N-8°-E	不整形	1.48 × 1.10	32	外傾	平頂	人形		
125	D769	N 13°-W	楕円形	0.75 × 0.56	12	緩斜	直状	人形		
126	D769	N-3°-W	楕円形	1.89 × 0.86	18	緩斜	平頂	人形	58-127・58-30→本館	
127	D769	N-78°-E	長方形	1.53 × 0.88	31	外傾	平頂	人形	本館→58-126	
128	D769	N-6°-W	長方形	1.92 × 0.82	21	緩斜	平頂	人形	本館→58-39	
129	D769	N 4°-W	長方形	(1.61) × 0.88	22	緩斜	平頂	人形	本館→58-39	
130	D769	N-80°-E	長方形	1.93 × 1.13	22	外傾	平頂	人形		
131	D769	N-8°-E	方形	1.08 × 0.93	29	外傾	平頂	人形	南門→7ア外	
132	D8d1	N-86°-W	方形	1.48 × 1.32	51	兼直	平頂	人形		
133	D769	N 71°-E	長方形	1.92 × 1.17	29	緩斜	平頂	人形	本館→58-35	
134	D8c1	N-3°-W	楕円形	1.14 × 1.06	24	緩斜	平頂	人形		
135	D8c1	N 9°-W	楕円形	0.80 × 0.76	20	外傾	平頂	人形		
136	D8d2	-	円 形	1.13 × 1.01	20	兼直	平頂	人形		
137	D8c2	N-6°-W	楕円形	1.77 × 0.96	25	外傾	平頂	人形		
138	D8c2	N-3°-E	長方形	2.16 × 0.83	24	緩斜	平頂	人形		
139	D8c3	N 5°-W	長方形	2.05 × 0.93	26	緩斜	平頂	人形		
140	D8c3	N-21°-W	楕円形	1.95 × 0.76	15	緩斜	直状	人形		
141	D8d2	N-60°-E	方形	0.95 × 0.86	23	緩斜	直状	人形		
142	D8d3	-	円 形	0.76 × 0.72	16	緩斜	直状	人形		
143	D8c2	N-85°-E	長方形	1.06 × 0.81	41	外傾	平頂	人形		
144	D8c3	N-19°-W	楕円形	3.00 × 1.97	53	外傾	平頂	人形		

#### 4 遺構外出土遺物

今回の調査で、遺構に伴わない土器・土製品・石器・鉄製品・古銭・煙管などが出土している。ここでは、それらの中から縄文土器・土師器・石器について解説し、その他については実測図(第154・155図)及び観察表・一覧表で一括して報告する。

第154図4は縄文土器の胴部片である。外面に蒸糸文を縦位に施しており、縄文時代早期の土器と考えられる。5・6は縄文土器の胴部片と考えられる。LRの単節斜縄文を施し、沈線で区画した後、磨り消している。共に加曾利B式土器に比定される。7は縄文土器の口縁部片で、外反して立ち上がり、口縁端部を丸く処理している。口縁部は液状口縁を呈するようである。加曾利B式と考えられる。

第154図3は土師器小形器台である。受部は若干内彎して立ち上がり、腰部に面取りを施している。受部中央部には径約1.4cmほどの穿孔を有している。古墳時代前期の土器と考えられる。

第155図14は薄片、第154図21・第155図20は石核である。石質は14・21がチャート、20が黒曜石である。第155図16~19は石鏃である。石質はすべて黒曜石である。第154図15は、刃部の大半が欠損しているが、磨製石斧の破片と考えられる。石質は溶結凝灰岩である。

遺構外出土遺物観察表(1)

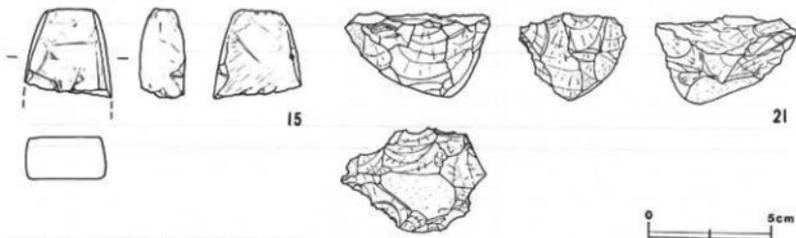
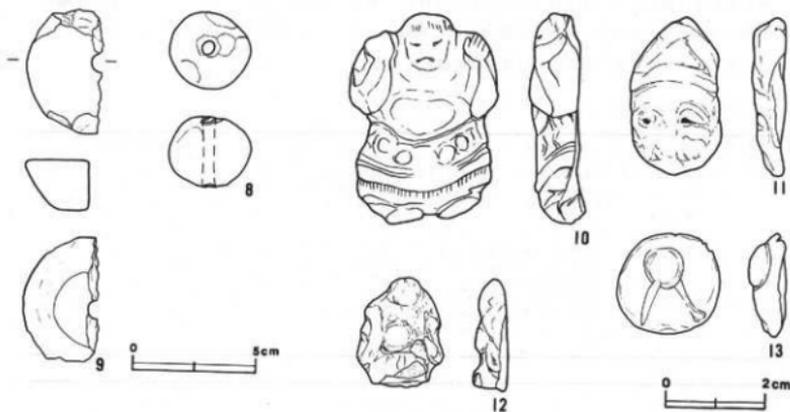
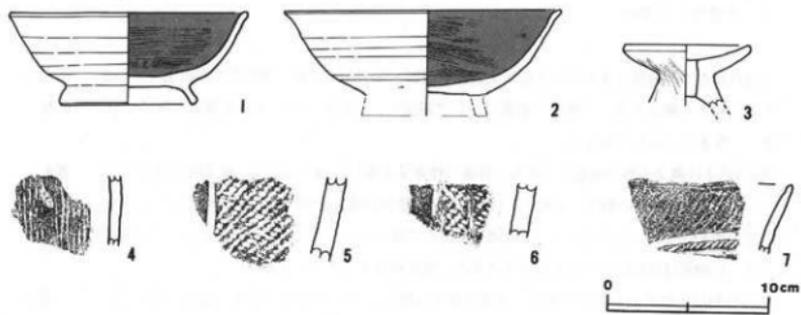
図版番号	器 種	計測値(cm)		器 形 の 特 徴	子 法 の 特 徴	土 質・色調・産地	備 考
		高さ	口径				
第154図 1	高台付子 土 師 器	A	14.4	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて外彎して立ち上がる。高台はハの字状に突出。	体部外側、高台部内・内面はロクナ子。体部内側磨き。灰色炭泥。底部磨物へつ削り。高台磨り付けた。内外面ナデ。	砂状・石炭・スクリュー・赤褐色 に赤い褐色 薄汚	P416 90% P152 B区
		B	3.6				
		D	8.2				
		E	1.2				
2	高台付杯 土 師 器	A	16.0	体部一部・高台部欠損。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がり、磨り付けた若干外反する。	体部外側ロクナ子。体部内側磨き。灰色炭泥。底部磨物へつ削り。	砂状・スクリュー・赤褐色 磨物	P417 80% D区
		B	(3.3)				
3	小形器台 土 師 器	A	7.5	受部一部・胴部欠損。受部は若干内彎して立ち上がり、腰部に面取りを施す。	受部内面磨物で調整不明。受部外側ナデ。	砂状・石炭・赤褐色 磨物	P418 40% B区
		B	(2.7)				

図版番号	器 種	計 測 値				出土地点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第154図8	環状土鏃	2.4	2.9	0.3	23.2	表層	D P 28

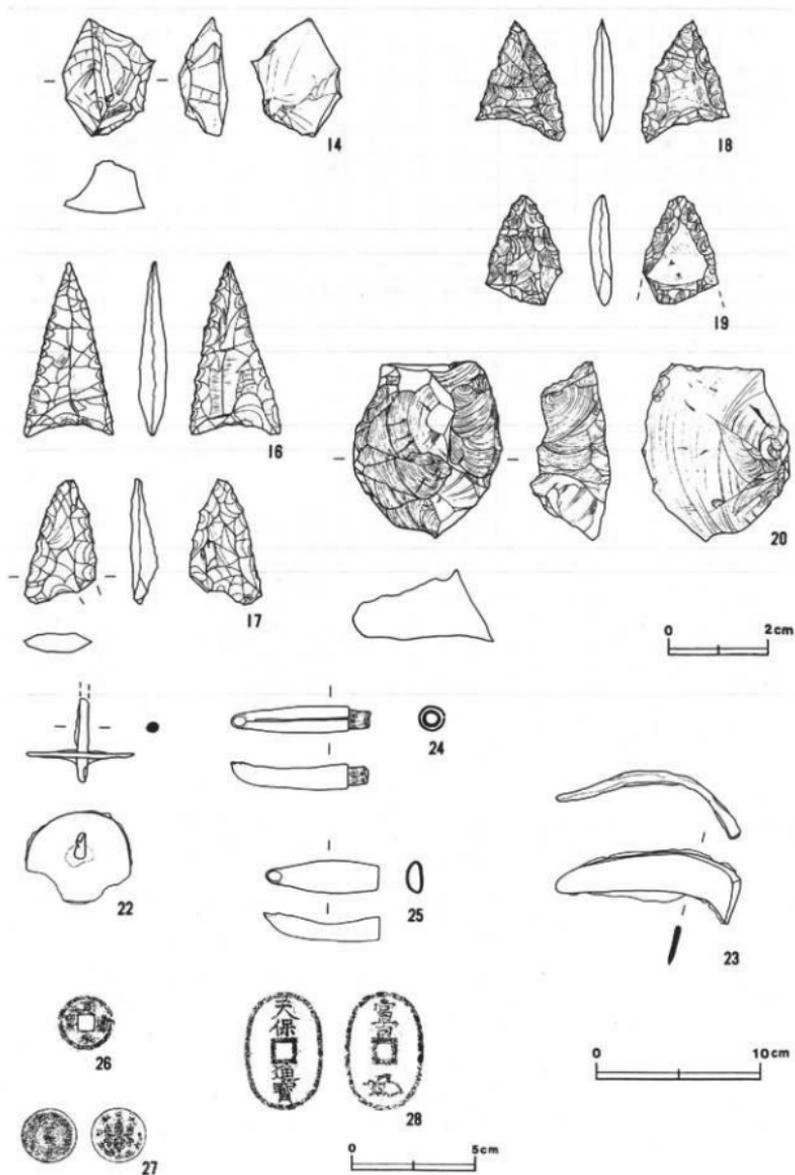
図版番号	器 種	計 測 値				材 質	出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第154図9	新 縄 糸	(3.0)	2.1	(0.4)	(31.2)	土 師 器	E 4区	D P 29

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第154図10	鹿 歯 子	4.3	3.0	1.2	5.85	D 4区	D P 20 方土 P 153
11	同 歯 子	3.2	2.9	0.7	3.18	C 1区	D P 21 A明
12	鹿 歯 子	2.3	1.7	0.7	2.91	E 4区	D P 22 大葉?
13	小形土師器	2.1	2.1	0.8	2.00	E 4区	D P 23

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第155図14	薄 片	2.4	1.0	1.5	3.86	F 3区	Q30 チャート



第154图 遺構外出土遺物実測図(1)



第155图 遺構外出土遺物実測図(2)

图版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第154图15	灰石	(3.6)	(3.6)	1.8	(36.0)	表採	Q35 浮城跡(表) P.1.55
第155图16	石灰	3.5	1.8	0.6	2.6	D3区	Q37 黒曜石 P.1.54
17	石灰	2.6	1.4	0.4	1.42	表採	Q38 黒曜石
18	石灰	2.5	(1.8)	0.4	(1.6)	表採	Q39 黒曜石
19	石灰	(2.2)	(1.5)	0.4	(1.26)	表採	Q40 黒曜石
20	石灰	3.6	3.0	1.5	13.6	C3区	Q41 黒曜石
第154图21	石灰	3.5	3.9	4.6	75.0	C4区	Q42 ナット P.1.54

图版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	幅径(cm)	輪径(cm)	重量(g)		
第155图22	粘銅甲	(1.2)	0.2	0.4	(1.3)	(8.1)	D4区	M16

图版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第155图23	鏃	(7.5)	1.7	0.4	(16.9)	E4区	M18 P.1.54

图版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第155图24	埴管	5.7	1.0	1.0	5.2	C区表採	M26 釜子竹名与
25	埴管	4.7	1.3	0.9	7.1	E区表採	M27

图版番号	姓名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	孔径(cm)	和蘭・明治年			
							製造地	出土地点	備考	
										和蘭(西暦)
第155图26	袋水通守	2.4	—	0.35	2.3	0.65	鹿児島(1624)初探	日本	B区	M28 P.1.54
第155图27	鉄	2.1	—	0.30	3.5	—	大正13年(1923)舞臺	日本	D区表採	M29
第155图28	天保沙土	8.3	1.6	1.70	20.1	—	天保6年(1835)初探	日本	D区	M30

## 第4章 まとめ

今回の調査で確認された遺構は、竪穴住居跡53軒・掘立柱建物跡6棟・竪穴状遺構2基・溝跡29条・火葬施設2基・地下式墳4基・井戸跡1基・土坑144基である。

ここでは、時期別に各時代の主な遺構と遺物についての概要を述べ、まとめとする。

### 1 旧石器時代から縄文時代まで

旧石器時代の遺物としては、剥片・石核が表土及び後世の遺構の覆土から出土している。石質はチャート及び黒曜石である。石器が集中している地点や地層などは確認できなかった。

縄文時代の遺物としては、早期・中期・後期の土器片がごく少数と、この時代のもと考えられる石礫が数点出土している。

### 2 古墳時代

当遺跡において、初めて集落が形成される時期である。この時代の遺構として、竪穴住居跡12軒・方形周溝状遺構2基・土坑1基が確認されている。遺構は調査区域北部を中心に分布しており、さらに北方へ集落が広がることが予想される。これらの遺構は、3世紀末から5世紀前半にかけてのもので、さらに四つの時期に区分できる。

#### I期（3世紀末～4世紀初）

第3・8・9号住居跡。古墳時代初めの住居跡で、調査区域の北部に分布している。住居跡の平面形は、隅丸方形または隅丸長方形で、規模は長軸5.4～6.7m、短軸5.1～6.7mである。第3・9号住居跡は焼土が堆積しており、焼失住居と考えられる。

遺物は土師器（碗・壺・甕など）が大半を占めている。その他の遺物としては、第9号住居跡からガラス小玉が出土している。本県で住居跡から出土したものとしては、最も古い例の一つである。また、弥生時代末と考えられる土台式土器の破片が第8・9号住居跡から、また南関東系の壺が第9号住居跡から出土している。床面付近の、土師器と同じ土層から出土していることから、供伴していたものと思われる。

土台式土器は、そのほとんどが広口壺上半部の破片である。頸部に帯状の刺突文が施されていることから、土台式土器の中でも新しい一群に位置づけられる<sup>111)</sup>。南関東系の壺は2個体（第24図2・3）で、双方とも複合口縁を有し、外面に赤彩が施されている。器形・文様ともに在地での系譜を追うことは難しく、東京湾周辺土器の影響を色濃く受けている。こうした影響は、土器の移動によるものと土器制作者自体の移動によるものと二つのケースが想定されるが、いずれのケースにしても広範な交流の結果もたらされた土器であり、当遺跡の成立期は人的あるいは物的移動が盛んな時期であったといえる。

#### II期（4世紀前半）

第1・4・72号住居跡。古墳時代前期の住居跡である。住居跡は調査区域の北部に分布し、I期とほぼ同じ場所に構築されている。住居跡の平面形は、隅丸長方形を呈するものが2軒あり、これが基本となると思われる。第4号住居跡は、長軸6.33m、短軸5.45mである。第72号住居跡は長軸4.45m、短軸4.33mである。第1号住居跡は一部が後世の遺構と重複しているが、破壊を免れた主軸方向の長さは5.61mであり、ほぼ中間の値を示している。

遺物は土師器（壺・甕・高坏など）が中心で、土製品（球状土錘）も出土している。第1号住居跡からは折り返し口縁を持つ壺（第4図2・3）が、第4号住居跡からは単口縁の壺（第11図1）が出土している。第1号住居跡の壺は口縁部下端に円形刺突文をもつものと、何の施文を施さないものがある。第4号住居跡から出土した壺は無文で、体部下半に最大径がある。住居跡ごとに壺の器形は異なるものの、頸部の屈曲が弱く、ハケ目が施された甕を伴っていることが共通する。

#### Ⅲ期（4世紀中葉）

この時期の遺構は少なく、住居跡は調査区域内では確認されていない。遺物が遺構に伴うものであれば、第2号方形周溝状遺構がこの時期に属する唯一の遺構である。生活の痕跡が希薄な時期であり、居住の場が調査区域外に移動していたのであろう。

#### Ⅳ期（5世紀前半）

第5・6・7・65・67・71号住居跡、第52号土坑。古墳時代中期の遺構である。遺構は、Ⅰ～Ⅱ期では北部に散在しているのに対し、調査区域の北西寄りにややまとまって分布している。住居の平面形は、方形・長方形・隅丸長方形が認められ、長方形・隅丸長方形の平面形を持つ住居跡は、主軸方向に対して横長のプランを持っている。規模は、第67号住居跡が長軸6.84m、短軸6.36m、その他が長軸3.42～4.6m、短軸3.2～4.15mである。7軒確認された中で第7・71号住居跡は焼失家屋である。第67号住居跡は、当遺跡では第3号住居跡と共に大型住居の部類に属するものである。この住居跡は、第5・7・71号住居跡などの中規模の住居跡と一つのグループを構成している。出土した遺物からはその他の住居との相違は認められないが、中規模の住居から構成される集団の中で中心的な位置を占めていたと思われる。

遺物は、土師器（壺・埴・壺・甕・高坏など）、土製品（球状土錘）、鉄製品（鉄鏝？）が出土している。赤彩された埴・高坏が見られるのも、この時期の特徴である。第7・67・71号住居跡では、土器を投棄したような状況が確認できた。

このように古墳時代には、3世紀末から5世紀前半にかけて集落が営まれている。4世紀中葉にいったん途絶えるが、5世紀前半にいったって再び営まれる。この中断は集落が一時的に移動したことによると考えられる。5世紀中葉以降再び断絶し、以後8世紀まで集落は形成されていない。当遺跡の南西約800mに位置する神田遺跡では、5世紀以降も集落が継続している状況とは対照的である。

### 3 奈良・平安時代

当遺跡の中心となる時代である。この時代の遺構として、竪穴住居跡41軒・掘立柱建物跡6棟・竪穴遺構2基が確認されている。遺構は調査区域の南部を中心に分布している。調査区南側の畑地には何時代の上器片が数多く散布していることから、この付近に遺構が集中していると考えられる。これらの遺構は、8世紀後半から10世紀前半にかけてのもので、さらに四つの時期に区分できる。

#### Ⅰ期（8世紀後半）

第47・58号住居跡。集落が再び形成される時期である。当該期の住居跡は2軒確認されており、調査区域の南部に位置している。平面形は長方形で、規模は長軸3.54～5.25m、短軸3.35～4.87mである。第47号住居跡は竈が2基併設されている。

遺物は、土師器（壺）・須恵器（坏・盤・甕）である。第47号住居跡では、土師器よりも須恵器の個体数が多く、須恵器の中でも坏の割合が高い。

#### Ⅱ期（9世紀前半）

第23・27・28・31・54・64号住居跡。遺構数が若干増加し、調査区域の中部から南部にかけて散在している。平面形は方形または長方形で、規模は長軸3.01～4.15m、短軸2.71～3.87mである。第23号住居跡は棚状施設を有していた可能性が考えられる。遺物は土師器（坏・高台付坏・甕）、須恵器（坏・甕・甕・円面硯）石器（砥石）が出土している。当遺跡から出土した円面硯は、第23号住居跡の1例だけである。

#### Ⅲ期（9世紀中葉）

第2・10・14・15・17・21・32号住居跡。第2・14号住居跡が調査区域の北部に位置していることを除くと、調査区域の中部に遺構が分布している。住居跡の平面形は方形または長方形のものが認められるが、方形のものが多い。規模は、長軸2.73～4.15m、短軸2.35～4.0mであり、一辺が約3m前後（第2・14・17号住居跡）と約4m前後（第10・21・32号住居跡）のグループに分かれる。

遺物は、土師器（坏・高台付坏・甕、須恵器（坏・甕・甕）、土製品（紡錘車）、鉄製品（鎌）、石製品（砥石など）が出土している。第21号住居跡は竈が2基確認されており、竈2の煙道部底面に雲母片岩の石塊が置かれている。石塊は柱状で、表面に火熱を受けている。支脚の可能性が考えられるものの、竈の奥まった所に位置しているため、なお検討する余地がある。当遺跡ではこのように、竈の火床面あるいは煙道部底面に石塊を置く住居跡があり、次のⅣ期でも第38A・52号住居跡に同じような施設が確認されている。仮に支脚と想定すると、当遺跡では土器転用と石塊を使用した支脚があることになる。また、石塊が竈の補強材あるいは構築材の可能性も考えられるが、当遺跡周辺ではそのような使用例は知られていない。今後類似の増加をまっぴら検討したい。

#### Ⅳ期（9世紀後半～10世紀前半）

第12・13・18・19・35・37・38A・38B・40A・40B・45・46・50・51・52号住居跡、第1～6号掘立柱建物跡。当遺跡の中心となる時期である。遺構は中部から南部にかけて分布しており、前代から集落が拡大した様相を示している。平面形は方形または長方形であり、前代と同じく方形の住居跡が卓越している。住居跡の規模は、長軸2.74～4.16m、短軸2.4～4.02mで、一辺2.5m前後と4m前後のグループに分かれる。これは、前代での住居の大小がそのまま引き継いでいると見ることができる。前代までははっきりと認められなかったが、当該期の住居は大きく調査区域中部と南部のグループに分けられる。6基確認されている掘立柱建物跡も、当該期以降に構築されたものである。

遺物は、土師器（坏・高台付坏・甕）、須恵器（坏・高台付坏・甕・甕）のほか、土製品（紡錘車）や鉄製品（鎌・刀子）が出土している。土師器の坏は、内面に黒色処理が施されたものが多い。

奈良・平安時代は、初め少数の住居が形成された後、若干軒数を増やし、9世紀中頃には中部を中心に、9世紀後半には中部・南部に広がっている。北部には一部を除いて住居は構築されず、空白地域となっている。古墳時代は北部を中心に集落が展開しているため、住み難い環境であったとは考えられない。これは、当時の土地利用状況によるものか、あるいは居住空間に何らかの規制が働いていたことによるものと想定される。

#### 4 中・近世

中・近世と考えられる遺構として、溝跡29条・火葬施設2基・地下式竈4基が確認されている。このほか、144基確認された土坑の中には、中・近世と推定されるものが存在する。溝跡の中で、調査区中部に位置している第14・18号溝跡、調査区北西部に位置している第27号溝跡は、掘り込みが深く断面が稜形塊状を呈していることから、苜間城跡と関連がある遺構であろう。苜間城跡は当遺跡から西方に約500mの所に位置し、小田氏家臣の野中瀬氏の居城とされている。主郭と思われる部分には、現在も土塁や堀の痕跡を認めることがで

きる。遺跡周辺を撮いた貞享5年(1688)の判決絵図<sup>112</sup>では、当遺跡の内側にあたる「木屋敷」に堀が方形に巡ることが確認でき、複数の郭で構成された城跡であることがうかがえる。神田遺跡からも城跡と関係のある遺構が確認されており、今回の調査で城域が東方へ広がることが明らかにされた。期間城跡の縄張り是不明確であるが、地形的に見て東側が防壁上の弱点であり、当遺跡の溝跡はそれを補強するために構築されたものであろう。なお期間城跡は小田氏の没落と共に廃城となったが、溝跡からは近世の陶器片が出土し、溝は城が廃絶された後もしばらく存続していたのであろう。

埋葬に関係する遺構として、火葬施設2基・地下式墳4基が確認されている。火葬施設は、2基とも調査区南部に位置している。このうち第2号火葬施設は燃焼部・開口部が残存している。第2号火葬施設の東側に第1号地下式墳が位置しており、両者の関係が注目される。また、調査区の東部を中心に、土坑が分布している。土坑は径約1mほどの円形のもの、長軸1.5~1.9m前後、短軸0.9m前後の長方形の上坑に大別され、これに方形のものが加わる。形状を問わずほぼ同じ規模で、覆土が人為堆積であること、円形のは座棺による埋葬が想定されること、神田遺跡でも同様な遺構が確認され、古銭等が出土していること等の理由から、墓塚の可能性がある。

今回の調査の結果、古墳時代及び奈良・平安時代を中心に、近世に至るまでの複合遺跡であることが確認された。旧石器時代・縄文時代に当遺跡周辺に人々が居住していた痕跡はうかがえるが、弥生時代には生活の跡をとらえることができなくなる。その後、古墳時代初頭に至って本格的に人々の生活が開始される。これは、人どもの広範な移動を伴った結果の出来事である。その後、古墳時代中期に至って集落がいったん途絶え、8世紀後半に再び形成される。中・近世の遺跡の一部は墓域として、また一部は城郭の外縁に取り込まれていることが明らかになった。

注1 ひたちなか市教育委員会・財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社「武田石高遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編」【(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告】第15集 1998年1月

注2 茨城県教育財団 「(仮称) 葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 神田遺跡」  
【茨城県教育財団文化財調査報告】第121集 1997年3月

#### 参考文献

- ・茨城県教育財団 「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 境松遺跡」【茨城県教育財団文化財調査報告】第41集 1987年3月
- ・茨城県教育財団 「(仮称) 葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 神田遺跡」【茨城県教育財団文化財調査報告】第134集 1998年3月
- ・茨城県考古学協会・土王町教育委員会 「土王台式土器制定60周年記念シンポジウム 茨城県における弥生時代研究の到達点」 1999年11月

## 付章 六十目遺跡出土土師器の胎土分析

(株)第四紀地質研究所 井上 敏

### X線回折試験及び化学分析試験

#### 1 実験条件

##### 1-1 試料

分析に供した試料は第1表胎土性状表に示す通りである。

X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉砕し、粉末試料として実験に供した。

化学分析は十器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

##### 1-2 X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-8020 X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target:Cu, Filter:Ni, Voltage:40kV, Current:30mA, ステップ角度:0.02° 計数時間:0.5秒。

##### 1-3 化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧:15kV、分析法:スプリント法、分析倍率:200倍、分析有効時間:100秒、分析指定元素10元素で行った。

#### 2 X線回折試験・蛍光X線分析結果の取扱い

実験結果は第1表胎土性状表に示す通りである。

第1表右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現れる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

電子顕微鏡によって得られたガラス量とX線回折試験で得られたムライト(Mullite)、クリストバライト(Cristobalite)等の組成上の組合せとによって焼成ランクを決定した。

##### 2-1 組成分類

###### 1) Mont-Mica-Hb三角ダイアグラム

三角ダイアグラムを1~13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont, Mica, Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいわれ、別に検討した。

三角ダイアグラムはモンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント(%)で表示する。

モンモリロナイトは $\text{Mont}/(\text{Mont}+\text{Mica}+\text{Hb}) \times 100$ でパーセントとして求め、同様にMica、Hbも計算し、三角ダイアグラムに記載する。

三角ダイアグラム内の1~4はMont, Mica, Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

###### 2) Mont-Ch, Mica-Hb菱形ダイアグラム

モンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb)、緑泥石 (Ch) の内、

a) 3成分以上含まれない、b) Mont、Chの2成分が含まれない、

c) Mica、Hbの2成分が含まれない、の3例がある。

菱形ダイアグラムはMont-Ch、Mica-Hbの組合せを表示するものである。

Mont、Ch、Mica-HbのそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch\*100と計算し、Mica、Hb、Chも各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイアグラム内にある1~7はMont、Mica、Hb、Chの4成分を含み、各辺はMont、Mica、Hb、Chの内3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。

### 3) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法(10元素全体で100%になる)で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてSiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>図、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-MgO図、K<sub>2</sub>O-CaO図の各図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

## 3 X線回折試験結果

### 3-1 タイプ分類

表-1 胎土性状表には、三反田遺跡、武田遺跡、六十日遺跡、鹿嶋遺跡の各遺跡から出土した土器が記載してある。

土器胎土はA~Eの5タイプに分類された。

Aタイプ：Hb1成分を含み、Mont、Mica、Chの3成分に欠ける。

Bタイプ：Mica、Hbの2成分を含み、Mont、Chの2成分に欠ける。

Cタイプ：Mica、Chの2成分を含み、Mont、Hbの2成分に欠ける。組成的にはBタイプと同じであるが検出強度が異なる。

Dタイプ：Mica1成分を含み、Mont、Hb、Chの3成分に欠ける。

Eタイプ：Mont、Mica、Hb、Chの4成分に欠ける。

主に、nAl<sub>2</sub>O<sub>3</sub>・mSiO<sub>2</sub>・lH<sub>2</sub>O(アロフェン質ゲル)で構成される。

最も多いタイプはEタイプで三反田遺跡、武田遺跡、六十日遺跡、鹿嶋遺跡の各遺跡から出土した土器に共通する。全体32個のうち18個が該当する。次いでAタイプの9個で、三反田遺跡、武田遺跡の各遺跡から出土した土器に共通する。BとDタイプは各2個、Cタイプは1個である。

六十日遺跡の土器はEタイプが3個とAとDタイプ各1個で構成される。この傾向は三反田遺跡、武田遺跡の土器と胎土の共通性が高い。

### 3-2 石英(Qt) - 斜長石(P1)の相関について

土器胎土に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作ると言うことは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なっていくものであり、言い換えれば、各地の砂はおおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

三反田遺跡、武田遺跡、六十日遺跡、鹿嶋遺跡の各遺跡から出土した土器は、I~IIIの3グループに分類さ

れた。

Iグループ：Qtz（石英）の強度が1000～2200、Pl（斜長石）の強度が600～800の領域にあり、三反田遺跡の壺が集中する。

IIグループ：Qtz（石英）の強度が2800～4500、Pl（斜長石）の強度が500～700の領域にあり、三反田遺跡と武田遺跡の壺が混在する。

IIIグループ：Qtzが2000～4200、Plが1000～400の領域に集中する。三反田、武田、六十日、鹿嶋遺跡の上器が共存する。

第5図Qtz-Pl図には六十日遺跡の土器が記載してある。

六十日遺跡の上器はIIIグループで三反田、武田、六十日、鹿嶋遺跡の土器が共存する。

#### 4. 化学分析結果

表-2 化学分析表には三反田遺跡、武田遺跡、六十日遺跡、鹿嶋遺跡の各遺跡から出土した土器が記載してある。

また、六十日遺跡については分析結果に基づいて第6図SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>図、第7図Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-MgO図、第8図K<sub>2</sub>O-CaO図を作成した。

##### 4-1 SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の相関について

IとIIの2グループと“その他”に分類された。SiO<sub>2</sub>の値の低い領域にはIグループ、高い領域にIIグループを形成する。

Iグループ：SiO<sub>2</sub>が45～55%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>のが20～40%の広い領域に分散する。とくに六十日遺跡の上器が集中する。

IIグループ：SiO<sub>2</sub>が58～74%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>のが15～30%の領域に集中する。三反田、武田、鹿嶋遺跡の各遺跡の土器が共存する。

“その他”：三反田-7ほどのグループにも属さず、異質である。

第6図SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>図に示すように六十日遺跡の上器はIグループに集中し、明らかに三反田、武田、鹿嶋遺跡の各遺跡の土器とは異なる組成を示す。

##### 4-2 Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-MgOの相関について

I～IIの2グループと“その他”に分類された。

Iグループ：MgOの値が0%の領域にあり、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の値が2～10%の領域にあって、三反田、武田、鹿嶋遺跡の上器が混在する。

IIグループ：六十日遺跡の土器はFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の値が6～17%の領域にある。

“その他”：三反田-3、7はMgOの値がいくぶん高く、異質である。

第7図Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-MgO図に示すように、六十日遺跡の土器はIIグループに集中し、三反田、武田、鹿嶋遺跡の土器と比較してFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の値が高く、異質である。

#### 4-3 K2O-CaOの相関について

三反田、武田遺跡、鹿嶋、六十日遺跡の土器はⅠ～Ⅲの3グループに分類される。

Ⅰグループ：K2Oが0.5～1.4%、CaOが0～0.5%の領域にあって、六十日遺跡の土器が集中する。

Ⅱグループ：K2Oが1.0～2.5%、CaOが0.8～1.8%の領域にあって、三反田の壺、石高の壺、鹿嶋遺跡の土器が共存する。

Ⅲグループ：K2Oが0.8～2.2%、CaOが0.1～0.7%の領域にあって、三反田、武田遺跡、鹿嶋遺跡の土器が共存する。

第8図K2O-CaO図に示すように、六十日遺跡の土器はK2OとCaOの値が低く、三反田、武田、鹿嶋遺跡の土器と比較して異質である。

#### 5 まとめ

1) 三反田、武田遺跡、鹿嶋、六十日遺跡の土器胎土はA～Eの5タイプに分類され、AとEタイプで全体の90%以上を占める。とくにEタイプは三反田、武田、鹿嶋、六十日遺跡の土器に共通するものである。Aタイプは三反田と武田遺跡の土器に共通する。

2) X線回折試験に基づくQ<sub>t</sub>-P1相関ではⅠ～Ⅲの3グループに分類され、Ⅰグループの三反田の壺はQ<sub>t</sub>の強度が低く異質である。Ⅱグループは三反田の壺と石高の壺が共存する。Ⅲグループは三反田、武田、鹿嶋、六十日遺跡の土器が共存する。

3) 化学分析結果による分類では六十日遺跡の土器はSiO<sub>2</sub>値が小さく、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>とFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>値が大きく、K<sub>2</sub>Oの値が低いことで特徴があり、明瞭に三反田、武田、鹿嶋遺跡の土器とは化学組成が異なる。三反田、武田、鹿嶋遺跡の土器は化学組成が同じ領域にあり、類似性が高い。

4) 鉱物分析と化学分析では鹿嶋遺跡の土器は鉱物分析ではEタイプに属し、三反田、武田、六十日遺跡の土器と共通する。化学組成では三反田と武田遺跡の土器と成分が近く、この両者の関係からすると、鹿嶋遺跡の土器は三反田と武田遺跡の土器と関連性が深い。

5) 六十日遺跡の土器は胎土の鉱物組成としては三反田、武田、鹿嶋遺跡の土器と類似するが化学組成が異なる。

表一 胎土性状表

試料 No	タイプ 分類	組成分類			粘土鉱物および造岩鉱物														備 考		
		SiO <sub>2</sub> -系	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> -系	Fe-Ox系	Sm	Ita	Ill	Chl	Col	Op	Pl	Crst	Ms	Act	Py	Kfs	Qtz	An			
三反田-1	D	8	20		117					3297	293	134	199						土壌S字産	3~4C	
三反田-2	A	5	20			99				2672	335	134							土壌S字産	3~4C	産出
三反田-3	B	6	20		118	197				2138	717			342					土壌S字産	3~4C	ナマ
三反田-4	E	14	20							4392	519								土壌S字産	3~4C	ナマ
三反田-5	E	11	20							3368	668								土壌S字産	3~4C	
三反田-6	E	14	20							3358	243		159						土壌S字産	3~4C	
三反田-7	E	14	20							1160	665	141							土壌S字産	3~4C	大塚
三反田-8	A	5	20			80				3445	300	176							土壌S字産	3~4C	
三反田-9	A	5	20			115				4073	290	136							土壌S字産	3~4C	
三反田-10	E	11	20							2891	347	127							土壌S字産	3~4C	内陶鉄文
三反田-11	A	5	20			107				3520	381	150							土壌S字産	3~4C	
三反田-12	A	5	20			149				2637	585	123							土壌S字産	3~4C	内陶鉄文
武 田-1	A	5	20			100				3217	416								土壌S字産	4C	赤部(1)
武 田-2	A	5	20			114				2547	297	191							土壌S字産	4C	赤部(2)
武 田-3	E	11	20							2445	348	136							土壌S字産	4C	赤部(3)
武 田-4	E	14	20							3021	517								土壌S字産	4C	赤部系?
武 田-5	E	11	20							3323	289								土壌S字産	4C	
武 田-6	A	5	20			93				4139	550		322						土壌S字産	4C	
武 田-7	E	14	20							2789	225	135	157						土壌S字産	4C	赤部1
武 田-8	E	14	20							2933	364								土壌S字産	4C	赤部2
武 田-9	E	11	20							3906	392	129	178						土壌S字産	4C	赤部
武 田-10	B	6	20		135	183				4067	559			221					土壌S字産	4C	赤部
武 田-11	A	5	20			85				3637	337	142							土壌S字産	4C	
六十日-1	E	11	20							3654	280	206							土壌S字産	4C	赤部(1)
六十日-2	E	11	20							2505	273	201					82		土壌S字産	4C	赤部(2)
六十日-3	A	5	20			101				3652	261	151							土壌S字産	4C	赤部(3)
六十日-4	E	14	20							2254	158	158	177						土壌S字産	4C	赤部(4)
六十日-5	D	8	20		167					2189	279								土壌S字産	4C	赤部(5)
鹿 嶋-1	E	14	20							2615	252	186							土壌S字産	4C	
鹿 嶋-2	E	14	20							2919	456	137							土壌S字産	4C	
鹿 嶋-3	C	7	20		136	94				2971	372								土壌S字産	4C	
鹿 嶋-4	E	14	20							2711	236								土壌S字産	4C	
鹿 嶋-5	E	14	20							2460	365	266							土壌S字産	4C	

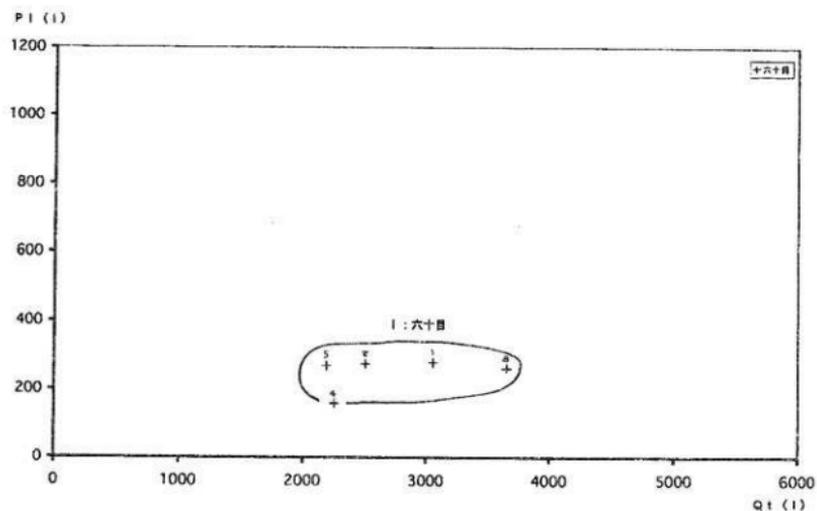
Ms:モンモリロナイト Ms:蒙脱石 Ill:内稜石 Ch:蛭石 (Ch)Fe:水沢野, Ch:蛭石 Fe:赤部(1) Q:石英 Pl:斜長石 Crst:クリストバライト

Mt:ミカライト K-fels:カリ石 Ill:内稜石 Kfs:カリナイト Pyrite:黄鉄鉱 An:方解石 Py:珪石

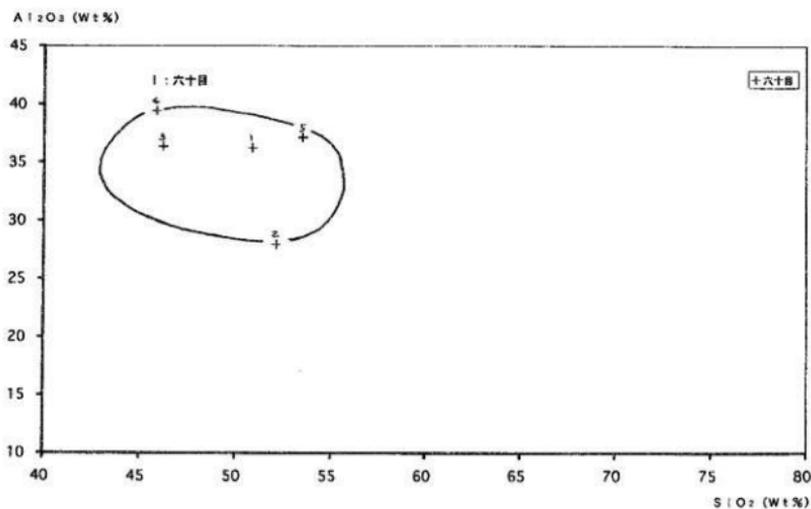
表-2 化学分析表

试样编号	SiO <sub>2</sub>	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	SiO <sub>2</sub>	CaO	TiO <sub>2</sub>	MeO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Na <sub>2</sub> O	Total	编 号	备 考	
三反田-1	0.72	0.00	26.98	65.85	1.59	0.44	1.08	0.12	3.32	0.00	100.00	土師部5号	3~4 C	
三反田-2	1.42	0.00	21.58	67.76	2.07	0.31	1.10	0.16	2.66	0.00	100.00	土師部6号	3~4 C	裏目
三反田-3	1.60	0.26	25.17	62.97	1.21	0.59	1.22	0.42	6.18	0.03	99.99	土師部6号	3~4 C	下ノ
三反田-4	0.94	0.00	18.84	71.96	1.28	0.57	1.11	0.12	4.00	0.19	100.04	土師部6号	3~4 C	下ノ
三反田-5	0.60	0.00	30.13	61.13	1.04	0.48	1.52	0.00	5.07	0.03	100.00	土師部6号	3~4 C	
三反田-6	0.47	0.00	27.96	61.86	1.70	0.58	1.49	0.45	5.46	0.04	100.01	土師部6号	3~4 C	
三反田-7	0.90	3.07	23.26	54.32	1.99	1.63	0.62	6.55	13.65	0.30	100.00	土師部6号	3~4 C	大形
三反田-8	1.11	0.00	22.80	66.38	1.46	0.49	1.06	0.43	3.27	0.00	100.00	土師部6号	3~4 C	
三反田-9	0.57	0.00	27.61	59.70	0.80	0.22	1.68	0.44	6.79	0.10	100.00	土師部6号	3~4 C	
三反田-10	0.86	0.00	23.65	63.24	1.12	0.19	1.19	0.15	7.30	0.00	100.00	土師部6号	3~4 C	内面鑑定
三反田-11	0.70	0.00	28.11	63.62	1.04	0.33	1.36	0.17	4.67	0.00	100.00	土師部6号	3~4 C	
三反田-12	1.58	0.00	27.21	60.41	1.96	0.90	1.56	0.30	6.06	0.00	100.00	土師部6号	3~4 C	内面鑑定
武 田-1	1.27	0.00	24.28	65.71	1.49	0.72	1.04	0.37	4.93	0.22	100.01	土師部6号	4 C	右側(小)
武 田-2	1.02	0.00	28.12	63.83	0.99	0.62	1.32	0.40	3.83	0.24	99.99	土師部6号	4 C	右側(大)
武 田-3	0.51	0.00	27.99	65.84	0.57	0.44	1.12	0.38	4.04	0.01	100.00	土師部6号	4 C	右側(大)
武 田-4	0.92	0.00	26.08	64.84	1.35	0.42	1.35	0.15	4.64	0.28	100.01	土師部6号	4 C	左側(大)
武 田-5	0.74	0.06	25.87	63.78	1.53	0.53	1.16	0.29	5.10	0.00	100.00	土師部6号	4 C	
武 田-6	1.14	0.00	27.32	63.81	1.03	1.13	1.05	0.14	3.92	0.00	100.01	土師部6号	4 C	
武 田-7	0.61	0.00	27.23	60.92	1.04	0.48	1.92	0.53	7.22	0.02	100.00	土師部6号	4 C	与田1
武 田-8	0.75	0.60	27.43	64.38	1.24	0.23	1.20	0.27	4.46	0.05	100.00	土師部6号	4 C	与田2
武 田-9	0.78	0.00	27.63	60.56	1.39	0.46	1.24	0.29	7.41	0.00	100.00	土師部6号	4 C	
武 田-10	0.82	0.00	23.01	66.51	1.71	0.25	1.42	0.10	4.11	0.06	99.99	土師部6号	4 C	
武 田-11	1.09	0.00	29.33	58.36	1.50	0.63	2.01	0.22	6.82	0.60	100.01	土師部6号	4 C	
六十日-1	0.72	0.00	36.23	50.89	1.27	0.19	1.20	0.59	8.87	0.05	100.01	土師部6号	4 C E	表: 岩山部内
六十日-2	0.85	0.00	27.92	52.15	0.85	0.54	1.34	0.28	26.01	0.07	100.01	土師部6号	4 C E	表: 岩山部内
六十日-3	0.78	0.00	36.36	46.21	0.73	0.21	1.11	0.38	13.97	0.24	100.02	土師部6号	4 C E	表: 岩山部内
六十日-4	0.47	0.00	36.43	45.87	0.82	0.16	1.55	0.42	11.07	0.17	99.99	土師部6号	4 C E	表: 岩山部内
六十日-5	0.43	0.00	37.13	53.53	0.50	0.32	1.34	0.43	6.11	0.01	100.00	土師部6号	4 C E	表: 岩山部内
鹿 嶋-1	0.68	0.00	24.63	64.85	1.28	0.41	1.45	0.37	6.32	0.00	99.99	土師部6号	4 C	
鹿 嶋-2	0.90	0.00	22.76	69.27	1.93	0.55	0.97	0.00	3.62	0.00	99.99	土師部6号	4 C	
鹿 嶋-3	0.80	0.04	24.79	63.76	2.00	0.59	1.10	0.28	6.60	0.04	100.00	土師部6号	4 C	
鹿 嶋-4	0.65	0.09	20.83	70.42	1.38	1.09	0.90	0.44	4.20	0.00	100.00	土師部6号	4 C	
鹿 嶋-5	0.16	0.05	22.38	63.66	1.38	0.66	1.86	0.36	8.99	0.18	100.00	土師部6号	4 C	
											0.00			

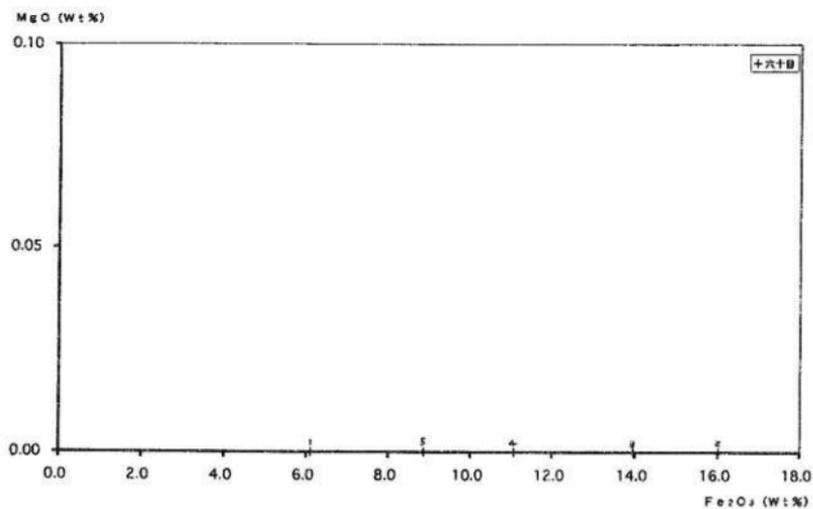
第5圖 Qt—P I 圖



第6圖  $S i O_2$ — $A l_2 O_3$  圖



第7圖  $Fe_2O_3-MgO$ 圖



第8圖  $K_2O-CaO$ 圖

